

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第25集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 24

2020年3月

ふじみ野市教育委員会

市内
遺跡
群
24

二〇二〇

埼玉県ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第25集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 24

2020年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施され、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設などの開発に伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部である貴重な文化財を、「人がつながる 豊かで住み続けたいまち ふじみ野」の実現のため、将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会文化資源課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2016（平成28）及び2017（平成29）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2016（平成28）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費8,104,155円に対し国庫補助金（4,050,000円）、県費（2,025,000円）の補助金の交付を受け、2016（平成28）年4月1日～2017（平成29）年3月31日まで実施したものである。
2017（平成29）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費8,434,167円に対し国庫補助金（4,215,000円）、県費（2,107,000円）の補助金の交付を受け、2017（平成29）年4月1日～2018（平成30）年3月31日まで実施したものである。
3. 調査組織









	文化財保護係調査担当者	
調査主体者	ふじみ野市教育委員会	高崎 直成（2005.4.1～2018.3.31）
担当課	社会教育課文化財保護係	鍋島 直久（2005.4.1～2017.3.31）
教育長	朝倉 孝（2014.4.1～）	長谷川義行（2017.4.1～）
部長	中野 則之（2015.4.1～2017.3.31）	岡崎 裕子（2015.4.1～）
	土屋 浩（2017.4.1～2019.3.31）	庶務担当 橋本祐可子（2015.4.1～）
	皆川 恒晴（2019.4.1～）	発掘調査員補 鎌田 翔（2015.11.2～2018.3.31）
課長	佐藤 龍司（2016.4.1～2018.3.31）	坪田 幹男（2018.7.1～）
	高崎 直成（2018.4.1～2019.3.31）	
	岩崎 明央（2019.4.1～）	臨時的任用職員 高橋 京子（2005.4.1～）
	社会教育課副課長兼文化財保護係長（2016.4.1から兼務）	
	高崎 直成（2013.4.1～2018.3.31）	
	小林 久美（2018.4.1～）	
4. 本書作成において、調査に至る経過の執筆は岡崎と長谷川で分担した。西ノ原遺跡第174地点と神明後遺跡第55地点の遺物観察表は坪田が担当し、それ以外の遺構と遺物の記載及び遺物観察表については岡崎が執筆した。また第Ⅱ部及び第Ⅲ部第2章については坪田が担当し、第Ⅲ部第1章は岡崎が執筆した。本書作成全般にわたり、鍋島直久氏、笹森健一氏（ふじみ野市発掘調査・整理作業指導者）のご教示を賜った。
石器実測及び木村遺跡第136地点遺構図については、有限会社アルケリーサーチに委託した。滝遺跡第28地点出土の種子同定と年代測定は、バリノ・サーヴェイ株式会社にて業務委託した。
遺物接合・復元：川中ひろみ。
石器実測・拓本：明石千とせ、岩城英子、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。
遺構・遺物図トレース：小林登喜江。
図版作成：青山奈保美、大久保明子、齋藤有紀、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。
遺構写真：鍋島、岡崎、鎌田。レイアウト・遺物写真：大久保、岡崎。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、清水理史、鈴木清、高木文夫、田中信、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、三上栄一、水口由紀子、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部文化資源課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館。

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、家泉浩孝、壺岐久子、井上麻美子、岩城英子、白井孝、大久保明子、岡良子、川中ひろみ、小林登喜江、齋藤有紀、坂本民子、佐竹里佳、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、當山りえ、中田藤子、野岡由紀子、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、増澤勝美、松平静、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代。

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 ある。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、
 攪乱  地山(ローム)  焼土  煤・炭化物・タール範囲 
 被熱範囲  赤色塗彩  黒色塗彩  釉 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石 ▲ チャート □ 礫 ○ 炭 ■
- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
- (5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 24 目次

はじめに	i	第9章 長宮遺跡の調査	66
例言	ii	Ⅰ 遺跡の立地と環境	66
凡例	iii	Ⅱ 長宮遺跡第53地点	70
目次	iv	Ⅲ 長宮遺跡第54地点	71
挿図目次	vi	Ⅳ 長宮遺跡第55地点	81
表目次	viii	Ⅴ 長宮遺跡第56地点	83
写真図版目次	ix	Ⅵ 長宮遺跡第57地点	84
第1部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果		第10章 亀居遺跡の調査	85
第1章 遺跡と調査の概要	1	Ⅰ 遺跡の立地と環境	85
Ⅰ 調査に至る経緯	1	Ⅱ 亀居遺跡第78地点	88
Ⅱ 立地と環境	6	第11章 鶴ヶ舞遺跡の調査	89
Ⅲ 市内の遺跡	6	Ⅰ 遺跡の立地と環境	89
第2章 西道跡の調査	11	Ⅱ 鶴ヶ舞遺跡第26地点	89
Ⅰ 遺跡の立地と環境	11	Ⅲ 鶴ヶ舞遺跡第27地点	91
Ⅱ 西道跡第4地点	11	Ⅳ 鶴ヶ舞遺跡第28地点	91
第3章 北野遺跡の調査	13	Ⅴ 鶴ヶ舞遺跡第29地点	94
Ⅰ 遺跡の立地と環境	13	第12章 松山遺跡の調査	95
Ⅱ 北野遺跡第38地点	15	Ⅰ 遺跡の立地と環境	95
Ⅲ 北野遺跡第39地点	15	Ⅱ 松山遺跡第86地点	101
Ⅳ 北野遺跡第40地点	16	Ⅲ 松山遺跡第87地点	103
Ⅴ 北野遺跡第41地点	16	Ⅳ 松山遺跡第88地点	103
Ⅵ 北野遺跡第42地点	17	Ⅴ 松山遺跡第89地点	103
Ⅶ 北野遺跡第43地点	17	Ⅵ 松山遺跡第90地点	105
Ⅷ 北野遺跡第44地点	17	Ⅶ 松山遺跡第91地点	106
第4章 川崎遺跡の調査	19	Ⅷ 松山遺跡第92地点	107
Ⅰ 遺跡の立地と環境	19	Ⅸ 松山遺跡第93地点	108
Ⅱ 川崎遺跡第45地点	23	Ⅹ 松山遺跡第94地点	116
Ⅲ 川崎遺跡第46地点	25	第13章 江川南遺跡の調査	118
Ⅳ 川崎遺跡第47地点	26	Ⅰ 遺跡の立地と環境	118
第5章 ハケ遺跡の調査	27	Ⅱ 江川南遺跡第27地点	118
Ⅰ 遺跡の立地と環境	27	第14章 東久保遺跡の調査	121
Ⅱ ハケ遺跡第22地点	27	Ⅰ 遺跡の立地と環境	121
Ⅲ ハケ遺跡第23地点	45	Ⅱ 東久保遺跡第73地点	121
第6章 権現山遺跡の調査	46	Ⅲ 東久保遺跡第74地点	124
Ⅰ 遺跡の立地と環境	46	Ⅳ 東久保遺跡第75地点	125
Ⅱ 権現山遺跡第27地点	47	第15章 亀久保堀跡遺跡の調査	126
第7章 滝遺跡の調査	49	Ⅰ 遺跡の立地と環境	126
Ⅰ 遺跡の立地と環境	49	Ⅱ 亀久保堀跡遺跡第32地点	126
Ⅱ 滝遺跡第26地点	54	第16章 東久保西道跡の調査	129
Ⅲ 滝遺跡第28地点	54	Ⅰ 遺跡の立地と環境	129
Ⅳ 滝遺跡第29地点	56	Ⅱ 東久保西道跡第22地点	129
Ⅴ 滝遺跡第30・31地点	58	Ⅲ 東久保西道跡第23地点	131
Ⅵ 滝遺跡第32地点	59	第17章 駒林遺跡の調査	132
第8章 西原遺跡の調査	64	Ⅰ 遺跡の立地と環境	132
Ⅰ 遺跡の立地と環境	64	Ⅱ 駒林遺跡第33地点	135
Ⅱ 西原遺跡第4地点	64	Ⅲ 駒林遺跡第34地点	135
		Ⅳ 駒林遺跡第36地点	135

第18章 福岡新田遺跡の調査	137	第Ⅱ部 民間開発に伴う調査の成果	
Ⅰ 遺跡の立地と環境	137	第1章 本村遺跡第136地点の調査	214
Ⅱ 福岡新田遺跡第6地点	137	Ⅰ 本村遺跡の立地と環境	214
第19章 東久保南遺跡の調査	139	Ⅱ 本調査に至る経過と概要	215
Ⅰ 遺跡の立地と環境	139	(1) 調査に至る経過	215
Ⅱ 東久保南遺跡第40地点	139	(2) ふじみ野市の旧石器時代遺跡の立地概要	216
Ⅲ 東久保南遺跡第41地点	141	(3) 本村遺跡の旧石器時代の概	218
Ⅳ 東久保南遺跡第42地点	141	Ⅲ 遺構と遺物	220
第20章 西ノ原遺跡の調査	142	(1) 旧石器時代の遺構と遺物	220
Ⅰ 遺跡の立地と環境	142	①概要	220
Ⅱ 西ノ原遺跡第169地点	149	②層位	221
Ⅲ 西ノ原遺跡第170地点	149	③出土石器	223
Ⅳ 西ノ原遺跡第171地点	151	④礫群	231
Ⅴ 西ノ原遺跡第172地点	151	(2) 縄文時代の遺構	244
Ⅵ 西ノ原遺跡第173地点	152	①落とし穴	244
Ⅶ 西ノ原遺跡第174地点	156	(3) 中近世以降の遺構	247
第21章 神明後遺跡の調査	160	①段切り	247
Ⅰ 遺跡の立地と環境	160	②土坑	247
Ⅱ 神明後遺跡第55地点	160	③溝46	247
第22章 浄禅寺跡遺跡の調査	173	第Ⅲ部 まとめ	
Ⅰ 遺跡の立地と環境	173	第1章 2016・2017年度の調査について	248
Ⅱ 浄禅寺跡遺跡第42地点	173	第2章 本村遺跡のまとめ	250
Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第44地点	176	附 編	265
Ⅳ 浄禅寺跡遺跡第43地点	177	写真図版	267
Ⅴ 浄禅寺跡遺跡第45地点	177	抄 録	317
Ⅵ 浄禅寺跡遺跡第46地点	179		
Ⅶ 浄禅寺跡遺跡第47地点	180		
Ⅷ 浄禅寺跡遺跡第48地点	185		
Ⅸ 浄禅寺跡遺跡第49地点	185		
Ⅹ 浄禅寺跡遺跡第50地点	186		
第23章 大井宿遺跡の調査	187		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	187		
Ⅱ 大井宿遺跡第18地点	188		
第24章 大井氏館跡遺跡の調査	190		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	190		
Ⅱ 大井氏館跡遺跡第27地点	190		
第25章 本村遺跡の調査	192		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	192		
Ⅱ 本村遺跡第132地点	192		
Ⅲ 本村遺跡第133地点	199		
Ⅳ 本村遺跡第134地点	200		
Ⅴ 本村遺跡隣接地	202		
第26章 大井戸上遺跡の調査	203		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	203		
Ⅱ 大井戸上遺跡第7地点	203		
第27章 東台遺跡の調査	205		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	205		
Ⅱ 東台遺跡第61地点	209		
Ⅲ 東台遺跡第62地点	213		

挿 図 目 次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	7	第 37 図	滝道跡第 29 地点溝(1/80)、出土遺物(1/4・2/3)・	57
第 2 図	ふじみ野市道跡分布図(1/30,000)	9	第 38 図	滝道跡第 30・31 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第 30 地点出土遺物(1/4)・	58
第 3 図	西道跡の地形と調査区(1/4,000)	11	第 39 図	滝道跡第 32 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150・1/60)	59
第 4 図	西道跡第 4 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ビット(1/60)、出土遺物(1/4)・	12	第 40 図	滝道跡第 32 地点土坑・井戸(1/60)	60
第 5 図	北野道跡の地形と調査区(1/4,000)	13	第 41 図	滝道跡第 32 地点ビット・溝(1/60)	61
第 6 図	北野道跡第 38・39 地点調査区域図(1/300)、土層(1/80)、第 38 地点出土遺物(1/4)・	15	第 42 図	滝道跡第 32 地点出土遺物①(1/4・1/1)・	62
第 7 図	北野道跡第 40・41 地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)・	16	第 43 図	滝道跡第 32 地点出土遺物②(1/1)・	63
第 8 図	北野道跡第 42 地点遺構配置図(1/300)、ビット・溝(1/60)、第 43・44 地点調査区域図(1/300)、第 43 地点出土遺物(1/4)・	18	第 44 図	西原道跡の地形と調査区(1/4,000)	64
第 9 図	川崎道跡の地形と調査区(1/4,000)	19	第 45 図	西原道跡第 4 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)、炉穴・掘方(1/30)・	65
第 10 図	川崎道跡遺構分布図(1/2,500)	22	第 46 図	長宮道跡の地形と調査区(1/4,000)	66
第 11 図	川崎道跡第 45 地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)	23	第 47 図	長宮道跡遺構分布図(1/2,500)	69
第 12 図	川崎道跡第 45 地点出土遺物(1/4・2/3)	24	第 48 図	長宮道跡第 53 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)・	70
第 13 図	川崎道跡第 46 地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)・	25	第 49 図	長宮道跡第 54 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)・	71
第 14 図	川崎道跡第 47 地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)	26	第 50 図	長宮道跡第 54 地点 J18 号住居跡(1/60)、炉(1/30)・	72
第 15 図	ハケ道跡の地形と調査区(1/4,000)	27	第 51 図	長宮道跡第 54 地点 J18 号住居跡遺物出土状況(1/30)・	73
第 16 図	ハケ道跡遺構分布図(1/1,500)	29	第 52 図	長宮道跡第 54 地点トレンチ 1・3 簡化鉄範囲(1/60)	74
第 17 図	ハケ道跡第 22 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、H18 号住居跡(1/60)・	30	第 53 図	長宮道跡第 54 地点土坑・溝(1/60)	75
第 18 図	ハケ道跡第 22 地点 H18 号住居跡電掘方・遺物出土状況(1/30)・	31	第 54 図	長宮道跡第 54 地点出土遺物①(1/4)・	76
第 19 図	ハケ道跡第 22 地点土坑・ビット群(縄文時代)(1/60)・	32	第 55 図	長宮道跡第 54 地点出土遺物②(1/4)・	77
第 20 図	ハケ道跡第 22 地点土坑・ビット群(古代以降)(1/60)	33	第 56 図	長宮道跡第 54 地点出土遺物③(1/4)・	78
第 21 図	ハケ道跡第 22 地点土坑(近世以降)(1/60)・	34	第 57 図	長宮道跡第 55 地点遺構配置図(1/300)、土坑・ビット・溝(1/60)、出土遺物(1/4・1/6・2/3)・	81
第 22 図	ハケ道跡第 22 地点土坑・ビット・2017 年度調査区域図・土層(1/60)・	35	第 58 図	長宮道跡第 56 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/1)・	83
第 23 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物①(1/4)・	36	第 59 図	長宮道跡第 57 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4)・	84
第 24 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物②(1/4)・	37	第 60 図	亀居道跡の地形と調査区(1/4,000)	85
第 25 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物③(1/4)・	38	第 61 図	亀居道跡第 78 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)	88
第 26 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物④(1/4)・	39	第 62 図	鶴ヶ舞道跡の地形と調査区(1/4,000)	89
第 27 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物⑤(1/4・1/2・2/3・1/1)・	40	第 63 図	鶴ヶ舞道跡第 26 地点調査区域図(1/300)・	90
第 28 図	ハケ道跡第 22 地点出土遺物⑥(1/4・1/6)・	41	第 64 図	鶴ヶ舞道跡第 27 地点調査区域図(1/300)・	91
第 29 図	ハケ道跡第 23 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ビット(1/60)、出土遺物(1/4)・	45	第 65 図	鶴ヶ舞道跡第 28 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)・	91
第 30 図	権現山道跡の地形と調査区(1/4,000)	46	第 66 図	鶴ヶ舞道跡第 28 地点炉穴(1/30)、土坑・ビット(1/60)・	93
第 31 図	権現山道跡第 27 地点遺構配置図(1/300)、ビット(1/60)、出土遺物(1/4)・	48	第 67 図	鶴ヶ舞道跡第 29 地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)	94
第 32 図	滝道跡の地形と調査区(1/4,000)	49	第 68 図	松山道跡の地形と調査区(1/4,000)	95
第 33 図	滝道跡遺構分布図(1/2,000)・	51	第 69 図	松山道跡遺構分布図(1/3,000)	99
第 34 図	滝道跡第 28 地点遺構配置図(1/300)、H45 号住居跡(1/60)・	54	第 70 図	松山道跡第 86 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)・	101
第 35 図	滝道跡第 28 地点電・掘方(1/30)、出土遺物(1/4)・	55	第 71 図	松山道跡第 86 地点溝(1/60)、出土遺物(1/4)・	102
第 36 図	滝道跡第 29 地点遺構配置図(1/300)	56	第 72 図	松山道跡第 87・89 地点調査区域図・第 88 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑・ビット・溝(1/60)、第 89 地点出土遺物(1/4)・	104

第 73 図	松山遺跡第 90 地点調査区域図・第 91 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4・1/1)……105	第 106 図	西ノ原遺跡第 173 地点出土遺物(1/4)……155
第 74 図	松山遺跡第 92 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑・ピット(1/60)、出土遺物(1/4)……107	第 107 図	西ノ原遺跡第 174 地点遺構配置図(1/300)、トレンチ(1/60)……156
第 75 図	松山遺跡第 93・94 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)……109	第 108 図	西ノ原遺跡第 174 地点出土遺物①(1/4)……157
第 76 図	松山遺跡第 93 地点 H50 号住居跡(1/60)……110	第 109 図	西ノ原遺跡第 174 地点出土遺物②(1/4)……158
第 77 図	松山遺跡第 93 地点 H51 号住居跡(1/60)、竈(1/30)、堀跡(1/60)……111	第 110 図	神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)……160
第 78 図	松山遺跡第 93 地点溝(1/60)、出土遺物①(1/4)……112	第 111 図	神明後遺跡遺構分布図(1/2,000)……163
第 79 図	松山遺跡第 93 地点出土遺物②(1/4・1/2)……113	第 112 図	神明後遺跡第 55 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、J24 号住居跡(1/60)……165
第 80 図	松山遺跡第 93 地点出土遺物③(1/4・1/1)……114	第 113 図	神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡遺物出土状況(1/60)……166
第 81 図	松山遺跡第 94 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)……116	第 114 図	神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡・土坑・ピット(1/60)、炉・掘方・埋塞(1/30)……167
第 82 図	松山遺跡第 94 地点出土遺物(1/4)……117	第 115 図	神明後遺跡第 55 地点出土遺物①(1/4・2/3)……168
第 83 図	江川南遺跡の地形と調査区(1/4,000)……118	第 116 図	神明後遺跡第 55 地点出土遺物②(1/4)……169
第 84 図	江川南遺跡第 27 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)……120	第 117 図	神明後遺跡第 55 地点出土遺物③(1/4)……170
第 85 図	東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)……121	第 118 図	浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)……173
第 86 図	東久保遺跡第 73 地点調査区域図・第 74 地点遺構配置図(1/300)、土層・ピット(1/60)、出土遺物(1/1)……124	第 119 図	浄禪寺跡遺跡遺構分布図(1/2,000)……175
第 87 図	東久保遺跡第 75 地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)……125	第 120 図	浄禪寺跡遺跡第 42・44 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、第 42 地点土坑・第 44 地点溝(1/60)……176
第 88 図	龜久保塚跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)……126	第 121 図	浄禪寺跡遺跡第 43 地点調査区域図(1/500)、第 45 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4・1/1)……178
第 89 図	龜久保塚跡遺跡遺構分布図(1/2,500)……127	第 122 図	浄禪寺跡遺跡第 46 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、イモビツ(1/60)、出土遺物(1/4)……179
第 90 図	龜久保塚跡遺跡第 32 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)……128	第 123 図	浄禪寺跡遺跡第 47 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、炉穴(1/30)……181
第 91 図	東久保西遺跡の地形と調査区(1/4,000)……129	第 124 図	浄禪寺跡遺跡第 47 地点土坑・ピット(1/60)……182
第 92 図	東久保西遺跡第 22・23 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第 22 地点出土遺物(1/4)……131	第 125 図	浄禪寺跡遺跡第 47 地点出土遺物(1/4)……183
第 93 図	駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)……132	第 126 図	浄禪寺跡遺跡第 48・49 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)……185
第 94 図	駒林遺跡第 33・34・36 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、第 33・34 地点出土遺物(1/4・1/1)……136	第 127 図	浄禪寺跡遺跡第 50 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)……186
第 95 図	福岡新田遺跡の地形と調査区(1/4,000)……137	第 128 図	大井宿遺跡の地形と調査区(1/4,000)……187
第 96 図	福岡新田遺跡第 6 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)……138	第 129 図	大井宿遺跡第 18 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4・1/6)……189
第 97 図	東久保南遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第 40 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)……139	第 130 図	大井氏館跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)……190
第 98 図	東久保南遺跡第 41・42 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)……141	第 131 図	大井氏館跡遺跡第 27 地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)……191
第 99 図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)……142	第 132 図	本村遺跡第 132 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)……192
第 100 図	西ノ原遺跡縄文時代遺構分布図(1/2,000)……145	第 133 図	本村遺跡の地形と調査区(1/4,000)……193
第 101 図	西ノ原遺跡第 169 地点調査区域図・第 170 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)……149	第 134 図	本村遺跡溝分布図(1/3,000)……197
第 102 図	西ノ原遺跡第 170 地点ピット(1/60)、溝(1/80)、出土遺物(1/4)……150	第 135 図	本村遺跡第 132 地点ピット・溝(1/80)、出土遺物(1/4)……198
第 103 図	西ノ原遺跡第 171 地点調査区域図・第 172 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、第 172 地点ピット(1/60)、出土遺物(1/4)……151	第 136 図	本村遺跡第 133 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)……199
第 104 図	西ノ原遺跡第 173 地点遺構配置図(1/300)、土層・第 147 号住居跡・ピット(1/60)……152	第 137 図	本村遺跡第 134 地点遺構配置図(1/400)……200
第 105 図	西ノ原遺跡第 173 地点炉(1/30)、住居外ピット(1/60)……153	第 138 図	本村遺跡第 134 地点土層(1/150・1/60)、ピット・溝(1/60)、出土遺物(1/4)……201
		第 139 図	本村遺跡隣接地調査区域図(1/300)、出土遺物(1/4)……202
		第 140 図	大井戸上遺跡の地形と調査区(1/4,000)……203
		第 141 図	大井戸上遺跡第 7 地点遺構配置図(1/300)、土層

	(1/150)、ピット(1/60).....204	第 159 図	本村遺跡第 136 地点出土石器③(4/5).....226
第 142 図	東台遺跡の地形と調査区(1/5,000).....205	第 160 図	本村遺跡第 136 地点出土石器④(2/3).....227
第 143 図	東台遺跡遺構分布図(1/2,000).....208	第 161 図	本村遺跡第 136 地点出土石器⑤(4/5).....228
第 144 図	東台遺跡第 61 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150・1/60).....209	第 162 図	本村遺跡第 136 地点出土石器⑥(4/5).....229
第 145 図	東台遺跡第 61 地点出土遺物①(1/4).....210	第 163 図	本村遺跡第 136 地点の主な石器の出土分布図(1/30).....230
第 146 図	東台遺跡第 61 地点出土遺物②(1/4).....211	第 164 図	本村遺跡第 136 地点微群石材別分布図(1/30).....232
第 147 図	東台遺跡第 62 地点遺構配置図(1/200)、土層・ピット(1/60).....213	第 165 図	本村遺跡第 136 地点微群接合図(1/30).....233
第 148 図	本村遺跡の立地と川越街道沿いの段丘と主要遺跡群.....214	第 166 図	本村遺跡第 136 地点構成微重量グラフ.....234
第 149 図	本村遺跡第 136 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150).....215	第 167 図	本村遺跡第 136 地点落とし穴(1/60).....244
第 150 図	ふじみ野市の地形断面及び段丘区分図.....216	第 168 図	本村遺跡落とし穴分布図(1/3,000).....245
第 151 図	本村遺跡旧石器時代遺跡分布図(1/30,000).....217	第 169 図	本村遺跡第 136 地点土坑・ピット・溝(1/60).....246
第 152 図	本村遺跡第 136 地点旧石器時代調査区・層位(1/150).....218	第 170 図	本村遺跡第 136 地点土層(1/60).....247
第 153 図	本村遺跡旧石器時代遺構確認地点(1/2,500).....219	第 171 図	北武蔵の旧石器時代遺跡と旧砂川の埋没河川流路図(1/25,000).....251
第 154 図	本村遺跡第 136 地点石器・礫分布微細図(1/30).....220	第 172 図	本村遺跡と埋没河川周辺の地形と遺跡.....252
第 155 図	本村遺跡第 136 地点石器・礫分布図(1/30).....221	第 173 図	本村遺跡埋没河川の掘り込み・埋没河川内の植物の繁茂状況.....253
第 156 図	本村遺跡第 136 地点石器器種・石材別分布図(1/40).....222	第 174 図	本村遺跡埋没河川発掘調査箇所と流路.....253
第 157 図	本村遺跡第 136 地点出土石器①(4/5).....224	第 175 図	本村遺跡の槍先形尖頭器出土地点(1/2,500).....255
第 158 図	本村遺跡第 136 地点出土石器②(4/5).....225	第 176 図	本村遺跡のIV層のナイフ形石器出土地点(1/2,500).....256
		第 177 図	本村遺跡器種別・石材別組成表.....262

表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表..... 1	第 23 表	権現山遺跡調査一覧表..... 47
第 2 表	2016(平成 28)年度埋蔵文化財調査一覧表..... 2	第 24 表	権現山遺跡第 27 地点出土遺物観察表..... 48
第 3 表	2016(平成 28)年度立会い調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)..... 3	第 25 表	滝遺跡調査一覧表..... 50
第 4 表	2016(平成 28)年度立会い調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)..... 3	第 26 表	滝遺跡古代住居跡一覧表..... 52
第 5 表	2017(平成 29)年度埋蔵文化財調査一覧表..... 4	第 27 表	滝遺跡第 28 地点出土遺物観察表..... 56
第 6 表	2017(平成 29)年度立会い調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)..... 5	第 28 表	滝遺跡第 29 地点溝一覧表..... 56
第 7 表	2017(平成 29)年度立会い調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)..... 5	第 29 表	滝遺跡第 29 地点出土遺物観察表..... 56
第 8 表	ふじみ野市遺跡一覧表..... 10	第 30 表	滝遺跡第 32 地点ピット一覧表..... 61
第 9 表	縄文時代中期細分期対比表..... 10	第 31 表	滝遺跡第 32 地点出土遺物観察表..... 63
第 10 表	西遺跡調査一覧表..... 12	第 32 表	西原遺跡調査一覧表..... 65
第 11 表	北野遺跡調査一覧表..... 14	第 33 表	長宮遺跡調査一覧表..... 67
第 12 表	北野遺跡第 38 地点出土遺物観察表..... 15	第 34 表	長宮遺跡縄文時代住居跡一覧表..... 70
第 13 表	北野遺跡第 43 地点出土遺物観察表..... 17	第 35 表	長宮遺跡第 54 地点住居内ピット一覧表..... 72
第 14 表	川崎遺跡調査一覧表..... 20	第 36 表	長宮遺跡第 54 地点出土遺物観察表..... 79
第 15 表	川崎遺跡第 45 地点出土遺物観察表..... 24	第 37 表	長宮遺跡第 55 地点出土遺物観察表..... 82
第 16 表	川崎遺跡第 46 地点出土遺物観察表..... 25	第 38 表	長宮遺跡第 56・57 地点出土遺物観察表..... 83
第 17 表	ハケ遺跡調査一覧表..... 28	第 39 表	亀居遺跡調査一覧表..... 86
第 18 表	ハケ遺跡古代住居跡一覧表..... 28	第 40 表	鶴ヶ舞遺跡調査一覧表..... 90
第 19 表	ハケ遺跡第 22 地点 H18 号住居内ピット一覧表..... 31	第 41 表	鶴ヶ舞遺跡第 28 地点坪穴一覧表..... 92
第 20 表	ハケ遺跡第 22 地点土坑一覧表..... 35	第 42 表	松山遺跡調査一覧表..... 96
第 21 表	ハケ遺跡第 22 地点ピット一覧表..... 35	第 43 表	松山遺跡古代住居跡一覧表.....100
第 22 表	ハケ遺跡第 22 地点出土遺物観察表..... 42	第 44 表	松山遺跡第 86 地点出土遺物観察表.....102
		第 45 表	松山遺跡第 91・92 地点出土遺物観察表.....106
		第 46 表	松山遺跡第 93 地点出土遺物観察表.....114
		第 47 表	松山遺跡第 94 地点出土遺物観察表.....117
		第 48 表	江川南遺跡調査一覧表.....119

第49表	江川南遺跡第27地点出土遺物観察表	120	第67表	淨禪寺跡遺跡第45地点ピット一覽表	177
第50表	東久保遺跡調査一覽表	122	第68表	淨禪寺跡遺跡第43・45地点出土遺物観察表	177
第51表	亀久保堀跡遺跡調査一覽表	128	第69表	淨禪寺跡遺跡第47地点土坑一覽表	180
第52表	東久保西遺跡調査一覽表	130	第70表	淨禪寺跡遺跡第47地点ピット一覽表	180
第53表	駒林遺跡調査一覽表	133	第71表	淨禪寺跡遺跡第47地点出土遺物観察表	184
第54表	駒林遺跡第33・34地点出土遺物観察表	135	第72表	大井宿遺跡調査一覽表	188
第55表	福岡新田遺跡調査一覽表	138	第73表	大井宿遺跡第18地点ピット一覽表	188
第56表	東久保南遺跡調査一覽表	140	第74表	大井宿遺跡第18地点出土遺物観察表	189
第57表	西ノ原遺跡調査一覽表	143	第75表	大井氏館跡遺跡調査一覽表	191
第58表	西ノ原遺跡住居跡一覽表	146	第76表	本村遺跡調査一覽表	194
第59表	西ノ原遺跡第170・172地点ピット一覽表	150	第77表	本村遺跡第133地点ピット一覽表	199
第60表	西ノ原遺跡第173地点出土遺物観察表	154	第78表	本村遺跡隣接地出土遺物観察表	202
第61表	西ノ原遺跡第174地点出土遺物観察表	159	第79表	大井戸上遺跡調査一覽表	204
第62表	神明後遺跡調査一覽表	161	第80表	東台遺跡調査一覽表	206
第63表	神明後遺跡縄文時代住居跡一覽表	164	第81表	東台遺跡第61地点出土遺物観察表	211
第64表	神明後遺跡第55地点J24・28号住居跡ピット一覽表	166	第82表	本村遺跡旧石器時代調査一覽表	218
第65表	神明後遺跡第55地点出土遺物観察表	171	第83表	本村遺跡第136地点石器組成表	223
第66表	淨禪寺跡遺跡調査一覽表	174	第84表	本村遺跡第136地点出土石器観察表	235
			第85表	本村遺跡第136地点出土礫観察表	237

写真図版目次

写真図版1	西遺跡第4地点、北野遺跡第38・39・40・41地点	267	写真図版26	東久保西遺跡第23地点(2)、駒林遺跡第33・34・36地点、福岡新田第6地点、東久保南遺跡第40地点	292
写真図版2	北野遺跡第42・43・44地点、川崎遺跡第45地点(1)	268	写真図版27	東久保南遺跡第41・42地点、西ノ原遺跡第169・170地点(1)	293
写真図版3	川崎遺跡第45(2)・46・47地点	269	写真図版28	西ノ原遺跡第170地点(2)	294
写真図版4	ハケ遺跡第22地点(1)	270	写真図版29	西ノ原遺跡第171・172・173(1)地点	295
写真図版5	ハケ遺跡第22地点(2)	271	写真図版30	西ノ原遺跡第173(2)・174(1)地点	296
写真図版6	ハケ遺跡第22地点(3)	272	写真図版31	西ノ原遺跡第174地点(2)	297
写真図版7	ハケ遺跡第22地点(4)	273	写真図版32	神明後遺跡第55地点(1)	298
写真図版8	ハケ遺跡第22地点(5)	274	写真図版33	神明後遺跡第55地点(2)	299
写真図版9	ハケ遺跡第22地点(6)	275	写真図版34	神明後遺跡第55地点(3)	300
写真図版10	ハケ遺跡第23地点、権現山遺跡第27地点	276	写真図版35	淨禪寺跡遺跡第42・43・44地点	301
写真図版11	滝遺跡第28・29(1)地点	277	写真図版36	淨禪寺跡遺跡第45・46・47(1)地点	302
写真図版12	滝遺跡第29(2)・30・31・32(1)地点	278	写真図版37	淨禪寺跡遺跡第47地点(2)	303
写真図版13	滝遺跡第32地点(2)	279	写真図版38	淨禪寺跡遺跡第47地点(3)	304
写真図版14	西原遺跡第4地点、長宮遺跡第53地点	280	写真図版39	淨禪寺跡遺跡第47(4)・48地点	305
写真図版15	長宮遺跡第54地点(1)	281	写真図版40	淨禪寺跡遺跡第49・50地点、大井宿遺跡第18地点、大井氏館跡遺跡第27地点	306
写真図版16	長宮遺跡第54地点(2)	282	写真図版41	本村遺跡第132・133地点	307
写真図版17	長宮遺跡第55・56・57地点	283	写真図版42	本村遺跡第134地点、本村遺跡隣接地	308
写真図版18	亀居遺跡第78地点、鶴ヶ舞遺跡第26・27・28(1)地点	284	写真図版43	大井戸上遺跡第7地点、東台遺跡第61地点(1)	309
写真図版19	鶴ヶ舞遺跡第28(2)・29地点、松山遺跡第86地点	285	写真図版44	東台遺跡第61(2)・62地点	310
写真図版20	松山遺跡第87・88・89・90・91(1)地点	286	写真図版45	本村遺跡第136地点(1)	311
写真図版21	松山遺跡第91(2)・92地点	287	写真図版46	本村遺跡第136地点(2)	312
写真図版22	松山遺跡第93地点(1)	288	写真図版47	本村遺跡第136地点(3)	313
写真図版23	松山遺跡第93地点(2)	289	写真図版48	本村遺跡第136地点(4)	314
写真図版24	松山遺跡第94地点、江川南遺跡第27地点	290	写真図版49	本村遺跡第136地点(5)	315
写真図版25	東久保遺跡第73・74・75地点、亀久保堀跡遺跡第32地点、東久保西遺跡第22地点(1)	291	写真図版50	本村遺跡第136地点(6)	316

第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果

第1章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで）として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課（民間の指定確認検査機関含む）への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）の提出を受けて事前協議を行う。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ現地踏査及び現況確認を実施、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者と協議を行った。

協議後、文化財保護法第99条第4項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。またその個人の用に供する住宅（個人住宅）の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2016年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査36件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査0件、公共事業に伴う本調査1件、民間開発に伴う本調査2件を行った。開発面積は12,482.99㎡で、そのうち実質調査面積は試掘1,849.63（本調査面積800.5）㎡である。過去2年間の調査件数と調査面積を第1表に掲載する。

2017年度の試掘及び発掘調査は第5表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査47件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査3件、公共事業に伴う本調査0件、民間開発に伴う本調査5件を行った。開発面積は23,031.17㎡で、そのうち実質調査面積は試掘4,181.46（本調査面積1,321.08）㎡である。過去3年間の調査件数と調査面積を第1表に掲載する。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去3年間の調査件数と面積一覧表

	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
	開発面積㎡	開発面積㎡	開発面積㎡	
2015（平成27）年度	47件	1件	7件	個人住宅17、共同住宅6、分譲住宅13、宅地造成5、店舗1、駐車場2、保育所1、老人介護施設1、集会所1
	25,714.7	368.9	9,108.3	
2016（平成28）年度	38件	1件	2件	個人住宅14、分譲住宅14、共同住宅6、自治会館1、幼稚園1、公園1、道路1
	12,482.99	40.5	760	
2017（平成29）年度	48件	3件	5件	個人住宅24、分譲住宅11、共同住宅4、宅地造成3、店舗1、資材置場1、自治会館1、消防団車庫1、道路拡幅1、物置1
	22,380.17	694.8	7,256.5	

第2表 2016(平成28)年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (㎡)	試掘面積 (㎡)	個人住宅等 本調査面積	原因	試掘期間	調査措置
					民間開発 本調査面積		本調査期間	
1	西遺跡第4地点	西2-5904-1の一部、2の一部	489	134.4		共同住宅	7/27・28	試掘調査
2	北野遺跡第38地点	北野2-1807-6・7・8、1808-3・5	106.9	9.5		個人住宅	7/29	試掘調査
3	北野遺跡第39地点	北野1-3129-27・28	119	21		分譲住宅	12/5	試掘調査
4	北野遺跡第40地点	北野2-5-27	65	12.42		分譲住宅	1/30・31	試掘調査
5	北野遺跡第41地点	北野2-1794-2の一部	157.49	13		分譲住宅	2/20・21	試掘調査
6	川崎遺跡第45地点	川崎字山向8-4、7-7・8	254.72	55.65		個人住宅	2/22・24	試掘調査
7	川崎遺跡第46地点	川崎字宮前101-5、103-8	199	4		個人住宅	3/13	試掘調査
8	ハケ遺跡第22地点	福岡3-2061-3の一部	249.32	116.65	40.5	はけ自治会館	12/26～1/19 1/25～2/8	試掘調査・ 本調査
9	滝遺跡第26地点	滝2-5-39～42	557	131.9		分譲住宅	8/24～9/9	市内22報 告済
10	滝遺跡第28地点	滝1-4-1・26・27	2,492.15	25		幼稚園改築工 事	9/3～6	試掘調査
11	滝遺跡第29地点	滝2-5-46	150.41	34.95		個人住宅	11/10	試掘調査
12	滝遺跡第30地点	滝1-1-3の一部	303	104.5		分譲住宅	2/13～15	試掘調査
13	滝遺跡第31地点	滝1-1-3の一部	109	26.1		個人住宅	2/13～15	試掘調査
14	長宮遺跡第53地点	上ノ原3-6-3	223	53.13		共同住宅	7/11	試掘調査
15	鶴ヶ舞遺跡第26地点	鶴ヶ舞1-99-10～12	252	15.75		分譲住宅	12/5	試掘調査
16	松山遺跡第86地点	松山1-1-4	294	37.9		分譲住宅	7/5～7	試掘調査
17	松山遺跡第87地点	築地3-1-21・22の一部・ 39・40・41・84	427	29.5		個人住宅	9/14	試掘調査
18	松山遺跡第88地点	築地1-3-36	120	18.8		個人住宅	10/13	試掘調査
19	松山遺跡第89地点	築地2-1-11・16	287.04	89.3		分譲住宅	3/3～6	試掘調査
20	江川南遺跡第27地点	東久保1-123-1・2	380.19	62.35		共同住宅	7/19・20	試掘調査
21	東久保西遺跡第22地点	ふじみ野2-11-11	185.1	45.91		個人住宅	12/22	試掘調査
22	駒林遺跡第33地点	駒林元町1-2-2	129.6	27.79		個人住宅	4/11	試掘調査
23	駒林遺跡第34地点	新駒林3-725-3	163	27.5		共同住宅	10/14	試掘調査
24	東久保南遺跡第40地点	ふじみ野4-7-17	114	37.05		個人住宅	3/13	試掘調査
25	西ノ原遺跡第158地点	旭1-15-6	755	(249.00)	700.0	共同住宅	調査済 3/23・24	市内18・ 23報告済
26	西ノ原遺跡第169地点	苗間1-12-5	173	21.18		共同住宅	9/14	試掘調査
27	西ノ原遺跡第170地点	苗間1-14-2・3	468.36	116.15		分譲住宅	10/18・19	試掘調査
28	西ノ原遺跡第171地点	苗間1-1-4・5	102.32	20.9		個人住宅	11/28	試掘調査
29	西ノ原遺跡第172地点	旭1-7-12	147.45	34.53		分譲住宅	2/16・17	試掘調査
30	苗間東久保遺跡第33地点	苗間字東久保604-1・10・ 11	313	96.42	60.0	分譲住宅	7/14～25 7/28～8/3	市内19報 告済
31	浄禪寺跡遺跡第42地点	苗間字神明前564-3の一 部	132.35	38.55		分譲住宅	4/8	試掘調査
32	浄禪寺跡遺跡第43地点	苗間589-1	1,402	165.67		公園	6/20～24	試掘調査
33	浄禪寺跡遺跡第44地点	苗間字神明前564-5	124.05	30.64		分譲住宅	7/1～4	試掘調査
34	浄禪寺跡遺跡第45地点	苗間字神明前349-3、 350-4	310	19.44		個人住宅	8/18・19	試掘調査
35	浄禪寺跡遺跡第46地点	苗間588-10	108	70		道路拡幅	2/6	試掘調査
36	大井氏館跡遺跡第27地点	大井1-9-5の一部	301	20.15		個人住宅	9/12	試掘調査
37	本村遺跡第132地点	大井2-17-9	212	63.2		分譲住宅	8/4・5	試掘調査
38	本村遺跡第133地点	大井2-7-6	107.54	18.75		個人住宅	10/11	試掘調査
合計			12,482.99	1,849.63	40.5 760.0			

第3表 2016(平成28)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

No	道路・地点	申請地住所	開発面積(m ²)	原因	立会い日	備考
1	鶴ヶ岡外	亀久保字三角1703-17	7225.00	伐採・抜根	6/2	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
2	鶴ヶ岡外	亀久保1606番1	4621.00	設備交換に伴う本柱建替工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
3	西	西2丁目2071番3	1.00	土地利用に伴う本柱建替工事		工事日程連絡待ち
4	西	西2丁目2071番1	1.00	土地利用に伴う支線柱・支線移設工事	8/31	立会済
5	西	西2丁目2068-1～2071-1	7.80	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
6	北野	北野2丁目4-7付近	16.68	ガス管新設工事		掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
7	北野	北野2丁目5	9.00	ガス管新設工事	5/27	33地点(遺構遺物なし)の隣接地、掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
8	北野	大浜1丁目2058番1	221.00	土地利⽤⽀障に伴う支線移設		工事日程連絡待ち
9	北野	北野2丁目8番地	16.30	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
10	ハケ19	福岡3丁目1219番2	1.00	土地利⽤に伴う支柱建替工事	4/18	H27.6.2～9.11本調査済。縄文・古墳遺構確認、慎重工事
11	ハケ	福岡3丁目1251番1・1252番11・1254番54	262.54	土地利⽤に伴う本柱移設・支線撤去	4/18	立会済
12	滝25	滝1丁目2番33	100.00	個人住宅	調査済	H26.7～8月試掘済。現地表面化90cmで遺構遺物確認、保護層有工事立会、工事日程連絡待ち
13	滝25	滝1丁目2番34	100.00	個人住宅	調査済	H26.7～8月試掘済。現地表面化100cmで古代住居跡確認、保護層有工事立会、工事日程連絡待ち
14	長宮48	上ノ原3丁目6番13	138.00	土地利⽤に伴う支線撤去	調査済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
15	長宮51	中丸1丁目3番24・35	1.00	宅地開発に伴う本柱・支線新設工事		掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、工事日程連絡待ち
16	長宮	西原2丁目5番32	1.00	宅地開発に伴う支線移設工事	立会済	立会済
17	亀居	亀久保2丁目12-5・6・17-8	1.00	土地利⽤に伴う電柱移設工事		工事日程連絡待ち
18	鶴ヶ岡	鶴ヶ岡1丁目58番6	53.00	土地利⽤に伴う小柱支線移設	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
19	鶴ヶ岡	鶴ヶ岡1丁目61-5	5.24	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
20	松山	松山2丁目5番6号	1.00	土地利⽤に伴う支線撤去	立会済	立会済
21	松山	坂地1丁目1-50	1.14	ガス管新設工事	11/1	Gd下60cmで地山ローム層確認。遺構遺物なし
22	松山	中ノ島1丁目2番7	0.10	設備撤去に伴う支線移設工事	7/4	立会済
23	新山	福岡224番1	1.00	設備不具合に伴う支線打替工事		掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、工事日程連絡待ち
24	江川東	東久保1丁目144-21～144-6	4.60	ガス管新設工事	立会済	立会済
25	江川東	東久保1丁目142番4	1.84	引込線改修工事	6/3	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
26	神明後	福岡292番2	1.20	土地利⽤⽀障に伴う本柱・支線移設工事		工事日程連絡待ち
27	神明後	福岡375-1～417-1	257.00	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
28	福岡東久保	福岡東久保640-10	1045.3	建売住宅	立会済	Gd下への影響なし立会のみ、南アーストワンより再掘出のため取り消し
29	浄禅寺跡	福岡564-5	10.00	ガス管新設工事		掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、工事日程連絡待ち
30	浄禅寺跡	福岡362	22.20	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
31	本村	大井2丁目7番6	1.00	土地利⽤に伴う支線移設工事	1/30	掘削面積狭く調査不可、工事立会
32	本村	大井2丁目17番9	212.00	土地利⽤に伴う電柱移設・撤去	5/9	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
33	東台	大井651番2	3244.00	設備交換に伴う支線移設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
34	石塚	大井760番1	1.00	電柱接地層新設工事		工事日程連絡待ち

第4表 2016(平成28)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

No	道路・地点	申請地住所	開発面積	原因	立会い日	備考
1	鶴ヶ岡近接地	鶴ヶ岡3丁目42-7番3兼	2265.35	宅地造成	11/15・19	立会済
2	鶴ヶ岡隣接地	福岡武蔵野1397-7	67.00	分譲住宅		工事日程連絡待ち
3	鶴ヶ岡隣接地	福岡武蔵野1397-10	68.00	分譲住宅		工事日程連絡待ち
4	柳林隣接地	新柳林1丁目654-1の1～3、654-2、659、658-2の一部	2195.66	サービス付き高齢者向け住宅(老人ホーム)	6/1～工事予定	
5	柳林隣接地	新柳林4丁目776-1、780-1	707.00	共同住宅	1/16	立会済
6	伊佐島近接地	柳林字伏尾1066番地、柳林字北谷1033番地	15178.00	し尿処理施設	3/2～工事予定	
7	西ノ原隣接地	うれし野2丁目15番39・40	62.00	建売住宅		工事日程連絡待ち
8	浄禅寺跡近接地	福岡562-22～724-7	9.40	ガス管新設工事		工事日程連絡待ち
9	浄禅寺跡隣接地	福岡字東久保724-7	100.00	個人住宅	立会済	立会済
10	本村隣接地	市沢1丁目18番16・17	508.00	個人住宅		工事日程連絡待ち、H29/10～工事予定
11	本村隣接地	大井1丁目3-12	136.07	個人住宅	9/12	※5/16受付分と重複。1.2～1.7m改良工事
12	本村隣接地	大井1丁目3-12・13	419.43	個人住宅	6/1・9/21	隣接地につき撤去時立会、工事立会済、8/12付(1丁目3-12)のみ再掘出あり
13	鶴ヶ岡1-12-7	鶴ヶ岡1-12-7	1979.13	高齢者サービス施設	4/21	立会済
14	亀久保字大野原1609番7	1507.45	工場・倉庫			工事日程連絡待ち(工事予定4/15～)
15	亀久保4丁目433番1・9・13	1392.57	店舗	2/15	立会済	
16	亀久保2丁目4番4	1083.07	サービス(児童福祉施設等)	10/24	立会済	
17	北野2丁目2103番1	1080.00	分譲住宅	10/14・11/7	立会済	
18	亀久保4丁目592番1	1502.00	宅地造成			
19	亀久保字亀居1239番3・66・67・68・70	4934.96	店舗			
20	柳林字本町141番1	1165.46	個人住宅	5/6	70～90cmまで掘削。地山ローム確認されず。遺構遺物なし	
21	大井武蔵野404番2外3兼	3543.62	雨水調整池整備工事			

第5表 2017(平成29)年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (㎡)	試掘面積 (㎡)	個人住宅 本調査面積 民間開発 本調査面積	原因	試掘期間		調査措置
							本調査期間		
1	北野遺跡第42地点	大原 2-5692-9	63.83	7.6		分譲住宅	7/6		試掘調査
2	北野遺跡第43地点	北野 2-2129-11	86.67	7.7		個人住宅	8/4		試掘調査
3	北野遺跡第44地点	北野 2-2129-7	68.59	2		分譲住宅	12/14		試掘調査
4	川崎遺跡第47地点	川崎字山向 15-1、16-1	749.00	5		資材置場	12/19		試掘調査
5	八ヶ遺跡第22地点	福岡 3-2061-3の一部	249.32	16.5		はけ自治会館	9/11		試掘調査
6	八ヶ遺跡第23地点	福岡 3-1183-1の一部	137.00	14.27		個人住宅	7/18		試掘調査
7	八ヶ遺跡第24地点	福岡 3-1178-1、1179-1、1180-1、1181-1、2066-2、2067	1702.15	446	63.75	宅地造成	7/19～27 7/28～8/7		市内 23 報告済
8	権現山遺跡第27地点	滝 1-4-6	63.00	25		分譲住宅	7/3・4		試掘調査
9	滝遺跡第32地点	滝 3-3-14	784.54	176.1		宅地造成	6/26～29		試掘調査
10	西原遺跡第4地点	西原 1-2-2の一部	167.00	24		個人住宅	11/20		試掘調査
11	長空遺跡第54地点	中丸 1-2-16	800.18	241.59		分譲住宅	5/15～23		試掘調査
12	長空遺跡第55地点	中丸 2-2-6の一部	191.00	34.2		個人住宅	6/29		試掘調査
13	長空遺跡第56地点	中丸 1-3-37	123.00	22.5		個人住宅	7/5		試掘調査
14	長空遺跡第57地点	長宮 2-1-16	374.63	45		個人住宅	2/14・15		試掘調査
15	亀唐遺跡第78地点	亀久保 2-17-10・11の各一部	266.57	63.5		個人住宅	2/5		試掘調査
16	鶴ヶ舞遺跡第27地点	鶴ヶ舞 1-58-8	54.00	3.2		個人住宅	4/13		試掘調査
17	鶴ヶ舞遺跡第28地点	鶴ヶ舞 1-85-3・4・19～22	497.81	25.65		分譲住宅	11/16～17		試掘調査
18	鶴ヶ舞遺跡第29地点	鶴ヶ舞 1-69-103	106.00	8		個人住宅	11/17		試掘調査
19	松山遺跡第90地点	仲 1-1-37の一部	120.00	12		個人住宅	10/12		試掘調査
20	松山遺跡第91地点	築地 1-3-8の一部	416.00	51.75		個人住宅	10/20		試掘調査
21	松山遺跡第92地点	築地 3-4-1	621.00	177.75		分譲住宅	10/30・31		試掘調査
22	松山遺跡第93地点	築地 3-5-72	571.97	114.35		共同住宅	11/27・28		試掘調査
23	松山遺跡第94地点	築地 3-5-4	1508.00	17.25		ガレージ・作業場・物置・カーポート	3/23		試掘調査
24	東久保遺跡第73地点	ふじみ野 2-3-14	62.35	4.5		分譲住宅	6/19		試掘調査
25	東久保遺跡第74地点	ふじみ野 2-19-2・3	239.00	26.7		個人住宅	8/1・2		試掘調査
26	東久保遺跡第75地点	ふじみ野 2-3-13・24	96.87	4.5		分譲住宅	12/18		試掘調査
27	東久保西遺跡第32地点	ふじみ野 2-15-3	136.40	26		個人住宅	8/7		試掘調査
28	東久保西遺跡第23地点	ふじみ野 2-10-5	237.00	47.1		個人住宅	4/20		試掘調査
29	駒林遺跡第35地点	新駒林 3-709-1～4、710-1・2	1815.00	470.5	195	分譲住宅	7/27・28 8/21・22		市内 23 報告済
30	駒林遺跡第36地点	駒林元町 1-7-4 (26-1)	160.45	41.25		消防団庫	9/19		試掘調査
31	駒林遺跡第37地点	新駒林 2-216-1、217-1	2515.35	381.45	189	物販・店舗	3/5～7 3/12～16		市内 23 報告済
32	福岡新田遺跡第6地点	駒林字寺脇 845-2	331.00	52.01		個人住宅	7/13		試掘調査
33	東久保南遺跡第41地点	ふじみ野 4-7-18	114.00	33.41		個人住宅	5/30		試掘調査
34	東久保南遺跡第42地点	ふじみ野 4-7-11	114.00	24		個人住宅	10/27		試掘調査
35	東久保南遺跡第43地点	ふじみ野 4-11-2・7	469.00	103.5	27	共同住宅	11/1・2 11/14・15		市内 23 報告済
36	西ノ原遺跡第158地点	旭 1-15-6	755.00		700	共同住宅	調査済 3/23～7/18		市内 18・23 報告済
37	西ノ原遺跡第173地点	苗間 1-15-3	113.82	32.05	14.19	個人住宅	4/14 4/17～21		試掘調査・本調査
38	西ノ原遺跡第174地点	旭 1-14-12・13	229.08	46.65		共同住宅	5/24		試掘調査
39	神明後遺跡第55地点	苗間字神明後 310-1の一部	180.00	28	27.44	個人住宅	5/8 5/9～12		試掘調査・本調査
40	淨禪寺跡遺跡第47地点	苗間字神明後 354-1	401.00	115.05	104.7	個人住宅	4/24 4/25～5/2		試掘調査・本調査
41	淨禪寺跡遺跡第48地点	苗間字東久保 717-3	103.00	7		分譲住宅	5/15		試掘調査
42	淨禪寺跡遺跡第49地点	苗間字東久保 569-1	798.00	252.8		分譲住宅	5/22・23		試掘調査
43	淨禪寺跡遺跡第50地点	苗間字東久保 717-12	132.00	23.55		個人住宅	7/10		試掘調査
44	大井宿遺跡第18地点	大井 1067-1の一部	556.00	39.75		個人住宅	11/9		試掘調査
45	大井戸上遺跡第7地点	大井 231-1・2・8	123.00	23.5		道路拡幅	9/27		試掘調査
46	本村遺跡第134地点	大井 2-20-2・3・9	2670.63	655.38		道路・宅地造成	6/5～16		試掘調査
47	東台遺跡第61地点	大井字東台 639-25	249.00	53.7		個人住宅	9/21		試掘調査
48	東台遺跡第62地点	大井字東台 638-17	57.96	7.5		個人住宅	12/25		試掘調査
合計			22380.17	4040.76	146.33 1174.75				

第6表 2017(平成29)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

No	道路・地点	申請地住所	開発面積(m ²)	原因	立会日	備考
1	鶴ヶ岡外	亀久保 1700-4	1.00	電柱接地撤去工事	立会済	立会済
3	北野	大原 1-2049-2(元古市場分)	81.69	個人住宅	5/15	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
5	権現山	通 1-4-6	1.00	地丈線撤去工事	6/15	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
6	通 32	通 3-3-14	1.02	ガス管新設工事	8/9	6/26～29 試験掘、工事立会
7	通	通 1-6-2	1.00	電力設備取替工事	11/3	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
8	長富 54	中央 1-2-17～16	7.67	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
9	長富	中央 1-3-8	11.20	ガス管新設工事	12/4	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
10	亀居	亀久保 2-12-5・6、17-8	1.00	電柱移設工事	4/20	深さ 50 cm で地山、掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
11	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-63-5・6、64-2	118.00	分譲住宅	5/11	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
12	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-85-3・10	2.00	本柱・支線移設工事	8/24・10/11	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
13	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-72-2	84.80	分譲住宅	11/16	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
14	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-100-14	172.56	個人住宅	11/21	基礎撤去立会時一部試験、現地表面下 70～80 cm で地山U-1確認できず、工事立会
15	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-72-2	1.00	小柱・小柱支線撤去工事	1/10	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、遺構遺物確認なし
16	松山 89	築地 2-1-11	4.79	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
17	松山 11 次	築地 2-1-6	1.00	本柱・支線移設工事	1/31	立会済
18	松山 11 次	築地 2-1-6	5.50	ガス管新設工事	1/31	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、遺構遺物確認なし
19	松山	中 1-1-39	0.87	ガス管新設工事	1/31	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会、遺構遺物確認なし
20	江川原	東久保 1-172-28	63.13	個人住宅	5/1	既存建物解体時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
21	江川原	東久保 1-164-10	80.30	分譲住宅	4/27	既存建物解体時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
22	江川原	東久保 1-135-8・20	270.27	個人住宅	6/21	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
23	駒林	新駒林 3-709-3	1.00	本柱・支線撤去工事	8/7	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
24	駒林	新駒林 2-218-1	1.00	本柱・支線撤去工事	8/7・10/11	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
25	駒林	新駒林 3-6-18(709-1)	56.50	ガス管新設工事	12/8	工事立会
26	駒林	新駒林 3-5-12(720-2)	1.40	ガス管移設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
27	西ノ原	植 1-15-7	1.00	本柱移設工事	2/8	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
28	中沢前	苗圃 1-11-14	100.25	個人住宅	8/25	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
29	神明後	苗圃字神明後 310-1、311-3	2.00	電柱建替工事	5/22・11/7	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
30	淨禪寺跡	大字苗圃 507-49	165.00	建売住宅	4/28	基礎解体立会
31	淨禪寺跡	苗圃 717-3 付近	32.68	ガス管新設工事	立会済	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
32	淨禪寺跡 46	苗圃 588-1・10	2.00	電柱移設工事	8/2	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
33	大井宿	大井 1074-4	1.00	本柱建替工事	10/10	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
35	本村	市沢 2-5-2の一部	159.00	子育て支援施設	11/28	基礎撤去立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
36	西台	大井 911-96～97	0.66	ガス管新設工事	5/29	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
37	西台	大井 855-1	1.00	本柱移設工事	11/6・2018/6/8	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
38	西台	大井字西台 929-3・7	171.04	分譲住宅	12/22	立会時一部試験、遺構遺物なし、慎重工事
39	西台	大井 901-1	2.00	電柱移設工事	立会済	立会済
40	大井戸上 7	大井 231-2	2.00	本柱・支線移設工事	9/28	立会済
42	東台	大井 639	46.77	ガス管新設工事	12/14・15	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
43	東台	大井字東台 707-39	86.79	建売住宅	12/14	立会済、慎重工事
44	東台 61	大井 639-25	1.00	支線柱移設工事	12/15	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会

第7表 2017(平成29)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

No	道路・地点	申請地住所	開発面積	原因	立会日	備考
1	鶴ヶ岡外近接地	亀久保字大野原 1609-7	1507.45	工場・倉庫	4/26	立会済
2	滝間接地	通 1-2-12の一部、16の一部	499.12	個人住宅	9/15	立会済
4	富士見台横穴墓群埋地	富士見台 570-5	99.25	分譲住宅	1/11	立会済、遺構遺物確認なし
5	伊佐見近接地	駒林字伏尾 1066、駒林字北谷 1033	15178.00	し尿処理施設	5/11	立会済
6	西ノ原埋地	うれし野 2-15-38・41～44	139.85	個人住宅	9/18	立会済
7	中沢前近接地	うれし野 2-9-1・2	1148.00	分譲住宅	3/13	立会済、遺構遺物確認なし
8	本村埋地	市沢 1-18-16・17	508.00	個人住宅	10/27	立会済
9	本村埋地	市沢 2-12-6	310.00	7/7781撤去	10/27	立会済
12		亀久保字大野原 2197の一部地 8番	4611.97	病院増築	3/19	立会済、遺構遺物確認なし
13		大井武蔵野 1391-2外	8417.57	可道橋	3/29	立会済
14		駒林字伏尾 1104-1	4843.64	資源物保管庫	12/18	立会済
15		西郷ヶ岡 2158-3	2644.65	特別介護老人ホーム	12/12	立会済
16		駒林元町 2-4-2	2152.12	駐車庫	10/11	立会済
17		元福間 3-1607-1の163、607-1の10	3680.95	幼稚園建替	10/3	立会済

II 立地と環境

ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。2005（平成17）年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積14.64km²、人口は2019（平成30）年7月現在113,297人である。

旧上福岡地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道（大井宿）や新河岸川（福岡河岸）、東武東上線（上福岡駅）などの交通網が発達した交通の要所でもあった。現在も市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場（火工廠）が建設され、戦後の昭和30年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和60年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地に接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄輝寺川などの小河川は市内に湧き水源をもつ。湧き水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十九川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

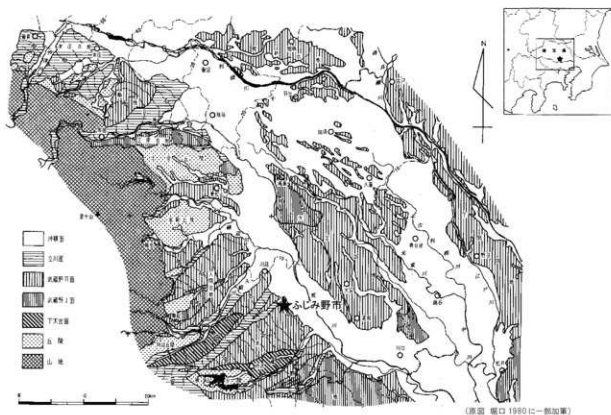
【旧石器時代・縄文時代】 市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小川川に對峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあ



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

と再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第七層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉～9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀代では伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葎石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

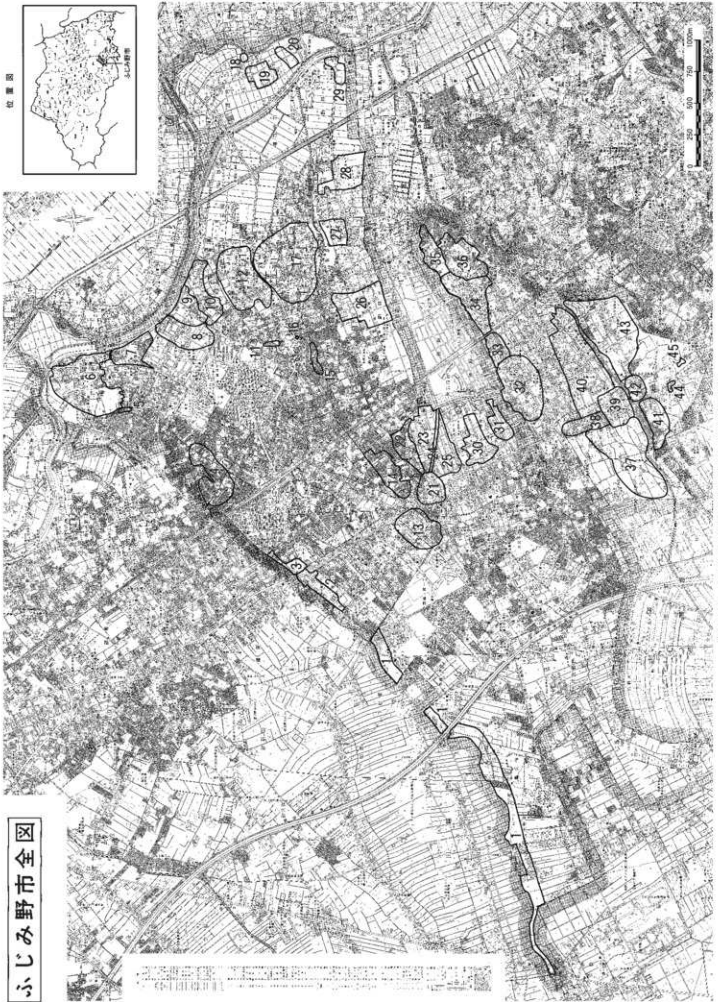
16世紀後半～17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷲森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枳などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

ふじみ野市全図



第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第8表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡、6世紀代の古墳跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	横現山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神館遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保塚跡	中世の塚跡	30-006
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
26	駒林遺跡	近世の塚跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	賀森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄律寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の塚跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の塚跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027

第9表 縄文時代中期時期細分対比表

大井町『西ノ原遺跡』 1996	新地平 第1号 2016	第1号 1995	谷井 他 1982	ふじみ野市報告書 2017(18集)	本書
西ノ原1期		6a	1a 中	IVb	藤沢・阿玉台1b 古
西ノ原2期	Ⅴ群1期	6b	1a 新	Va	藤沢1a・藤沢5・阿玉台1a 新
西ノ原3期		7a	1b	Vb	藤沢1b・藤沢新・阿玉台1b 新
西ノ原4期	Ⅴ群2期	7b	2a 古	VI	藤沢2古・藤沢4・阿玉台1a 新
		8a	2a 新		
		8b	2b		藤沢3
西ノ原5期		9a	3a	VII	藤沢3新・藤沢新
西ノ原6期		9b	3b 古	VIII	藤沢3古・阿玉台1a 新
西ノ原7期 ～8期 遺前	Ⅴ群3期	9c	3b 新	VIII	藤沢3新
西ノ原8期	IX群1期	10a	1a	IXa	加賀利E1古
西ノ原9a期		10b	1b	IXb	加賀利E1新
西ノ原9b期	IX群2期	10c	1c		加賀利E1中
西ノ原10期		11a	2a	X	加賀利E1新
西ノ原11期		11b	2b		加賀利E2
西ノ原12期	IX群3期	11c	2c	X1	加賀利E2 古相
		12a	3a	X1a	加賀利E2 中相
		12b	3b	X1b	加賀利E2 新相
西ノ原13期		12c	3c	XII	加賀利E3
西ノ原14期	IX群4期	13a		XIII	加賀利E4
		13b	4	XIV	加賀利EIV

第2章 西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西遺跡は、藤間江川に面した標高22mの台地北縁、低地との比高差8m以上の急峻な崖面上に立地する南北150m、東西200m以上の遺跡である。上福岡駅まで約600mに位置する利便性のため、早くから宅地開発が進み遺跡の大部分は住宅地となっている。

周辺の遺跡は、西側に隣接して縄文時代中期の集落である鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡がある。約800m上流に旧石器時代の礫群・石器群が広がる鶴ヶ岡外遺跡がある。また、藤間江川の支谷をはさんだ対岸には川越市藤原町遺跡があり、八幡神社遺跡とともに縄文時代の集落が広がる。さらに下流へ向かうと、「川崎貝塚」として著名な川崎遺跡、川崎横穴墓群があり、旧石器時代から縄文、古墳、飛鳥・奈良・平安、中・近世にわたる複合遺跡となる。

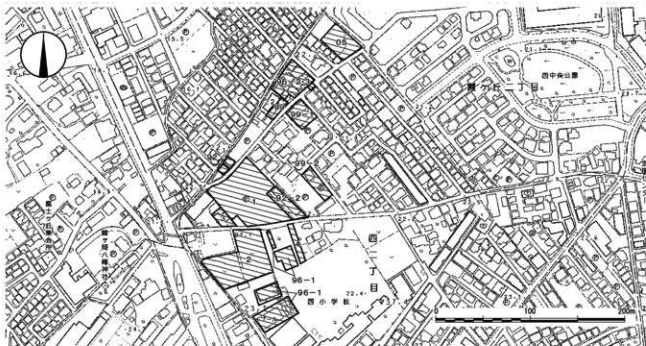
本遺跡は1992年3月、駐車場造成に伴い約3,000㎡が発掘調査され、縄文時代中期中葉の勝坂期～加曽利E1期の住居跡17軒、集石土坑や土坑等を多数検出、1996年の第2・3次調査でも縄文集落を検出し、弧状に分布する縄文集落が明らかとなってきた。2019年4月現在、4ヶ所で試掘及び発掘調査が行われ、時期不明の溝跡等も検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

II 西遺跡第4地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2016年7月27・28日に行った。幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を実施した。現地表面から地山ローム層までの深さは20～50cmである。調査の結果、時期不明のビット1基を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第3図 西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

(2) 遺構と遺物

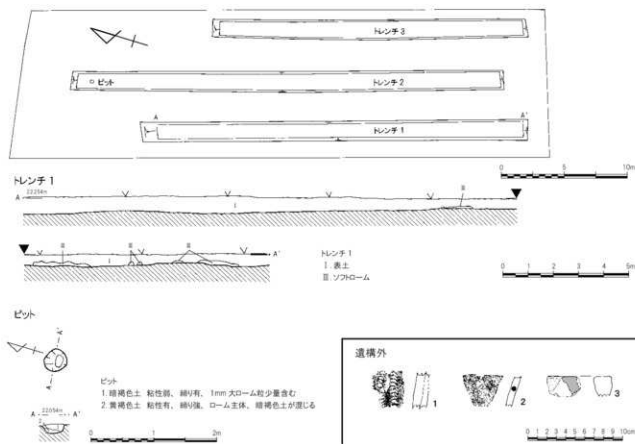
① 出土遺物

遺構は、前述したとおり時期不明のビット1基のみであった。平面形は円形を呈し、確認面径37×35cm、深さは15cmと浅い。遺物は伴わない。

遺物はいずれも表土中から出土した縄文土器片3点である。1は隆帯の両脇に押引文を施す。内面にハジケあり。中期。2は内面に煤が付着する無文土器である。金雲母を多量に含む。中期阿玉台式か。3は口縁部で、外面の一部に赤彩がみられる。中期か。

第10表 西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1991年試	西-2-5905	1991.7.23～7.31	350	防火水槽	遺構遺物なし	上環14
第1次	西-2-2068	(1992.1.14～3.19) 1992.3.23～5.2	3,061	駐車場	縄文中期住居17、集石遺構17、土坑65	上環2、市史資料
1992年試(1)	西-2-1845	1992.4.24～25	200	共同住宅	遺構遺物なし	上環15
1992年試(2)	西-2-2068-2	1992.12.3～12.9	559.2	共同住宅	縄文中期土器細片	上環15
第2次	西-2-2072-8	1996.5.29～6.5	100	個人住宅	縄文中期住居1、溝1、縄文土器、石器	上環19
第3次	西-2-2072-12	1996.6.6～6.14	111.2	個人住宅	土坑2、集石土坑、溝、縄文土器、石器	上環19
1996年試	西-2-2071-1	1996.5.6～5.28	1,146.2	宅地造成	縄文中期住居跡1、集石土坑、溝(第2・3次地点試掘調査)	上環19
1996年試①	西-2-5891-3他	1996.7.17	1,400	プール改築		H8 上社
1996年試②	西-2-1827-2	1996.10.16	47.4	個人住宅	遺構遺物なし	H8 上社
1999年試(1)	西-2-1828-1	1999.4.23～26	497.6	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	上環22
1999年試(2)	西-2-1835-4	1999.5.14～17	324	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上環22
2001年試	西-2-1833-3・4	2001.4.9～11	202.5	宅地造成	溝1条、縄文土器片	上環24
第1地点	西-2-2068-1・3・4、 2069-1	(2007.3.12～26.4.2 ～20) 2007.6.4～8.1	3,467	共同住宅及び 分譲住宅	縄文中期住居跡3、集石土坑6、土坑12、ビット68、溝1	市内4
第2地点	西-2-5905-1	(2015.5.27～29)	2,393	共同住宅	縄文住居跡3、集石土坑3、土坑4、ビット1	市内22
第3地点	西-2-2071-1	(2016.1.25～27)	476	共同住宅	縄文住居跡3、集石土坑1、土坑2、ビット3	市内22
第4地点	西-2-5904-1の一部、 2の一部	(2016.7.27～28)	489	共同住宅	ビット1、土器片	市内24



第4図 西遺跡第4地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ビット(1/60)、出土遺物(1/4)

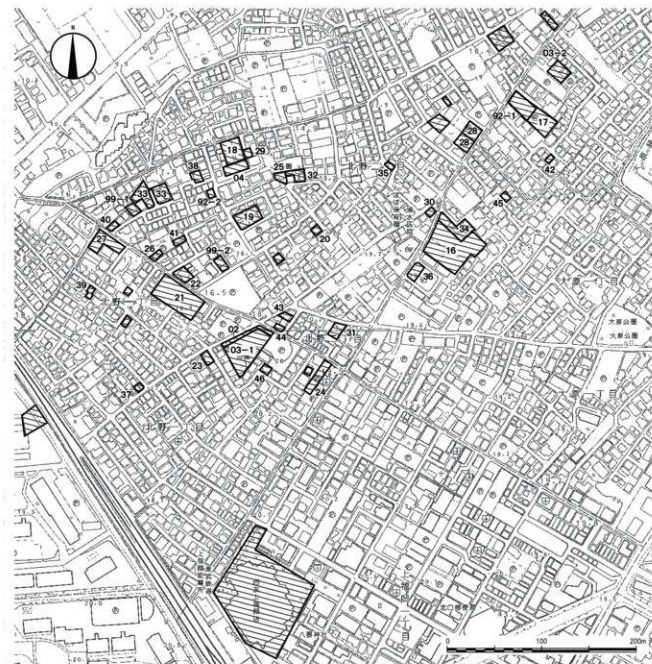
第3章 北野遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以來2019年4月現在、46ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第5図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第11表 北野遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は 試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	北野 2-2110-1の一部、 2112-1	(2006.4.7)	408 (44)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131	個人住宅	遺構遺物なし	H18 ふ生、市内 3
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148	個人住宅	保護層有、遺構遺物なし	市内 3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58	個人住宅	遺構遺物なし	H18 ふ生
92-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19～22)	617	駐車場	溝 2、縄文時代中期土器片、土器断片	上埋 15
92-2	北野 2-1809-1	(1992.8.6)	138	個人住宅	遺構遺物なし	上埋 15
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上埋 22
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9～12)	179.1	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上埋 22
02	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2002.11.28～29)	100	公園歩道	遺構遺物なし	上埋 25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2003.7.1～11)	1,484	公園	遺構遺物なし	上埋 26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8～11)	350	宅地造成	土坑 1、縄文土器片	上埋 26
04	北野 2-1827-1～3	(2004.4.16～19)	435	共同住宅	遺構遺物なし	上埋 27
05	北野 1-3129-3・20	(2005.12.2)	101	個人住宅	遺構遺物なし	H17 ふ生
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8～10)	296 (1,888)	宅地造成	ビット 3、中期初頭土器・石器	市内 8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13～17)	122.5 (412)	共同住宅	土坑 2、阿玉台IV土器	市内 8
18	北野 2-1828-2・12、 1829-1・2	(2009.3.9～18)	178 (507.9)	分譲住宅	縄文住居跡 1 (J1住)、奈良平安住居跡 (H1住)、土坑 3、 ビット 8	市内 8
19	北野 2-1821-1・2、 1820-4	(2010.12.1～2)	476.3	共同住宅	ビット 2、遺物なし	市内 10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3 (4)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
21	北野 1-3117-3、3118-1	(2011.12.8～20)	830	分譲住宅	垣跡 1、縄文土器片、地埴	市内 14
22	北野 2-1788-6の一部	(2012.2.6～8)	48 (207.1)	分譲住宅	遺構なし、須恵器片	市内 14
23	北野 1-3111-4 (1-4-9)	(2012.8.28)	140.8	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
24	北野 1-3063-1	(2012.9.13～14)	335	分譲住宅	土坑 1、椀 1、縄文土器片	市内 15
25	北野 2-1833-3 (2-6-6)	(2012.12.10)	142.7	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	共同住宅	遺構遺物なし	市内 20
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27～28)	100.6	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 20
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27) 5.28	101.4	個人住宅	縄文時代鎌石土坑 1、土器片	市内 20
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14～15)	83.7	分譲住宅	土坑 1、遺物なし	市内 20
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30・11.5)	75.9	分譲住宅	溝 1、遺物なし	市内 20
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	分譲住宅	遺構なし、縄文土器片	市内 22
32	北野 2-1841-7 他	(2015.8.27)	209	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 22
33	北野 2-1801-3・4・ 42・43	(2015.12.1～8) 2015.12.15～21	627.69	分譲住宅	鎌石土坑 5、縄文土器片	市内 19
34	大原 -2073-1	(2015.12.7～8)	276.13	共同住宅	ビット 1、縄文土器片	市内 22
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
36	大原 1-2058-10・11の 各一部	(2016.2.15～16)	212	共同住宅	遺構なし、土器片	市内 22
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
38	北野 2-1807-6・7・8、 1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内 24
39	北野 1-3129-27・28	(2016.12.5)	119	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24
40	北野 2-5-27	(2017.1.30・31)	65	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24
41	北野 2-1794-2の一部	(2017.2.20・21)	157.49	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24
42	大原 2-5692-9	(2017.7.6)	63.83	分譲住宅	溝、ビット、遺物なし	市内 24
43	北野 2-2129-11	(2017.8.4)	86.67	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内 24
44	北野 2-2129-7	(2017.12.14)	68.59	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24
45	大原 1-2049-7	(2018.4.16)	119.04	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
46	北野 1-3065-18	(2019.3.12)	103	個人住宅	遺構なし、土器片	未報告

II 北野遺跡第38地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年5月25日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2016年7月29日に行った。幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を実施した。現地表面から地山ローム層までの深さは30～40cmである。調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。表土中より縄文土器片が出土している。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて表土中より出土した。詳細については第6図及び第12表に掲載した。

第12表 北野遺跡第38地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	地文・施文・備考	時期・型式
第6図-1	遺構外	縄文・深鉢	柳歯状工具による条線文・胎土に白色粒子、ごく僅かに雲母含む	中期
第6図-2		縄文・深鉢	無文・胎土にチャート含む	中期
第6図-3		縄文・深鉢	竹管状工具による沈線・内面に赤彩	中期
第6図-4		縄文・深鉢	浅い沈線・内面に僅かにハジケあり	中期
第6図-5		縄文・深鉢	無文	中期

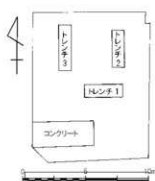
III 北野遺跡第39地点

(1) 調査の概要

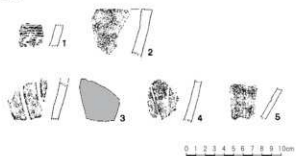
調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2016年11月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年12月5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1～1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmであった。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

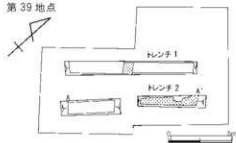
第38地点



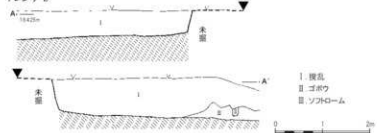
遺構外



第39地点



トレンチ2



第6図 北野遺跡第38・39地点調査区域図(1/300)、土層(1/80)、第38地点出土遺物(1/4)

IV 北野遺跡第40地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2016年12月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年1月30・31日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1mのトレンチ2本を設定し、人力で表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～70cmであった。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

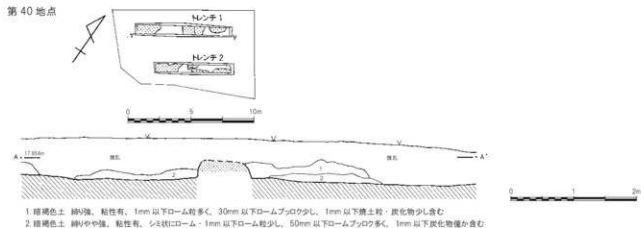
V 北野遺跡第41地点

(1) 調査の概要

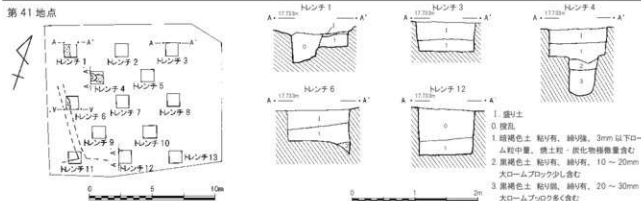
調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2017年2月9日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年2月20・21日に試掘調査を実施した。

試掘調査は1m四方のグリッドを13ヶ所設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～70cmであった。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第40地点



第41地点



第7図 北野遺跡第40・41地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

VI 北野遺跡第42地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月6日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ1本を設定し、人力で表土除去後、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。

調査の結果、根切り溝1条と土器片を検出した。根切り溝は比較的新しい時期のものである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

VII 北野遺跡第43地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年8月4日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ1本を設定し、人力で表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、遺構は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて表土中より出土した。詳細については第8図及び第13表に掲載した。

第13表 北野遺跡第43地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	地文・施文・備考	時期・型式
第8図-1	遺構外	縄文・浅鉢	-	-	-	無文・胎土に白色粒子含む	中期
第8図-2		縄文・深鉢	-	-	-	半截竹管による押引文	中期
第8図-3		縄文・深鉢	-	-	-	LR 縄文	中期

VIII 北野遺跡第44地点

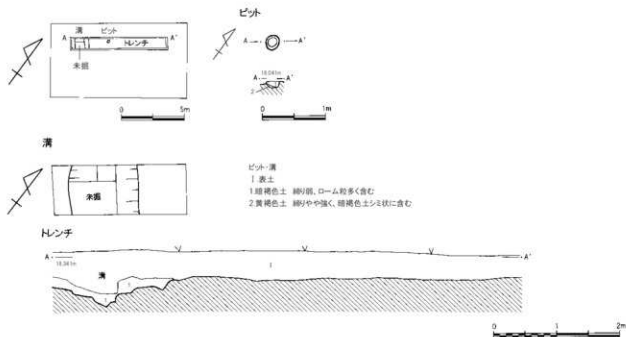
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年12月14日に試掘調査を実施した。

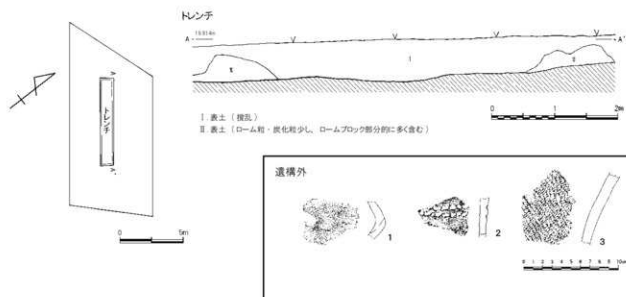
試掘調査は幅約1mのトレンチ1本を設定し、人力で表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70mである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第42地点



第43地点



第44地点



第8図 北野遺跡第42地点遺構配置図 (1/300)、ピット・溝 (1/60)、第43・44地点調査区域図 (1/300)、第43地点出土遺物 (1/4)

第4章 川崎遺跡の調査

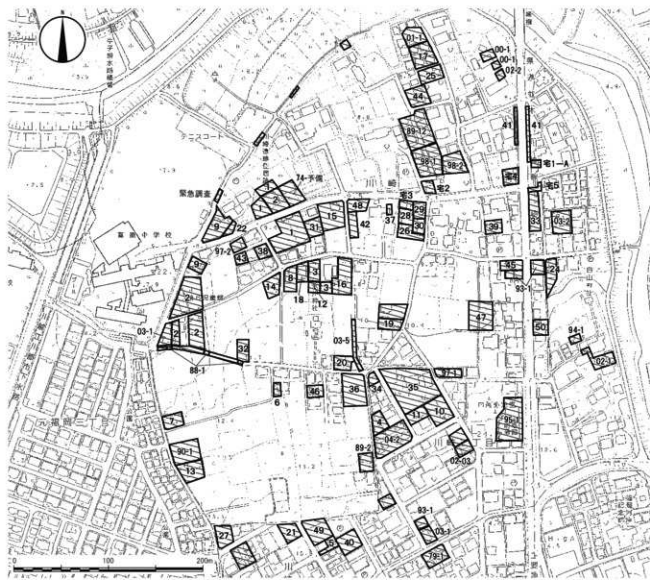
I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917（大正6）年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928（昭和3）年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2019年4月現在82ヶ所を調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。

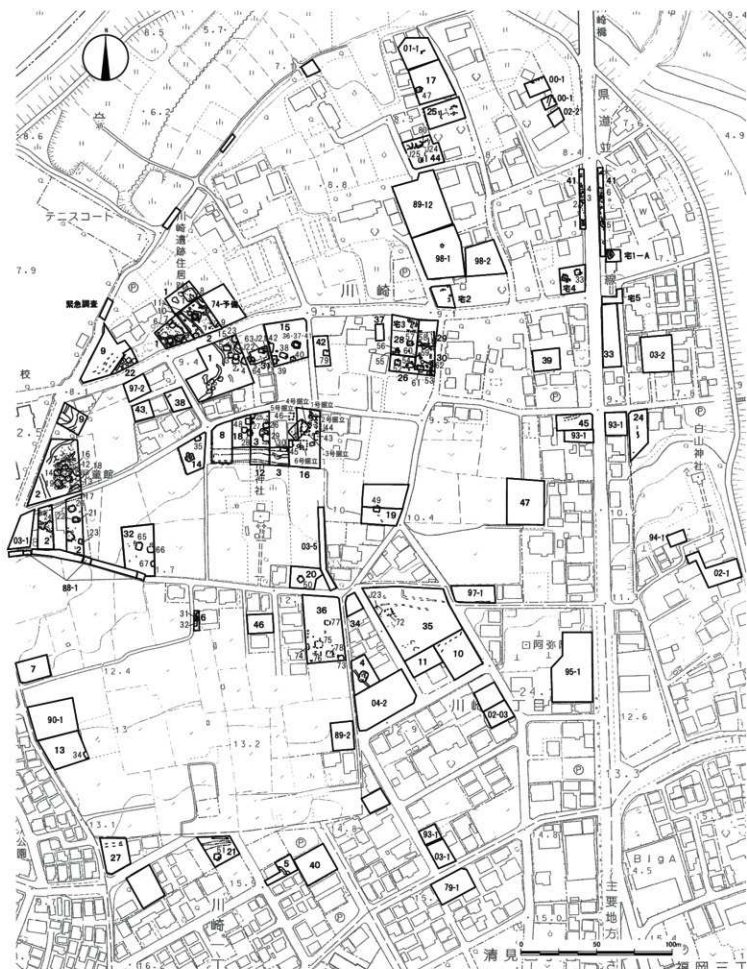


第9図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第14表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎 160	(1974.3.25～4.4)	84	事前調査	炉穴3、土坑2、ビット群、縄文土器、石器	上遺調
1次	川崎 162～176	1974.7.20～9.19	1,800	事前調査	住居跡11 (縄文時代前期3、古墳時代前期1、国分1、溝3、堀2、土坑5、地下式坑6、集石1)	川崎1次
緊急発掘調査	大字川崎宇宮後 168-3	1975.3.30～5.10	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰陶器・布目瓦・瓦葺	上遺調
宅地添1次 (A地区)	大字川崎宅地添 122	1975.6.8～29	50	個人住宅	縄文時代早期住居跡1、縄文土器、石、礎	上遺調
2次	川崎 137～174	1975.9.4～12.5	3,055	事前調査	縄文時代住居跡9、古墳時代住居跡6、奈良平安時代住居跡10、中世遺構他	川崎2次
3次	川崎 149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅建設	縄文時代住居跡2 (7・8)、奈良平安時代住居跡6 (1・2・4～6・9)、埴土散布、柱6、溝	川崎3次
宅地添2次 (B地区)	川崎 198	1978.5.15～25	170	宅地造成	土坑3、ビット	上埋1
宅地添3次 (C地区)	川崎 230	1978.5.23～31	130	宅地造成	井戸2、地下坑1、溝1	上埋1
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19～5.11	304	宅地造成	縄文前期時代住居跡1、溝1、黒沢式土器、貝類	上埋II・IV
5次	川崎 1-1-4	1979.9.26～10.10	152	宅地造成	溝状遺構	上埋II
79年度試掘 (清見)	清見 4-3-11	(1979.11.12～19)	260	宅地造成	溝1	上埋II
6次	川崎 102-5	1979.12.3～8	30	プレハブ家屋	縄文時代前期住居跡2、平安時代住居跡2、縄文土器片	上埋II
7次	川崎 124-3	1981.11.27～30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器片	上埋IV
8次	大字川崎宇宮前 148-1	1984.1.17～26	400	住宅建設	溝1	上埋VI
宅地添4次	川崎宅地添 219	1984.9.25～10.9	301	住宅建設	縄文時代住居跡1、平安時代住居跡1	上埋VII
9次	川崎宇宮後口 172-1・2	1986.9.11～20	495	個人住宅	溝2、縄文後・晩期、平安時代土器散布	上埋IX
10次	川崎 224-1	1987.11.24～30	603	個人住宅	溝1	上埋X
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10～17	289	住宅建設	遺構遺物なし	上埋XX
88試	市道 402号線	(1988.9.19～21)	60	下水道設置	住居跡1	上埋11
89試(1)	川崎宅地添 196-1	(1989.4.10～18)	1,045	住宅建設	遺構遺物なし	上埋12
89試(2)	川崎宇宮前 98-2	(1989.10.3～6)	264	住宅建設	遺構遺物なし	上埋12
12次	川崎宇宮前 149-4・5	1990.4.20～27	311	住宅建設	溝2	上埋13
13次	大字川崎宇宮前 122	1990.5.1～17	480	住宅建設	奈良時代住居跡1	上埋13
90試(1)	大字川崎宇宮前 122	(1990.5.18～23)	530	範囲確認	遺構遺物なし	上埋13
14次	大字川崎宇宮前 145	1990.10.1～31	499	住宅建設	縄文時代前期住居跡1、貝塚、平安時代住居跡1	上埋13
15次	川崎宇宮後口 160-1	1991.10.23～11.20	499	個人住宅	平安時代住居跡7、土坑1	上埋14
92試(1)	大字川崎宇山向 9-5	(1993.2.18・19)	168	店舗併用住宅	遺構遺物なし	上埋15
93試(1)	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構遺物なし	上埋16
93試(2)	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10～13)	422	個人住宅	遺構遺物なし	上埋16
94試(1)	川崎宇台 258他1兼	(1994.11.17～24)	230	機材置場敷設	遺構遺物なし	上埋17
95試(1)	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13～16)	1,126	消防署	遺構遺物なし	上埋18
16次	川崎宇宮前 150-2・3	1995.12.11～1996.3.8	828	駐車場及び農材置場	縄文時代前期 (黒沢期) 大形住居跡1、向附住居跡2・土坑2、平安時代住居跡4・竝立柱建物跡6、中世型六次遺構2	H7上社
17次	川崎宅地添 204の一部	1996.7.15～23	779	個人住宅	平安時代住居跡1	上埋19
18次	川崎宇宮前 148-3	1996.11.18～25	198	個人住宅	平安時代住居跡1	上埋19
97試(1)	川崎宇山向 21	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝1 (時期不明)	上埋20
97試(2)	川崎宇宮後口 165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構遺物なし	上埋20
97試(3)	川崎宅地添 199-1・2・5	(1998.2.12～16)	780	個人住宅	遺構遺物なし	H9上社
98試(1)	川崎宅地添 197-1	(1998.10.27～11.6)	996	宅地造成	縄文時代前期土坑1他	上埋21
市道 402号 線2次	川崎宇宮前、宮前地内	2000.2.21～25	496	道路	縄文時代前期住居跡1	H11上社
00試(1)	川崎大字宅地添 209の一部	(2000.6.19～22)	1,233	個人住宅	貝塚の一部	上埋23
範囲確認調査	川崎宅地添 209	(2001.6.12～25)	100	車庫	溝1	上埋24
19次	川崎宇宮前 157の一部	2001.9.18～10.4	289	個人住宅	平安時代初期住居跡1	上埋24
01試(1)	川崎宅地添 204-1	(2001.10.29～30)	825	宅地造成	遺構遺物なし	上埋24
02試(1)	川崎 249-1の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構遺物なし	上埋25
02試(2)	川崎 210-1、2の一部	(2002.10.28～29)	551	共同住宅	溝1【盛土保存】	上埋25
02試(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構遺物なし	H14上社
02試(4)	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構遺物なし	H14上社
02試(5)	川崎宇宮前 155 先	(2003.3.26)	164	市道 401号線	遺構遺物なし	H14上社

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
03 証(1)	川崎 137-1 の一部	(2003.8.6～7)	257	個人住宅	遺構遺物なし	上層 26
03 証(2)	川崎字宅地添 226-14	(2003.12.8～19)	381	個人住宅	遺構遺物なし	上層 26
宅地添地区 5次	川崎字宅地添 222-3 先	2004.2.16～18	88		古墳時代初期型穴住居跡1【調査実施】	H15 上社
04 証(1)	川崎字宮筋 157-1 の一部	(2004.6.14・15)	421	個人住宅	平安時代住居のカマドの一部	上層 27
04 証(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.15～4)	881	宅地造成	遺構遺物なし	上層 27
20次	川崎字宮筋 153-5	(2005.11.22～27) 2005.11.28～12.2	257	個人住宅	古墳時代住居跡1	市内1
21	川崎 1-6-10	(2006.4.11) 2006.4.14～20	298	個人住宅	奈良時代住居跡1、溝	市内3
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16～23)	104	消防分団倉庫	伊穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内4
24	川崎字宅地添 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構遺物なし	市内4
25	川崎字宅地添 203-1 の一部、203-3 の一部	(2008.4.14) 2008.4.15～17	1033	個人住宅	奈良時代竪立柱建物跡1、溝、近代以降の地下室1	市内6
26	川崎字宅地添 230-5	(2008.4.21) 2008.4.22～5.17	228	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、土坑、ピット、近代以降の井戸1	市内6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15～21)	350	分譲住宅	時期不明の溝1、土坑1	市内6
28	川崎字宅地添 230-7	(2008.7.4～9) 2008.7.10～8.8	434	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、土坑、ピット	市内6
29	川崎字宅地添 230-1	(2008.7.9～11) 2008.7.14～8.22	203	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、溝3	市内6
30	川崎字宅地添 230-6	(2008.7.17)	200	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、井戸3、土坑、溝5	市内6
31	川崎字宮後 161-5 の一部、161-6	(2009.10.28) 2009.10.28～11.27	304	個人住宅	縄文時代中期～後期住居跡2、奈良平安時代住居跡2、ピット12	市内8
32	川崎字宮筋 140 の一部	(2011.2.24・25) 2011.3.2～25	396	個人住宅	奈良平安時代住居跡3、土坑2、建物部分本調査	市内10
34	川崎 2-5-4	(2011.7.2～26)	1178	分譲住宅	遺構遺物なし	市内14
35	川崎 2-6-4～7・9	(2011.9.27～11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(黒浜期)住居跡1、奈良平安時代住居跡1他	市内14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15～26) 2012.1.10～17	1,096	公園整備	奈良平安時代住居跡6他	市内14
37	川崎字宅地添 232-1	(2012.9.3)	1,298	個人住宅	須恵器片、遺構なし	市内15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25) 2013.2.26・27	176	個人住宅	縄文土跡2・中世以降ピット5	市内15
39	川崎字宅地添 227-1	2013.3.4～5	1,121.33	個人住宅	遺構なし、縄文土器、土師器、須恵器、埴埴	市内15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11～17)	447	共同住宅	遺構なし、陶器	市内18
41	川崎 218-1 他	2014.8.1～10.31	419	道路	縄文時代住居跡2・伊穴15・土壇8・ピット15、古代住居跡3、近世の跡跡1・溝1・ピット3、縄文土器、石器、石版、土師器、須恵器、須恵器片	県埋文 420
42	川崎宅地添 233-3	(2015.6.26・7.2)	200	集会所	平安時代住居跡1、須恵器、土師器、土器片	市内22
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175.21	個人住宅	埴土、土器片	市内22
44	川崎字宅地添 202-1・8	(2015.11.24～12.10) 2016.1.5～20	273.56	分譲住宅	縄文時代住居跡2、奈良平安時代住居跡1、貝塚1、地下式坑1、土坑3、ピット7、溝1、縄文土器、石器、石製品、土師器、須恵器	市内19
45	川崎字山向 8-4、7-7・8	(2017.2.22～24)	254.72	個人住宅	溝1(近世以降か)、石器(ナフ形石器)、縄文土器	市内24
46	川崎字宮前 101-5、103-8	(2017.3.13)	199	個人住宅	掘り込み遺構、土師器、須恵器	市内24
47	川崎字山向 15-1、16-1	(2017.12.19)	749	資材置場	遺構遺物なし	市内24
48	川崎宅地添 234-1	2018.8.27～30	266	個人住宅	縄文時代住居跡1、近世以降溝、縄文土器、土師器、須恵器破片	未報告
49	川崎 1-1-5	2019.2.7～8	509	分譲住宅	掘切り溝、土器、埴埴、土師器、須恵器	未報告
50	川崎字山向 10-4 の一部	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内20



第10図 川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

II 川崎遺跡第45地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年11月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや東寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2017年2月22～24日に行った。幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を実施した。現地表面から地山ローム層までの深さは70～100cmである。

調査の結果、溝1条を確認したが保護層確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

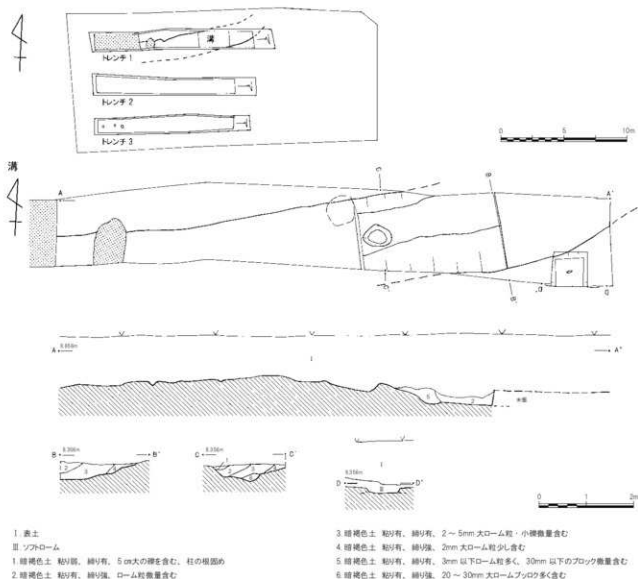
(2) 遺構と遺物

① 溝

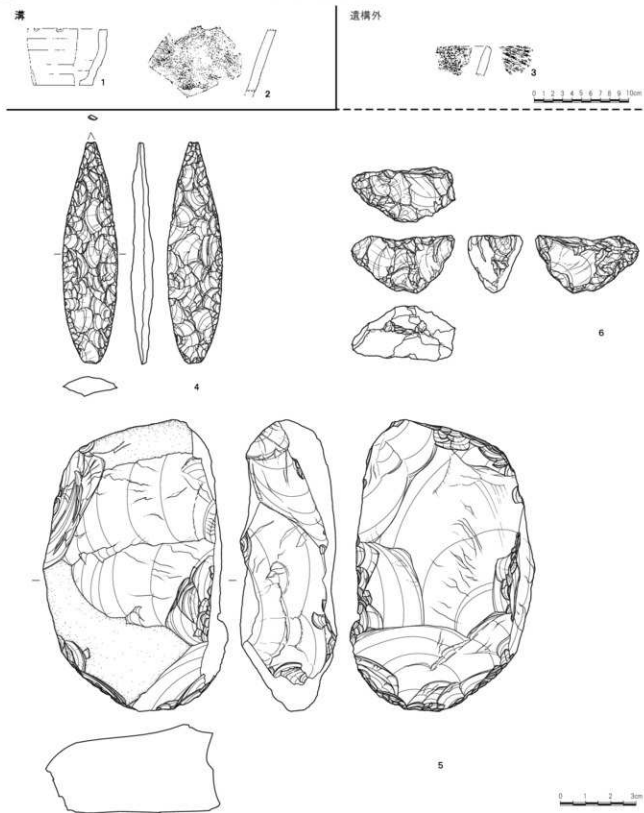
溝は調査区北側、トレンチ1で検出した。南側では確認できなかったため、西側調査区外へ延伸するものと考えられる。遺構の規模は上幅約125cm、下幅約65cm、深さ25.7cmである。遺物は伴わない。

② 出土遺物

遺物はすべて覆土中より出土した。詳細については第12図及び第15表に掲載した。



第11図 川崎遺跡第45地点遺構配置図(1/300)、溝(1/80)



第12図 川崎遺跡第45地点出土遺物 (1/4・2/3)

第15表 川崎遺跡第45地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第12図-1	溝	土器・焙烙	—	—	6.0	—	糖輪成形・外面に煤付着	中近世
第12図-2		須恵器・甕	—	—	—	—	外面僅かに平行タタキ、内面ナデ・白色針状物質含む、南比企産	古代
第12図-3	遺構外	縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部、縷維含む、内面に貝殻条痕文	縄文前期
第12図-4		石器・尖頭器	8.78	2.19	9.01	14.55	石材：頁岩・先端部欠損	縄文草創期
第12図-5		石器・斧形石器	11.57	7.34	3.86	429.36	石材：頁岩	—
第12図-6		石核	2.18	4.10	2.16	19.71	石材：チャート	—

III 川崎遺跡第46地点

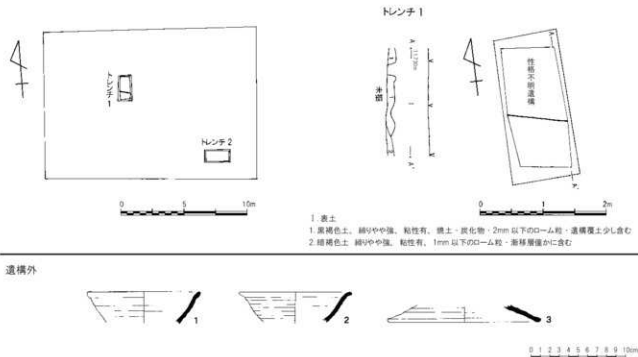
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年1月10日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2017年3月13日に行った。2×1mのトレンチを2ヶ所設定し、人力による表土除去及び表面精査を実施した。調査の結果、現地表面から70cmの深さまで掘削したところで包含層である暗褐色土層と、この包含層を掘り込む遺構を確認した。保護層確保が可能のため遺構の掘削は行わず、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

明確に遺構は確認できなかったが、トレンチ1で包含層とそれを掘り込む遺構を確認した。遺構の性格は不明だが、須恵器片が出土している。遺物の詳細については第13図及び第16表に掲載した。



第13図 川崎遺跡第46地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第16表 川崎遺跡第46地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

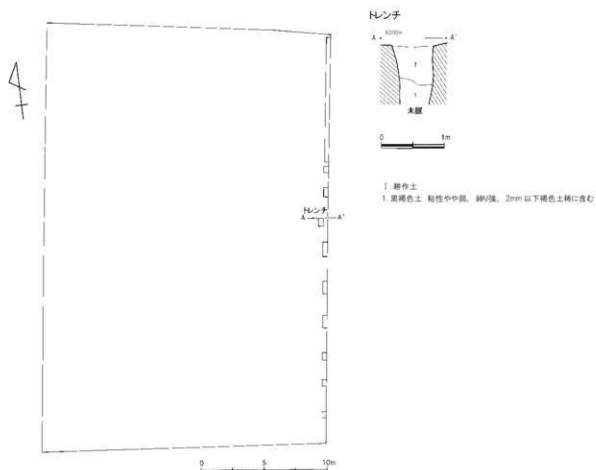
図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第13図-1	遺構外	須恵器・坏	(12.0)	—	(3.3)	—	輪軸成形・胎土に白色針状物質含む、南比企産、色調: 5Y5/1 灰色	9世紀代
第13図-2		須恵器・坏	(12.0)	—	(3.2)	—	輪軸成形・胎土に白色針状物質、チャート含む、南比企産、色調: 7.5Y4/1 灰色	9世紀代
第13図-3		須恵器・蓋	(16.4)	—	(1.8)	—	輪軸成形・酸化炭焼成、胎土に白色針状物質含む、南比企産、色調: 7.5YR7/6 橙色	9世紀後半

IV 川崎遺跡第47地点

(1) 調査の概要

調査は資材置き場の造成に伴うもので、原因者より2017年11月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年12月19日に試掘調査を実施した。試掘調査は敷地外縁部の土留め工事部分幅15cmに対して、人力による調査を行った。現地表面から約60cm掘削したが、地山ローム層は確認できなかった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第14図 川崎遺跡第47地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第5章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

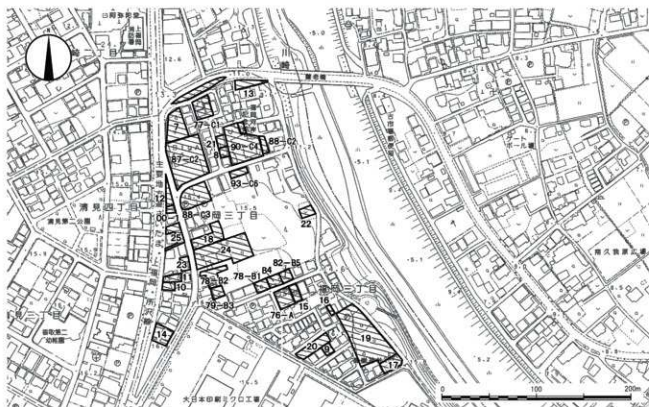
1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2019年4月現在32ヶ所で開催されている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015年の第19地点でも新たに3基の円埴輪を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

II ハケ遺跡第22地点

(1) 調査の概要

調査ははけ自治会集会所施設建設に伴うもので、原因者より2016年12月9日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2016年12月26～2017年1月19日及び2017年9月11日に行った。幅約1～1.5m



第15図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 17 表 ハケ遺跡調査一覧表

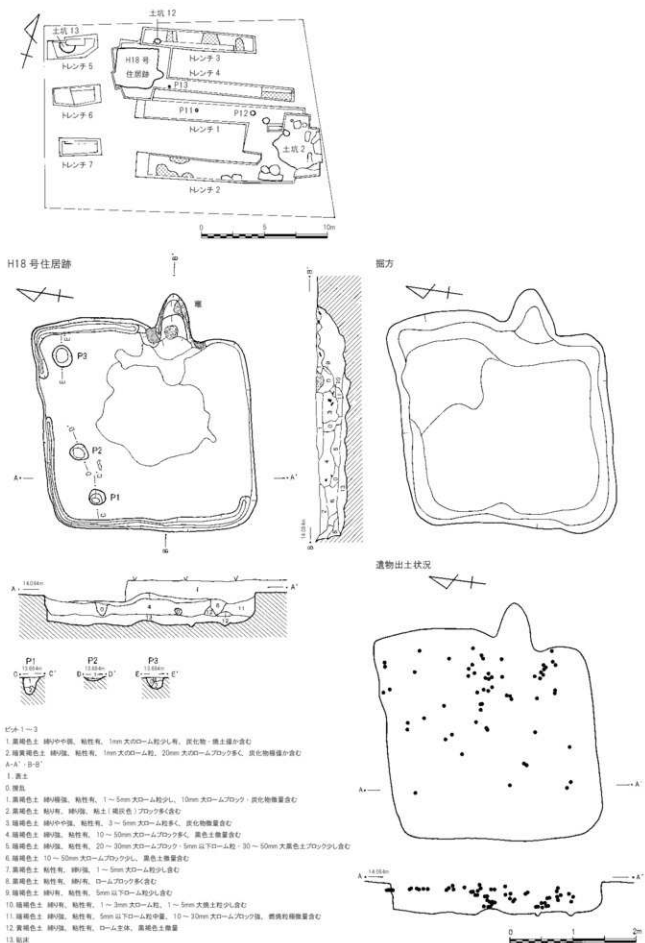
地区	地点	所在地	調査期間 () は区域調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次		大字中福岡字遠見 1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡 1、竪穴状遺構 3、縄文土器	上遺調査
C-1次		大字中福岡字清見 1480	1977.8.2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡 5、奈良平安住居跡 2、竪穴状遺構、土坑、坪跡	ハケ C
B-1次		中福岡 1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	上層 I
B-2次		中福岡 1181-2	1978.9.11～25	360	買家建設	土坑 4、安葬 1、土器	上層 I
B-3次		中福岡 1228-37	1979.7.20～31	166		土坑 3、縄文土器	上層 II
B-5次		大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10～17	165		溝 1、縄文中期土器	上層 V
C-2次		福岡 3-2068-1・2	1987.4.16～5.29	1,000	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡 11、奈良平安住居 4、竪立 1	上層 X
C-3次		福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡 4、平安住居跡 2	上層 11
C-試		福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文中期住居跡 1	上層 11
C-4次		旧福岡屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月来～継続調 査予定	500		旧福岡屋敷礎石礎、銅治屋建物跡、礎石・火灶 3・物置跡・粘土 土胎リつけ坪形小竪穴・江戸前期～中期長方形土坑 12・溝 1・ 平安住居跡 3・縄文中期住居跡 2、竪穴後・飛脚住居跡 3	H2 社、市史蹟
C-6次		福岡 3-1189、2065-2	1993.5.6～18	141.91	個人住宅	縄文中期土坑 6	上層 16
C-4次		福岡 3-2069-1の 一部	1994.6.10～1.31	54	河津記念館管理 棟・庭造成工事	縄文中期住居跡 5、土坑 30	上層 17
C-試		福岡 3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	上層 22
C-7次		福岡 3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内 3
C区 8		福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内 6
C区 9		福岡 3-1257-7、 1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑 1、風倒木 1	市内 8
10		福岡 3-1363-14	(2011.4.22)	122.1	個人住宅	時期不明溝 1	市内 14
11		福岡 3-1363-11	(2011.4.21～22)	157.7	分譲住宅	縄文時代屋外埋戻 1、土器	市内 14
12		福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビット 1、土器	市内 15
13		福岡 3-1484-1	(2013.10.2～3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
14		福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
15		福岡 3-1228-19	(2014.4.8～9)	184.09	共同住宅	遺構遺物なし	市内 20
16		福岡 3-1254-7・14・ 17	(2014.8.11～9.2)9.3 ～9	68	分譲住宅	古墳 1基、人物・円筒埴輪等、縄文土器	市内 21
17		福岡 3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	98.58	個人住宅	現代のゴミ穴 1、近世～近代陶磁器、ガラス製品	市内 20
18		福岡 3-1182、2066- 5	(2014.12.4～10) 2015.1.6～16	510.67	個人住宅	縄文時代中期住居跡 1、竪 4、土坑 2、溝 2、縄文土器	市内 16
19		福岡 3-1222-1、1223 ～1225、1255	(2015.3.17～5/11・ 10/13) 6/2～9/19	2,296.5	宅地造成	古墳 3、溝 2、縄文土器、土器器、埴輪	市内 21
20		福岡 3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29～30	375	分譲住宅	古代以降の細跡 1、土坑 1、土器器、火工器境界坑	市内 21
21		福岡 3-1193-4・15、 2069-10	(2016.1.5)	101	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
22		福岡 3-2061-3の一 部	(2016.12.26～ 2017.1.19、9.11) 2017.1.25～2.8	249.32	ほけ自治会集会所 施設	古代住居跡 1 (H18)、土坑 13、ビット 13、縄文土器、土器器、 須恵器、石器、瓦	市内 24
23		福岡 3-1183-1の一部	(2017.2.18)	137	個人住宅	ビット、縄文土器片	市内 24
24		福岡 3-1178-1、1179-1、 1180-1、1181-1、2066- 2、2067	(2017.7.19～27) 2017.7.28～8.7	1,702.15	宅地造成	縄文時代住居跡 1、竪穴状遺構 1、土坑 2、時期不明集石土坑 1、 ビット 12、縄文土器、石器、須恵器、陶磁器	未報告
25		福岡 3-1184-5・6	(2018.6.12)	297	分譲住宅	遺構なし、土器片	未報告

第 18 表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

新住居 番号	旧 調査 年度	調査名	調査率	平面形 () は推定	規模 () は残存 又は推定値	炉 罎・竪穴	設置 壁・炉 位置	周溝	主軸 方向	時 期	備 考	所収報告書
1	1976	A 地区 LN01	1/2	隅丸方形	440 ×	K	北	○		寛島		上遺調査
2	1977	C 地区 3 号住居	完観	長方形	470 × 480	K	北	○		8 世紀 3 四半 期		ハケ C
3	〃	C 地区 8 号住居	完観	長方形	560 × 388 × 44	K	北	○		8 世紀 4 四半 期		ハケ C
4	1987	C 地区 2 次 6 号住居	完観	方形	300 × 280	K	北	○		区分		上層 X
5	〃	C 地区 2 次 10 号住居	完観	長方形	450 × 300	K	北	○		8 世紀末		上層 X
6	〃	C 地区 2 次 12 号住居	完観	長方形	400 × 340	K	南東	○		9 世紀後半		上層 X
7	〃	C 地区 2 次 15 号住居	南東 1/4	—	—			○		9 世紀後半		上層 X
8	〃	C 地区 2 次独立柱建物	桁行 4 間 × 梁間 2 間	870 × 470					東面に柱	8 世紀中葉		上層 X
9	1988	C 地区 3 次 17 号住居	完観	長方形	350 × 290	K	北東	○		10 世紀初頭		上層 11、市史蹟
10	〃	C 地区 3 次 20 号住居	南東 1/6	—	—					8 世紀 3 四半 期		上層 11、市史蹟
11	1990	C 地区 4 次 27 号住居	完観	方形	400 × 380		北東	○		10 世紀初頭		上層 11、市史蹟
12	〃	C 地区 4 次 32 号住居		カマドの痕跡が確認されたため住居とした						10 世紀初頭		上層 11、市史蹟
13	〃	C 地区 4 次 33 号住居	ほぼ完観	方形	320 × 340			○		8 世紀 3 四半 期	カタイ金具 出土	上層 11、市史蹟
14	2013	H14 号住居		長方形	410 × 340	K	北	○		8 世紀中葉		市内 13
15	〃	H15 号住居		長方形	290 × 275	K	北	○		9 世紀か		市内 13
16	〃	H16 号住居		不整形	395 × 468	K	北	○		8 世紀後半		市内 13
17	〃	H17 号住居		不明	(300) × 140					8 世紀前～中 頃か		市内 13
18	2016	H18 号住居	完観	方形	330 × 340	K	東	○	N-82°E	9 世紀		市内 24



第16図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/1,500)



第17図 ハケ遺跡第22地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、H18号住居跡(1/60)

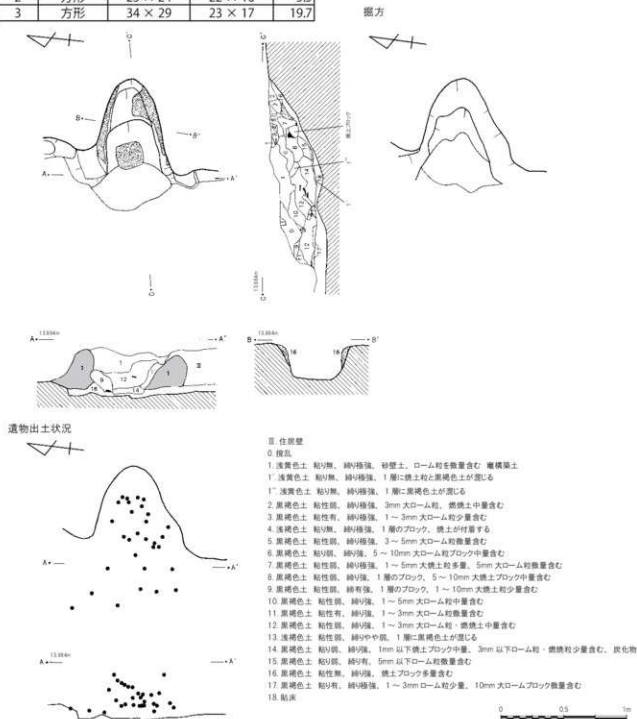
のトレンチ7本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を実施した。現地表面から地山ローム層までの深さは20～60cmである。

調査の結果、古代住居跡1軒と複数の土坑及びピットを確認した。保護層の確保が難しいため、原因者と再協議の結果本調査を実施した。

本調査は2017年1月25日～2月8日まで実施した。古代住居跡部分を中心に、人力による拡張後調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第19表 ハケ遺跡第22地点H18号住居内ピット
一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	方形	26×23	15×8	31.3
2	方形	25×24	22×16	5.5
3	方形	34×29	23×17	19.7



第18図 ハケ遺跡第22地点H18号住居跡掘方・遺物出土状況 (1/30)

(2) 遺構と遺物

① H18号住居跡

【位置】 本住居跡は調査区北側、トレンチ4に位置する。

【形状・規模】 平面形態はほぼ正方形である。規模は南北330cm、東西340cm、深さは約30cmである。

【構造】 主軸はN-82°-Eである。ピットは住居内に3基確認した。いずれも明確に柱穴とは判断できないが、ピット1及び3は柱穴であった可能性が考えられる。規模等詳細については第19表に掲載した。周溝は全体の1/3程で確認した。南側から南東隅にかけては検出していない。上幅約16cm、下幅約8cm、深さ7cmである。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【竈】 東側に位置する。天井は崩落しているが、奥壁・燃烧部・両袖部が部分的に残存していた。残存規模は長軸90cm、短軸70cmで、袖部の構築材は浅黄色を呈する砂質土である。

【遺物出土状況】 本住居跡に帰属する遺物は竈周辺に集中する。また、縄文時代後晩期の遺物は住居覆土上層に集中していた。

【時期】 出土遺物から9世紀代と考えられる。

②土坑

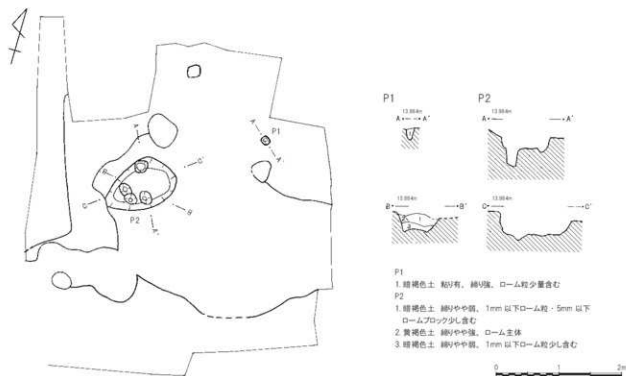
土坑は全部で13基検出した。古代以降が3基、近世以降が9基である。土坑7は周囲に粘土を張り、凝灰岩を平らに加工した石材を敷いている。下層からは焼土と灰を確認した。土坑8はイモピツである。規模等詳細については、第20表に掲載した。

③ピット

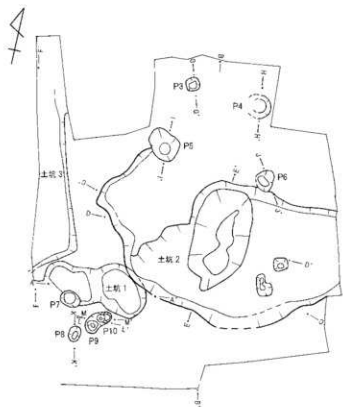
ピットは全部で13基検出した。縄文時代が2基、古代以降が8基、近世以降が2基である。規模等詳細については第21表に掲載した。

④出土遺物

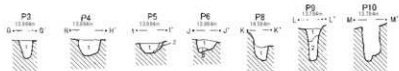
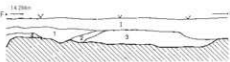
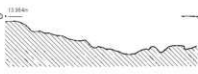
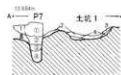
出土遺物については第23～28図及び第22表に掲載した。



第19図 ハケ遺跡第22地点土坑・ピット群（縄文時代）(1/60)



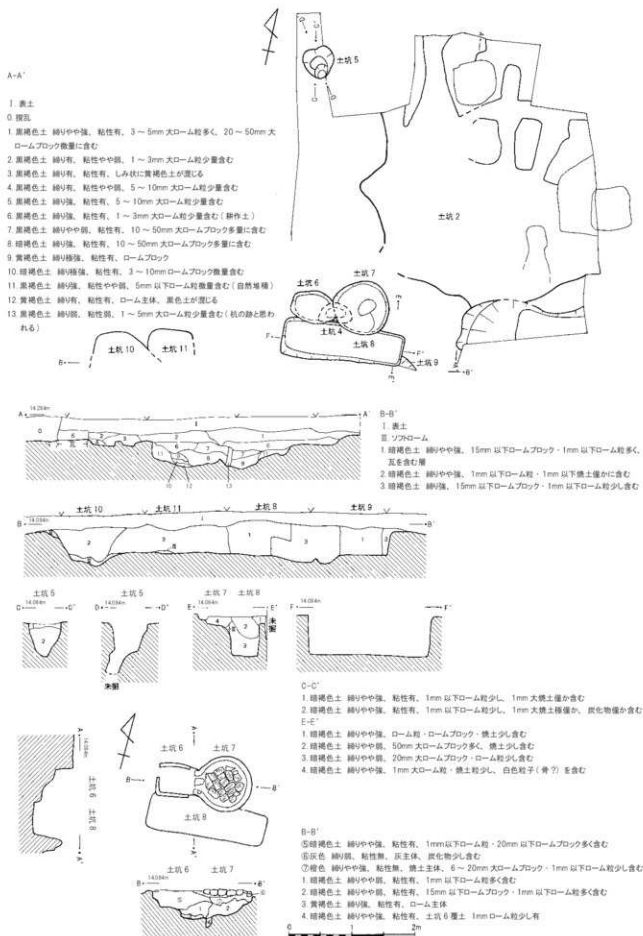
- I 表土
II ソフトローム
A-A'
1. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、3~5mm大ローム粒多、20~50mm大ロームブロック少量含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、1~3mm大ローム粒少量含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、しみ状に黄褐色土が混入
4. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5~10mm大ローム粒少量含む
① 暗褐色土 締りやや強、10mm大ロームブロック・1mm大ローム粒少し、1mm大粒子・白色粒子(骨?)僅かに含む
大横土・白色粒子(骨?)僅かに含む
② 暗褐色土 締りやや弱、20mm以下ロームブロック、1mm以下ローム粒・塊土ブロック多く、炭化物少し含む
③ 暗褐色土 締りやや弱、1mm以下ローム粒少し、塊土ブロック・白色粒子(骨?)僅かに含む
④ 暗褐色土 締りやや弱、1mm以下ローム粒少し、白色粒子(骨?)塊僅かに含む
B-B'・C-C'
0 埋込
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~10mm大ロームブロック少量含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性やや強、5~20mm大ロームブロック少量含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1~3mm大ローム粒少量含む(耕作土)
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1~3mm大ローム粒少し、10~20mm大ロームブロック少量含む
5. 暗褐色土 締りやや強、粘性やや弱、しみにロームが混入
6. 黒褐色土 締りやや強、粘性強、10mm以下ロームブロック少量含む、しみ状にロームが混入
7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、10~50mm大ロームブロック少量含む
8. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5~10mm大ロームブロック少量含む
9. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1~3mm大ローム粒少量含む
10. 黒褐色土 締りやや強、粘性強、20mm以下ロームブロック少量含む
11. 暗褐色土 締り強、粘性有、10~50mm大ロームブロック少量含む
12. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~3mm大ローム粒少量含む
13. 黒褐色土 締り有、粘性有、10mm以下ローム少量含む
14. ロームブロックを多量に含む非常に締り強い地山ではない
15. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック
16. 暗褐色土 締り強、粘性有、3~10mmロームブロック少量含む
17. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、5mm以下ローム粒少量含む(自然堆積)
18. 黄褐色土 締り有、粘性有、ローム主体、黒色土が混入
19. 黒褐色土 締り強、粘性弱、1~5mm大ローム粒少量含む(坑の跡と思われる)



- F-F'
I 表土
1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性弱、1~5mm大ローム粒多、炭化・焼結粒少量含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、1~3mm大ローム粒・炭化物・塊土粒少量含む
3. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1~3mm大ローム粒少量含む 土坑12層土
4. 黒褐色土 締り弱、粘性やや弱、1~5mm大ローム粒少量、塊土粒少量含む
ピット3
1. 暗褐色土 締りやや強、1mm以下ローム粒多、1mm以下塊土少し含む
ピット4
1. 暗褐色土 締り有、締り有、ロームブロック少量、ローム粒少量含む

- ピット5
1. 暗褐色土 締りやや弱、1mm以下ローム粒・5mm以下ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、1mm以下ローム粒僅かに含む
ピット6
1. 黄褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム粒多、暗褐色土しみに含む
ピット8
1. 暗褐色土 締りやや強、2mm以下ローム粒多含む
ピット9
1. 暗褐色土 締りやや強、1mm以下ローム粒少し、1mm大横土・炭化物・白色粒子(骨?)僅かに含む
2. 暗褐色土 締りやや強、1mm以下ローム粒少し、白色粒子(骨?)塊僅かに含む

第20図 ハケ遺跡第22地点土坑・ピット群(古代以降)(1/60)



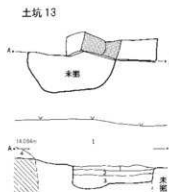
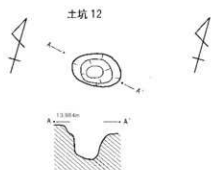
第21図 ハケ遺跡第22地点土坑(近世以降)(1/60)

第20表 ハケ遺跡第22地点土坑一覧表(単位cm)

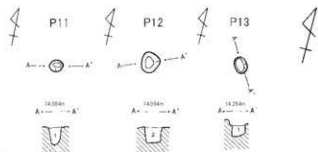
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	(166 × 80)	76 × 52	28.5	古代
2	不明	(395 × 231)	110 × 40	41.9	古代
3	不明	(252 × 63)	(252 × 50)	20	古代
4	楕円形	53 × 28	32 × 15	19.8	近世
5	不整形	55 × 49	14 × 11	84.5	近世
6	不明	61 × 52	52 × 39	32.7	近世
7	(円形)	92 × 85	78 × 76	28.7	近世
8	長方形	192 × 61	184 × 46	67.9	近世
9	不明	(31 × 13)	—	—	近世
10	不明	(126 × 54)	—	54	近世
11	不明	(65 × 63)	—	—	近世
12	楕円形	78 × 53	27 × 19	57	—
13	不明	(139 × 61)	—	37	近世以降

第21表 ハケ遺跡第22地点ピット一覧表(単位cm)

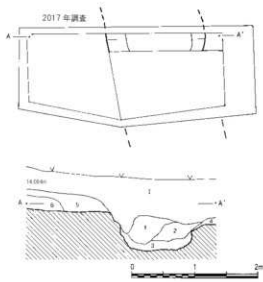
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	13 × 12	7 × 7	17.1	縄文
2	楕円形	119 × 77	91 × 50	40.3	縄文
3	方形	20 × 20	13 × 12	29.3	古代
4	不明	38 × (19)	21 × 13	26.4	古代
5	方形	54 × 31	19 × 18	19.8	古代
6	方形	32 × 28	20 × 10	18.7	古代
7	楕円形	31 × 28	21 × 18	40.7	古代
8	楕円形	24 × 18	14 × 8	48.4	古代
9	円形	17 × 17	7 × 7	32.8	古代
10	だるま形	22 × 14	5 × 5	57.1	古代
11	円形	22 × 18	12 × 6	30.4	近世
12	円形	31 × 31	18 × 13	28	近世
13	円形	25 × 20	21 × 11	17	—



- 土坑13
1. 黒褐色土、締りや中弱、粘性弱、1～5mm大ローム粒多ク、炭化・炭焼粒極微量含む
 2. 黒褐色土、締り強、粘性や中弱、1～3mm大ローム粒・炭化物・焼土粒微量含む
 3. 黒褐色土、締りや中弱、粘性や中弱、1～3mm大ローム粒極微量含む、土坑12覆土
 4. 黒褐色土、締り弱、粘性や中弱、1～5mm大ローム粒少量、焼土粒微量含む

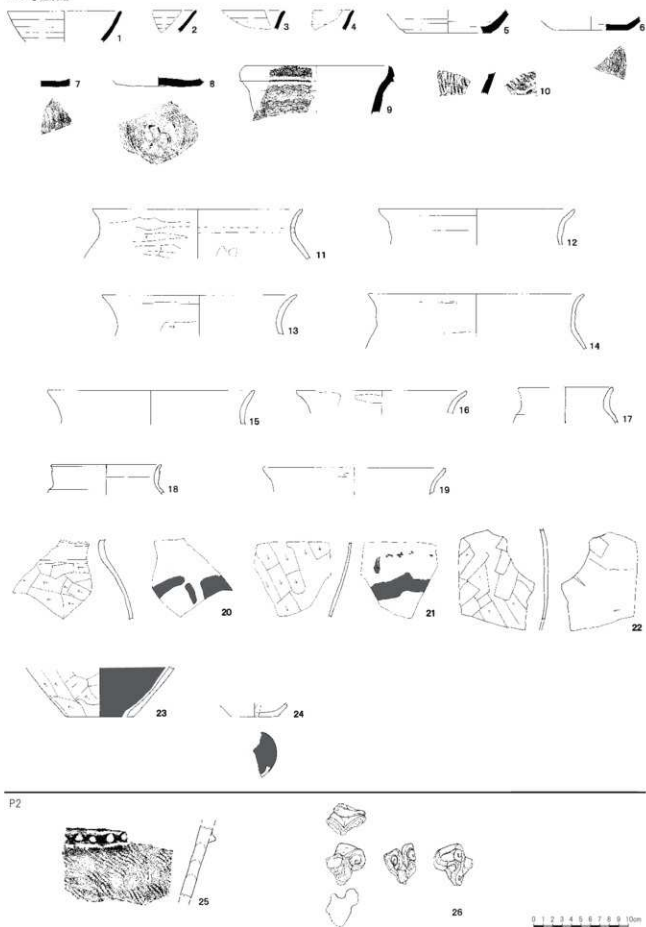


- P11 - 12
1. 黒褐色土、締りや中弱、粘性有、1mm以下ローム粒少し、1mm程度焼土極微量含む
 2. 黒褐色土、締りや中強、粘性有、1mm以下ローム粒少し、1mm程度炭化物僅か、1mm程度焼土極微量含む
- P13
1. 黒褐色土、締りや中弱、粘性有、1mm以下ローム粒多ク、1mm以下炭化物少し含む
- 2017年調査区域
1. 黒褐色土、褐色粘土ブロック・5mm以下ローム粒微量含む
 2. 黒褐色土、締り有、5mm以下ローム粒少量含む
 3. 黒褐色土、ロームブロック少量含む
 4. 黒褐色土、5mm以下ローム粒多量含む
 5. 黒褐色土、ロームブロック微量、ややグライ化
 6. 黒褐色土、ロームブロック中量、ややグライ化



第22図 ハケ遺跡第22地点土坑・ピット・2017年度調査区域図・土層 (1/60)

H18 身住原跡



P2

第23図 ハケ遺跡第22地点出土遺物① (1/4)

遺構外



第24図 ハケ遺跡第22地点出土遺物② (1/4)

遺構外



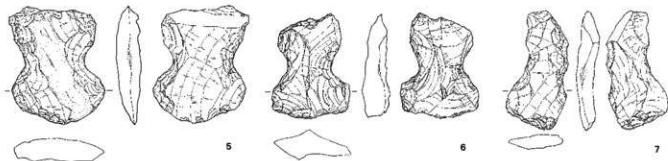
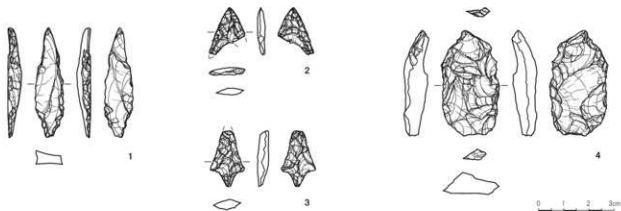
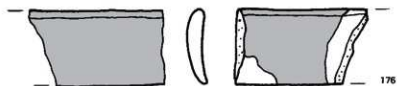
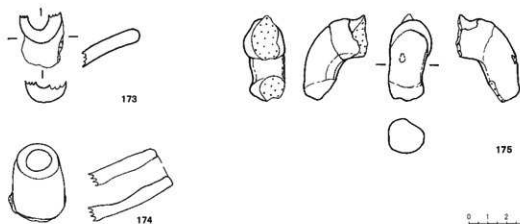
第25図 ハケ遺跡第22地点出土遺物③(1/4)

遺構外



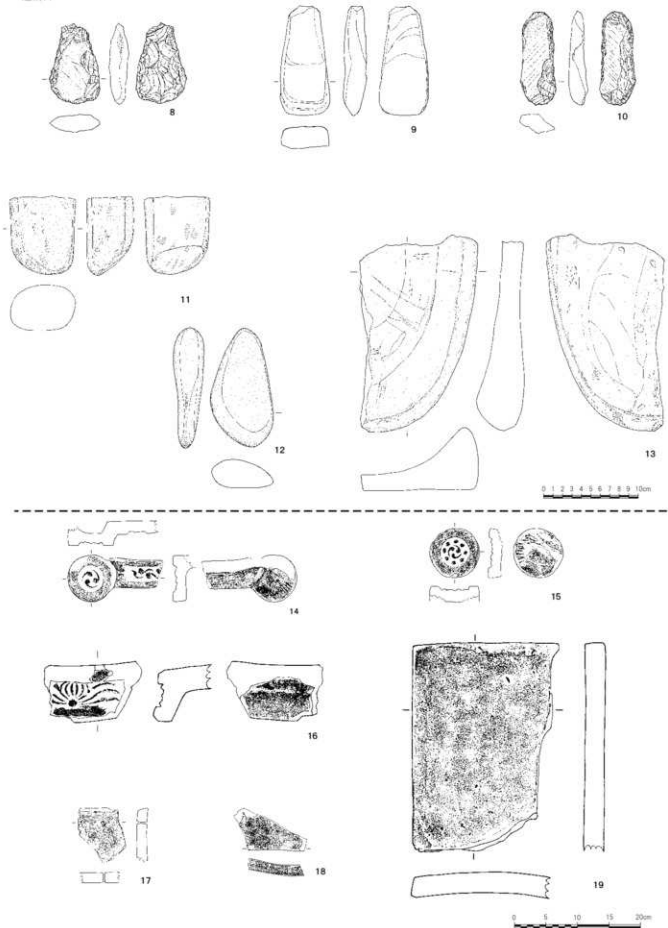
第26図 ハケ遺跡第22地点出土遺物④ (1/4)

遺構外



第27図 ハケ遺跡第22地点出土遺物⑤ (1/4・1/2・2/3・1/1)

遺構外



第28図 ハケ遺跡第22地点出土遺物⑥ (1/4・1/6)

Ⅲ ハケ遺跡第23地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月20日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月18日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmである。

調査の結果、ピット2基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

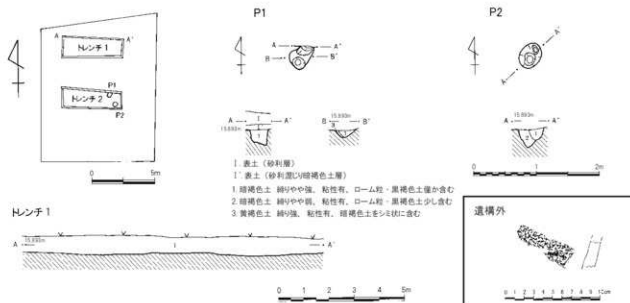
(2) 遺構と遺物

①ピット

ピット2基はいずれも調査区中央部に検出した。ピット1は平面形態が不整形形で、確認面径(37)×33cm、底径12×(4)cm、深さ26.9cmを測る。ピット2は確認面径40×32cm、底径10×10cm、深さ32.2cmで円形を呈する。いずれも出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと考えられる。

②出土遺物

遺物は表土中より出土した縄文土器片である。深鉢の破片で、地文LR縄文のようだが摩耗が激しく判然としない。胎土に雲母を含む。内面が黒色化している。中期か。



第29図 ハケ遺跡第23地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)、出土遺物 (1/4)

第6章 権現山遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

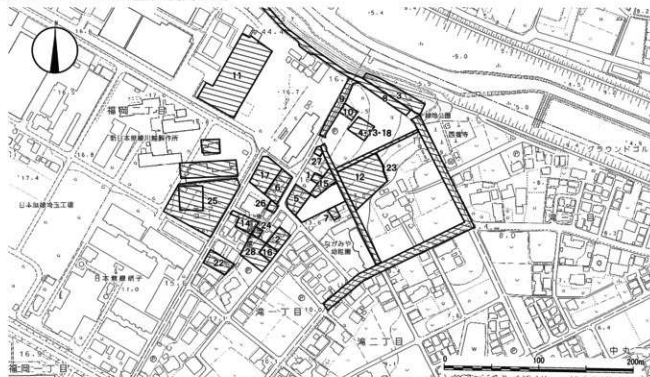
周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山」といふ円形古墳（安部1917）として紹介された。その後、1937年（昭和12年）に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。（山内1937）戦後は『埼玉縣史』（1951）、『古墳調査報告書—入間地区—』（1961）等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」（権現山北古墳群2M・3M）の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」（権現山古墳群2M）は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財（上福岡市）に指定された。資料上の初見は元禄12（1699）年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現 社地」の記載があり、塚の上には天保11（1840）年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群（11基）が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

1982年以来2019年4月現在、28ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の前方周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡第1・2・5～7・14・17地点へ変更した。



第30図 権現山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 権現山遺跡第27地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月3～4日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は2m四方のグリッドを設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、時期不明のビット1基を検出した。隣接地で権現山古墳群6号墳の周溝が確認されているため周溝の続きが見込まれたが、検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① ビット

ビット1基は調査区中央部で検出した。平面形態は不正円形を呈し、確認直径57×(37)cm、底径40×(27)cm、深さ15.1cmを測る。出土遺物はなく、帰属時期は不明である。

② 出土遺物

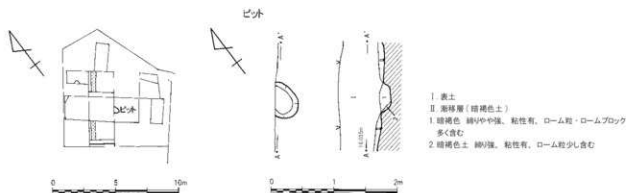
遺物はすべて表土中からの出土である。詳細については第31図及び第24表に掲載した。

第23表 権現山遺跡調査一覧表

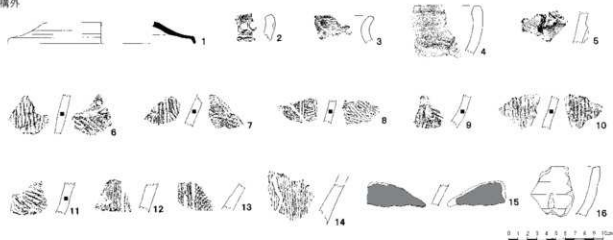
地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積(m ²)	調査理由	確認された遺構と遺物	収録報告書
1	溝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	個人住宅	古墳住居跡1、墓(旧溝3次)	土埋III
2	溝1-3-21	1980.7.20～31	330		遺構なし、中世以降陶器片(旧溝5次)	土埋III
3	溝3-4-7	1982.1.20～2.6	50	自転車置き場設置 (公共事業)	古墳方形周溝墓、密形土器、縄文中期住居跡1、縄文土器多数	S56上社
	溝1-5-4	1982.12.8～28	200	範囲確認調査	古墳方形周溝墓6、古墳住居跡1	土埋V、市史費1
4	溝1-5-4	1983.5.18～6.28	100	範囲確認調査	古墳住居跡1、方形周溝墓1	土埋VI
5	溝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	溝2(旧溝9次)	土埋VI、市史費1
6	溝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	古墳住居跡1、溝4、土坑3(旧溝10次)	土埋VI、市史費1
7	溝1-4-2	1984.6.28～30	33	物置建設	集石2、土坑2(旧溝11次)	土埋VI、市史費1
8	大字福岡1500	1985.1.20～2.25		道路築造	方形周溝墓2、古墳3、須恵器・甕形土器	S59上社、市史費1
9	溝1-4-8	1985.8.9～9.9	430	範囲確認調査	古墳住居跡2、平安住居跡2	土埋VII
10	溝1-5-9・10	1986.2.10～22	202	範囲確認調査	第2周溝墓の前方の調査	土埋VII
11	福岡3-1187-4	1988.6.7～14	3,200	工場増築	古墳1、奈良・平安住居跡4	
12次	溝1-6-7	1989.2.20～3.6	2,000	農地改善	古墳住居跡3、方形周溝4、古墳溝跡1、中世大溝跡1、時期不明溝跡1	土埋11、市史費1
12	溝1-6-1	1989.5.8～	1,724	農地改善	方形周溝4	H1上社
13	溝1-5-4	1993.7～8		範囲確認調査	2号墳、11号墳のトレンチ調査	市史費1
14	溝1-3-13	1995.11.27～30	462	共同住宅	なし(旧溝試掘)	土埋18
15	溝1-4-3	1996.4.15～5.7	396	個人住宅	古墳住居跡1軒、溝1(時期不明)	土埋19
16	溝1-3-49	2002.5.29～30	165	個人住宅	なし(旧溝試掘)	土埋25
17	溝2-6-2	2004.5.17～27	856	範囲確認調査	奈良製穴住居跡2(23、24号)【調査済み】	土埋27
18	溝1-5-4	2006.4.25～27		古墳群保存整備		
19	字福岡2-1500-23 (工場内)			工場増築		
20	字福岡2-1500-23 (工場内)			工場増築		
21	字福岡2-1500-23 (工場内)			工場増築		
22	溝1-3-58～60			住宅建設		
23	溝1-6-7	2008.10.23～29	1,576	古墳群保存整備	土坑3、集石1、須恵器、土器	市内6
24	溝1-3-25	(2013.5.17)	90	個人住宅	遺構なし、土師器、土器	市内18
25	福岡2-1-1	(2014.6.2～7.18) 2014.7.22～9.2	3,588	事務所	縄文時代の卯穴2・土坑1、古代住居跡3・溝3、須恵器・土師器	市内16
26	溝1-3-23	(2015.11.30)	97	個人住宅	遺構遺物なし	市内22
27	溝1-4-6	(2017.7.3～4)	63	分譲住宅	ビット1(時期不明)、縄文土器、土師器、須恵器破片	市内24
28	溝1-3-3	(2019.2.25・26)	624	分譲住宅	ビット5、土師器片、陶磁器片	未報告

第24表 権現山遺跡第27地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第31図-1	遺構外	須恵器・杯蓋	20.0	—	2.2	轆轤成形・白色針状物質を多量に含む、南比企産	9世紀
第31図-2		縄文・深鉢	—	—	—	口縁部に円形刺突(径8mm)、下に横位沈線か	中期
第31図-3		縄文・深鉢	—	—	—	口縁部	中期
第31図-4		縄文・浅鉢	—	—	—	無文・胎土に白色粒子を含む	中期
第31図-5		縄文・深鉢	—	—	—	三叉文・胎土に白色粒子を多く含む	中期
第31図-6		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-7		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-8		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-9		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-10		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-11		縄文・深鉢	—	—	—	条痕文・縦維含む	早期末
第31図-12		縄文・深鉢	—	—	—	無文・縦位沈線	中期
第31図-13		縄文・深鉢	—	—	—	地文RL縄文・沈線による懸垂文	中期
第31図-14		縄文・深鉢	—	—	—	地文条線・縦位蛇行沈線	中期
第31図-15		縄文・深鉢	—	—	—	無文・内外面に赤彩、胎土に長石を含む	中期か
第31図-16		土器・焙烙	—	—	—	胎土に黒色粒子を含む	中近世



遺構外



第31図 権現山遺跡第27地点遺構配置図(1/300)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

第7章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

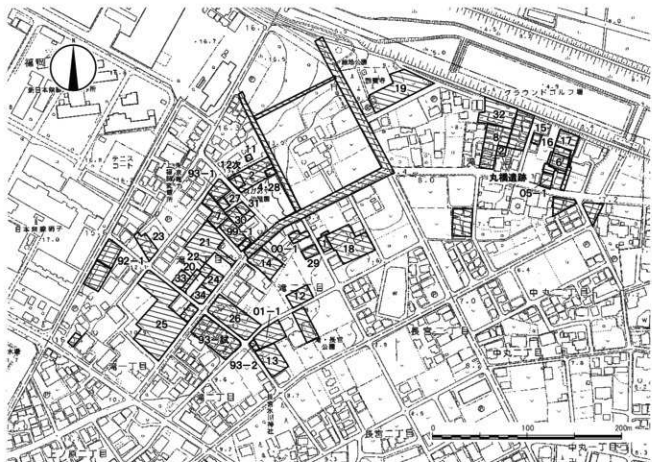
滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡(1981年の変更増補で滝遺跡と合併)で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来2019年4月現在、46ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

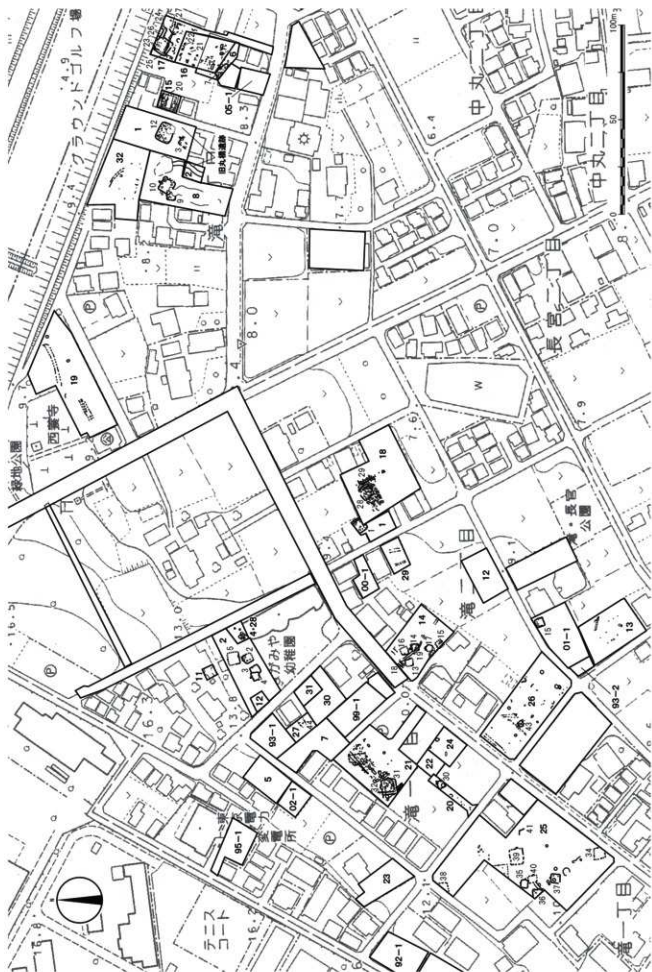
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構(集石を伴う)である。



第32図 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第25表 滝道跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋1次	滝 3-3-77～81	(1976.6.26～27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1		丸橋道跡は滝道跡へ統合
丸橋2次	滝 3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1		上埋1
1次	滝 2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器		上埋1
2次	滝 1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園フェール	住居跡5、甕溝、土坑、長溝、土器		上埋II
3次	滝 1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山道跡1地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋II
4次	滝 1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片		上埋II
5次	滝 1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山道跡2地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋II
6次	滝 3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土師器		上埋III
7次	滝 1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋IV
8次	滝 3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2		上埋VI
83試							
9次	滝 1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山道跡5地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋VI
10次	滝 1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山道跡6地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋VI
11次	滝 1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	権現山道跡7地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋VI
12次	滝 1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	遺構遺物なし		上埋VII
92試(1)	滝 1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	遺構遺物なし		上埋 15
93試(1)	滝 1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93試(2)	滝 2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし		上埋 16
95試(1)	滝 1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山道跡14地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋 22
99試(1)	滝 1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成 (土地分譲)	遺構遺物なし		上埋 22
00試(1)	滝 2-5-20	(2001.1.23～24)	154.7	個人住宅	遺構遺物なし		上埋 23
01試(1)	滝 2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初期住居跡1		上埋 24
02試(1)	滝 1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	権現山道跡16地点に変更、欠番とする	権現山道跡へ変更	上埋 25
05試(1)	滝 3-3-5・143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	遺構遺物なし		市内1
立倉	滝 1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	遺構遺物なし		市内3
12	滝 2-5-3・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	遺構遺物なし		市内3
13	滝 2-2-6	2007.10.24～11.1	737.7	共同住宅	練土範囲2、ビット8		市内4
14	滝 2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7、溝3、井戸1、須恵器、土師器		市内4
15	滝 3-3-84	(2009.9.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1、井戸1、土坑8、ビット20、須恵器、土師器、紡錘車		市内7
16	滝 3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ビット3		市内8
17	滝 3-3-6・144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5、井戸1、土坑4、溝2、集石		市内10
18	滝 2-6-4・6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1,164	個人住宅	古墳時代住居跡2他、土師器、近世陶磁器等		市内14
19	滝 3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、陶磁器等		市内14
20	滝 1-8・9	(2012.5.9～11)	124.45	道路敷造	奈良・平安時代住居跡1、時期不明井戸、土坑、ビット		市内12
21	滝 1-1-7・26・31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代順治河村住居跡1(H31)・奈良平安時代住居跡2(H32・H33)、竪立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ビット、須恵器、土師器、竊石関連遺物跡		市内12
22	滝 1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
23	滝 1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
24	滝 1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土坑2、ビット2		市内20
25	滝 1-2-4・32	(2014.7.17～8.26) 2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	古代住居跡8(H34～H41)、竪立柱建物跡1、井戸4、土坑3、溝2、ビット23、須恵器、土器		市内16
26	滝 2-5-6・8	(2015.10.19～27) 2015.11.9～10	1,231	個人住宅	縄文時代落しと穴1、古代住居跡2(H42・H43)、時代不明井戸5、土坑7、ビット44、溝2、縄文土器、石器、土師器、須恵器		市内22
27	滝 1-1-25	(2015.11.27～12.1)	155	個人住宅	古代住居跡1(H44)、ビット3、土師器、磁石		市内22
28	滝 1-4-1・26・27	(2016.9.3～6)	2,492.15	幼稚園園舎建設	古代住居跡1(H45)、ビット、土師器、支脚		市内24
29	滝 2-5-46	(2016.11.10)	190.41	個人住宅	溝2、縄文土器、土師器		市内24
30	滝 1-1-3の一部	(2017.2.13～15)	303	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内24
31	滝 1-1-3の一部	(2017.2.13～15)	109	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
32	滝 3-3-14	(2017.6.26～29)	784.54	分譲住宅	井戸1、ビット10(近世以降か)、縄文土器、近世陶磁器、瓦葺子		市内24
33	滝 1-1-9の一部	(2018.12.14)	187	個人住宅	竪立柱建物跡、ビット、土師器片		未報告
34	滝 1-1-8	(2019.2.20～21) 2019.4.12	333	個人住宅兼診療所	遺構なし、須恵器片、土師器片		未報告



第33図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第26表 滝遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新住居番号	旧調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模 ()は残存 又は推定値	炉	設置 壁・炉 位置	溝溝	主軸 方向	時 期	備 考	所収報告書
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央 西寄り	○	S-55-W	4世紀前半	4本主柱穴、 方形貯蔵穴 110×95×40	上埋Ⅰ
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完璧	正方形	(460)×470×45	K	北	○	N-32-W	7世紀前半	焼失住居、 方形貯蔵穴 62×55×45	上埋Ⅱ
3	1978	丸楕第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	○	N-38-W	7世紀前半	焼失住居、 (4本主柱穴)	上遺調
6		第2次3号住居	完璧	方形	(480×460)×15	—	—	○		9世紀前半		上埋Ⅱ
4	1979	第2次4号住居	ほぼ完璧	長方形	南北340×東西380 ～415×30	K	北	○	N-14-W	8世紀前半		上埋Ⅱ
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	—	—	○	不明	8世紀前半	裏は調査区外未調査	上埋Ⅱ
—	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(260×270)×30	—	—	○	不明	4世紀前半	梅岡山遺跡1号住居跡跡に変更	上埋Ⅲ
7	1980	第6次7号住居	1/3	正方形	620×(250)×12	K2基	A 東:北 B 西:西	○	N-52-E N-37-W	7世紀前半	建て替わり、不整形貯蔵穴 175×95×20 床面焼土範囲有	上埋Ⅲ
8	2001	2001年度範囲確認調査第15号住居跡	完璧	方形	400×400×	K	北	○	不明	(8世紀前半)	今後15号住居跡から8号住居跡に名称変更	上埋24
9	1983	第8次9号住居	2/3	隅丸方形	(500)×470×20	炉3	中央北 西寄り	○	—	4世紀前半	焼失住居、 床面硬化 範囲2ヶ所	上埋Ⅵ
10	1983	第8次10号住居	完璧	正方形	690×660×15	K	北東	○	N-52-E N-37-W	6世紀前半	4本主柱穴 方形貯蔵穴 (80)×75×35	上埋Ⅵ
11	1984	第10次11号住居	完璧	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	○	N-5-W	6世紀前半	梅岡山遺跡に変更	上埋Ⅶ
12	1978	丸楕第1次12号住居	ほぼ完璧	隅丸長方形	980×770×20	土器 圓形	北部	○	N-54-W N-36-E	4世紀前半	床面焼土点在	市史資1
13	2007	第14次13号住居	1/2	方形	370×370×45	K	東	○	N-36-E		貼床	市内4
14	2007	第14次14号住居	4/5	(長方形)	385×(380)× 202	K	北	○	真北	8世紀前半	比企型汗多数出土、貼床	市内4
15	2007	第14次15号住居	1/3	不明	(370×-)×20	—	—	—	—		葦束検出、 貼床	市内4
16	2007	第14次16号住居	1/4	不明	(250×170)×40	—	—	○	—		葦束検出、 貼床	市内4
17	2007	第14次17号住居	1/3	不明	(344×360)×102	—	—	○	—		葦束検出、 貼床	市内4
18	2008	第14次18号住居	1/5	不明	(297×270)×30	—	—	○	—		葦束検出、 貼床	市内4
19	2008	第14次19号住居	1/5	不明	(450×-)×350	K	北	—	—	8世紀前半～	14号住居より新	市内4
20	2009	第15地点H20号住居	2/3	隅丸長方形	370×350×398					8世紀		市内7
21	2009	第16地点H21号住居	一部	不明	285×(135)×—	K	東					市内8
22	2009	第16地点H22号住居	一部	不明	—							市内8
23	2010	第17地点H23号住居	プラン	長方形	595×700×27	K	北		N-46-W	8世紀	H 24、H 25住居より新	市内10
24	2010	第17地点H24号住居	プラン	(方形)	590×(265)×30					8世紀	H 23、H 26住居より古、H 25住居より新	市内10
25	2010	第17地点H25号住居	プラン	長方形	810×700×12				N-46-W	7世紀	H 23、H 24住居より古	市内10
26	2010	第17地点H26号住居	プラン	(方形)	450×(110)×40					8世紀	H 24住居より新	市内10
27	2010	第17地点H27号住居	プラン	方形	420×400×10					8世紀		市内10
28	2011	第18地点H28号住居	完璧	隅丸方形	660×630×18.2	炉			N-34-W	4世紀後半		市内14

新住居番号	旧調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模 ()は残存 又は推定値	炉	設置 壁・炉 位置	周溝	主軸 方向	時期	備考	所収報告書
29	2011	第18地点H29号住居	1/2	(隅丸長方形)	290 × 648 × 18.2					4世紀後半		市内14
30	2012	第20地点H30号住居	4/5	方形	410 × 390 × 5	K	東	○	N-75-E	9世紀		市内12
31	2012	第21地点H31A号住居	完璧	方形	780 × 770 × 50	K	北・東	○	N-92-E	8世紀前半		市内12
31	2012	第21地点H31B号住居	完璧	方形	640 × 640 × 50	K	北	○	N-2-E	8世紀前半	竪治炉	市内12
32	2012	第21地点H32号住居	一部	(方形)	— × — × 25						保存のため未調査	市内12
33	2012	第21地点H33号住居	一部	(方形)	—		北		N-0-E		保存のため未調査	市内12
34	2014	第25地点H34号住居		(方形か 長方形)	420以上	K	東	○		7世紀中頃	内容は不明	市内16
35	2014	第25地点H35号住居	完璧	長方形	360 × 220 × 48.6	K.2基	北 東	○		8世紀中～後半	別住居の遺構か建替	市内16
36	2014	第25地点H36号住居		(正方形か 長方形)	415 × 535 × 105	K	東	○.2		8世紀前半～ 中頃		市内16
37	2014	第25地点H37号住居		正方形	460 × 460 × 66	K	北	○		7世紀後半	井戸1と遺構、住居のほうが古	市内16
38	2014	第25地点H38号住居									未調査	市内16
39	2014	第25地点H39号住居									未調査	市内16
40	2014	第25地点H40号住居									未調査	市内16
41	2014	第25地点H41号住居									未調査	市内16
42	2015	第26地点H42号住居	1/2以下	(正方形か 長方形)	(250 × 192) × 20	K	北	○?		7世紀後半		市内22
43	2016	第26地点H43号住居	完璧	方形	345 × 303 × 20	K	北	○		8世紀中頃～ 後半		市内22
44	2016	第27地点H44号住居	完璧	不明	305 × (250)			○		7世紀後半～		市内22
45	2016	第28地点H45号住居	—	不明	—	K				8世紀		市内24

II 滝遺跡第26地点

(1) 調査の概要

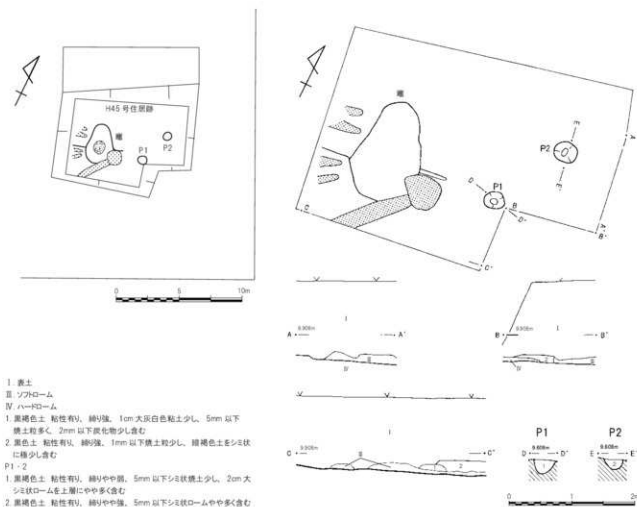
調査は分譲住宅建設に伴い、2015年10月19～27日及び2016年8月24日～9月9日まで試掘調査、2015年11月9～10日まで本調査を行った。調査の結果、平安時代の住居跡2軒、落とし穴1基、土坑7基、井戸5基、ピット多数、溝2条を検出した。詳細については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第23集『市内遺跡群22』（2019年3月刊行）にて報告済みであるため本書では割愛する。

III 滝遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は幼稚園園舎建設に伴うもので、原因者より2016年5月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年9月3～6日に試掘調査を実施した。

試掘調査は既存建物撤去時に実施し、重機による表土除去後、人力による精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約120cmである。調査の結果、古代住居跡と考えられる焼土範囲を検出したが、攪乱によって大部分が破壊されており、周辺にも他に遺構・遺物が確認されなかったため、工事立会の措置とした。焼土範囲については写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第34図 滝遺跡第28地点遺構配置図 (1/300)、H45号住居跡 (1/60)

(2) 遺構と遺物

① H45号住居跡

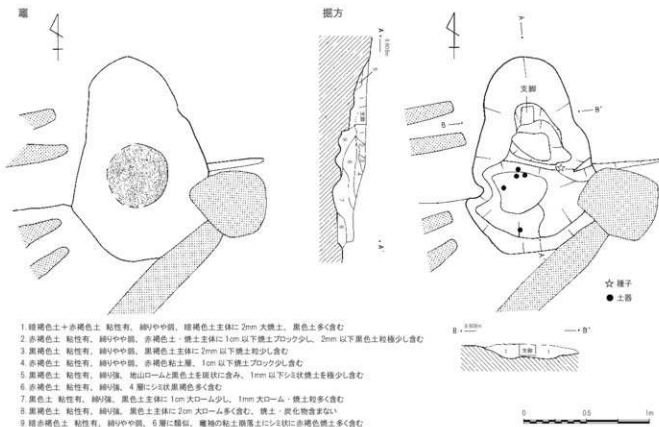
調査で確認した焼土範囲は竈の支脚が確認されたことから住居跡とし、H45号住居跡とした。竈の燃焼部がごく僅かに残存していただけのため、規模等は不明。竈の規模は長軸(155)×短軸(95)cmである。竈中央部には支柱に利用したと考えられる凝灰岩が出土した。支柱は(12)×(10.5)cmで、四角柱に加工されて使用されたものと考えられる。出土遺物から8世紀代の可能性が考えられるが、判然としない。遺構は他にピット2基を検出したが、住居跡に伴うものではない。

②ピット

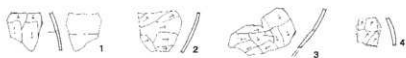
ピット1は調査区中央部で検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径31×25cm、底径11×8cm、深さ21.6cmを測る。ピット2は調査区東側に位置している。平面形態は円形を呈し、確認面径38×32cm、底径13×8cm、深さ20.8cmを測る。いずれも出土遺物はなく、帰属時期は不明である。

③出土遺物

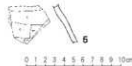
出土遺物はH45号住居跡の竈周辺から出土した土師器片である。詳細については第35図及び第27表に掲載した。いずれも非常に器厚の薄い土師器裏の破片である。また、竈付近で出土した植物種子の詳細については本書で附編として報告している。



H45号住居跡



遺構外



第35図 滝道跡第28地点竈・掘方(1/30)、出土遺物(1/4)

第27表 滝遺跡第28地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第35図-1	H45号住居跡	土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-2		土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-3		土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-4		土師器・不明	外面ケズリ、内面ナデ	—
第35図-5	遺構外	土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ	—

IV 滝遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年11月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年11月10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力による精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは50～80cmである。調査の結果、溝2条を検出したが保護層確保が可能のため、本調査は実施していない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

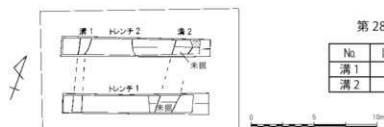
(2) 遺構と遺物

① 溝

溝跡はどちらも南北方向に走行する。溝1は調査区西側で、溝2は調査区東側で確認した。断面形態はどちらも逆台形を呈する。規模の詳細については第28表に掲載した。溝1の方が溝2に比べて規模が小さい。どちらも覆土中より遺物が出土しているが、遺構の時期を決定するようなものは確認できなかった。

② 出土遺物

出土遺物は溝1より1点、溝2より2点が出土、その他は遺構外から出土した。詳細については第37図及び第29表参照。



第28表 滝遺跡第29地点溝一覧表(単位cm)

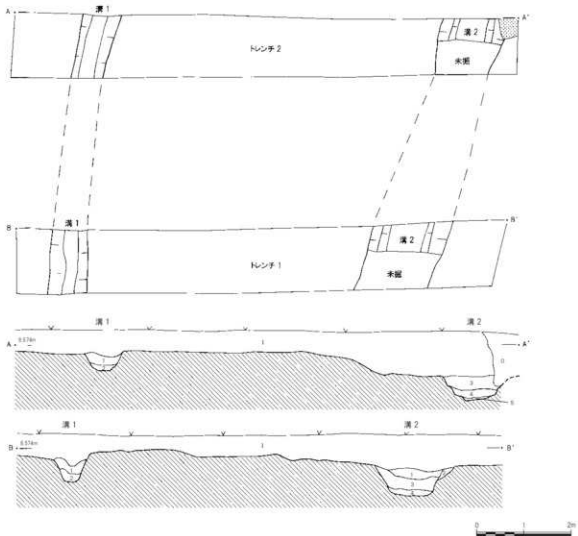
No	断面形態	上幅	下幅	深さ
溝1	U字	63～80	23～35	51.5
溝2	逆台形	111～161	60～77	61.8

第36図 滝遺跡第29地点遺構配置図(1/300)

第29表 滝遺跡第29地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・施文・備考	時期・型式
第37図-1	溝1	石器/敲き石	10.58	9.48	6.14	802.55	砂岩・全面に使用痕あり、特に下部に顕著、部分的に鉄分付着	
第37図-2	溝2	縄文/深鉢	—	—	—	—	無文	—
第37図-3		縄文/深鉢	—	—	—	—	条痕文力	—
第37図-4	遺構外	土師器/甕	—	—	—	—	外面ケズリ、内面ナデ	古代
第37図-5		土師器/甕	—	—	—	—	外面ハケ目、内面ナデ・外面に僅かに朱が付着か	古墳時代前期
第37図-6		縄文/深鉢	—	—	—	—	地文RL・弧状に集合沈線、上下に区画の横位沈線	縄文時代中期
第37図-7	遺構外	須恵器/甕	—	—	—	—	内外面ナデ、外面に自然釉・白色針状物質含む、南比企産	古代
第37図-8		石器/錐	3.53	2.19	0.73	2.86	黒曜石	旧石器?

溝1・2



1. 黄土

0. 探坑

溝1

1. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム少し含む

2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム多く、ロームブロック少し含む

溝2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム少し、2～3mm炭化物粒多く含む

2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム少し含む

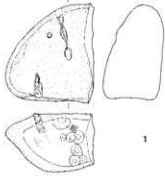
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム少し含む、部分的に酸化する

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・15mm以下ロームブロック多く含む、

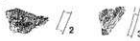
全体の酸化、若干粘質土

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm以下ロームブロック多く含む

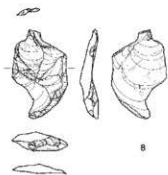
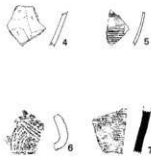
溝1



溝2



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10mm

0 1 2 3m

第37図 滝遺跡第29地点溝(1/80)、出土遺物(1/4・2/3)

V 滝遺跡第30・31地点

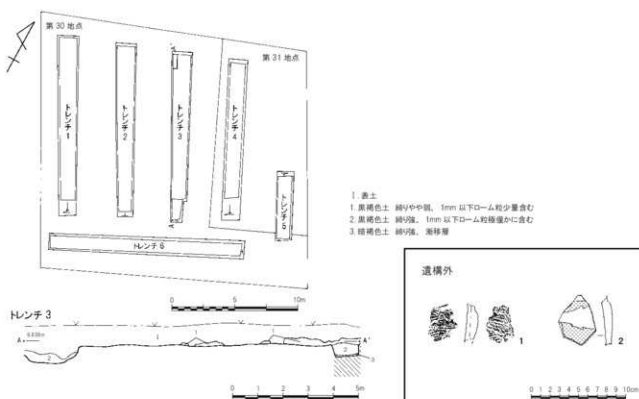
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設及び分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年2月2日及び13日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会にそれぞれ提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。原因者と協議の結果、分譲住宅建設部分を第30地点、個人住宅建設部分を第31地点とし、隣接地のため同時に試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は2017年2月13日～15日に実施した。幅約1～1.5mのトレンチ6本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。地山ローム層までの深さは120cm以上あり、遺構への影響がないため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構は検出されなかったが、覆土中より遺物が2点出土した。1は縄文土器片で深鉢の胴部。内外面に条痕文を施す。内面は炭化する。前期か。2は陶器の壺か甕の破片。轆轤成形で、外面に緑色の釉がかかっている。近代。



第38図 滝遺跡第30・31地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、第30地点出土遺物 (1/4)

VI 滝遺跡第32地点

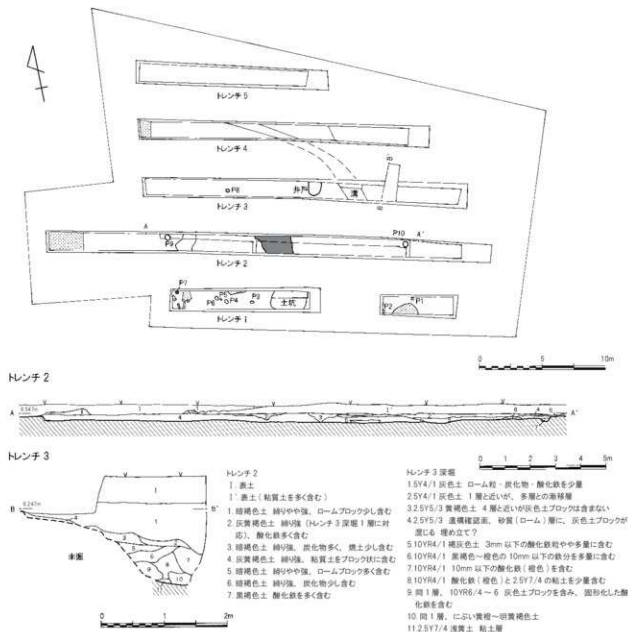
(1) 調査の概要

調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年4月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺物の存在を確認するため2017年6月26～29日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～80cmであるが、調査区東側では現地表面下約160cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、井戸1基、ピット10基、溝1条を検出したが、いずれも時期不明である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第39図 滝遺跡第32地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150・1/60)

(2) 遺構と遺物

①井戸

井戸は調査区のほぼ中央部で検出した。平面形態は円形を呈し、確認径 $115 \times (100)$ cm を測る。深さ約 180 cm まで掘削したが底面まで至らなかった。深さ 180 cm 地点での直径は 78×62 cm で、漏斗状を呈することがわかる。

②ピット

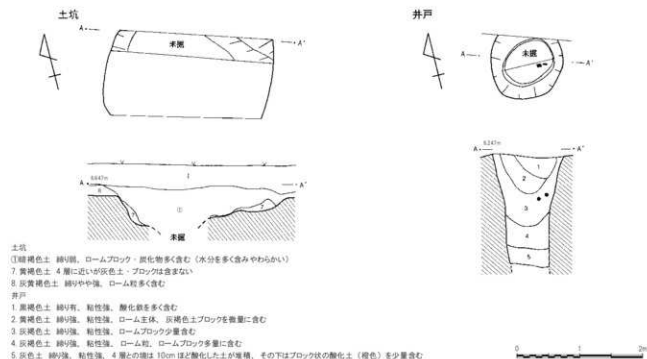
ピットは合わせて 10 基を検出した。そのほとんどが調査区南側に位置する。詳細については第 30 表に掲載した。いずれも時期は不明である。

③溝

溝は調査区中央やや東寄りトレンチ 3 で検出した。上幅 185 cm、下幅 91 cm、深さ 27.3 cm で、断面形態は浅い U 字状を呈する。北側はトレンチ 4 で続きを検出したが、さらに北側のトレンチ 5 では確認できなかった。途中で方向を変えるかまたは途切れてしまうものと考えられる。南側もトレンチ 2 では検出されていないため、北側同様に方向を変えるか途切れてしまうようである。

④出土遺物

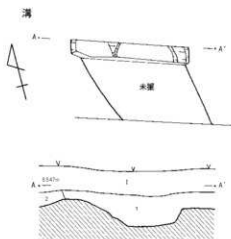
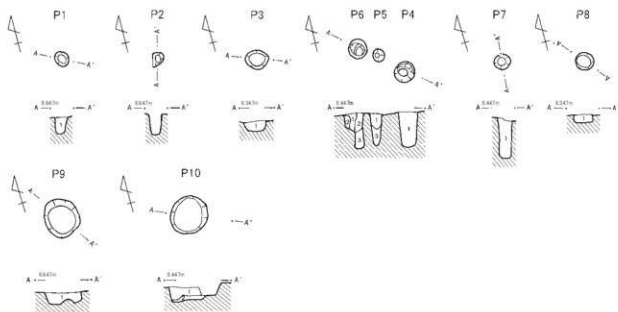
遺物はピット 9・10、溝及び遺構外から出土した。詳細については第 42・43 図及び第 31 表に掲載した。



第 40 図 滝遺跡第 32 地点土坑・井戸 (1/60)

第30表 滝遺跡第32地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	26 × 22	15 × 12	27.2	6	円形	30 × 28	15 × 11	60.2
2	不明	23 × (17)	12 × 8	32.9	7	円形	25 × 25	13 × 13	69.6
3	楕円形	35 × 31	27 × 19	18	8	円形	30 × 27	23 × 18	13.7
4	円形	34 × 31	16 × 12	59.2	9	円形	60 × 54	46 × 40	32.3
5	円形	20 × 20	6 × 6	54	10	円形	59 × 56	52 × 43	25.9



ピット 1-7

1. 黄褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下のローム粒少し、機土を僅か含む

ピット 3&9

1. 灰黄褐色土 粘性有、粘り強、ロームブロック多量に含む

ピット 4&6

1. 灰黄褐色土 粘性強、粘り強、ロームブロック少し含む

2.1 2.1よりロームブロック多く含む

3. ピット1の1層

ピット 10

1. 灰黄褐色土 粘り強、ローム粒僅か、炭化物少し含む

2. 黄褐色土 ローム粒僅か、灰黄褐色土シラシラ含む

溝

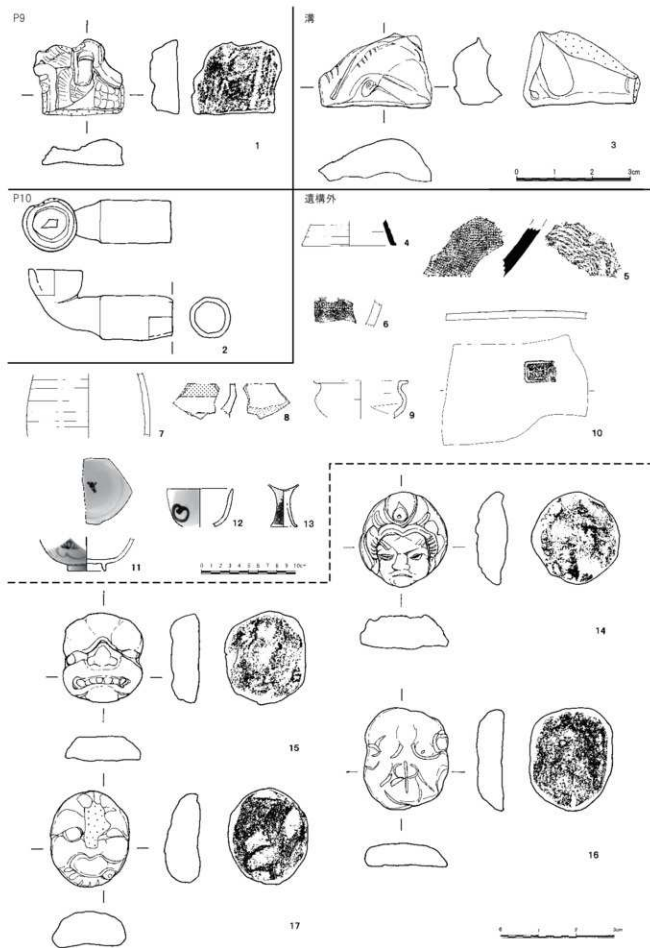
1. 表土 (下層はグラライしている)

1. 灰褐色土 粘性強、粘り強、ローム粒、炭化物、酸化鉄を少量含む

2. 灰土 粘性強、粘り強、ロームブロックを多く含む

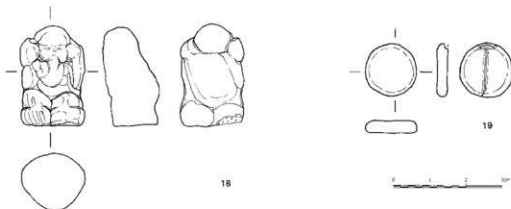


第41図 滝遺跡第32地点ピット・溝 (1/60)



第42図 流遺跡第32地点出土遺物① (1/4・1/1)

遺構外



第43図 滝道跡第32地点出土遺物② (1/1)

第31表 滝道跡第32地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第42図-1	P9	土製品・泥面子	—	—	—	型押し成形・芥子面・一部欠損	近世以降
第42図-2	P10	金属製品・煙管	(3.8)	—	—	雁首部分のみ	近世以降
第42図-3	溝	土製品・土人形	—	—	—	型押し成形・内面に指紋有	近世以降
第42図-4	遺構外	須恵器	—	(10.0)	(2.6)	轆轤成形・胎土に黒色粒子を含む	古代
第42図-5		須恵器・甕	—	—	—	平行タタキ、同心円状当て具・胎土に白色粒子含む	古代
第42図-6		土器・焙烙?	—	—	—	轆轤成形・外面に格子状のタタキ	近世以降
第42図-7		陶器・徳利	—	—	—	轆轤成形・外面と内面の一部に透明釉、最大径13cm、肥前	近世以降
第42図-8		陶器・甕	—	—	—	轆轤成形・内外面に鉄釉・瀬戸美濃	近世以降
第42図-9		磁器・香炉	(10.0)	—	(4.0)	轆轤成形・青磁香炉?、肥前	近世以降
第42図-10		土器・焙烙	—	—	—	底部のみ、底面に煤付着、刻印あり(丸に一、その下に極上か)	近世以降
第42図-11		磁器・碗	—	(4.0)	(3.5)	轆轤成形・染付・瀬戸美濃	近世以降
第42図-12		磁器・碗	(7.0)	—	(4.2)	轆轤成形・色絵・瀬戸美濃	近世以降
第42図-13		磁器・仏飯具?	—	2.7	(4.6)	轆轤成形・染付・脚部のみ残存、瀬戸美濃	近世以降
第42図-14		土製品・泥面子	2.5	2.25	—	型押し成形・芥子面(役者?)	近世以降
第42図-15		土製品・泥面子	2.45	2.1	—	型押し成形・芥子面	近世以降
第42図-16		土製品・泥面子	2.7	2.2	—	型押し成形・芥子面	近世以降
第42図-17		土製品・泥面子	2.55	2.1	—	型押し成形・芥子面(火男?)・摩耗が激しい	近世以降
第43図-18		土製品・土人形	2.8	1.8	—	型押し成形・大黒天・全体的に摩耗が激しい	近世以降
第43図-19		ガラス製品・おはじき	1.5	1.4	—	型押し成形	近代以降

第8章 西原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西原遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、標高約18mの台地上に立地する。遺跡の北側約100mには現在、市立福岡中学校のグラウンドがあるが、かつては「滝」の地名の由来となった、段丘上から滝が落ちていたと言われる付近である。

周辺の遺跡は、武蔵野段丘面から一段低い立川段丘面にかけて滝遺跡、長宮遺跡、松山遺跡が広がる。南側約100mに古墳時代後期の横穴墓の福遺跡、同約250mに富士見台横穴墓群が位置する。

本遺跡周辺は早くから宅地化が進み、また残された部分も山林等であった。昭和1965年の分布調査で「中飛西原 遺物の散布地は、西に向かってゆるやかに傾斜する台地の肩部に位置し、その範囲も極めて狭いが、縄文式土器の細片（野島、加曾利E期）が発見できた」。以後、1985年の試掘調査で縄文時代の集石土坑1基が検出されているが、1994年と1997年の試掘調査で遺構、遺物は確認されていない。

西原遺跡は、2019年4月現在4ヶ所で調査が行われている。

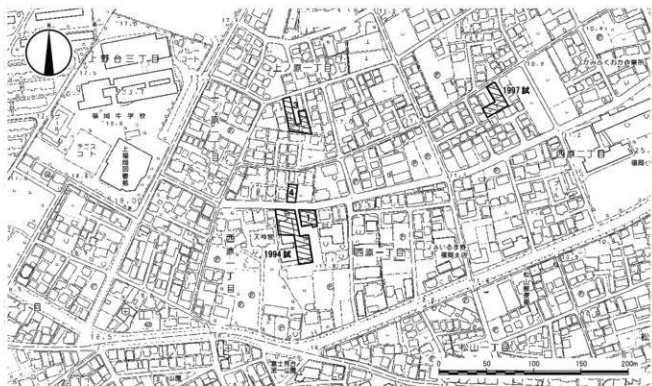
II 西原遺跡第4地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年11月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年11月20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は道路拡幅部分に合わせて重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60cmである。

調査の結果、炉穴1基を確認した。遺物は出土していない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第44図 西原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

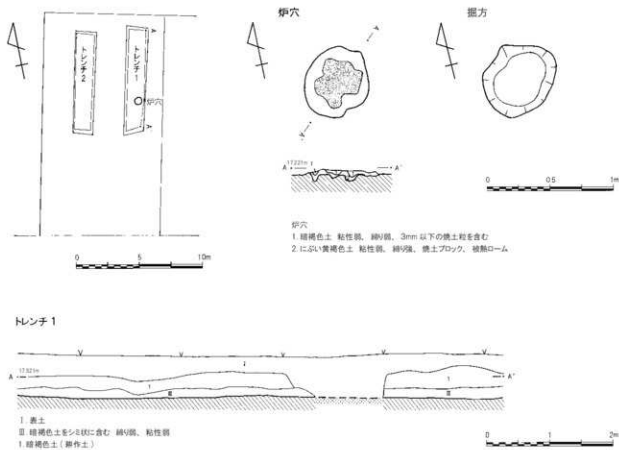
(2) 遺構と遺物

① 炉穴

調査区東側のトレンチ1で検出した。周辺には広がらず、1基単独である。規模は確認面径 59×51 cm、底径 35×33 cm でほぼ円形を呈する。出土遺物はない。

第32表 西原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	西原 1-1-37	(1985.4.25 ~ 30)	360	個人住宅	基石遺構 1	上塚 VII
試掘調査 1994 試	西原 1-33 外	(1994.6.15 ~ 24)	1,738	共同住宅	遺構遺物なし	上塚 17
試掘調査 1997 試	西原 2-3-12	(1997.12.9 ~ 12)	616.34	宅地造成	遺構遺物なし	上塚 20
3	上ノ原 1-2-25・ 57	(2013.4.4 ~ 11)	578	分譲宅地	塚とし穴、土器片	市内 18
4	西原 1-2-2 の一 部	(2017.11.20)	167	個人住宅	炉穴 1、遺物なし	市内 24



第45図 西原遺跡第4地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)、炉穴・掘方 (1/30)

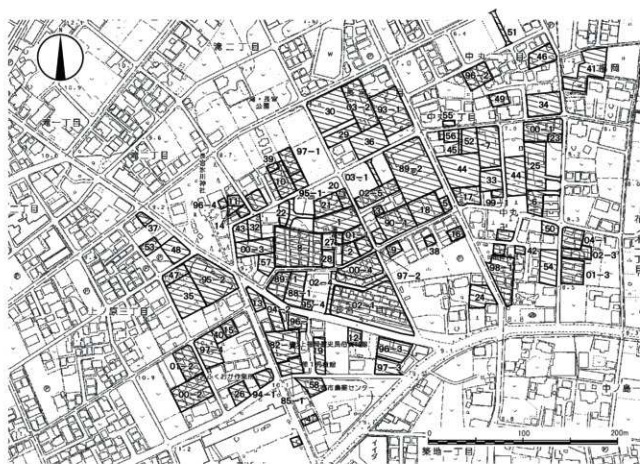
第9章 長宮遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9 ~ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる。

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2019 年 4 月現在 96 ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

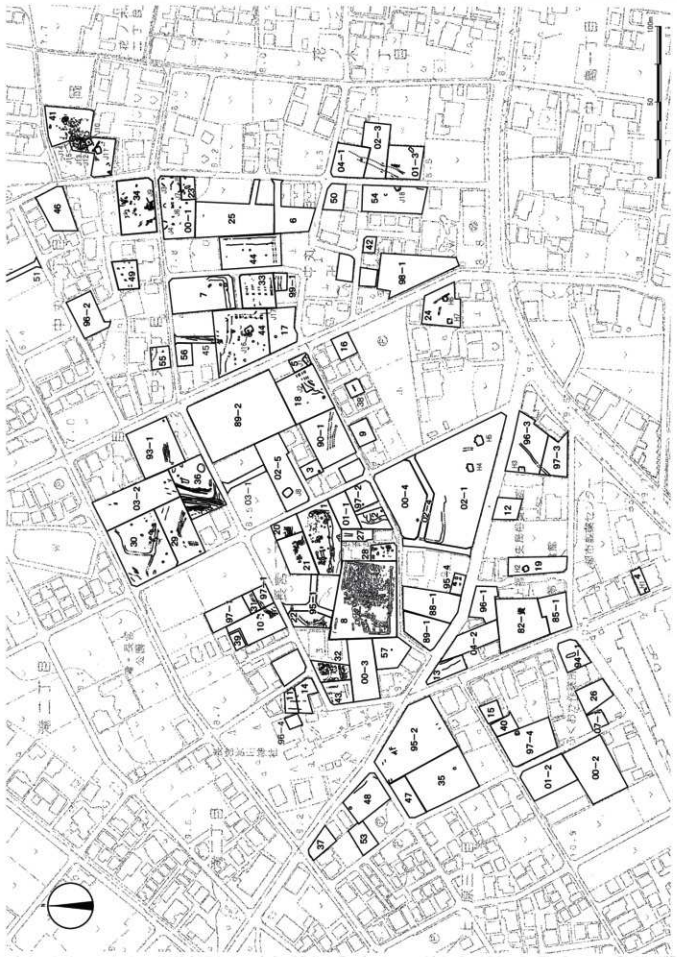


第 46 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 33 表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮 2-1-23	1977.10.3～30	1,000	保育園	溝 3、土坑 48、柱穴	川崎 3次
2次	長宮 2-1-27	1978.4.25～5.15	235	民間宅地	溝 2、土坑 1、石臼、板碑、磁石、古銭、陶器、馬骨	上塚 I
3次	長宮 2-5-11	1978.7.24～30	111	民間宅地	土坑 1	上塚 I
4次	長宮 1-1-14	1978.10.6～9	37		住居跡 1、土師器、須恵器、鉄製品	上塚 I
5次	長宮 2-5-2	1979.4.16～20	110		縄文前期住居跡 1、縄文土器片	上塚 II、IV
6次	中丸 1-4-13	1980.4.21～30	515		遺構なし、中世以降陶器片	上塚 III
7次	中丸 1-3-6	1980.5.13～31	869		溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片	上塚 III
8次	長宮 2-1-10～13	1980.9.8～10.8	1,900	宅地造成	中世溝、井戸、土坑、板碑、磁石、陶磁器、古銭、馬骨	上塚 I
9次	長宮 1-4-10	1980.9.21～30	200		遺構なし、中世以降陶器片	上塚 III
10次	長宮 2-3-4	1980.12.5～15	485		溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭・陶器	上塚 III
11次	長宮 2-2-10	1980.12.16～22	117		溝、縄文土器片、中世以降陶器	上塚 III
12次	長宮 1-2-7	1981.5.26～30	160	個人住宅	縄文土器片	上塚 IV
13次	長宮 1-2-13	1981.6.3～11	251	個人住宅	溝、縄文土器片	上塚 IV
82試	長宮 1-2-12		1,000	歴史民俗資料館	溝 2	557 上社
14次	長宮 2-2-1	1985.9.24～27	156	個人住宅	溝 1	上塚 VII
15次	西原 2-5-8	1985.10.22～31	116	個人住宅	遺構遺物なし。	上塚 VII
85試	長宮 1-2-11	(1986.3.6～15)	400	宇重保育	溝 2	560 上社
16次	長宮 1-4-7	1986.6.9～17	173	個人住宅	縄文土器片	上塚 IX
17次	中丸 1-3-11	1987.6.19～30	504	個人住宅	縄文前期土器散布	上塚 X
88試	長宮 1-3-8	(1988.9.13～16)	657	住宅建設	遺構遺物なし	上塚 11
89試 (1)	長宮 1-3-9	(1989.9.20～30)	448	住宅建設	遺構遺物なし	上塚 12
89試 (2)	長宮 2-5-19	(1989.11.14～24)	1,778	住宅建設	遺構遺物なし	上塚 12
90試	長宮 2-5-4	(1990.11.27～30)	919	共同住宅	溝、遺物なし	上塚 13
18次	長宮 2-5-3	1992.10.6～12.2	925	共同住宅	縄文住居跡 1、中近世土坑 2、溝 5	上塚 15
19次	長宮 1-2-21,35	1993.12.17～ 1994.1.22	467	駐車場	古墳末期住居跡 1	上塚 15
93試	長宮 2-4-2の一部	(1994.2.10～28)	1,501.54	共同住宅	溝 2、土坑 1、中世後期板碑	H5 上社
94試	西原 2-5-1	(1994.7.25～8.2)	314	心身障害者 デイケア施設	断面面形溝 1	上塚 17
20次	長宮 2-1-22の一部	1995.4.10～5.9	169.59	個人住宅	中近世溝 4	上塚 18
21次	長宮 2-1-63.65	(1995.6.19～8.8)	360.94	個人住宅	中近世溝 1、井戸 7	上塚 18
95試 (1)	長宮 2-1-20 外	(1995.8.9～28)	421	市道敷設	遺構遺物なし	上塚 18
95試 (2)	上ノ原 3-1-6 外 4 筆	(1995.10.4～12)	1,528	共同住宅	溝 1	上塚 18
22次	長宮 2-1-60	(1995.10.23～25) 1995.10.27～11.9	269	駐車場	中近世井戸跡 4、土坑 3、溝 1、陶器、板碑破片、かわらけ	上塚 6、上塚 18
95試 (4)	長宮 1-3-13	(1995.12.12～25)	120	駐車場	土坑、溝、遺物なし	上塚 18
96試 (1)	長宮 1-2-16	(1996.7.12～18)	348.52	宅地造成	遺構遺物なし	上塚 19
96試 (2)	中丸 2-2-9 他 3 筆	(1996.7.12)	568	宅地造成	遺構遺物なし	上塚 19
96試 (3)	長宮 1-2-4	(1997.1.14～21)	794.16	共同住宅	古墳～奈良住居跡 1	上塚 19
96試 (4)	長宮 2-2-4	(1997.2.24)	204.78	社務所改築	遺構遺物なし	H8 上社
97試 (1)	長宮 2-3-3	(1997.4.8～9)	611	農地転戻	溝 1 (時期不明)	上塚 20
97試 (2)	長宮 2-1-2	(1997.4.9～11)	289	個人住宅	土坑 1 (時期不明)	上塚 20
97試 (3)	長宮 1-2-36,37	(1997.6.4～5)	423.33	駐車場	溝 1	上塚 20
97試 (4)	西原 2-5-6	(1997.8.15～21)	753	駐車場	中近世竪穴式溝構 1	上塚 20
98試	中丸 1-2-4	(1998.11.24～27)	1,014	宅地造成	遺構遺物なし	上塚 21
99試	中丸 1-3-12	(1999.11.8～16)	98	個人住宅	溝 1、縄文前期集石 2	上塚 22
00試 (1)	中丸 1-4-7	(2000.7.4～11)	932	宅地造成 (土地 分譲)	縄文前期 (岡山期) 住居跡 5、土坑 13	上塚 23
00試 (2)	西原 2-4-8,10	(2000.7.17～24)	1,081	宅地造成 (土地 分譲)	遺構遺物なし	上塚 23
00試 (3)	長宮 2-1-17	(2000.8.21～23)	687	共同住宅	遺構遺物なし	上塚 23
00試 (4)	長宮 1-3-3A,4A	(2001.1.17～23)	1,118.9	宅地造成 (土地 分譲)	近世以降土坑 1	上塚 23
23次	中丸 1-4-7	2001.7.18～26	137.01	個人住宅	土坑 6 (縄文早期後葉 1、前期 4、近世以降 1)	上塚 24
01試 (1)	長宮 2-1-3	(2001.4.20～24)	330	個人住宅	遺構遺物なし	上塚 24
01試 (2)	西原 2-4-7	(2001.5.25)	634	共同住宅	遺構遺物なし	上塚 24
01試 (3)	中丸 1-1-3	(2001.8.7～24)	513	共同住宅	道路伏遺構 1、縄文前期土坑 1	上塚 24
01試 (4)	長宮 2-3-6	(2001.11.6)	130	個人住宅	遺構遺物なし	H13 上社

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
02 試 (1)	長富 1-3-2～5	(2002.6.5～11)	3,536	宅地造成 (土地分譲)	住居跡 2【盛土保存】	上層 25
24 次	長富 1-4-3	(2002.6.20～7.2) 2003.1.30～2.14	575	個人住宅	住居跡 2、溝 2	上層 25、H14 上
02 試 (3)	中丸 1-1-5	(2002.9.3～11)	622	宅地造成 (土地分譲)	道路状遺構 1	上層 25
02 試 (4)	長富 1-3-31	(2002.9.20～25)	362.19	地区計画道路	溝 1	上層 25
02 試 (5)	長富 2-5-6	(2003.3.10～12)	827	宅地造成	住居跡 1【盛土保存】	H14 上社
03 試 (1)	長富 2-5-30、32	(2003.9.16)	196.64	区画道路	遺構遺物なし	上層 26
03 試 (2)	長富 2-4-7	(2003.12.16～18)	1,123	宅地造成	井戸跡 1	上層 26
04 試 (1)	中丸 1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	道路状遺構、遺物なし	上層 27
04 試 (2)	長富 1-2-15	(2004.12.7～9)	466	農地改良	遺構遺物なし	上層 27
25	中丸 1-4-8	(2007.2.15～16)	1,161	個人住宅	ビツト 3、縄文土器・石器他	市内 3
26	西原 2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内 3
27	長富 2-1-4	(2007.5.30～31)	174.58	個人住宅	溝、保存措置	市内 4
28	長富 2-1-8	(2007.5.31～6.5) 2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸 5、土坑 10、ビツト 13 他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内 4
29	長富 2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3) 2007.12.4～5	618	共同住宅	土坑 1、井戸 2、堀跡 1、溝 5、ビツト 10、縄文土器、中近世土器他	市内 4
30	長富 2-4-6	(2009.9.28～11.2) 2009.11.4～12.8	1,362.1	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ビツト 8、溝 2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内 7、8
31	欠番					
32	長富 2-1-18	(2010.1.15～25) 2010.2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑 20、ビツト 142、溝 3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内 7、8
33	中丸 1-3-2	(2011.5.19～31)	534	分譲住宅	縄文時代集石土坑 1、土坑 4、ビツト 13、溝 3、縄文土器、瓦器、陶磁器	市内 14
34	中丸 2-2-246	(2011.6.27～7.16) 2011.11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期の穴、前期(関山)住居跡 1、近世溝、縄文土器他	市内 11
35	上ノ原 3-1-4	(2011.9.9～26)	1,157.88	分譲住宅	縄文時代穴 1、土器、石鏡	市内 14
36	長富 2-4-3	(2011.10.4～17) 2011.10.21～11.14	981	分譲住宅	中近世井戸 16、土坑 4、溝 16、ビツト 20、板碑他	市内 11
37	上ノ原 3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
38	長富 1-4-27	(2011.11.24～25)	101	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 14
39	長富 2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
40	西原 2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内 15
41	福岡学丸橋 988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～25) 2012.6.11～7.25	1,152.62	分譲住宅	縄文時代穴 10、縄文時代前期住居跡 6、落とし穴 2、土坑 27、ビツト 190、溝 4、縄文前期土器片、石器、近世陶磁器等	市内 12
42	仲丸 1-2-24	(2012.7.31)	101	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 15
43	長富 2-1-72	(2013.2.27～3.1)	231	個人住宅	中世～近世溝 2・土坑 3・ビツト 17、土器、磁器	市内 15
44	中丸 1-3-3-4-5	(2013.5.14～6.24) 2013.6.25～7.30	1,329	分譲住宅	縄文前期住居跡 1、卯穴 6、落とし穴 1、土坑 15、井戸 5、溝 9、ビツト 4、縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑	市内 13
45	中丸 1-3-17・18、3-5	(2013.8.7～10)	119	道路築造	溝 2、土師器、石器、板碑	市内 18
46	中丸 2-22・13	(2013.9.6～10)	488	高齢者 デイサービス センター	遺構なし、磁器	市内 18
47	上ノ原 3-1-5	(2013.10.10)	330	共同住宅	遺構遺物なし	市内 18
48	上ノ原 3-6-1	(2014.4.2～8)	555	分譲建売	井戸 1、溝 1、遺物なし	市内 20
49	中丸 2-2-4	(2014.10.23～30)	293.09	集合住宅	堀土跡 5(縄文時代)、遺物なし	市内 20
50	中丸 1-2-17	(2015.3.16)	228	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	市内 20
51	中丸 2-3-45・46	(2012.4.5)	176	道路	遺構なし、土器片 1	市内 15
52	中丸 1-3-24	(2016.3.11～17)	484	分譲住宅	土坑 1、井戸 3、ビツト 6、溝 2、土器片、石器、古銭、陶磁器	市内 22
53	上ノ原 3-6-3	(2016.7.11)	223	共同住宅	遺構なし、土器片、陶磁器	市内 24
54	中丸 1-2-16	(2017.5.16～23)	800	分譲住宅	縄文前期住居跡 1、土坑 1、溝 1、縄文土器、石器	市内 24
55	中丸 2-2-6の一部	(2017.6.29)	191	個人住宅	土坑 1、溝 1、土器片、石器、石臼	市内 24
56	中丸 1-3-37	(2017.7.5)	123	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
57	長富 2-1-16	(2018.2.15)	374.63	個人住宅	土坑 1(縄文時代)、縄文土器片	市内 24
58	長富 1-1-7	(2018.7.2)	360	寄宿舎	溝 1、土師器片、須恵器片	未報告



第47図 長崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

第34表 長宮遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

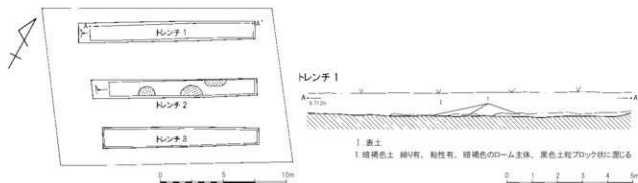
住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形()は推定	規模	炉	設置壁	炉		周溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書
								規模 (cm)						
J1	1979	5 地点 2 号住居		長楕形	600 ×	炉		×	○			関山期		上塚 II、IV
J2	1992	18 地点 3 号住居			×			×				関山期		上塚 15
J3	2000	00 年試掘(1) 1 号住	プラン		×									上塚 23
J4	2000	00 年試掘(1) 2 号住	プラン		×									上塚 23
J5	2000	00 年試掘(1) 3 号住	プラン		×									上塚 23
J6	2000	00 年試掘(1) 4 号住	プラン		×									上塚 23
J7	2000	00 年試掘(1) 5 号住	プラン		×									上塚 23
J8	2002	02 年試掘 (5)	プラン		×			×	○					H14 上社
J9	2011	34 地点 J9 号住	1/4	(方形)	(395) × (330)	炉 2		① 52 × 68 ② 70 × 51				関山 II		市内 11
J10	2012	41 地点 J10 号住	完璧	方形	400 × 418	炉		123 × 78	○	N-108-W		関山 II		市内 12
J11	2012	41 地点 J11 号住	完璧	長方形	420 × 365	炉 2		① 57 × 60 ② 55 × 41		N-94-W		関山 II		市内 12
J12	2012	41 地点 J12 号住	1/2	(方形)	(320) × (360)				○	N-25-W		関山 II		市内 12
J13	2012	41 地点 J13 号住	3/4	(長方形)	(355) × (340)	炉		78 × 49		N-60-W		関山 II		市内 12
J14	2012	41 地点 J14 号住	完璧	方形	310 × 310	炉		125 × 98	○	N-34-E		関山 II		市内 12
J15	2012	41 地点 J15 号住	一部	(方形)	(125) × (170)				○	N-34-E		関山 II		市内 12
J16	2012	44 地点 J16 号住	完璧	隅丸長方形	515 × 404	炉	北	120 × 75	○	N-34-E		関山 II		市内 13
J17	2012	44 地点 J17 号住	未掘	不明	(900 以上) × 450	—	—		—	—		関山	プランのみ確認	市内 13
J18	2017	54 地点 J18 号住	2/5	隅丸長方形か	(205) × 330	炉		36 × 44	—	—		関山 II		市内 24

II 長宮遺跡第 53 地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2016 年 5 月 2 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016 年 7 月 11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ~ 80 cm であった。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第 48 図 長宮遺跡第 53 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

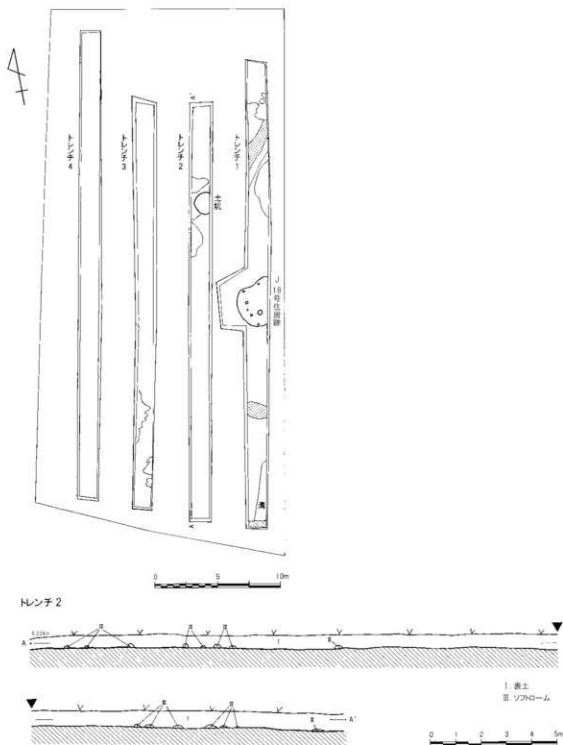
III 長宮遺跡第54地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年4月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年5月16～23日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～70cmである。

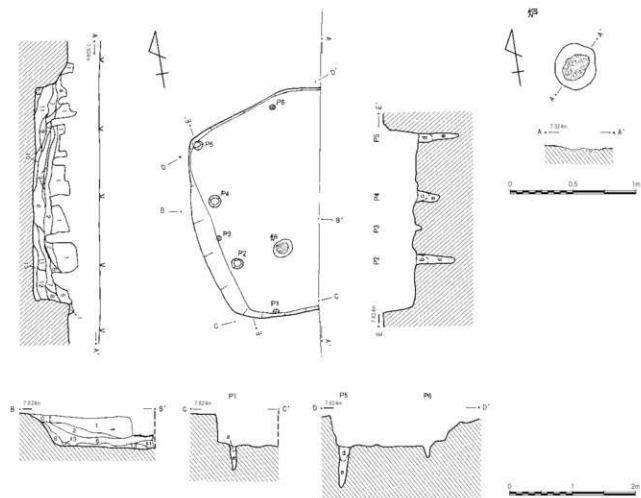
調査の結果、縄文時代住居跡1軒、土坑1基、溝1条を検出したが保護層確保が可能のため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第49図 長宮遺跡第54地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第35表 長宮遺跡第54地点住居内ピット一覧表
(単位 cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	9 × 6	3 × 3	29.9
2	円形	20 × 15	11 × 9	64.7
3	円形	7 × 6	2 × 2	10.2
4	円形	20 × 18	13 × 9	36.4
5	円形	14 × 13	12 × 9	69.9
6	円形	9 × 8	3 × 2	18.8



a 黒褐色土 粘性有。締り弱。5mm以下のローム粒・ロームブロック少量含む

b 黒褐色土 粘性有。締り弱。5mm以下のローム粒少量。炭化物微量含む

c 黒褐色土 粘性有。締り弱。ピット1と同じ

d 黒褐色土 粘性有。締り有。5mm以下ローム粒多く、ロームブロック少量含む

e 黒褐色土 粘性強。締り弱。水分・炭化物微量含む

0 擾乱

1 緑灰色土 (N31) 粘性強。締り極強。2mm以下のローム粒白色粒子少量。酸化鉄粒少量含む (水性堆積層3まで)

2 緑灰色土 (N31) 粘性強。締り強。2mm以下のローム粒・酸化鉄粒少量。下位に黒色粒 (炭化物) が多い

3 緑灰色土 (N31) 粘性強。締り強。3mm以下のローム粒少量。酸化鉄粒微量含む

4 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締り極強。3mm以下のローム粒少量含む

5 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締り強。5mm以下のローム粒少量。炭化物と酸化鉄粒を微量含む

6 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性極強。締り強。3mm以下のローム粒中量含む

7 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締り強。5mm以下のローム粒多量。炭化物微量含む

7 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性やや弱。締り有。7層中でローム粒が集中し、ロームブロックも混じる

8 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性強。締りやや強。2mm以下ローム粒多量含む

9 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締り極強。5mm以下のローム粒多量。炭化物微量含む (人為堆積層11まで)

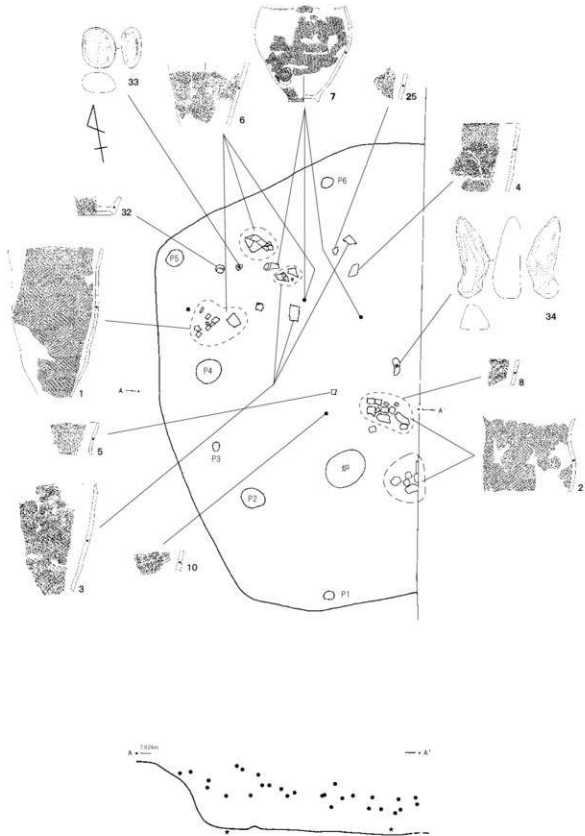
10 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性強。締り極強。7mm以下のローム粒多量。10mm以下のロームブロック微量含む

11 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性強。締り極強。7mm以下のローム粒多量。10～20mmロームブロック少量含む

12 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締りやや強。5mm以下のローム粒多量含む

13 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性有。締り有。5mm以下のローム粒。10mm以下のロームブロック少量。自然堆積層か

第50図 長宮遺跡第54地点J18号住居跡 (1/60)、炉 (1/30)



第51図 長宮遺跡第54地点J18号住居跡遺物出土状況 (1/30)

(2) 遺構と遺物

① J18号住居跡

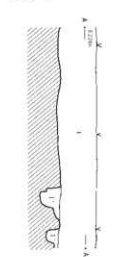
【位置・検出状況】調査区東端に位置する。今回の調査では全体の約40%を検出し、残りは調査区外へ広がる。

【形状・規模】隅丸方形または隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は長軸(205)×短軸330cm、深さ58cmである。

【構造】ピットは壁際に6基検出した。その内ピット2・4が支柱穴であると考えられる。ピットの詳細については第35表に掲載した。

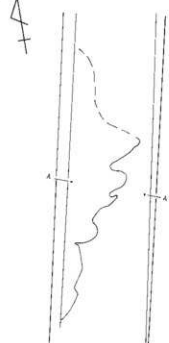
【炉】検出範囲のやや南寄りに位置する地床炉。ほぼ円形を呈し、確認面径34×36cmを測る。

トレンチ1



- 1 表土
 1' 表土 (ロームブロック多く含む)
 Ⅱ 腐植層
 1 黒褐色土 締りやや弱、ローム粒、ロームブロック少し含む
 2 暗褐色土 締りやや強、ローム粒僅か含む
 3 黄褐色土 締り強、酸化鉄了をシミ状に含む
 4 黄褐色土 締り強、黒褐色土をシミ状に含む
 5 ソフトローム

トレンチ3



- 0 埋瓦
 1 黒褐色土 粘性強、締り強、ローム粒ブロック数多く含む
 2 黄褐色土 粘性強、締り弱、シミ状に黒褐色土がやや多量に含む
 3 黄褐色土 粘性強、締り強、ソフトローム主体、ブロック状の黒褐色土が少量含む
 4 黒褐色~黄褐色土 粘性強、締り強、微土(酸化した赤褐色土)が木柱上に入る(塊状を呈しており高部小塊か)

酸化鉄範囲



第52図 長宮遺跡第54地点トレンチ1・3酸化鉄範囲(1/60)

【遺物出土状況】遺物は炉の周辺と住居北側の覆土中程から集中して出土した。

【時期】出土遺物から関山1式か。

②土坑

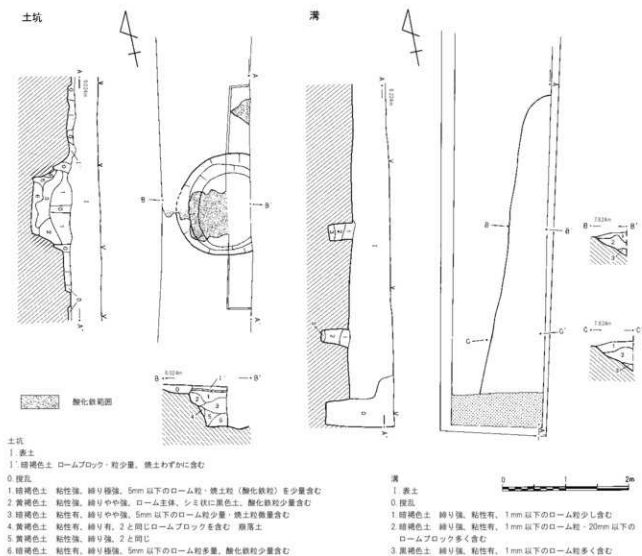
土坑は調査区やや北東部に検出した。ほぼ円形を呈し、確認面径 $160 \times (130)$ cm、底径 $116 \times (84)$ cm、深さ 60 cm を測る。土層の観察から縄文時代に帰属するものと考えられる。縄文土器片 2 点が出土した。覆土上層に近代以降のものと思われる酸化鉄が 2cm ほどの厚さで広がる。

③溝

調査区南東部に位置し、溝の東側半分と両端は調査区外へ延伸する。遺構の規模、時期は共に不明。出土遺物はない。

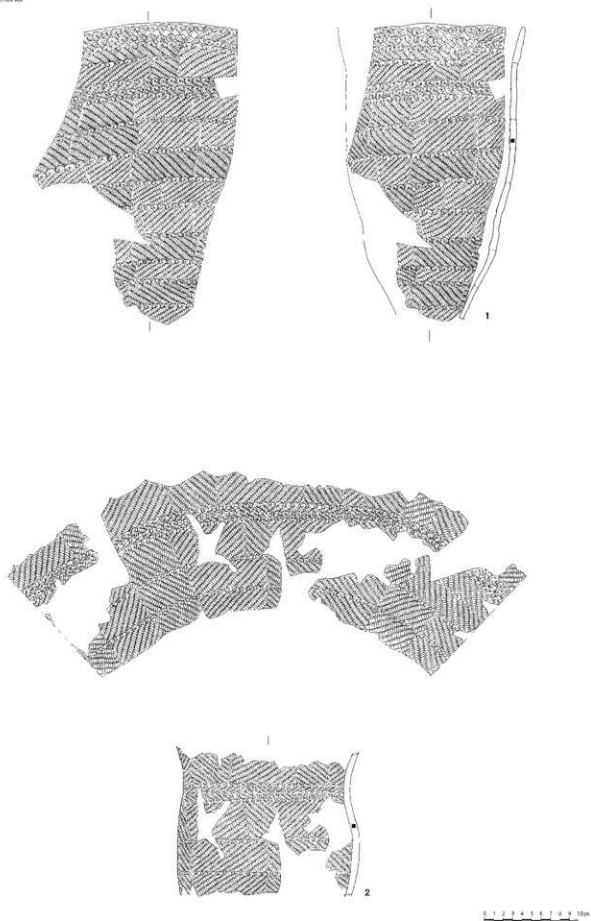
④出土遺物

主に J18 号住居跡と遺構外からの出土である。遺物の詳細については第 54 ~ 56 図及び第 36 表に掲載した。



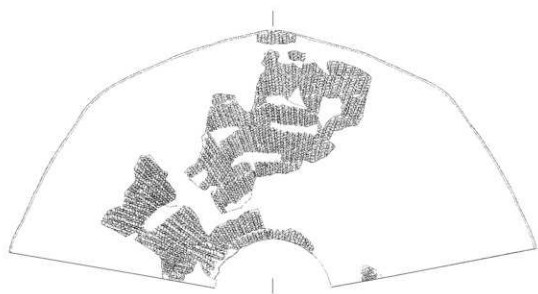
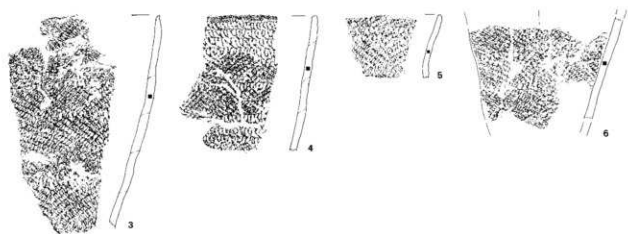
第 53 図 長宮遺跡第 54 地点土坑・溝 (1/60)

J18号住居跡



第54図 長宮遺跡第54地点出土遺物① (1/4)

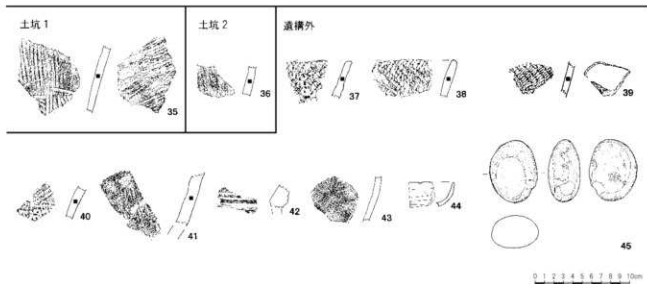
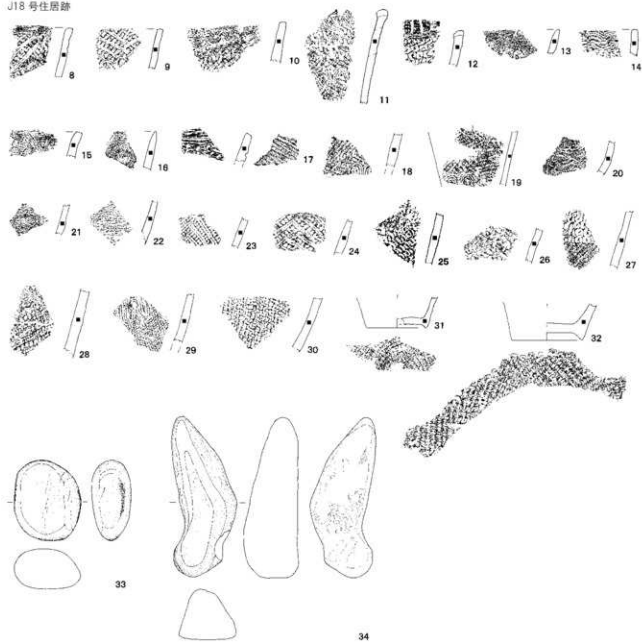
J18号住居跡



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第55図 長宮遺跡第54地点出土遺物② (1/4)

J18号住居跡



第56図 長宮遺跡第54地点出土遺物③ (1/4)

第36表 長宮遺跡第54地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第54図-1	J18号住居跡	縄文・深鉢	(19.8)	—	(31.5)	—	横い波状口縁/1段目と3段目に3段のループ文。0条3段LRとRL羽状縄文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-2		縄文・深鉢	—	—	(15.3)	—	胴部/先端ループの0条3段LRとRLによる羽状縄文、くびれ部分に3段のループ文/内面ミガキ。煤付着。胎土に砂礫と白色粒子を多く含む	前期・関山II
第54図-3		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁~胴部/3回追加成形。先端ループの0条3段LRとRLの羽状縄文。口唇部はLR(0条3段か)の斜状縄文/胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-4		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口唇部に4段のループ文、0条3段LRとRLの菱形羽状縄文。口唇部磨消/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-5		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口唇部に0条3段LR縄文。先端ループの0条3段LRとRL羽状縄文。2段ループ文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-6		縄文・深鉢	—	—	(12.4)	—	胴部/先端ループの0条3段LRとRLによる羽状縄文/胎土に砂礫と白色粒子を多く含む	前期・関山II
第54図-7		縄文・深鉢	(16.8)	(6.2)	(20.1)	—	波状口縁/組紐LLRR/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-8		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/左磨りの直前段合燃。口唇部磨消/胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-9		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/右磨りの直前段合燃。コンバス文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-10		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/0条3段RLとLRの羽状縄文。口縁部に幅7mmのコンバス文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-11		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口唇部に小突起。先端ループの0条3段RLとLR。2段の幅8mmのコンバス文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-12		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口唇部には上部に櫛歯状工具による刺突文のある小突起。複数段の多段ループ文/内面ミガキ	前期・関山II
第54図-13		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口縁部無文帯。ループ文か/胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-14		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/口縁部に波状の平行沈線。LR縄文か/内面にタール付着。胎土に僅かに白色粒子を含む	前期
第54図-15		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/地文平行沈線	前期・関山
第54図-16		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/地文平行沈線/胎土にチャートを含む	前期・関山
第54図-17		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/貝殻条痕文、刺突文/内面貝殻条痕文。胎土に白色粒子を含む	早期・茅山下層
第54図-18		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/0条3段のRLとLRの羽状縄文。下部にコンバス文/内面ミガキ。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-19		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部復元径9.5cm/0条3段LRの斜状縄文。下部は無節の羽状縄文とコンバス文か/外面全体的に摩滅が著しい。内面ミガキ。煤付着。胎土に白色粒子を含む	前期・関山II

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第54図-20	J18号住居跡	縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/横位波状文か/胎土に白色粒子を含む	前期
第54図-21		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/軸端不明、RIを2本付加/内面ミガキ、外面黒色化、胎土に白色粒子を含む	前期・黒浜
第54図-22		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/軸端LrにRLを2本逆方向付加/内面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・黒浜
第54図-23		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/直前段合摺りの羽状縄文/内面ミガキ、黒色化、胎土に白色粒子を含む	前期・関山
第54図-24		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/直前段合摺りの羽状縄文/内面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・関山
第54図-25		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/RI+LR縄文か/器面荒れ、胎土に白色粒子を含む	前期・黒浜
第54図-26		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/地文RI縄文か/器面荒れ、内面ミガキ、内面に赤彩か、胎土に白色粒子を含む	前期・黒浜
第54図-27		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/0条3段LR縄文と5~6段の多段ループ/内面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-28		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/左摺りの直前段合摺/内面ミガキ、煤付着、胎土に白色粒子を含む	前期・関山
第54図-29		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/0段の粗紐、幅8mmのコンパス文/内面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・関山II
第54図-30		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/粗紐RRL/内面ミガキ	前期・関山II
第54図-31		縄文・深鉢	—	7.7	(4.1)	—	底部/LR・RL羽状縄文/内面黒色化、底面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・関山?
第54図-32		縄文・深鉢	—	(6.4)	(3.2)	—	底部/LR・RL羽状縄文/内面と底面ミガキ、胎土に白色粒子を含む	前期・関山?
第54図-33		石器・磨石	86.41	70.94	42.02	374.34	石材:砂岩	縄文
第54図-34		石器・敲き石?	172.68	60.14	56.50	715.89	石材:砂岩、一部欠損	縄文
第54図-35		土坑1	縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/内外面貝殻条痕文/内面黒色化、胎土に砂礫を多く含む
第54図-36	土坑2	縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/貝殻条痕文/胎土に白色粒子を多く含む	早期か
第54図-37	道構外	縄文・深鉢	—	—	—	—	波状口縁か/0条3段RLとLRの羽状縄文/内面ミガキ	前期・関山
第54図-38		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部/地文RL縄文/胎土に砂礫を多く含む	前期・関山
第54図-39		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/0条3段RL縄文/内面ミガキ、内面に鉄分付着、胎土に白色粒子を含む	前期・関山
第54図-40		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/上半部管状工具による平行沈線と刻み、下半部ループ文/内面ミガキ	前期・関山
第54図-41		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/条痕文か/内面摩擦が激しい、胎土に白色粒子を多く含む	早期か
第54図-42		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/隆帯貼付後平行沈線/内面ミガキ、胎土に砂礫と白色粒子を多く含む	中期初頭・五箇ヶ台
第54図-43		縄文・深鉢	—	—	—	—	胴部/無文/胎土に白色粒子を含む	中期か
第54図-44		土器・皿?	—	—	—	—	轆轤成形/内外面施釉	近世以降
第54図-45		石器/磨石?	65.93	50.49	34.93	116.0	石材:安山岩、一部欠損	縄文

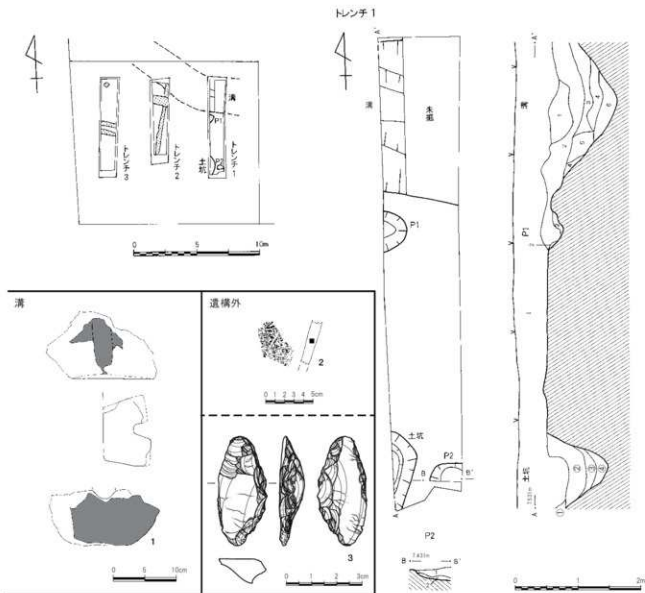
IV 長宮遺跡第55地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月9日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年6月29日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～70cmである。

調査の結果、中近世以降の溝1条を検出したが保護層確保が可能のため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



土坑

1. 土坑

① 黄褐色土 締りやや強、粘性有、ローム粒少し含む

② 黄褐色土 締り強、1mm以下のローム粒多く含む

③ 黄褐色土 締り強、ローム粒・ロームブロック少し含む

④ 黄褐色土 締り強、ロームブロック多く、ローム粒少し含む

ピット 1・2

1. 暗褐色土 締りやや強、ローム粒少し含む

2. 暗褐色土 締り強、ローム粒・ロームブロック多く含む

溝

1. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、ロームブロック・ローム粒多く含む

2. 暗褐色土 締り強、ロームブロック・ローム粒非常に多い 下層一部酸化鉄を含む

3. 灰褐色土 締り強、粘質土、酸化鉄多く、ローム粒少し含む

4. 灰褐色土 締り強、粘質土、ローム粒・酸化鉄を含む

5. 灰褐色土 締り強、ロームブロック・ローム粒・酸化鉄多く含む

6. 灰褐色土 締りやや強、砂質土・ローム粒・酸化鉄 (粒子状) 多く含む

第57図 長宮遺跡第55地点遺構配置図(1/300)、土坑・ピット・溝(1/60)、出土遺物(1/4・1/6・2/3)

(2) 遺構と遺物

①土坑

調査区東側、トレンチ1で検出した。平面形態は不明。確認面径(123×38)cm、深さ97.4cmを測る。出土遺物はない。

②ピット

ピットはトレンチ1で2基検出した。どちらも平面形態は不明で、比較的浅い。規模はピット1が確認面径66×(37)cm、底径24×(21)cm、深さ23.4cm、ピット2が確認面径(52×30)cm、深さ19cmを測る。どちらも時期は不明。出土遺物はない。

③溝

調査区北東部、トレンチ1からトレンチ2にかけて検出した。両端はそれぞれ北側と東側に延伸する。断面形態はU字形を呈し、上幅245cm、下幅55cm、深さ110cmを測る。土層の観察から中近世以降の溝と考えられる。遺物は石臼の破片1点が出土したのみである。

④出土遺物

出土遺物について詳細は第57図及び第37表に掲載した。

第37表 長宮遺跡第55地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第57図-1	溝	石製品・石臼	—	(25.0)	(10.5)		石臼・上臼で横打込穴が残る、下臼との接地面と供給口内に煤付着、石材：安山岩	近世以降
第57図-2	遺構外	縄文・深鉢	—	—	—	—	無文・胎土に繊維を含む	前期力
第57図-3		石器・ナイフ形石器	4.367	20.00	10.29	6.5	石材：安山岩	—

V 長宮遺跡第56地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月19日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月5日に試掘調査を実施した。

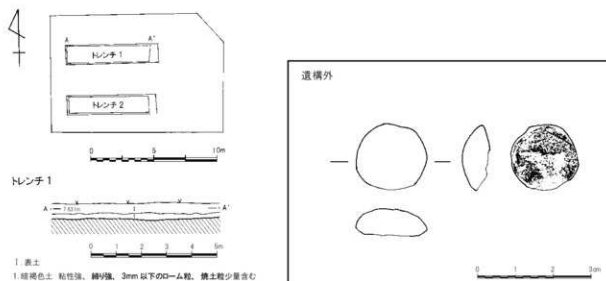
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約60～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、遺構は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 出土遺物

遺構外で土製品1点が出土した。詳細については第58図及び第38表に掲載した。



第58図 長宮遺跡第56地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/1)

第38表 長宮遺跡第56・57地点出土遺物観察表(単位cm・g)

地点	図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第56地点	第58図	遺構外	土製品・泥面子	1.8	1.9	—	1.92	型押し成形・無文・おはじき、一部欠損	近世以降
第57地点	第59図-1		縄文・深鉢	—	—	—	—	地文RL 縄文力、隆帯貼付・全体的に摩耗が激しい	縄文
	第59図-2		石器・磨石	8.767	6.408	4.995	360.24	石材：安山岩	—

VI 長宮遺跡第57地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2018年1月31日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2018年2月15日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約60～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、土坑1基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

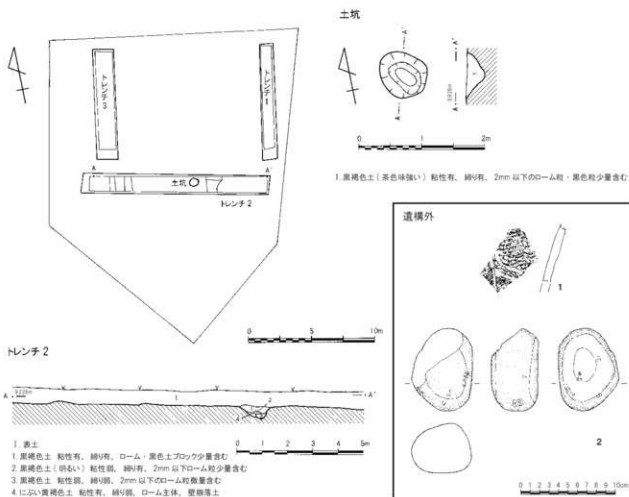
(2) 遺構と遺物

①土坑

調査区中央部に位置する。平面形態は円形を呈し、確認径80×71cm、底径39×20cm、深さ33.9cmを測る。出土遺物はない。

②出土遺物

遺構外より縄文土器片1点と石器1点が出土した。詳細については第59図及び第38表に掲載した。



第59図 長宮遺跡第57地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4)

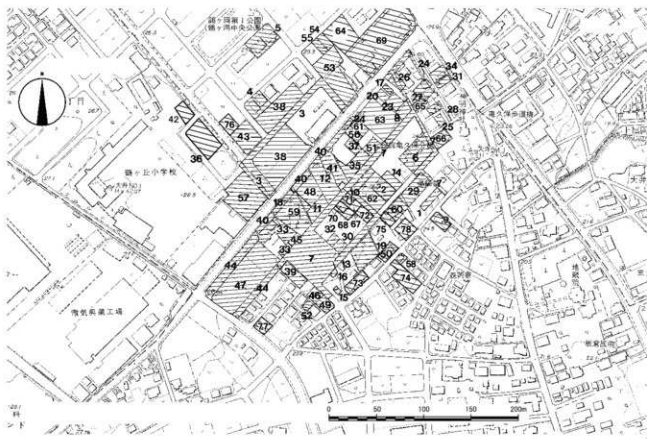
第10章 亀居遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25～26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2018年4月現在まで78地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡16軒、屋外埋甕2基、集石土坑99基、土坑、ヒット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。



第60図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第39表 亀居遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物						所収報告書
					住居	集石 土坑	土坑	ピット	堀外	埋溝	
1	亀久保 1001	1972	155	農地転用	遺構なし						町史資料編1、 調査会報告8集
2	亀久保 1005	1973	350	農地転用	遺構なし						
3	鶴ヶ岡 161-1	1979.11～12	750	区画整理	2	1	6		1		東部遺跡群Ⅰ、 調査会報告8集
4	鶴ヶ岡 2-2	(1984) 試掘		区画整理	遺構なし						
5	鶴ヶ岡 2-4-3	(1984) 試掘		区画整理				1			
6	亀久保 1000	1985	914	区画整理		7	4	30			東部遺跡群Ⅵ
7	亀久保 999	1986.8	2,740	区画整理	2	7	84	138			調査会報告8集
8	亀久保 1001	1986.8	181	個人住宅		2	3	11			東部遺跡群Ⅶ
9	亀久保 989-1	(1986.9) 試掘		住宅建設	遺構なし						
10	亀久保 1010-1	1986.10	650	区画整理	1		20	17			調査会報告8集
11	亀久保 1011-3	1987.10.13～11.13	389	個人住宅		2		73			東部遺跡群Ⅷ
12	亀久保 1011-1	1987.11.16～12.16	387	個人住宅		1		48	1		東部遺跡群Ⅷ
13	亀久保 1007-3	1988.8	242	区画整理	2						調査会報告8集
14	亀久保 999-4	(1988.7.22～8.3)	165	個人住宅	遺構なし						東部遺跡群Ⅸ
15	亀久保 1007	(1989.2) 試掘		個人住宅	遺構なし						東部遺跡群Ⅸ
16	亀久保 1007	(1989.2)	45	個人住宅	遺構なし						東部遺跡群Ⅸ
17	亀久保 995-3	1989.9.14～18	112	個人住宅			3	8			東部遺跡群Ⅹ
18	黒道拡張	1990.3	210	区画整理	遺構なし						東部遺跡群Ⅹ
19	亀居 1007	1990.3.12～26	613	個人住宅	遺構なし						東部遺跡群Ⅹ
20	亀久保 1001-3	1990.5.21～25	118	個人住宅			1				東部遺跡群Ⅺ
23	亀久保 1001-14-15	1990.9.3～10	160	個人住宅				10			東部遺跡群Ⅺ
24	亀久保 995-4	1990.12	1,324	区画整理			1	3			調査会報告8集
25	亀久保 995-7	1991.3.12～16	162	個人住宅	遺構なし						町内遺跡群Ⅰ
26	亀久保 1001-14	1991.2.14～3.15	259	個人住宅		2		60			町内遺跡群Ⅰ
27	亀久保 995-2	1991.5	249	個人住宅				5			町内遺跡群Ⅰ
28	亀久保 995-6	1991.1.24～2.1	475	個人住宅		6					東部遺跡群Ⅻ
29	亀久保 992-2	1991.7	925	集合住宅	1	2		36			調査会報告3集
30	亀久保 1007-3、1008-3	1991.7	116	個人住宅	遺構なし						町内遺跡群Ⅰ
31	亀久保 995-2-7	1991.9	197	個人住宅	遺構なし						町内遺跡群Ⅰ
32	亀久保 1008-1	1991.12.3～9	115	個人住宅				6			町内遺跡群Ⅰ
33	亀久保 1011-7	1991.12～1992.4	998	個人住宅	1	3		42			町内遺跡群Ⅱ
34	亀久保 955-2	(1992.2.13)	634	個人住宅	遺構なし						町内遺跡群Ⅰ
35	亀久保 1012-7	1993.9.28～11.5	470	個人住宅	1	2	7	56			町内遺跡群Ⅲ
36	鶴ヶ岡 1-2-2	(1994.2.17～18)	798	礼拝所建設			1			落とし穴1	町内遺跡群Ⅲ
37	亀久保 1003-2-6 他	1994.2.18～25	566	店舗併用住宅			1	13			町内遺跡群Ⅲ
38	鶴ヶ岡 2-1-1、2-2-1	(1994.8.22～30) 1994.9	3,162	店舗		37	21	29		落とし穴2	調査会報告8集
39	亀久保 1008-5	(1994.8.26～29)	342	駐車場造成			1	5		印穴4	町内遺跡群Ⅳ
40	亀久保 1012-5 他	1995.5	380	道路築造	遺構なし						調査会報告8集
41	亀久保 995-23-24 他	1995.5.31～8.4	530	道路築造	1			66			調査会報告8集
42	鶴ヶ岡 1-3-14	(1995.7.11～18)	196	歯科医院建設	遺構なし						町内遺跡群Ⅴ
43	鶴ヶ岡 2-3-1	(1995.8.9～30)	818	店舗兼用 共同住宅		4	2				町内遺跡群Ⅴ

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	遺構と遺物					所収報告書
					住居	集石 土坑	土坑	ピット	屋外 埋蔵	
44	亀久保 1013-1	1995.10.22～12.4	1,030	道路築造		炉穴 3、礎石 1	7	29		調査会報告 8 集
45	亀久保 1008-5、1011-5	(1996.5.15～17)	619	共同住宅				5	炉穴 1	町内遺跡群 VI
46	亀久保 1007-17	(1996.6.24～25)	192	分譲住宅					遺構なし	町内遺跡群 VI
47	亀久保 1013-1 他	(1996.9.11～17) 1996.10.1～12.11	2,741	共同住宅	1	14	4	174	落とし穴 1	調査会報告 8 集 町内遺跡群 VI
48	亀久保 995-19	(1997.1.20～29)	858	プレハブ事務所			1		炉穴 1	町内遺跡群 VI
49	亀久保 1007-14	(1997.11.6～10)	214	店舗併用住宅						町内遺跡群 VII
50	亀久保 1007-5	(1998.2.9～20) 1998.2.6	197	個人住宅	1		1			町内遺跡群 VII
51	亀久保 3 街区 4 画地	1999.6.15～7.9	222	個人住宅		6	4	11		町内遺跡群 IX
52	亀久保 7 街区 14 画地	(2000.2.1～2)	121	個人住宅						町内遺跡群 IX
53	鶴ヶ岡 2-28-1	(2000.10.30～ 2001.1.18)	1,422	店舗		7				町内遺跡群 X
54	鶴ヶ岡 2-28-17	(2001.4.24～27)	148	個人住宅						町内遺跡群 XI
55	鶴ヶ岡 2-28-16	(2001.11.14～16)	148	個人住宅						町内遺跡群 XI
56	亀久保 2-13-14	2002.11.5～21	172	個人住宅				38		町内遺跡群 XII
57	鶴ヶ岡 1-1-1	2003.4.24～28	1,356	店舗						町内遺跡群 XII
58	亀久保 2-975-19・24	(2005.4.18)	79	個人住宅						市内遺跡群 2
59	亀久保 2-10-5	(2005.8.3～31) 2005.9.1～16	1,073	共同住宅	2	1	1			調査会報告 18 集
60	亀久保 2-17-7	(2005.9.16)	293	個人住宅						市内遺跡群 2
61	亀久保 2-13-4 の一部	(2006.10.4) 2006.10.10～13	88	個人住宅	1	2	1	5		市内遺跡群 3
62	亀久保 2-12-3	(2007.11.12～26) 2008.1.7～18	1,284	共同住宅			28	28		市内遺跡群 4
63	亀久保 2-13-5	2008.9.17～10.15	998.15	モザイルーム	1					市内遺跡群 6
64	鶴ヶ岡 2-28-19	2008.9.1～2	907	分譲住宅建設					遺構なし	市内遺跡群 6
65	亀久保 2-14-9 の一部、13	(2011.4.25～26)	179	公民館分館					遺構なし	市内遺跡群 14
66	亀久保 2-16-1	(2011.7.15～19)	408.5	神社社務所新築					遺構なし	市内遺跡群 14
67	亀久保 2-12-11・12	(2011.8.1～8)	136.8	個人住宅			1			市内遺跡群 14
68	亀久保 2-12-2 の一部	(2011.9.1)	136	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 14
69	鶴ヶ岡 2-159-1、160-10、28-4・11～13	(2011.12.6～9)	2,426	店舗						市内遺跡群 14
70	亀久保 2-12-13	(2012.3.21) 2012.3.22	111	個人住宅		1				市内遺跡群 14
71	亀久保 2-12-2	(2012.8.27)	111.92	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 15
72	亀久保 2-12-16、12-15	(2012.10.11)	247.88	個人住宅				1		市内遺跡群 15
73	亀久保 2-17-14	(2014.7.8)	326.14	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 20
74	亀久保 2-975-1・34	(2014.11.27～12.4)	557	分譲住宅			1			市内遺跡群 20
75	亀久保 2-17-10 の一部	(2015.6.8)	67	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 22
76	鶴ヶ岡 2-3-2	(2015.8.6)	263	分譲住宅					遺構なし	市内遺跡群 22
77	亀久保 2-9-24	(2016.3.18)	168	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 22
78	亀久保 2-17-10・11 の各一部	(2018.2.5)	266.57	個人住宅					遺構なし	市内遺跡群 24

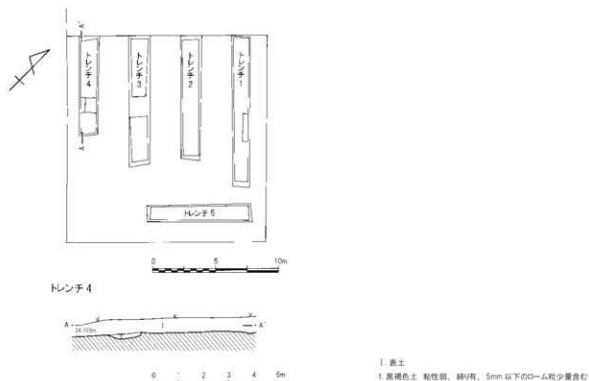
II 亀居遺跡第78地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2018年1月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2018年2月5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約10～60cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第61図 亀居遺跡第78地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第11章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち、僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

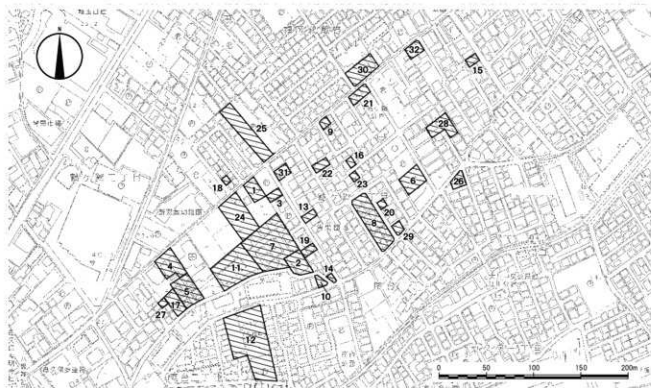
1987年の最初の調査から2019年4月現在、32地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第26地点

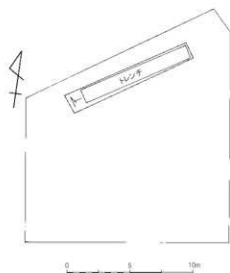
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2016年11月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年12月5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から80cmまで掘削したが、地山ローム層は確認できなかった。調査区は南に向かって傾斜しており、その傾斜に合わせて1m以上の盛土による整地が確認できることから、保護層の確保が可能であると判断した。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。



第 62 図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 63 図 鶴ヶ舞遺跡第 26 地点調査区域図 (1/300)

第 40 表 鶴ヶ舞遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ舞 67-3	(1986.1.28 ~ 29)	499	個人住宅	土坑 1、縄文中期土器片	東部VI
2	鶴ヶ舞 1-65-6	(1987.4.16 ~ 30)	495	個人住宅	伊穴 3、土坑 2、平安時代溝 1、旧石器、土器片、須恵器	東部VII
3	鶴ヶ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141	駐車場造成	遺構なし	町内IV
4	鶴ヶ舞 1-60-6・10	(1997.8.26 ~ 29)	318	共同住宅	近代溝 6、井戸 1	町内VI
5	鶴ヶ舞 1-61-3	(1997.11.4 ~ 6)	266	分譲住宅	近世溝 2	町内VII
6	鶴ヶ舞 1-84	(2002.9.10 ~ 13)	474	個人住宅	遺構遺物なし	町内XII
7	鶴ヶ舞 1-65-1	(2003.5.29 ~ 6.14) 2003.6.23 ~ 7.3	2,030	分譲住宅	旧石器群、縄文土坑 1	町内XI
8	鶴ヶ舞 1-69-46 ~ 51-61 ~ 66	(2005.7.11 ~ 8.11) 2005.8.24	1,087	分譲住宅	伊穴 6、ビット 3	大貫 18
9	鶴ヶ舞 1-16-5	(2005.11.1)	104	共同住宅	ビット 3、遺物なし	市内 2
10	鶴ヶ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	個人住宅	椀きり溝 1、旧石器時代群 1	市内 3
11	鶴ヶ舞 1-65-2・6	(2006.9.21 ~ 10.5)	1,316	建物解体工事	遺構遺物なし	市内 3
12	鶴ヶ舞 1-58-4	(2011.7.19 ~ 21)	97.7	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
13	鶴ヶ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	個人住宅	遺構なし、土器片	市内 14
14	鶴ヶ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56.3	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
15	南台 798-33	(2011.11.22)	100.3	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
16	鶴ヶ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 15
17	鶴ヶ舞 1-58-2	(2012.11.16) 2012.11.16	324.2	個人住宅	溝 1、土器片、近世陶磁器	市内 15
18	福岡武蔵野 1408-4 (9-6)	(2013.1.21)	61	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
19	鶴ヶ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 18
20	鶴ヶ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.55	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
21	鶴ヶ舞 1-73-27・51・52・54	(2013.10.23)	135.55	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 18
22	鶴ヶ舞 1-69-35・36	(2014.12.4)	171	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
23	鶴ヶ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 22
24	鶴ヶ舞 1-67-3・4の一部	(2015.8.31)	499	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
25	福岡武蔵野 1406-7・8・10・11	(2013.5.2)	1,124.99	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 18
26	鶴ヶ舞 1-99-10 ~ 12	(2016.12.5)	252	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24
27	鶴ヶ舞 1-58-8	(2017.4.13)	54	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
28	鶴ヶ舞 1-85-3・4・19・20・21・22	(2017.11.16 ~ 17)	497.81	分譲住宅	伊穴 6、土坑 1、ビット 2、縄文土器	市内 24
29	鶴ヶ舞 1-69-103	(2017.11.17)	106	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
30	福岡武蔵野 1398-1	(2018.6.28)	265.92	宅地造成	遺構遺物なし	未報告
31	鶴ヶ舞 1-69-94	(2018.9.10)	297	個人住宅	土坑 1、縄文土器片	未報告
32	南台 793-2の一部、17	(2019.3.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

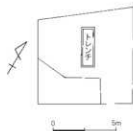
III 鶴ヶ舞遺跡第27地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年2月21日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年4月13日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ1本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から約50cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

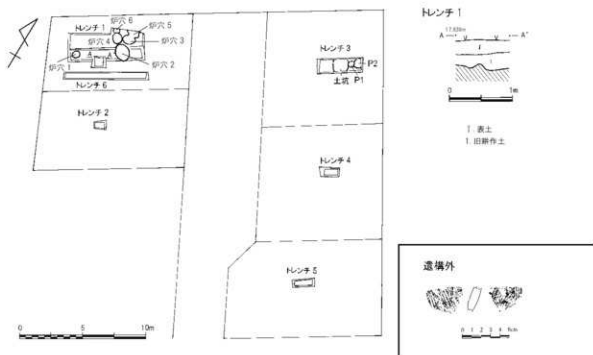


第64図 鶴ヶ舞遺跡第27地点調査区域図 (1/300)

IV 鶴ヶ舞遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月17日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年11月16・17日に試掘調査を実施した。



第65図 鶴ヶ舞遺跡第28地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)

試掘調査は幅約0.7～1mのトレンチ6本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約30～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、炉穴6基を検出したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 炉穴

炉穴は調査区北西部で6基まとまって検出した。本地点は南側に向かって傾斜しており、今回検出した炉穴群は南には広がらず、北側に向かって延伸しているものと考えられる。規模等詳細については第41表に掲載した。出土遺物はない。

② 土坑

調査区北東部で検出した。ビット1と東側で接しており、切り合い関係からビット1より古い。平面形態は不明。確認面径は102×(57)cm、底径81×(53)cm、深さ55.2cmを測る。出土遺物はない。

③ ビット

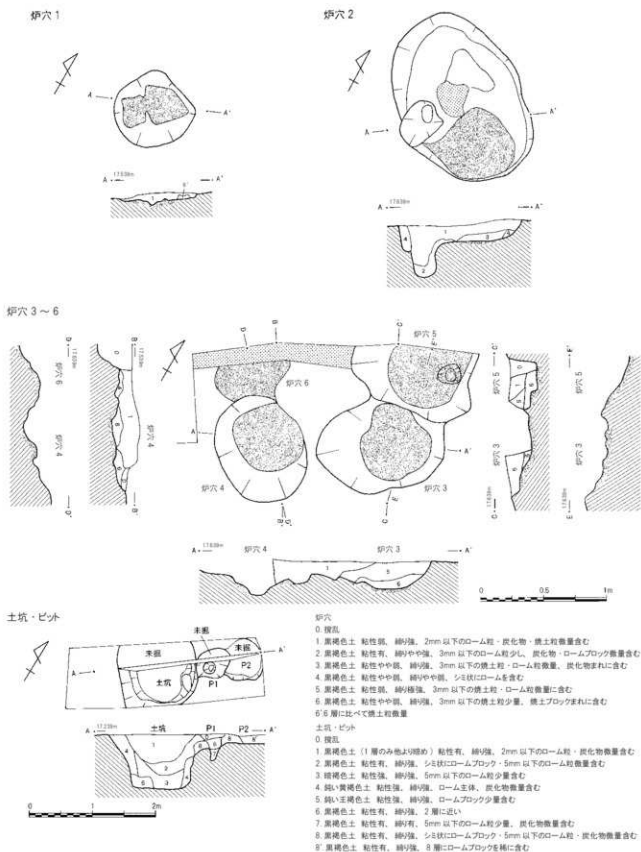
ビットは調査区北東部、トレンチ3で2基検出した。ビット1は西側で土坑、東側でビット2と接している。切り合い関係から土坑及ビット2より新しい。平面形態はほぼ円形を呈し、確認面径52×(26)cm、底径11×7cm、深さ37.2cmを測る。ビット2はトレンチ3の東端で検出した。西側でビット1と接する。平面形態は不明。規模は確認面径(55×35)cm、底径(53×33)cm、深さ14.6cmである。いずれも出土遺物はない。

④ 出土遺物

遺物はわずかに遺構外で出土した。図化が可能だったものは縄文土器片1点のみである。深鉢の胴部で、外面に条痕文を施す。胎土に繊維を含み、白色粒子が目立つ。前期か。

第41表 鶴ヶ舞遺跡第28地点炉穴一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	64×61	53×30	11	4	不明	(87)×69	53×(52)	18.6
2	楕円形	138×98	74×56	21.8	5	不明	99×(59)	58×(49)	37
3	不明	101×79	60×56	23.2	6	不明	—	60×(30)	25



第66図 鶴ヶ舞遺跡第28地点炉穴 (1/30)、土坑・ピット (1/60)

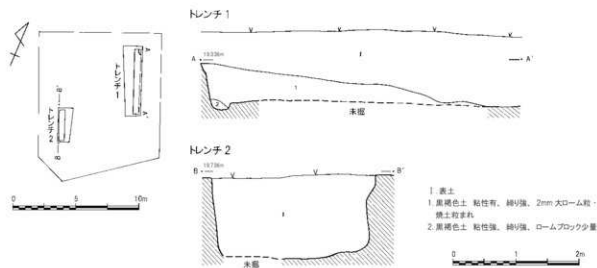
V 鶴ヶ舞遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年11月17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。調査区北側では、現地表面から約100～120cmで地山ローム層を確認したが、南側は傾斜地になっており、地山ローム層は確認できなかった。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第67図 鶴ヶ舞遺跡第29地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

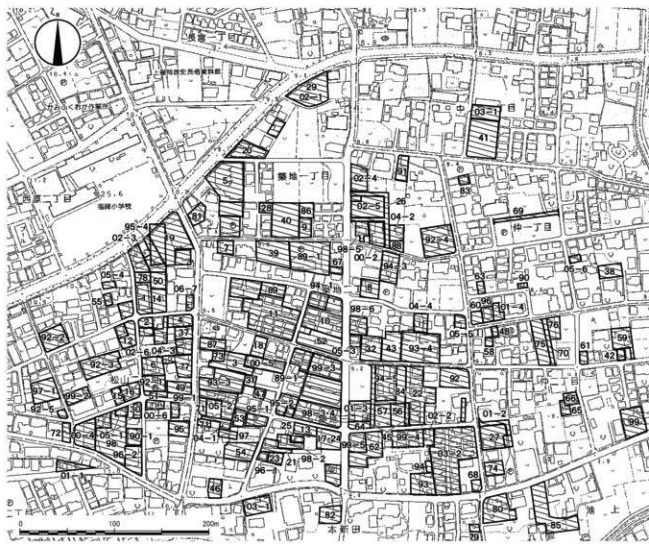
第12章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2019年4月現在、約150地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。



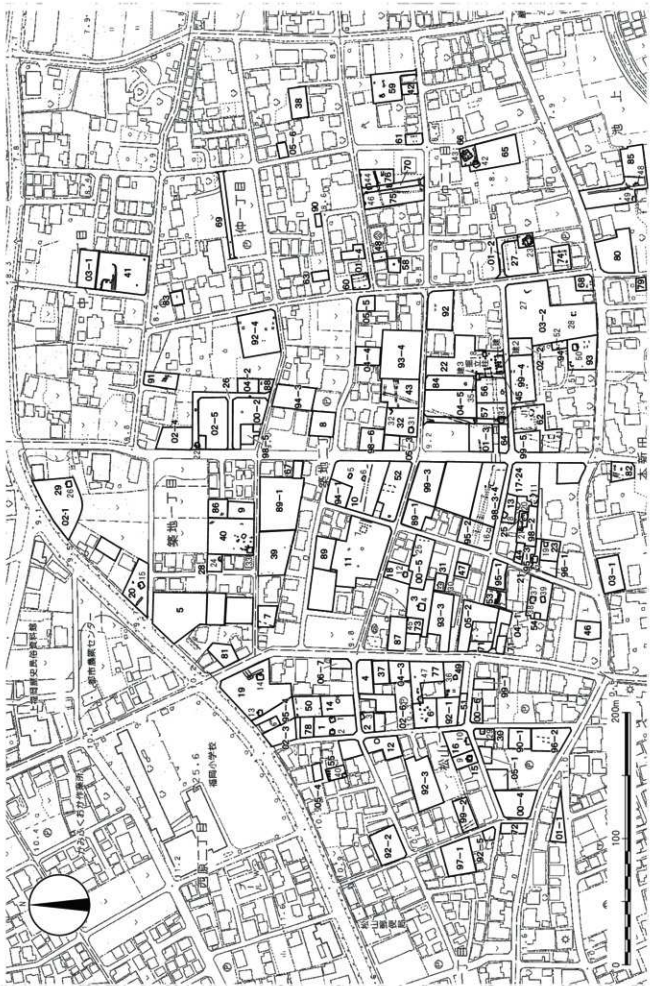
第68図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第42表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	松山 2-5-4	1978.10.14～11.6	479		住居跡 2	上層 I
2次	松山 2-6-7	1979.4.26～5.1	161		住居跡 1、土師器	上層 II
3次	築地 3-1-20	1979.8.7～16	733		住居跡 1、土器	上層 III
4次	松山 2-6-9	1982.9.13～24	277		遺構なし、平安土器	上層 V
5次	築地 1-1-16	1983.4.20～28	1,461	住宅建設	遺構遺物なし	上層 VI
6次	松山 2-6-16	1984.8.13～28	330	住宅建設	溝 1、土坑 5	上層 VII
7次	築地 2-3-19	1986.1.13～21	237	個人住宅	溝 1	上層 VIII
8次	築地 2-4-12	1986.7.1～8	319	個人資材置場	平安土器散布物	上層 IX
9次	築地 1-1-50	1987.10.1～3	288	個人住宅	遺構遺物なし	上層 X
88試	築地 3-3-4	(1989.1.9～10)	370	住宅建設	遺構遺物なし	上層 11
89試	築地 2-3-11	(1989.6.27～30)	1,342	共同住宅	遺構遺物なし	上層 12
90試	築地 2-2-9	(1990.9.7～12)	304	個人住宅	遺構遺物なし	上層 13
10次	築地 2-2-6	1991.10.14～18	450	個人住宅	平安住居跡 (区分期) 2、溝 1	上層 14
11次	築地 2-1-10	1991.10.18～21	2,029	宅地造成	平安住居跡 (区分期) 1、溝 1、土坑 2、井戸遺構 1	上層 14
92試(1)	松山 2-6-22、23	(1992.4.17～24)	567	駐車場	遺構遺物なし	上層 15
92試(2)	松山 2-4-7	(1992.5.6～11)	571	駐車場	遺構遺物なし	上層 15
12次	松山 2-3-11	1992.5.12～20	393	宅地造成	平安井戸跡 1	上層 15
13次	築地 3-2-18	1992.5.18～30	234	宅地造成	平安住居跡 1	上層 15
14次	松山 2-5-17	(1992.5.21～30)	432	宅地造成	中世井戸跡 2	上層 15
92試(3)	松山 2-3-31、13	(1992.6.12～18)	871.9	宅地造成	なし	上層 15
92試(4)	築地 1-3-17	(1992.6.3～11)	998	共同住宅	溝遺構、井戸遺構	上層 15
92試(5)	松山 1-4-32	(1992.10.30)	78.4	共同住宅	遺構遺物なし	上層 15
93試(1)	松山 2-3-1	(1993.4.5～16)	509.19	宅地造成	遺構遺物なし	上層 16
15次	松山 2-3-41	1993.4.19～28	148	個人住宅	平安住居跡 1	上層 16
17次	築地 3-2-19	1993.5.10～24	597	駐車場	古墳末期住居跡 1	上層 16
16次	松山 2-3-43、44	1993.7.2～15	156.76	個人住宅	平安住居跡 1	上層 16
93試(3)	築地 3-1-17、31	(1993.10.15～20)	994.22	共同住宅	遺構遺物なし	上層 16
93試(4)	築地 2-5-2の一部	(1993.10.22～26)	1,246.63	共同住宅	遺構遺物なし	上層 16
18次	築地 3-1-16	1993.12.1～7	290	駐車場	奈良末～平安住居跡 1	H5 上表
19次	松山 2-5-9	1994.1.17～2.3	1,531.38	貸店舗	平安住居跡 2、溝跡 1	上層 3
94試(1)	築地 2-2-3	(1994.5.30)	310.48	分譲住宅	遺構遺物なし	上層 17
20次	松山 1-2-4	1994.6.24～7.1	559.17	共同住宅	古墳末期六住居跡 1、土師器、須恵器破片	上層 17、上層 5
94試(3)	築地 2-4-7	(1994.8.3～12)	532.36	宅地造成	遺構遺物なし	上層 17
95試(1)	築地 3-1-9、10	(1995.5.10～19)	303	宅地造成	遺構遺物なし	上層 18
95試(2)	築地 3-3-2	(1995.5.22～6.15)	542	宅地造成	古墳末期住居跡 1	上層 18
95試(3)	築地 3-2-23	(1995.10.17～20)	153.25	個人住宅	遺構遺物なし	上層 18
21次	築地 3-2-23	1995.10.17～20	378.53	市道敷設	古墳末期住居跡 1	上層 18
95試(4)	松山 2-5-8、16	(1995.12.22)	413	宅地造成	遺構遺物なし	上層 18
96試(2)	松山 2-2-1	(1996.7.22～24)	489	宅地造成	溝 1 (時期不明)	上層 19
97試(1)	松山 1-4-17	(1997.9.11～18)	591	個人住宅	遺構遺物なし	上層 20
22次	築地 3-4-15、23	1997.12.15～24	419	個人住宅	平安初須住居跡 1、奈良末期居住建物 3、縄文集石土坑 7、土師器、須恵器、縄文土器、墨書土器 1	上層 20
98試(1)	築地 3-2-13、24	(1998.4.16)	240	宅地造成	23次調査参照	上層 21
98試(2)	築地 3-2-23外 2 兼	(1998.4.17、5.20～22)	450	宅地造成	遺構遺物なし	上層 21
98試(3,4)	築地 3-3-1	(1998.4.20～5.20)	922	宅地造成	中近世溝 1 他	上層 21
23次	築地 3-2-24の一部	1998.5.11～14	120	個人住宅	奈良後半住居跡 1	上層 21
98試(5)	築地 1-3-18	(1998.7.1)	167.06	個人住宅	遺構遺物なし	上層 21
24次	築地 3-2-4の一部	1998.9.8～21	50	農地改良	飛鳥住居跡 1	H10 上表
98試(6)	築地 2-5-6	(1998.9.1～4)	363	個人住宅	遺構遺物なし	上層 21
25次	築地 3-2-23外 2 兼	1999.3.3～12	240	個人住宅	奈良初須住居跡 2	上層 21
99試(1)	松山 2-1-10	(1999.4.16)	166	個人住宅	遺構遺物なし	上層 22
99試(2)	松山 2-3-3	(1999.5.6～12)	340		溝 1 (時期不明)	上層 22
99試(3)	築地 3-3-14、15	(1999.6.22～24)	778.29	宅地造成(分譲)	遺構遺物なし	上層 22
99試(4)	築地 3-5-15の一部、24、27	(1999.8.2～6)	745.58		ピット 5	上層 22
99試(5)	築地 3-5-28	(1999.8.26～9.1)	331.3	個人住宅	溝 1 (時期不明)	上層 22
26次	築地 1-3-21	2000.5.15～6.2 (2000.4.27～5.12)	627.9	市道設置	井戸 2、竪穴住居跡 1、土師器、須恵器、陶磁器片	上層 23
00試(2)	築地 1-3-5、25、27、35	(2000.5.17～25)	687.3	共同住宅	土坑 1	上層 23
27次	仲 2-1-10の一部	2000.6.12～7.3 (2000.5.22～6.8)	912	共同住宅建設及び市道設置	奈良型六住居跡 1、土師器、須恵器、陶磁器片	上層 23
00試(4)	松山 2-2-5	(2000.10.30)	592	共同住宅	遺構遺物なし	上層 23

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
28 次	築地 1-1-28	2001.2.8 ~ 21	165.6	個人住宅	奈良住居跡 1	上層 23
00 試(5)	築地 3-1-28	(2001.2.2 ~ 13)	614	宅地造成(分譲)	飛鳥~奈良住居跡 1	上層 23
00 試(6)	松山 2-1-8, 17	(2001.3.21)	174.9		遺構遺物なし	H12 上社
01 試(1)	新田 2-450-1	(2001.4.12 ~ 13)	204.15	個人住宅	遺構遺物なし	上層 24
01 試(2)	仲 2-1-10	(2001.5 ~ 18)	168	地区計画道路	近代以降溝 3	上層 24
01 試(3)	築地 3-4-10	(2001.5.10 ~ 15)	434.59	共同住宅	遺構遺物なし	上層 24
01 試(4)	仲 1-1-2, 3, 14	(2001.9.12)	694.68	個人住宅	遺構遺物なし	上層 24
02 試(1)	築地 1-2-8	(2002.5.20 ~ 23)	978	遺構所在確認	竪穴住居跡 1	上層 25
02 試(2)	築地 3-5-35, 36	(2002.7.11)	248.09	宅地造成(分譲)	遺構遺物なし	上層 25
29 次	築地 1-2-8 の一部	2002.7.2 ~ 8.9	36	個人住宅	竪穴住居跡 1	上層 25
02 試(3)	松山 2-5-7	(2002.8.5)	358.57	宅地造成(分譲)	遺構遺物なし	上層 25
02 試(4)	築地 1-3-28	(2002.8.20 ~ 21)	479	共同住宅	遺構遺物なし	上層 25
02 試(5)	築地 1-3-22, 25, 30	(2002.8.22 ~ 28)	640.68	遺構所在確認	竪穴住居跡 1【盛土保存】	上層 25
02 試(6)	松山 2-6-5	(2002.9.9)	147	個人住宅	遺構遺物なし	上層 25
03 試(1)	本新田 1-23	(2003.4.16 ~ 21)	1,080.48	共同住宅	遺構遺物なし	上層 26
03 試(2)	築地 3-5-3 他 6 筆	(2003.8.19 ~ 20)	2,578.02	宅地造成	飛鳥竪穴住居跡 2【盛土保存】	上層 26
30 次	松山 2-2-3	2003.10.3 ~ 10	142.47	個人住宅	奈良竪穴住居跡 1【調査実施】	上層 26
04 試(1)	築地 3-1-16, 32	(2004.4.22 ~ 23)	976	宅地造成	遺構遺物なし	上層 27
04 試(2)	築地 1-3-37	(2004.4.26)	165	個人住宅	遺構遺物なし	上層 27
04 試(3)	松山 2-6-11	(2004.6.16)	309	宅地造成	遺構遺物なし	上層 27
04 試(4)	築地 2-5-14, 25, 27	(2004.8.5)	280	個人住宅	遺構遺物なし	上層 27
04 試(5)	築地 3-4-12	(2004.9.6 ~ 8)	911	宅地造成	溝 1	上層 27
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6 ~ 7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32, 34, 43	(2005.4.19 ~ 21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14 ~ 23 (2005.6.9 ~ 13)	120	個人住宅	古墳時代住居跡 1	市内 1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30 ~ 9.13)	567	宅地造成	平安時代住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30 ~ 9.7) 2005.9.8 ~ 13	132	個人住宅	平安時代住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	松山 2-4-23	(2005.10.20 ~ 21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10, 13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3, 9, 12, 13, 24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10 ~ 20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2 ~ 8) 2007.2.21 ~ 3.9	1,047	宅地造成	奈良時代住居跡 1, 中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7 ~ 9) 2007.2.21 ~ 3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11 ~ 24)	668.13	分譲住宅	堀跡 1, 土坑 1, 旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10, 14	(2008.6.9 ~ 11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4 ~ 30) 2008.10.1 ~ 23	390	道路	奈良平安時代住居跡 2, 掘立柱建物跡 2, 竪穴状遺構 1, 時期不明の溝 10, 土坑, ビット	市内 6
46	築地 3-1-33, 35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11 ~ 12)	121	個人住宅	ビット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1, 14, 22 の一部	(2009.10.17 ~ 22) 2009.10.27 ~ 11.18	449	宅地造成	平安時代住居跡 1 (住居内竪穴伊検出), 土坑 1, 溝 1, ビット 1	市内 8
50	松山 2-5-3, 17	(2009.11.27 ~ 12.1)	797	分譲住宅	溝 1, ビット 7	市内 8
51	松山 2-6-22, 23, 28 の一部	(2010.5.10 ~ 13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26 ~ 9.3)	694	分譲住宅	溝 1, 落とし穴 1, 工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10 ~ 21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3, アナグラ 1, 慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6, 76 ~ 81	(2010.9.21 ~ 10.1) 2010.10.4 ~ 11.5	539.51	宅地造成	奈良平安時代住居跡 3 確認, 西側 1 の住居は盛土保存, 他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17) 2011.1.18 ~ 31	226.37	個人住宅	奈良平安時代住居跡 1, 掘立柱建物跡 1, 本調査	市内 10
56	築地 3-4-7, 8 の一部	(2011.4.4 ~ 14) 2011.4.11 ~ 15	482.53	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他, 本調査 (一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2001.4.4 ~ 15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と遺構, 遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6 ~ 8) 2011.6.14	114.54	個人住宅	井戸 1, 溝 1, ビット 1, 本調査	市内 14

地点	所在地	調査期間 () は証書調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
59	仲 2-3-6, 9	(2011.8.8～9) 2011.8.10～11	559.7	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26～27)	165.31	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、埴塔、工事立金	市内 14
61	仲 2-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11, 14, 19	(2012.6.11～21) 2012.7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55, 56, 57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25, 36	(2013.2.13～18)	630	物置	奈良平安時代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧土器	市内 15
66	仲 2-1-53, 54	2013.2.19～3.21	179	個人住宅	旧土器	市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	91.97	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7～8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ビット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51, 53, 55	(2013.9.10～11) 2013.9.12～17	298	道路	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39, 41	(2013.4.11～16) 2013.4.17～23	220.41	道路	奈良平安時代住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土器、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16, 32, 34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	ビット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	198.86	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19) 2013.8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280.24	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2, 4	(2014.1.14～20) 2014.8.5～11	606	分譲住宅	平安時代住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22～28) 2014.9.26～10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
	仲 2-2-37 (6区画)	(2014.1.22～28) 2014.11.12～17	120	個人住宅	奈良時代住居跡 1 (70地点と同一)、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)	362	宅地造成	奈良時代住居跡 1 (70地点と同一)、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2, 3, 12 の各一部	(2014.3.3～12) 2014.3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	個人住宅	遺構なし、土器、陶磁器	市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	分譲住宅	溝 1、遺物なし	市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30～31)	194	個人住宅	溝 1、堀 1、土器片	市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、土器片	市内 22
84	築地 3-4-13	(2015.9.15～16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、縄文土器片、陶磁器	市内 22
85	池上 362-1 の一部、 364, 365, 366 の一部	(2015.10.1～19) 2015.10.20～26	1,244.47	分譲住宅	奈良平安時代住居跡 2、屋外の痕跡跡 1、中近世以降の溝 5、須恵器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品	市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5～7)	294	分譲住宅	溝 1、陶磁器	市内 24
87	築地 3-1-21, 22 の 一部、39, 40, 41, 84	(2016.9.14)	427	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	個人住宅	土坑 1、ビット 2、溝 1、遺物なし	市内 24
89	築地 2-1-11, 16	(2017.3.3～6)	287.04	分譲住宅	遺構なし、須恵器片	市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
91	築地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	個人住宅	溝 (近世以降) 3、陶磁器、土製品	市内 24
92	築地 3-4-3	(2017.10.30～31)	621	分譲住宅	土坑 (時期不明) 2、ビット (時期不明) 1、縄文土器	市内 24
93	築地 3-5-72	(2017.11.27～28)	571.97	共同住宅	古代住居跡 2、堀跡 1、溝 1、近世以降土坑 2、土師器、須恵器、陶磁器、唐書土器、埴塔	市内 24
94	築地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	作業場	古代住居跡 1、時期不明ビット 1、土師器、陶磁器	市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1～10・ 9.13)	353	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	分譲住宅	溝 1、陶磁器片、ガラス容器	未報告
97	築地 3-1-5, 7 の各 一部	(2018.10.30)	253	個人住宅	遺構なし、土器片	未報告
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	店舗	遺構なし、土器片、土師器、須恵器、陶磁器	未報告
99	仲 2-4-2	(2019.1.11～15) 2019.1.21～27	673.35	土地分譲	堀状遺構 1、陶磁器、ガラス瓶	市内 23



第 69 図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

第43表 松山道跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新住居番号	旧調査年度	調査名	調査率	平面図()は推定	規模()は残存又は推定値	炉	竈	壁・炉位置	周溝	主軸方向	時期	備考	所収報告書
1	1978	第1次1号住居	完備	正方形	390×380	K	兼	○			国分前半		上層1
2	#	第1次2号住居	完備	台形	360×320	K	兼	○			国分前半		上層1
3	1979	第2次3号住居	完備	2/3(方形)	350×--×10	K	兼	一部			国分後半		上層II
4	#	第3次4号住居	完備	方形	530×475	K	北	○		N-14E	国分後半		上層II
5	1991	第10次5号住居	完備	長方形	230×350	K	北→東	○			9世紀2半期		上層14
6	#	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	兼	○			9世紀2半期		上層14
7	#	第11次7号住居	完備	正方形	400×400			○			8世紀4半期		上層14
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×					N-10E	8世紀3半期		上層15
9	1993	第15次9号住居	完備		A440×350 B420×310 C260×300	K	兼→北	○			9世紀1半期	鉄鉢型須恵器出土	上層16
10	#	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	○			8世紀4半期		上層16
11	#	第17次11号住居	完備	方形	600×600	K	北	○		最大住居	7世紀4半期	黄色土器出土	上層16
12	#	第18次12号住居	完備	方形	400×320	K	北	(○)			8世紀4半期		上層16、市史通上
13	1994	第19次13号住居	完備	長方形	450×300	K	北	○		N-5E	9世紀1半期		上層3
14	#	第19次14号住居	完備	長方形	450×500	K	兼→北	○		N-5E	9世紀1半期	土師出土	上層3
15	#	第20次15号住居	完備	長方形	370×470	K	北西	○			7世紀4半期		上層5
16	1995	7号試掘(2)16号住居	—	—	—	—	—	—		N-20-W	6世紀	未報告	
17	#	第21次17号住居	完備	長方形	480×400	K	北	○			7世紀4半期		上層19
18	1997	第22次18号住居	完備	長方形	240×460	K	兼	○		N-50E	8世紀末		上層20
	#	第22次1号竪立	部分	長方形	東西5間・南北3間						8世紀末~9世紀初		上層20
	#	第22次2号竪立	部分	長方形	東西2間・南北2間						8世紀末~9世紀初		上層20
	#	第22次3号竪立	部分	長方形	(東西2間)・南北3間						8世紀末~9世紀初		上層20
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290			○		N-30-W	8世紀後半	土師6点出土	上層21
20	1999	第25次20号住居	—	—	—	—	—	—			8世紀初頭	粗紋土師器	市史通上
21	#	第25次21号住居	—	—	—	—	—	—			8世紀初頭	未報告	
22	2000	第26次22号住居	完備		360×	K	北	○			7世紀後半	14年度完掘、焼失住居	上層23
23	#	第27次23号住居	完備	台形	600×720	K	北	○			8世紀半ば		上層23
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西	○			8世紀中葉		上層24
25	2000	12年度試掘5	2/3		—	—	—	—			遺存状態悪い		上層23
26	2002	第29次26号住居	完備	長方形	420×360	K	北	○			7世紀後半		上層25
27	2003	15年度試掘27号住居	一部	(竈土保存)	—	—	—	—				プラン確認	上層26
28	#	15年度試掘28号住居	1/2	(竈土保存)	—	—	—	—				プラン確認	上層26
29	#	第30次29号住居	完備	長方形	360×420	K	兼	○			9世紀前半		上層26
30	2005	第31次30号住居	完備	長方形	360×600	K	北	○				土師出土	市内1
31	#	第32次31号住居	完備	長方形	380×330×	K	兼	○		S-65-E	9世紀中葉		市内1
32	#	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東	○		S-85-E			市内1
33	2006	40地点H33号住居	完備	方形	455×420	K	北	○		N-5-E	8世紀後半		市内3
34	2008	45地点H34号住居	完備	方形	364×361	K	兼	○		N-96-E			市内6
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	504×(222)			○				焼失住居	市内6
36	2009	49地点H36号住居	完備	方形	280×290	K	兼	○		N-92-E	8世紀後半	飯沼伊1	市内7
37	2010	54地点H37号住居	完備	方形	434×524	K	北	○		N-13-E	8世紀1四半期		市内9
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440)×468	K	兼	○		N-107-E	8世紀1四半期	プラン確認	市内9
39	2010	54地点H39号住居	完備	方形	336×459	K	北	○		N-4-E	8世紀1四半期		市内9
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300)×(320)	K	兼	○		N-90-E	9世紀前半		市内10
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北	○		N-18-E			市内12
42	2013	65・66地点H42号住居		方形	460×440	K	兼	○		N-62-E	9世紀前半		市内15
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	—	—	—		N-66-E			市内15
	2013	66地点H43B号住居		方形	700×700	K	兼	○		N-66-E	9世紀中葉前後以後		市内15
44	2013	70・76地点H44号住居		(長方形)	(420)×340	K	北	○			8世紀前半		市内18
45	2013	73地点H45号住居	不明		(238×125)			○			8世紀後半		市内18
46	2013	75地点H46号住居	不明		(320×145)			○			8世紀前半~中		市内18
47	2013	77地点H47号住居	不明		410×(95)	K	北	○			8世紀前半~後半		市内18
48	2015	85地点H48号住居	完備	(長方形)	356×(270)	K	北	○		N-65-E	9世紀後半		市内19
49	2015	85地点H49号住居	1/2	(長方形)	(225×70)	K	兼	○		N-60-E	9世紀後半		市内19
50	2017	93地点H50号住居	未掘	長方形	473×381	K	北				7世紀末~8世紀前半		市内24
51	2017	93地点H51号住居	一部	不明	—	K	兼			N-72-E	8世紀前半		市内24
52	2017	94地点H52号住居	一部	不明	—	—	—	○			8世紀		市内24

II 松山遺跡第86地点

(1) 調査の概要

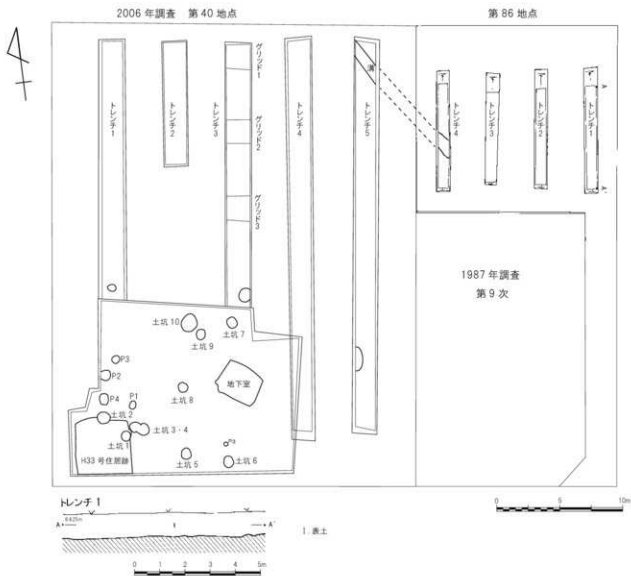
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2016年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年7月5日・7日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。地山ローム層までの深さは約90cmである。調査の結果、隣接する第40地点より続く溝跡1条を検出したが、30cmの保護層確保が可能のため、工事立会の措置をとった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

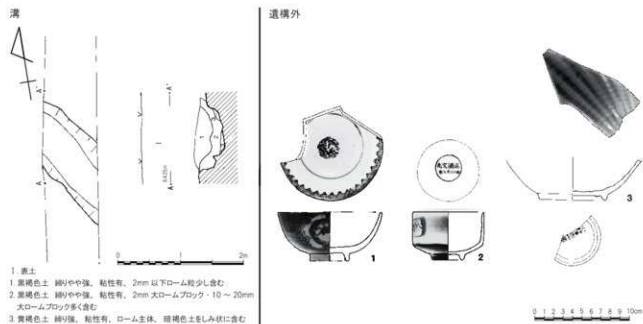
(2) 遺構と遺物

今回発見された溝跡は西側に隣接する第40地点から続くものである。遺構の規模は上幅110cm、下幅60cm、深さ40cmである。断面形態は不整形だが浅くU字形を呈し、底面は凹凸が目立つ。出土遺物はない。

遺物はすべて遺構外の出土である。詳細については、第70図及び第44表に掲載した。



第70図 松山遺跡第86地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)



第71図 松山遺跡第86地点溝(1/60)、出土遺物(1/4)

第44表 松山遺跡第86地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別/器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	地文/施文/備考	時期/型式
第71図-1	遺構外	磁器/丸碗	11	4.2	5.2	轆轤成形/型紙給付/外面花文他、内面口縁部環状文、見込み一重圈線、松竹梅文・瀬戸美濃	1880年以降
第71図-2		磁器/湯のみ碗	7.6	3.6	5.1	轆轤成形/給付/見込み「丸文酒店 電(大井) 240番」ゴム印・瀬戸美濃	昭和30年代後半
第71図-3		磁器/鉢?	—	7	—	轆轤型打成形/クロム青磁/底裏に「小野澤燃料商□」	20世紀代

Ⅲ 松山遺跡第 87 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2016 年 7 月 29 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016 年 9 月 14 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1～1.5 m のトレンチ 2 本を設定し、重機及び人力で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60～70 cm である。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅳ 松山遺跡第 88 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設によるもので、原因者より 2016 年 9 月 20 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北寄りに位置する。協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016 年 10 月 13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。地山ローム層までの深さは 70～80 cm である。調査の結果、土坑 1 基、ピット 2 基、溝 1 条を検出した。いずれも近世以降で遺物も伴わないため、今回は遺構として扱わない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

Ⅴ 松山遺跡第 89 地点

(1) 調査の概要

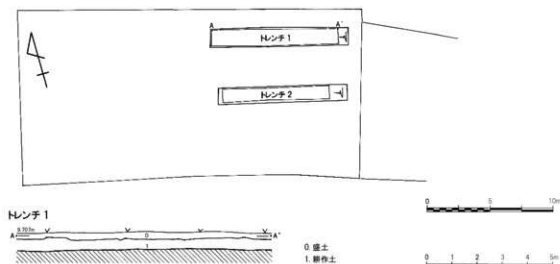
調査は分譲住宅建設も伴うもので、原因者より 2016 年 12 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017 年 3 月 3 日～6 日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1～1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。地山ローム層までの深さは 50～70 cm である。調査の結果、遺構は確認されなかった。遺構外より須恵器片が 1 点出土している。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

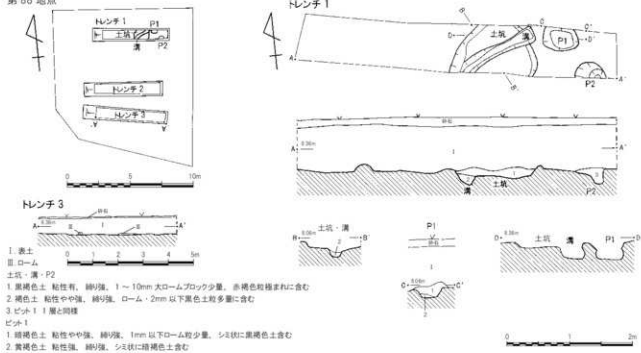
(2) 遺構と遺物

遺物はトレンチ覆土中より出土した。須恵器甕の破片である。外面は平行タタキ、内面はナデによる調整を施す。また外面には自然釉がかかる。胎土に白色粒子が目立ち、白色針状物質もわずかながら見られるため、南比企業である可能性が高い。

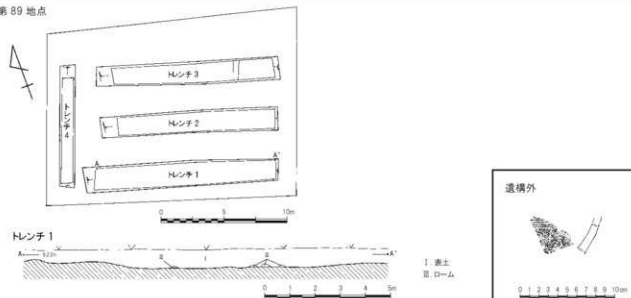
第87地点



第88地点



第89地点

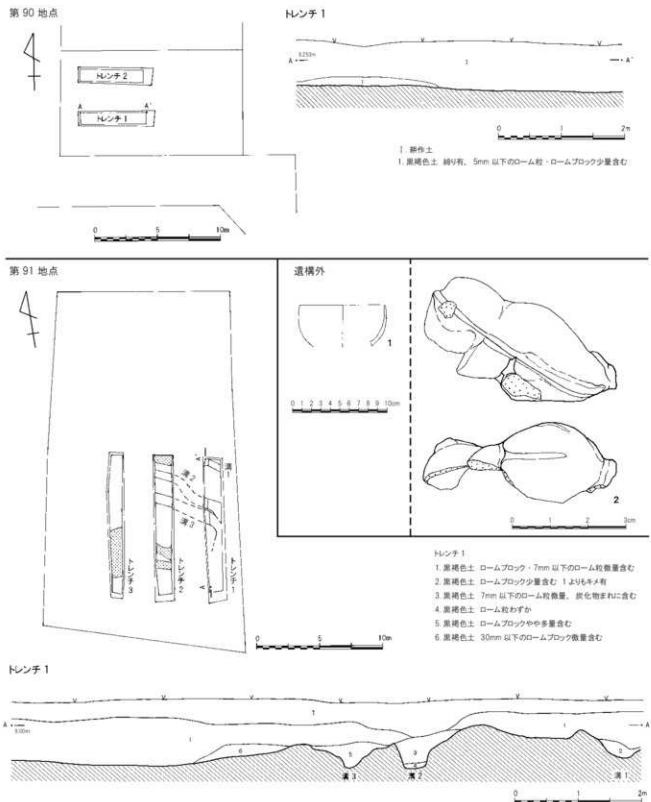


第72図 松山遺跡第87・89地点調査区域図・第88地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑・ピット・溝(1/60)、第89地点出土遺物(1/4)

VI 松山遺跡第90地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年9月29日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年10月12日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約



第73図 松山遺跡第90地点調査区域図・第91地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4・1/1)

70cmであった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅶ 松山遺跡第91地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年9月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年10月24日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約40～100cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、近世以降の溝3条を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 溝

溝は全部で3条検出した。いずれも近世以降のものと考えられる。溝1は調査区の最も北側で検出した。トレンチ2では確認されなかったため、調査区外へ延伸するものと考えられる。断面形態は浅いU字形を呈し、上幅60cm、下幅50cm、深さ17.4cmを測る。溝2は溝1と溝3の間に位置し、トレンチ1からトレンチ2にかけて検出した。トレンチ3では確認されなかったため、両者の間で方向を変えるか途切れるものと想定される。断面形態は逆台形を呈し、上幅160cm、下幅50cm、深さ53.6cmを測る。溝3は溝2の南側に位置し、溝2と同様にトレンチ1から2にかけて検出した。トレンチ1では溝2と接する。遺構の規模は上幅110cm、下幅70cm、深さ33.6cmで、断面形態は浅いU字形を呈する。いずれも出土遺物はない。

② 出土遺物

出土遺物はいずれも遺構外からの出土である。詳細については第73図及び第45表に掲載した。

第45表 松山遺跡第91・92地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第73図-1	遺構外	陶器・碗	(9.0)	—	(4.5)	轆轤成形・透明釉・瀬戸美濃	近代以降
第73図-2		土製品・土人形	—	—	—	型押し成形・内面に指紋有、犬力	近代以降
第74図-1		縄文・深鉢	—	—	—	波状口縁・口縁部に刻み目、2重の波状沈線、連続刺突文・胎土に白色粒子、黒色粒子を含む	縄文中期 初頭
第74図-2		土師器・坏?	—	—	—	口縁部・外面に僅かに赤彩	—

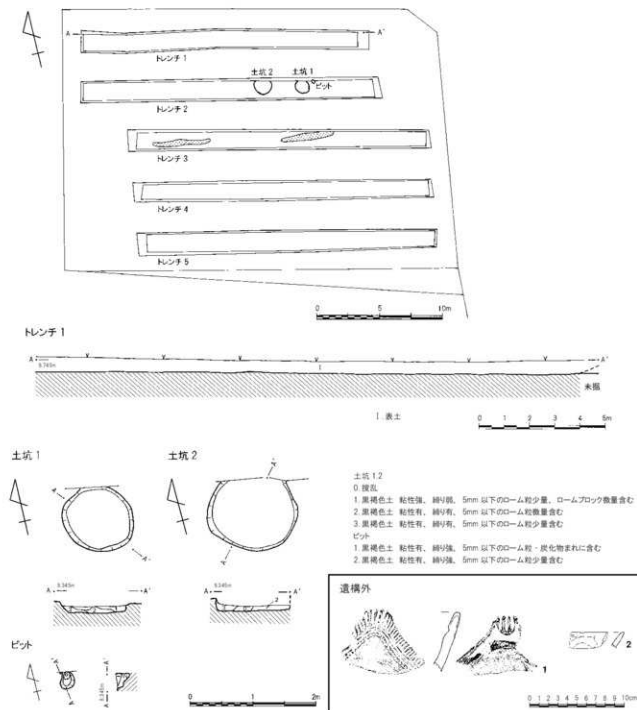
VIII 松山遺跡第92地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年10月30・31日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約50cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、土坑2基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第74図 松山遺跡第92地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑・ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

(2) 遺構と遺物

①土坑

土坑は調査区北側、トレンチ2で2基検出した。土坑1は平面形態円形を呈し、確認面径113×103cm、底径100×89cm、深さ21.1cm、土坑2は平面形態円形で、確認面径137×(120)cm、底径129×(116)cm、深さ17.1cmを測る。いずれも出土遺物はなく、帰属時期も不明である。

②ピット

ピットはトレンチ2、土坑1の東側で検出した。平面形態は楕円形で、確認面径(27)×21cm、底径5×4cm、深さ34cmを測る。出土遺物はない。

③出土遺物

出土遺物はいずれも遺構外からの出土である。詳細については第74図及び第45表に掲載した。

IX 松山遺跡第93地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2017年11月20日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年11月27・28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約30～60cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、古代住居跡2軒、土坑2基、溝1条、堀跡1～2本を検出したが保護層の確保が可能なたため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①H50号住居跡

【位置・検出状況】 調査区北東部、トレンチ3で検出した。南側の一部を土坑によって破壊されているが、全体的によく残る。

【形状・規模】 平面形態は長方形を呈する。長軸473×短軸381cm、床面までの深さは約30cmである。

【構造】 主軸は南北を指向する。周溝は北西隅から南東隅にかけての南側で確認した。床面及びピット・周溝等は保護層の確保が可能だったため未掘であり、詳細は不明である。

【竈】 住居の北側に位置する。保存措置のため検出は行っていない。竈周辺に粘土塊が集中する箇所があり、竈の構築材であった可能性が考えられる。

【遺物出土状況】 遺物は住居内全域に散逸しており、比較的床面近くに集中する傾向を示す。

【時期】 7世紀末～8世紀前半

②H51号住居跡

【位置・検出状況】 調査区北西部、トレンチ1で検出した。大部分が調査区外に該当する。

【形状・規模】 平面形態は不明である。主軸で300cm以上を測る。確認面からの深さは約40cmである。

【構造】 主軸はN-72°Eである。柱穴及び周溝は確認できなかった。

【竈】 住居の東側に位置する。大半が調査区外であり、東側は堀跡によって壊されている。今回の調査では、北側の立ち上がりを確認するに留めた。

【遺物出土状況】 点数は多くないが、床面直上から出土した。

【時期】 8世紀前半

③土坑

土坑は2基確認した。いずれも調査区北東部、H50号住居跡の南側に位置しており、前述の通りそれ

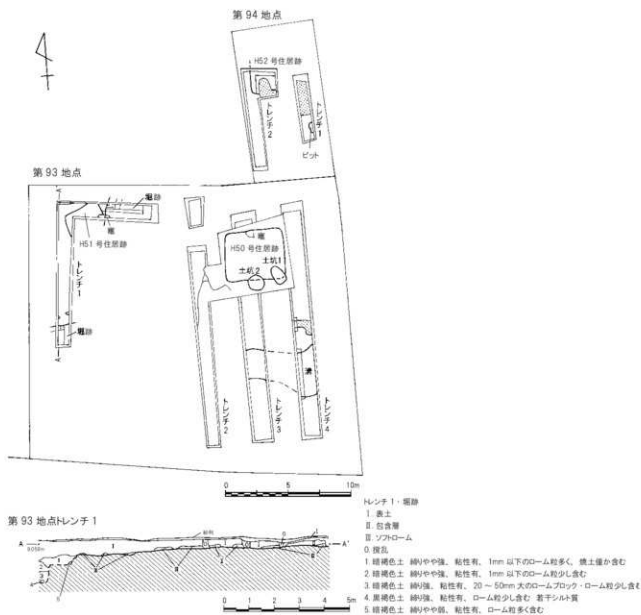
それがH50号住居跡と切り合い関係にある。出土遺物はないが、土層の観察よりどちらも近世以降のものであると考えられる。

【土坑1】平面形態は楕円形を呈し、確認径 145×95 cmを測る。完掘していないため、底径は不明である。

【土坑2】平面形態は不整形で、確認径 167×164 cm、深さ33 cmを測る。完掘していないため、底径は不明。

④堀跡

堀跡はトレンチ1に位置する。北側に位置する東西方向に入れたトレンチの東端と、西側に位置する南北方向のトレンチの南端で確認した。北側では南北方向に走行し、南側では東西方向に走行するが、土層の観察から本来は1本の同一の堀であると考えられる。確認できた堀跡の規模は、上幅316 cm以上で調査区外へ続く。トレンチ2で検出していないため、600 cm以内に収まるものと考えられる。深さは遺構確認面から130 cm以上である。時期を特定するような遺物は出土していないが、周辺の傾向から中世以降の堀跡であろう。



第75図 松山遺跡第93・94地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

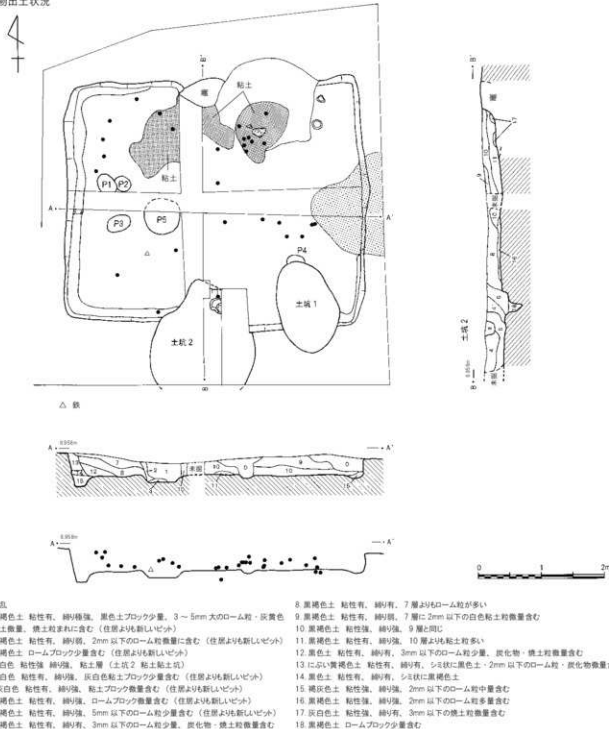
⑤溝

溝は調査区の南東部に位置する。トレンチ3及び4にかけて検出した。東西方向に走行するが、トレンチ2では確認されなかったため途中で方向を変えるか途切れるものと考えられる。遺構の規模は上幅375cm、下幅323cm、深さ41.5cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。底部は平らではなく凹凸が激しい。土層に僅かに酸化鉄が混入する。出土遺物がないため時期の特定が難しいが、近世以降の溝と考えられる。

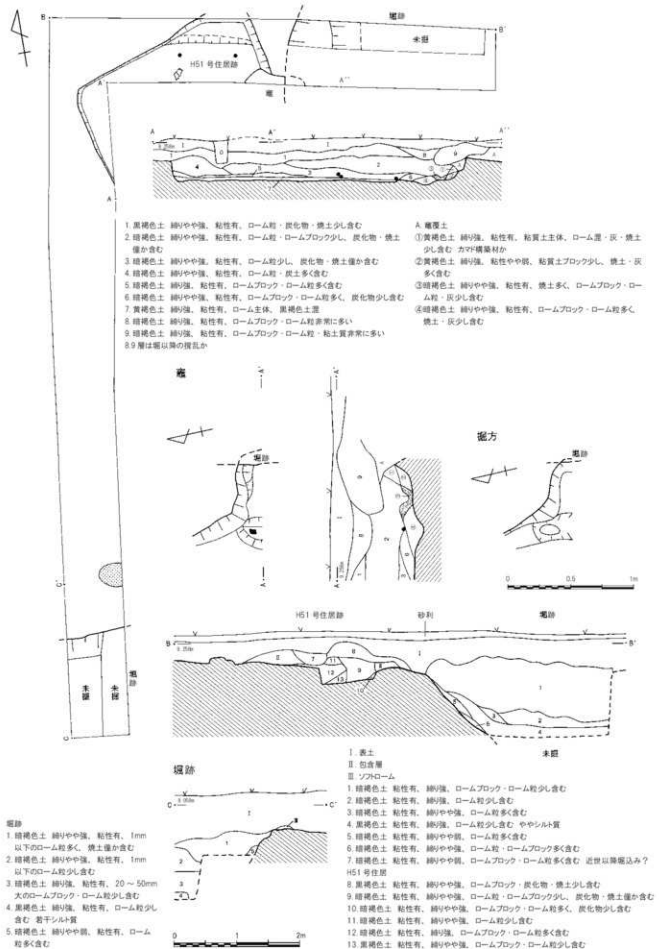
⑥出土遺物

出土遺物の詳細については第78～80図及び第46表に掲載した。

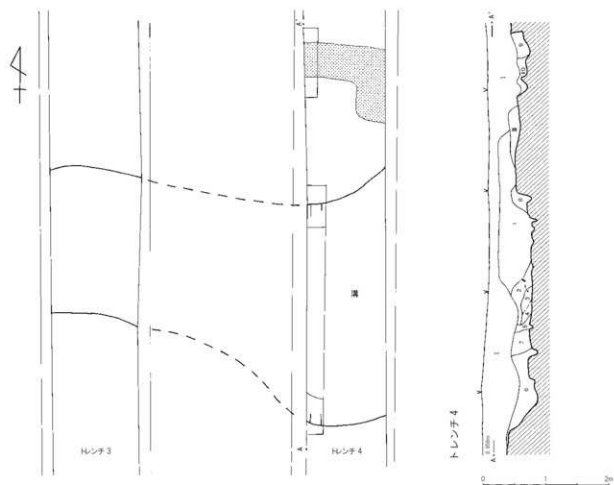
遺物出土状況



第76図 松山遺跡第93地点H50号住居跡(1/60)



第77図 松山遺跡第93地点H51号住居跡 (1/60)、竈 (1/30)、堀跡 (1/60)



I. 黄土

II. ソフトローム

1. 黄褐色土 粘性強、締り強。弱グライ化層。3mm以下の酸化鉄粒少量。ローム粒微量含む

2. 黄褐色土 粘性有、締り弱強。7mm以下、5mm以下のローム粒微量含む

3. 黄褐色土 粘性やや弱、締り強。3mm以下の焼土粒微量。炭化物まねに含む

4.3と同様

5. 黄褐色土 粘性有、締り弱強。ロームブロック多量含む

6. 黄褐色土 粘性弱、締り強。2mm以下のローム粒・炭化物微量含む

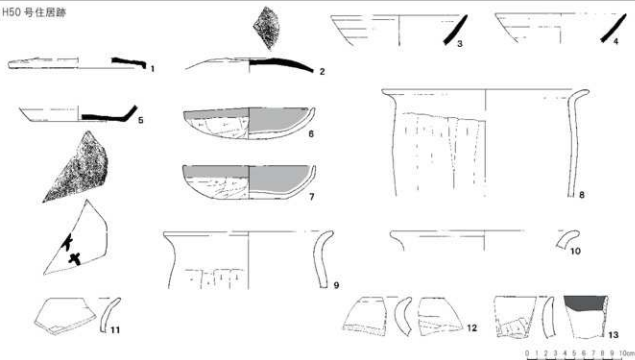
7. 黄褐色土 粘性弱、締りやや強。5mm以下のローム粒少量。焼土粒微量含む

8.1層にロームブロック少量含む

9. 黄褐色土 粘性有、締り有。ロームブロック多量含む

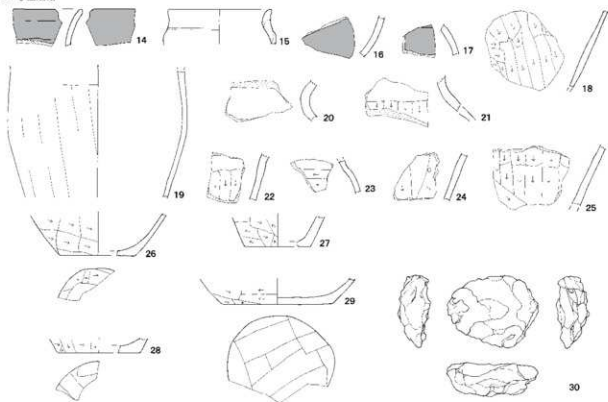
10. 黄褐色土 粘性有、締り有。ローム主体。黒色土が混じる

H50号住居跡

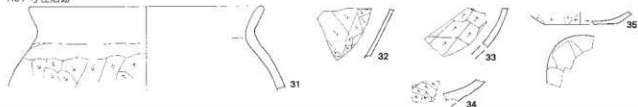


第78図 松山遺跡第93地点溝(1/60)、出土遺物①(1/4)

H50号住居跡



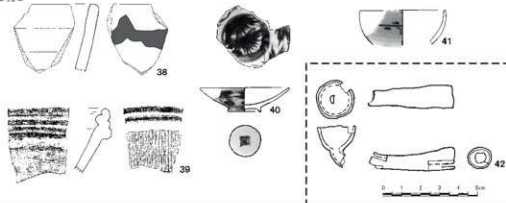
H51号住居跡



土坑1



土坑2



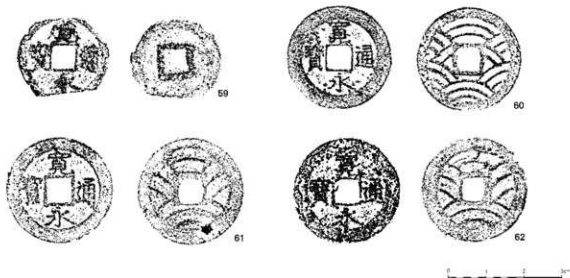
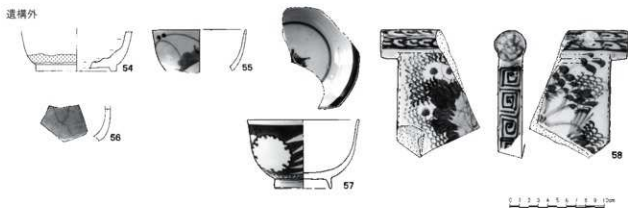
堀跡



遺構外



第79図 松山遺跡第93地点出土遺物② (1/4・1/2)



第80図 松山遺跡第93地点出土遺物③ (1/4・1/1)

第46表 松山遺跡第93地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第78図-1	HSO号住居跡	須恵器・坏蓋	(14.4)	—	—	—	1/8 残存・轆轤成形・胎土に白色針状物質含む、南比企産	8世紀代
第78図-2		須恵器・坏蓋	(14.0)	—	—	—	1/3 残存・轆轤成形・胎土に白色針状物質含む、南比企産	8世紀代
第78図-3		須恵器・坏	(14.5)	—	(3.1)	—	1・8 残存・轆轤成形・胎土に白色針状物質含む、南比企産	8世紀代
第78図-4		須恵器・坏	(14.0)	—	(3.1)	—	1/8 残存・轆轤成形・胎土に白色針状物質含む、南比企産	8世紀代
第78図-5		須恵器・坏	—	(10.0)	(1.8)	—	底部1/6 残存・轆轤成形。底部即転丸切・胎土に白色針状物質含む、南比企産。内面に僅かに残存着。底部に墨書で「十」	8世紀代
第78図-6		土師器・坏	13.8	—	3.4	—	ほぼ完形・外面：ヘラケズリ、内面～口縁部：ナデ・外面口縁部～内面にかけて赤彩。内面に残存着	8世紀前半
第78図-7		土師器・坏	(14.0)	7.6	3.5	—	3/4 残存・外面：ヘラケズリ、内面～口縁部：ナデ・外面口縁部～内面にかけて赤彩。ヘラケズリで底部を作り出す。胎土に白色針状物質含む。底部に墨書で「子」か	8世紀前半
第78図-8		土師器・壺	(22.0)	—	(11.5)	—	口縁部1/3 残存・外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ。口縁部：横方向ナデ	7世紀末～8世紀前半
第78図-9		土師器・壺	(18.0)	—	(6.0)	—	口縁部1/5 残存・外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ。口縁部：横方向ナデ・内面に残存着	7世紀末～8世紀前半
第78図-10		土師器・壺	(20.0)	—	(2.1)	—	口縁部1/7 残存・横方向ナデ	7世紀末～8世紀前半
第78図-11		土師器・壺	—	—	—	—	口縁部。横方向ナデ	8世紀後半
第78図-12		土師器・壺	—	—	—	—	口縁部。横方向ナデ	7世紀末～8世紀前半
第78図-13		土師器・壺	—	—	—	—	口縁部。横方向ナデ。ヘラケズリ・内面に残存着	—

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式	
第79図-14	HSO号住居跡	土師器・壺	—	—	—	—	口縁部、横方向ナデ・内外面赤彩、外面に僅かに煤付着	8世紀後半	
第79図-15		土師器・小型壺	(11.0)	—	(3.3)	—	口縁部1/8残存・横方向ナデ、外面ヘラケズリ、内面に指掛筋・内面に僅かにタール付着、胎土に小塵を含む	8世紀前半	
第79図-16		土師器・小型壺	—	—	—	—	体部ヘラナデ・外面赤彩、胎土に白色粒子を含む、17と同一個体	—	
第79図-17		土師器・小型壺	—	—	—	—	体部ヘラナデ・外面赤彩、胎土に白色粒子を含む、16と同一個体	—	
第79図-18		土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ	—	
第79図-19		土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ、口縁部：横方向ナデ・内外面に僅かに煤付着	—	
第79図-20		土師器・壺	—	—	—	—	内外面：ナデ、頸部	7世紀末～8世紀前半	
第79図-21		土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、ナデ、内面：ナデ・胎土に白色粒子を含む	—	
第79図-22		土師器・壺?	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、ナデ、内面：ナデ	—	
第79図-23		土師器・壺?	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ	—	
第79図-24		土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ・外面に植物種子遺物	—	
第79図-25		土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ・内面に僅かに煤付着	7～8世紀	
第79図-26		土師器・壺	—	(8.0)	(4.9)	—	底部1/3残存・外面～底部：ヘラケズリ、内面：ナデ	7～8世紀	
第79図-27		土師器・瓶	—	(7.0)	(3.1)	—	底部1/3残存・外面：ヘラケズリ、内面：ナデ・内外面に僅かに煤付着	8世紀代	
第79図-28		土師器・壺	—	(8.8)	(1.5)	—	底部1/5残存・外面～底部：ヘラケズリ、内面：ナデ	—	
第79図-29		土師器・壺	—	(11.5)	(2.2)	—	底部2/3残存・外面～底部：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・外面に僅かに煤付着	7～8世紀	
第79図-30		鉄製品・腕型洋	7.7	9.6	3.7	299.2	鉄製。色調：茶褐色	—	
第79図-31		HS1号住居跡	土師器・壺	(25.0)	—	(9.0)	—	口縁部1/5残存・外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ、口縁部ナデ・胎土に白色粒子、雲母を含む、内外面に煤付着	8世紀前半
第79図-32			土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ	—
第79図-33			土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・胎土に白色粒子を含む	—
第79図-34			土師器・壺	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・底部割れ	—
第79図-35			土師器・壺	—	(7.6)	(1.3)	—	底部2/5残存・外面～底部：ヘラケズリ、内面：ナデ	7～8世紀
第79図-36		土坑1	土師器・小型壺?	—	—	—	—	外面：口縁部ナデ、内面：ナデ・胎土に白色粒子を含む	—
第79図-37			磁器・碗	—	(4.0)	(2.8)	—	染付、透明釉	18世紀以降・瀬戸美濃
第79図-38		土坑2	土器・鉢?	—	—	—	—	輪軸成形・内外面に僅かに煤付着、在地産	中近世以降
第79図-39			磁器・環	—	—	—	—	輪軸成形	19世紀以降
第79図-40			磁器・小皿	(9.5)	3.5	2.5	—	輪軸成形・染付・底面に銘・瀬戸美濃産	近代
第79図-41			磁器・碗	(9.1)	—	(3.5)	—	輪軸成形・染付、透明釉、肥前産	19世紀以降
第79図-42			金属製品・煙管	—	—	—	—	火口径：2.0cm、扉部分のみ残存	18世紀以降
第79図-43			須恵器・壺?	—	—	—	—	輪軸成形・内外面ナデ・外面に自然釉	—
第79図-44	土師器・壺		(20.1)	—	(4.0)	—	内外面：ナデ、頸部	7世紀後半	
第79図-45	土師器・壺		—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・胎土に砂礫を多く含む	—	
第79図-46	土師器・壺?		—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ・内面に煤付着	—	
第79図-47	縄文・深鉢		—	—	—	—	注線・胎土に白色粒子、金雲母を含む	中朝前半・阿玉台式期	
第79図-48	須恵器・坏	—	—	—	—	輪軸成形、底部回転糸切後ヘラケズリ・胎土に白色針状物質を含む、南比企産	8世紀		
第79図-49	遺構外	土器・焙烙	—	—	—	—	口縁部のみ残存	中近世以降	
第79図-50		土器・焙烙	—	—	—	—	口縁部のみ残存	中近世以降	
第79図-51		土器・焙烙	—	—	—	—	口縁部のみ残存、口唇部に凹凸	中近世以降	
第79図-52		土器・鉢?	—	(11.0)	—	—	輪軸成形・底部のみ残存、底部と胴部の接点に刻み目を施す	近世以降	
第79図-53		土器・焙烙	—	—	—	—	底部のみ残存	中近世以降	
第80図-54		磁器・碗	—	(8.5)	(4.2)	—	輪軸成形・外面と底部に緑色の釉薬が掛かる	近世以降	
第80図-55		磁器・碗	(10.0)	—	(4.5)	—	輪軸成形・染付・瀬戸美濃産	19世紀以降	
第80図-56		磁器・碗	—	—	—	—	輪軸成形・染付、刷目文・肥前産	18世紀	
第80図-57		磁器・碗	(12.0)	(6.0)	(7.3)	—	輪軸成形・染付・見込み	19世紀以降	
第80図-58		磁器・便器	(13.6)	(10.5)	(3.3)	—	型押し成形・染付	明治以降	
第80図-59		銅貨・寛永通宝	(2.0)	2.4	—	2.32	一部欠損、新寛永か	18世紀	
第80図-60		銅貨・寛永通宝	2.7	2.7	—	5.18	寛永21歳	18世紀後半	
第80図-61		銅貨・寛永通宝	2.8	2.8	—	4.32	寛永11歳	19世紀	
第80図-62		銅貨・寛永通宝	2.8	2.8	—	3.77	寛永11歳	19世紀	

X 松山遺跡第94地点

調査は作業場等建設に伴うもので、原因者より2018年1月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2018年3月23日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。

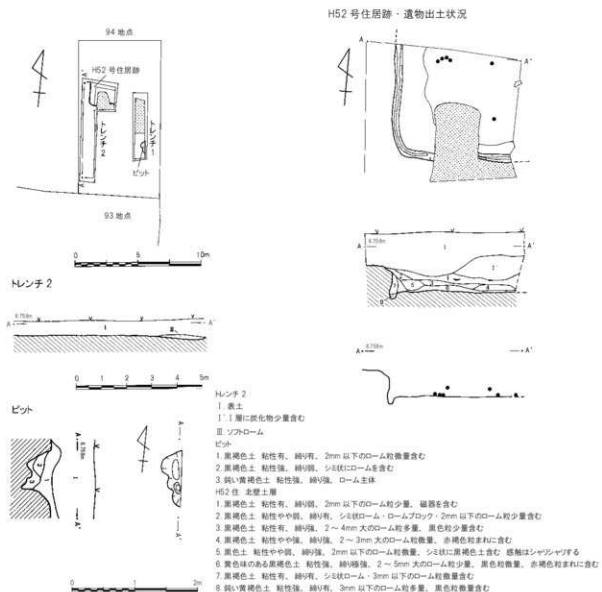
調査の結果、古代住居跡1軒、ピット1基を検出したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① H52号住居跡

【位置・検出状況】 調査区のほぼ中央、トレンチ2に位置する。住居の北西隅を検出した。住居跡の南側からトレンチ1にかけて大きく攪乱が入っているため、住居の規模は把握できない。

【構造】 柱穴は確認できなかった。周溝は西側壁面から南側にかけて存在するが、南側壁面で部分的に途切れるようである。壁から50cm程離れた床面では、住居中央部に向かって硬化面を確認した。



第81図 松山遺跡第94地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)

【遺物出土状況】点数は多くないが、住居中央部寄りの覆土中から集中して出土している。

【時期】8世紀代

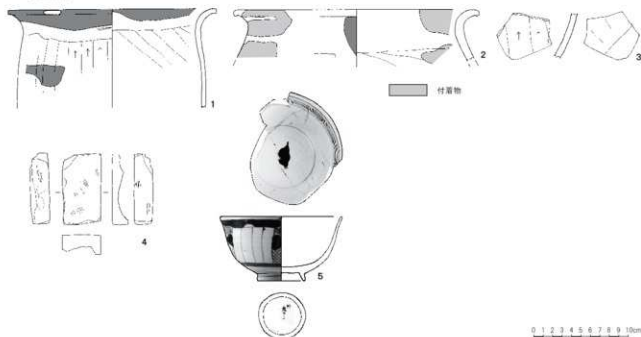
②ピット

ピットは調査区南東部、トレンチ1に位置する。トレンチの東側に続くため、平面形態は不明。遺構の規模は確認面径89×(31)cm、底径5×2cm、深さ46.5cmを測る。出土遺物はないが、土層の観察から近世以降に帰属するものと考えられる。

③出土遺物

出土遺物については第82図及び第47表に詳細を掲載を掲載した。

H52号住居跡



第82図 松山遺跡第94地点出土遺物(1/4)

第47表 松山遺跡第94地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第82図-1	H52号住居跡	土師器・甕	(22.0)	—	(10.5)	—	外面：ヘラケズリ、口縁部ナデ、内面：ヘラナデ・内外面に煤付着	8世紀
第82図-2		土師器・甕	(26.0)	—	(6.0)	—	外面：ヘラケズリ、口縁部ナデ、内面：ヘラナデ・外面に煤付着、内外面に付着物有	7世紀後半
第82図-3		土師器・甕	—	—	—	—	外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ、胎土に金雲母を含む	—
第82図-4		石製品・砥石	(7.439)	4.042	(2.049)	86.61	石材：変質流紋岩製、砥沢産	近世以降
第82図-5		磁器・碗	(13.0)	5.0	6.8	—	轆轤成形・染付、外面：内面口縁：雷文繫ぎ、見込み：雲、底面：朱書きで「九十三」カ・肥前	19世紀以降

第13章 江川南遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川南遺跡は福岡江川の谷頭部から、約300～500m程下った右岸に位置している。遺跡の標高は20～21mで、現谷底との比高差は1～2mを測る。福岡江川北側の左岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東久保・大井線が延びる。東武東上線福岡駅から約1kmのため、昭和40年代から急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に亀居遺跡と鶴ヶ舞遺跡が位置し、東側に江川東遺跡が隣接する。

本遺跡は当初、地藏院遺跡と江川南遺跡であったが、平成5年に遺跡の変更増補を行い統一した。また平成9年には亀久保堀跡遺跡と江川南遺跡に分ける変更増補を行った。

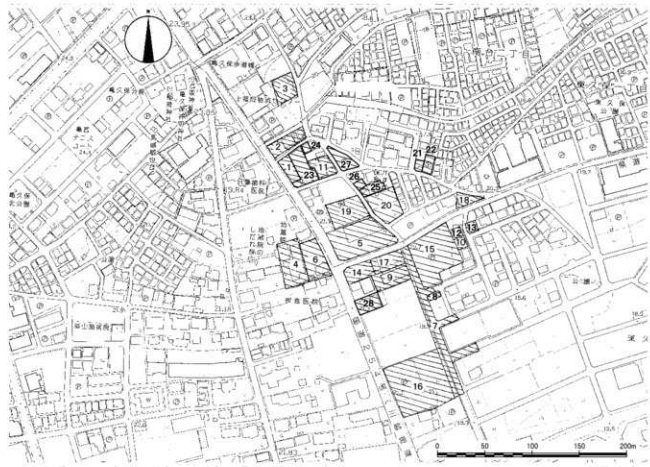
本遺跡では旧石器時代の石器集中・礫群、縄文時代中期の住居跡・土坑など、古代～中世の堀跡、地藏院に関わる近世の遺構群で、また時期は多岐にわたる。2019年4月現在、28地点で調査を行っている。

II 江川南遺跡第27地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2016年5月24日付けで「埋藏文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年7月19日・20日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30cmである。遺構は確認されなかった。



第83図 江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

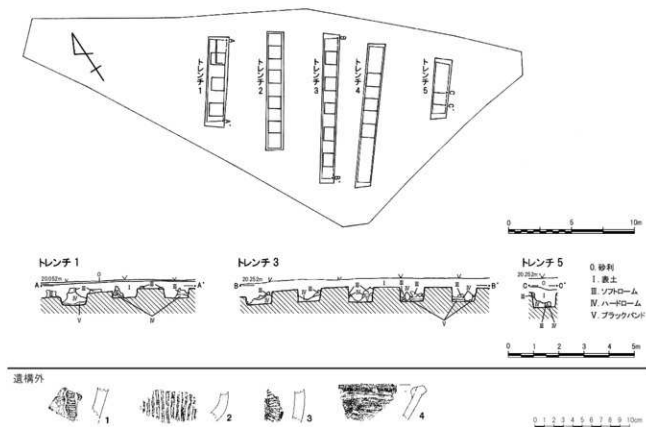
その後、旧石器の遺構と遺物を確認するため、各トレンチ内に1m四方の小トレンチを約1m間隔で設定した。調査の結果、旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

表土中より縄文土器片が僅かに出土した。詳細は第49表に掲載した。

第48表 江川南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査事由	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保121-1	1977.8.30～9.30	64	町史編纂事業	縄文中期：住居跡1(1号)	大史7
2	東久保1-120-3	(1991.5.28～5.31) 1991.6.1～	580	共同住宅	旧石器：礫群3、縄文土器片、中世：堀跡	東部XI
3	鶴ヶ舞1-110-5	(1992.3.25)	646	資材置場	鶴ヶ舞遺跡第3地点として報告 遺構・遺物無し	町内I
4	亀久保192	(1995.8.28～9.21)	825	庫裏建設	縄文中期：住居跡1(2号)・土器・石器、近世以降：土坑24、 井戸1、埴土跡1、2号住居跡の続き検出	町内V
5	東久保1-194・195 の一部	(1996.8.5～8.8) 1996.8.20～8.29	2,092	店舗	縄文：ビット10、溝4本、中世：堀跡	町内VI、大調14
6	亀久保(旧地蔵院遺跡第1地点)	(1985.10.17～11.8)	837	町史編纂	縄文中期：土坑4、近世以降：池状遺構1、竪穴遺構1、溝3本、 肥前系磁器、灯明皿、古銭、煙管出土	町内V
7	亀久保3-193	(2003.4.16～4.24)	929	店舗	平成15年3月調査、2号住居跡の続き検出	町内XI
7	亀久保196-1他	1996.11.19～2.13	1,322	区画整理道路	縄文：落とし穴2、中世：堀跡、近世以降：溝、ビット2	大調14
8	東久保7街区1画地	(1997.10.13～10.15)	50	墓地移転	縄文：落とし穴1、ビット4、かわらけ片1点	町内VII
9	東久保1街区2-3画地	(1998.10.6～10.9)	875	共同住宅	遺構遺物なし	町内VII
10	東久保2街区9-10画地	(1999.5.24～5.26)	133	個人住宅	遺構遺物無し	町内IX
11	東久保1-122-2・4	(1999.9.20～9.27) 1999.9.28～10.15	465	共同住宅	旧石器：石器ブロック4、礫群5、中世：堀跡、土塚墓1、旧石器 コンテナ2箱、土器片コンテナ2箱、銭貨	町内IX
12	東久保2街区4-5画地	(1999.10.26～10.28)	104	個人住宅	遺構なし、縄文：無文土器片1点	町内IX
13	東久保3街区21画地	(2000.6.7) 2000.6.8～6.21	123	個人住宅	縄文：集石土坑3、土坑1	町内X
14	東久保1街区1画地	(2000.7.5～7.10) 2000.7.10～7.18	461	店舗	縄文：ビット20、近世以降：櫛列1、溝1、土坑1、ビット3	町内X
15	東久保2街区1画地	(2000.12.8～12.26) 2001.1.10～1.19	2,375	共同住宅	中世：堀跡1、溝3、櫛列1、ビット、旧石器：黒曜石割片、縄 文：土坑1、ビット、縄文土器片、近世：陶磁器片	町内X、大調14
16	東久保1街区	(2002.9.24～10.4)	3,752	給油所	遺構遺物なし	町内XI
17	東久保196-1(1街区 20～23画地)	(2002.10.29～11.11)	474	宅地分譲	ビット6、溝2、堀跡、旧石器、土器片、石器	町内XI
18	東久保285-51・52 他	(2003.7.11～2003.7.16)	240	共同住宅	遺構遺物なし	町内XI
19	東久保1-185-1	(2003.9.18～10.8) 2003.10.10～11.14	1,129	店舗	旧石器：礫群、土坑22、ビット69、堀跡、溝、旧石器：石器 群3	町内XI
20	東久保1-183-5	(2005.8.1～8.11) 2005.8.18～9.10	951	分譲住宅	縄文中期住居跡2(3号、4号)、集石土坑5、ビット1、溝6	大調18
21	東久保1-29-1	(2006.10.10)	99	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
22	東久保132-11	(2006.10.11～11.6) 2006.11.7～11.9	206	分譲住宅	旧石器礫群5	市内3
23	東久保1-121-1	(2007.1.24～2.1) 2007.2.19～3.16	1,011	分譲住宅	旧石器礫群6、縄文中期住居跡2(11-5号)、集石土坑2、土坑2、 ビット30、溝4	市内3
24	東久保1-122-5	(2009.12.4～10) 2009.12.14～28	178	分譲住宅	旧石器礫群4、石器集中1、縄文時代集石土坑1、堀跡、ナイフ 形石器他、縄文土器・石器	市内7・8
25	東久保1-183-8・13	(2012.7.4)	252.88	分譲住宅	溝2、土器	市内15
26	東久保1-183-14	(2013.9.24～26)	99.1	建売住宅	遺構遺物なし	市内18
27	東久保1-123-1・2	(2016.7.19・20)	380.19	共同住宅	遺構なし、土器片	市内24
28	ふじみ野2-1-8・9	(2019.3.18・19)	436.17	建物解体	遺構なし、土器片	未報告



第84図 江川南遺跡第27地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

第49表 江川南遺跡第27地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	地文・施文・備考	時期・型式
第84図-1	遺構外	縄文・深鉢	隆帯胎に押引文カ・胎土に雲母含む	中期・阿玉台
第84図-2		縄文・深鉢	押引文、波状沈線・胎土にチャート、白色粒子含む	中期・勝坂II
第84図-3		縄文・深鉢	縦位沈線文・胎土にチャート含む	中期
第84図-4		縄文・浅鉢	口縁部内面が強く突出する	中期

第14章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

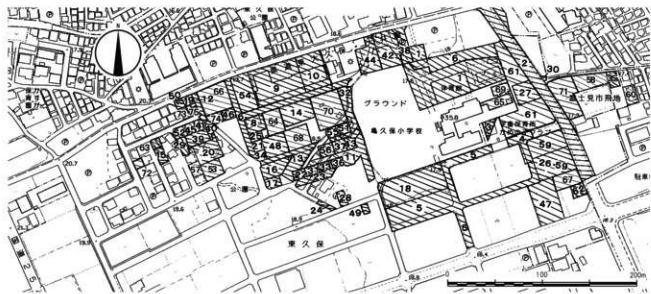
周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間には平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保塚遺跡が位置する。本遺跡の調査は1976年以来2018年4月現在、75地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や櫛跡が確認されている。

II 東久保遺跡第73地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年5月25日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年6月19日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1mのトレンチ1本を設定し、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cm、敷地北側の盛上面では地山ローム層は約70～80cmであった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第85図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 50 表 東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保字東久保 285-1 他	(1976.6.29 ~ 7.27)	10,000	東久保小学校	縄文時代集石土坑 6、土坑 3、井戸 2、溝 2、縄文土器・石器	東久保
2	東久保 293-1 他	1994.12.19 ~ 1995.3.23 (1995.5.18 ~ 22)	2,472	区画整理道路	中近世の溝 5、ビット 4、土坑 2、縄文土器片	大調 14
		(1996.11.15)	25	水道管埋設	溝 1	
3	東久保 284-1	(1996.5.20 ~ 29)	270	学童保育所	溝 2、棚列 1、遺物なし	町内Ⅵ
4	東久保 364-1	(1996.6.7 ~ 10) 1996.9.2 ~ 4	320	区画整理道路	旧石蔵礎石 1	町内Ⅵ・大調 14
5	東久保 366	1996.11.22 ~ 1997.3.5	3,314	区画整理道路	土坑 3、中世の堀跡 1、溝 2、ビット 1、土器・石器	大調 14
6	東久保 271-1	<A 区 >1997.1.20 ~ 2.13 <B 区 >1997.2.24 ~ 3.19	2,309	区画整理道路	縄文時代落とし穴 2、集石土坑 1、土坑 1、ビット 5、溝 8、縄文土器・石器	大調 14
		<C 区 >1997.7.24 ~ 7.25 <D 区 >1997.8.6	168			大調 14
7	(東久保遺跡遺跡第 1 地点に変更)					大調 14
8	東久保 18 街区 12 画地	(1997.7.29 ~ 8.2)	305	個人住宅	縄文時代土坑 2、ビット 2	町内Ⅵ
9	東久保 279.280	(1997.8.18 ~ 28) 1998.3.1 ~ 5.18	2,117	共同住宅	縄文時代集石土坑 5、土坑 13、ビット 9、近世以降の溝 3、旧石蔵時代石器、縄文時代土器・石器	町内Ⅵ、大調 14
10	東久保 19 街区	(1997.9.2 ~ 10.1)	1,067	分譲住宅	縄文時代集石土坑 1、近世以降の溝 1、縄文土器片	町内Ⅵ
11	東久保	1998.7.13 ~ 8.6、 1999.3.11 ~ 12	588	区画整理道路	中世以降の棚列 1、ビット 3、溝 1、縄文土器・石器	大調 14
12	東久保	1999.1.19 ~ 1.21	282	区画整理道路	縄文時代集石土坑 1、ビット 10、近世以降の溝 2	大調 14
13	東久保 381-5 他	1999.5.19 ~ 20	360	区画整理道路		大調 14
		1999.11.2	162	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
14	東久保 18 街区 3 画地	(1999.6.29 ~ 7.16) 1999.7.19 ~ 29	823	共同住宅	溝 2、棚列 1、縄文土器片、瓦質陶器片	町内Ⅵ、大調 1
15	東久保 5 街区 14 ~ 16 画地	(1999.8.2)	178	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
16	東久保 15 街区 1 ~ 5・32 画地	(1999.10.1 ~ 6)	334	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
17	東久保 381-5	(1999.6.14 ~ 15)	168	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
18	東久保 27 街区 2 画地	(1999.11.30 ~ 12.15)	14,989	小学校グラウンド	棚列	町内Ⅵ
19	東久保 3 街区 9・10 画地	(1999.12.20 ~ 21)	108	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
20	東久保 4 街区 9 画地	(2000.2.28 ~ 3.3)	478	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
21	東久保 18 街区 14 画地	(2000.3.23 ~ 28)	114	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
22	東久保 15 街区 28 画地	(2000.3.22 ~ 23)	150	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
23	東久保	2000.3.13 ~ 16、 2000.3.27 ~ 4.6	280	区画整理道路	縄文時代土坑 1、鏡土跡 1	大調 14
24	東久保 14 街区	2000.1.19	390	区画整理道路	遺構遺物なし	大調 14
25	東久保 18 街区 13 画地	(2000.4.13 ~ 14)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
26	東久保 31 街区 9 画地	(2000.4.14)	1,107	砂利敷駐車場	溝、ビット、縄文土器片	町内Ⅵ
27	東久保 26 街区	2000.5.17 ~ 6.8	560	区画整理調整池	縄文時代ビット 15、近世土坑 1、棚列 1、溝 2	大調 14
28	東久保 14 街区 8 画地	(2000.6.29 ~ 7.4)	130	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
29	東久保 4 街区 18・20 画地	(2000.6.30 ~ 7.4)	218	個人住宅	溝 2	町内Ⅵ
30	東久保 294 番 2	2000.7.4	48	区画整理道路	溝状遺構、遺物なし	大調 14
31	東久保 15 街区 26 画地	(2000.6.7)	126	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
32	東久保 277・381 番地他	2000.7.12 ~ 8.4	265	区画整理道路	旧石器時代石器製作跡 2、縄文時代土坑 2、ビット 12、時期不明の溝・棚列各 1、ナイフ形石器他	大調 14
		2001.7.16 ~ 11.30	590			
33	東久保 15 街区 24 画地	(2000.8.2 ~ 3)	128	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
34	東久保 18 街区 15 画地	(2000.8.29 ~ 30)	110	個人住宅	ビット 4	町内Ⅵ
35	東久保 23 街区 3・4 画地	(2000.12.7 ~ 9)	139	個人住宅	溝 1、ビット 1	町内Ⅵ
36	東久保 15 街区 21・22 画地	(2001.1.19 ~ 25)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
37	東久保 15 街区 13・33 画地	(2000.12.11)	149	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
38	東久保 284-1、285-1	2000.12.13 ~ 15	501	区画整理道路	縄文時代ビット 1、遺物なし	大調 14
39	東久保 4 街区 8・9 画地	(2001.3.22 ~ 27)	317	個人住宅	縄文時代落とし穴	町内Ⅵ
40	東久保 270-3・4	2001.3.23・2001.6.1	128	区画整理道路	遺構遺物無し	大調 14

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
41	東久保4街区6・7画地	(2001.5.28～29)	112	個人住宅	近世以降の溝1、遺物なし	町内X
42	東久保19街区10画地	(2001.4.18～21)	864	駐車場	近世以降の溝1、遺物なし	町内X
43	東久保15街区14・15画地	(2001.5.22～25)	142	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
44	東久保19街区9・11・12画地	(2001.5.10～6.29)	757	倉庫	縄文時代落とし穴1、風倒木跡、ビット5、溝2、縄文土器・石器他	町内X
45	亀久保258-21	(2001.6.1)	100	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
46	東久保17街区3・4画地	(2001.6.4～6)	135	個人住宅	溝1、縄文土器片2、磁器片1	町内X
47	東久保31街区6・13画地	(2001.10.11～26)	1,203	店舗	縄文時代落とし穴1、溝1	町内X
48	東久保18街区9・10画地	(2001.12.12～25)	518	分譲住宅	遺構遺物なし	町内X
49	東久保13街区7画地	(2002.2.12～13)	100	分譲住宅	遺構遺物なし	町内X
50	東久保3街区22画地	(2002.9.24)	102	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
51	東久保18街区11画地	(2002.12.3)	155	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
52	東久保4街区3画地	(2003.2.6～7)	64	個人住宅	溝、井戸	町内X
53	東久保4街区10画地	(2003.5.7～22)	408	共同住宅	ビット1	町内X
54	亀久保宇東久保272 (19街区1画地)	(2003.5.9～22)	798	共同住宅	溝3、ビット4、落とし穴1	町内X
55	亀久保宇東久保488 (18街区7画地)	(2003.6.9～12)	165	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
56	亀久保宇東久保15街区12 画地	(2003.7.31～8.1)	165	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
57	亀久保258-26 (4街区14画地)	(2003.9.29～10.1)	133	個人住宅	遺構遺物なし	町内X
58	ふじみ野2-27-2	(2004.4.13～14)	558	分譲住宅	溝2	町内X
59	ふじみ野2-25-7～9	(2004.6.29) 2004.7.12～ 23	1,804	店舗	土坑4、ビット9、溝2	町内X、大調14
60	ふじみ野2-26-16	(2004.7.22～24)	337	個人住宅	ビット1	町内X
61	東久保26街区	2004.9.29～11.26	2,376	区画整理 公園緑地	縄文時代土坑7、ビット9、溝6、(調査区内の一部は第 27地点で調査済)	大調14
62	ふじみ野2-5-16	(2004.10.12～15)	220	宅地造成	溝3	町内X
63	ふじみ野2-5-10・12	(2006.2.1)	105	個人住宅	遺構遺物なし	市内2
64	ふじみ野2-18-6の一部	(2006.10.12～20) 2006.10.24～26	437	共同住宅	近世の棚1、溝4	市内3
65	ふじみ野2-22-2、5～7	(2008.1.18～28)	260	小学校増築	遺構遺物なし	市内4
66	ふじみ野2-19-4、19-5	(2008.5.22～6.11)	862	分譲住宅	溝3	市内6
67	ふじみ野2-25-10・11	(2009.11.9)	492	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
68	ふじみ野2-18-3	(2010.11.22～26) 2010.11.29～12.8	791	分譲住宅	縄文時代礫石1、近世以降溝跡2、棚1、本調査	市内9
69	ふじみ野2-22-2・3・5の 一部・6・7	(2011.3.28)	17,276.3	小学校増築	遺構遺物なし	市内10
70	ふじみ野2-18-8・9・10	(2013.1.16～24)	1,156	共同住宅	遺構遺物なし	市内15
71	ふじみ野2-27-1・9	(2013.6.17～19)	998	店舗	溝1、遺物なし	市内18
72	ふじみ野2-6-7	(2015.7.2)	100	個人住宅	溝1、遺物なし	市内22
73	ふじみ野2-3-14	(2017.6.19)	62.35	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
74	ふじみ野2-19-2・3	(2017.8.1・2)	239	個人住宅	ビット1、古銭	市内24
75	ふじみ野2-3-13・24	(2017.12.18)	96.87	個人住宅	遺構遺物なし	市内24

Ⅲ 東久保遺跡第74地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年8月1・2日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約40～50cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、時期不明のビット1基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

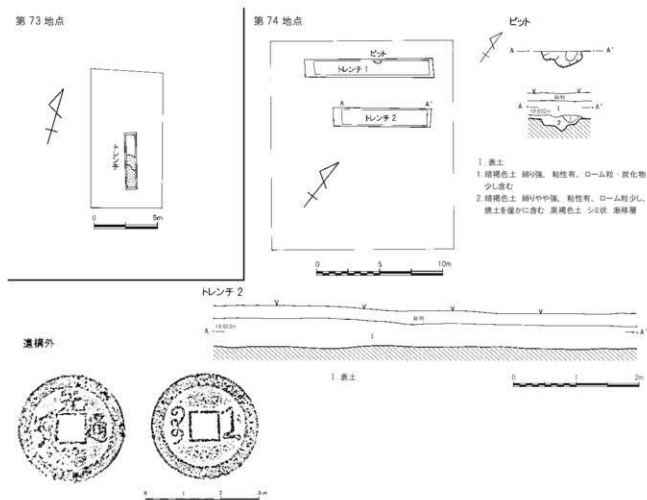
(2) 遺構と遺物

① ビット

ビットは調査区北側、トレンチ1に位置する。調査区の北壁面で確認したため、完掘してない。平面形態は不明で、遺構の規模は確認直径62×(24)cm、底径(16)×14cm、深さ20cmを測る。出土遺物はない。土層の観察から近世以降のものと推察される。

② 出土遺物

遺構外から銅貨が1点出土した。径2.8cm、孔0.7cmの光緒通宝である。(1875年以降)



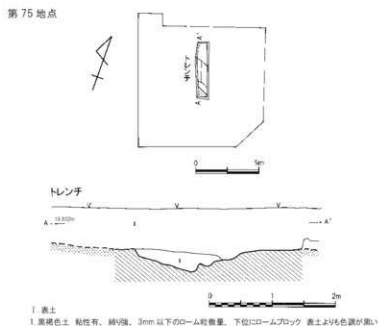
第86図 東久保遺跡第73地点調査区域図・第74地点遺構配置図(1/300)、土層・ビット(1/60)、出土遺物(1/1)

IV 東久保遺跡第75地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年12月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年12月18日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1mのトレンチ1本を設定し、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmであった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第87図 東久保遺跡第75地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第 15 章 亀久保堀跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は、福岡江川とさかい川間の低位台地に位置している。遺跡の標高は 18.0～21.0 m で、堀跡は自然の地形を考慮せずに直線的にのびる。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。

これまでの調査から、堀跡は福岡江川付近から南下し江川南遺跡の中央部を南北にのびた後、地藏院の東約 80 m 付近で南東に向きを変える。向きを変えた堀跡は、東久保遺跡と東久保西遺跡の間を約 600 m 以上直線で延び富士見市域へと続く。富士見市域では調査が行われていないため遺跡の有無は不明である。

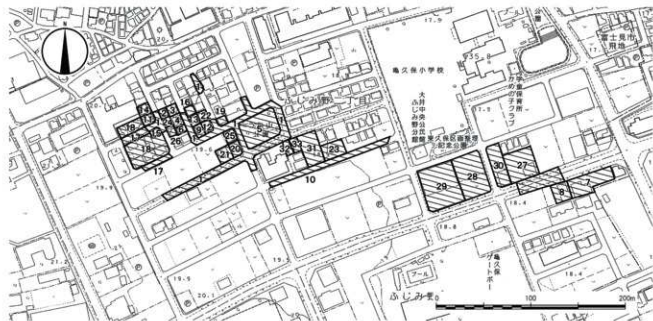
堀跡の規模は上幅約 3 m、底幅約 1.5 m、深さは地表面から約 1 m、長さは 800 m 以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが出土遺物は無く、時代などは不明であるが、本遺跡の第 30 地点と江川南遺跡第 17・19 地点の調査で検出した堀跡の覆土層に含まれるテフラ分析を行った結果、堀跡の時期が平安時代の 11 世紀以前に遡るとする検査結果が出ている。

II 亀久保堀跡遺跡第 32 地点

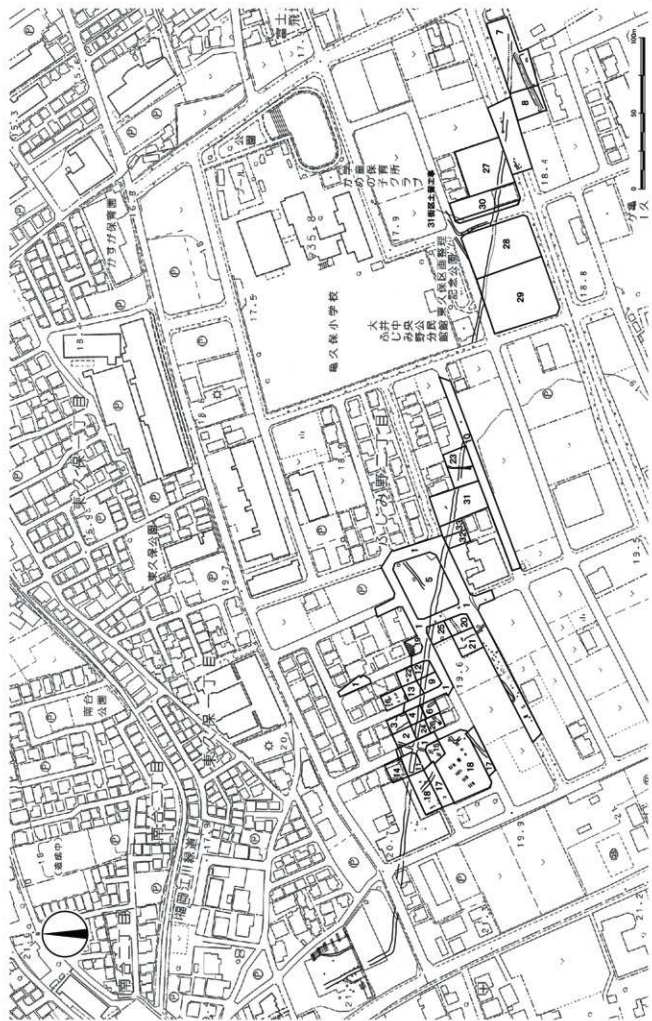
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 8 月 1 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017 年 8 月 7 日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅 1.5 m のトレンチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から 70cm を掘削したが、地山ローム層を確認できなかった。保護層が確保できるため、これ以上の掘削は行っていない。

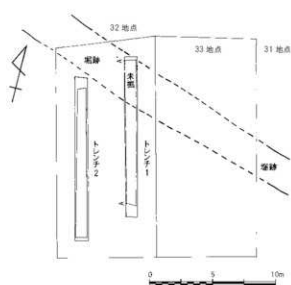
遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



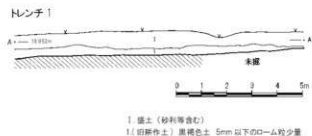
第 88 図 亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 89 図 亀久保堀跡遺跡分布図 (1/2,500)



第90図 亀久保掘跡遺跡第32地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)



第51表 亀久保掘跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保 260-1・2 地	<A~C区>1997.4.2~6.19 <D区>1997.9.8~9.12 <E区>2000.5.16~19	2,610 120	区画整理道路	縄文: 屋外炉 1、土坑 3、ビット 73、中世: 堀跡、溝 6、縄文土器片他。(旧東久保遺跡第 7 地点)	大調 14
2	亀久保 6 街区 4・5 画地	(1997.9.11~25)	127	個人住宅	近世以降: 溝 2	町内VII
3	亀久保 6 街区 7・8 画地	(1997.9.11~25)	130	個人住宅	近世以降: 溝 1	町内VII
4	亀久保 6 街区 9・10 画地	1997.9.11~25	113	個人住宅	中世: 堀跡	町内VII
5	亀久保 264-1・2・3、266 (2 号緑地)	1997.9.22~10.27	1,200	区画整理公園	縄文: 落とし穴 1、土坑 4、中世の堀跡、溝 2、欄列 1	大調 14
6	亀久保 6 街区 11・12 画地	(1997.9.11~25)	102	個人住宅	中世: 堀跡、近世以降の溝 1	町内VII
7	亀久保 32 街区 5・6 画地	(1997.10.29~11.4) 1998.2.2~2.19	739	店舗	縄文: 落とし穴 1、中世の堀跡、溝 2、欄列 1	町内VII・VII 本誌
8	亀久保 32 街区 7 画地	(1998.11.12~16)	165	砂利敷駐車場	中世: 堀跡	町内VII
9	亀久保 32 街区 2 画地の一部	(1998.2.6~19)	318	共同住宅	近世以降: 溝 2、欄列	町内VII
10	亀久保 5 街区 9・10 画地	1998.2.24~3.10 <A区>1998.3.9~16 <B区>1998.4.23 <C区>1998.5.20~21	436 324	区画整理道路	縄文: 落とし穴 1、ビット 3、石鏝 1、近世: 陶磁器片	大調 14
11	亀久保 2 街区 12 画地	(1998.4.8~22)	151	個人住宅	中世: 堀跡	町内VII
12	亀久保 258-46	(1998.5.8~21)	123	個人住宅	中世: 堀跡	町内VII
13	亀久保 5 街区 11・12 画地	(1998.5.8~21)	107	個人住宅	中世: 堀跡	町内VII
14	亀久保 2 街区 11 画地	(1998.5.1~7)	132	個人住宅	近世以降: 溝 1	町内VII
15	亀久保 7-2 街区 4・画地	(1998.5.8~21)	111	個人住宅	近世以降: 溝 1	町内VII
16	亀久保 5 街区 18・19 画地	(1998.5.29~6.1)	117	個人住宅	溝 2	大調 14
17	亀久保 253・254 他	1998.10.21~12.2	360	区画整理道路	中世以降: 溝 2、近世以降: 土壁 2、旧石器: 剥片 2	大調 14
18	亀久保 7-2 街区 1・2・7~9 画地	(1998.11.3~30)	908	個人住宅 4 軒分	縄文: 落とし穴 1、溝 6、土坑 2、ビット 3	町内VII
19	亀久保 4 街区 11・12 画地	(1998.11.3~10)	99	個人住宅	溝 3、土坑 1、ビット 2	町内VII
20	亀久保 8 街区 5 画地	(1998.11.21~24)	185	個人住宅	溝溝・遺物無し	町内VII
21	亀久保 262・263・266	(1999.4.19~22)	232	個人住宅	溝 1、ビット 7	町内IX
22	亀久保 5 街区 7・20 画地	(1999.6.10~12)	99	個人住宅	近世以降: ビット 5	町内IX
23	亀久保 14 街区 10 画地	(1999.10.4~8)	386	駐車場	中世: 堀跡	町内IX
24	亀久保 6 街区 14 画地	1999.12.14~16	105	個人住宅	中世: 堀跡	町内IX
25	亀久保 8 街区 9 画地	2000.4.10~12	187	個人住宅	中世: 堀跡、土坑 1	町内IX
26	亀久保 6 街区 13 画地	(2000.5.11~17)	105	個人住宅	溝、欄列	町内IX
27	亀久保 31 街区 2・3 画地	(2000.5.29~6.1)	1,011	駐車場	中世: 堀跡	町内IX
28	亀久保 31 街区 2・3 画地	(2002.6.10~11)	980	店舗	試掘調査、整理作業中、土坑 2	町内IX
29	亀久保 29 街区 3・6・9 画地	(2000.9.28~29)	1,365	整地工事	中世: 堀跡 (西側半分は第 29 地点で再調査)	町内IX
29	亀久保 29 街区 1・2・7・8 画地	(2001.4.7) 2001.4.18~20	1,769	店舗	中世: 堀跡 (第 28 地点でプラン確認した部分の再調査)	町内XI
30	ふじみ野 2-25-1	(2005.1.11~12) 2005.1.31~2.7	695	店舗	中世: 堀跡、土坑 1 (黒柳木遺)	大調 14
31	ふじみ野 2-15-4	(2009.2.6~10) 2009.2.12~13	661	個人住宅	古代~中世: 堀跡 1	市内 6
32	ふじみ野 2-15-3	(2017.8.7)	136.4	個人住宅	堀跡、遺物なし	市内 24
33	ふじみ野 2-15-24	(2018.12.10)	138	個人住宅	堀跡、遺物なし	未報告
33	ふじみ野 2-15-24	2018.12.19~21				

第 16 章 東久保西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保西遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川間の低位台地に位置する。

遺跡の南側から東側にかけて埋没河川が流れ、現在では用水路になっている。以前は埋没河川を取り巻くように段差などが見られたが、こうした地形や環境も、区画整理事業と大規模な開発によりなくなりつつある。以前の標高は 18.0～21.0 m だったが、区画整理後は 19.5～20 m である。

周辺の遺跡は北西に江川南遺跡、北側に亀久保塚跡遺跡・東久保遺跡、南側に東中学校西遺跡が隣接する。

本遺跡は遺物の散布地であったが、1993 年に東久保西遺跡として新規登録し、さらに 1997 年東久保土地区画整理事業に伴い区画道路部分を調査した際、遺構の検出範囲が広がったため、遺跡の変更増を行った。

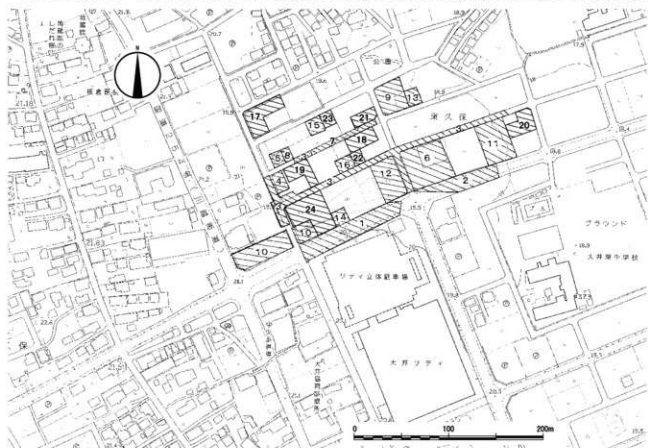
1994 年の初調査以来、2019 年 4 月現在 24 地点で調査を行ない、埋没河川であった用水路周辺から旧石器時代の礫群、縄文時代の落とし穴、屋外炉、中・近世の溝などを検出している。

II 東久保西遺跡第 22 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2016 年 11 月 15 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。協議の結果、遺構の存在を確認するため 2016 年 12 月 22 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1～1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。



第 91 図 東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第52表 東久保西道跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保 399-1、400-1、407-1、407-2、408-1	1995.1.9～2.1	1,392	区画整理道路	溝状プラン確認、遺物なし	大調 14
		(1993.8.24～26)	75	区画整理野坑	第1地点調査区内で工事立会、遺構遺物なし	
2	東久保 419-1 他	1997.11.27～1998.1.27 1998.2.23～3.9	1,400	区画整理道路	縄文時代の落とし穴1、土坑1、ビット16	大調 14
3	東久保	<A区>1998.1.19～2.3	680	区画整理道路	縄文時代の落とし穴1、土坑1、ビット9、溝3	大調 14
		<B区>1998.6.1～1 <C区>1998.7.14～29 <D区>1998.12.21～22 <E区>1999.1.18～22	1,754			
4	東久保 10 街区 1 画地	(1998.12.1～2)	298	砂利敷駐車場	溝1	町内VII
5	東久保 9 街区 9 画地	(1998.12.10～14)	194	個人住宅	遺構遺物なし	町内VII
6	東久保 12 街区 1・2・10 画地	(1999.2.9～15) 1999.2.24～3.1	1,959	店 舗	旧石器時代の石器ブロック3、縄文時代の落とし穴1 黒曜石製の磨器1	町内VII、大調 14
7	東久保 250-1 他	1999.6.8～7.24	528	区画整理道路	中近世以降の溝1	大調 14
8	東久保 9 街区 13 画地	(1999.11.2～5)	135	個人住宅	ビット1	町内IX
9	東久保 14 街区 1・2・12 画地	(2000.1.28～2.9)	1,074	共同住宅	溝1、ビット11	町内IX
10	東久保 11 街区 3・11 画地	(2000.5.8～10)	1,760	店 舗	遺構遺物なし	町内X
11	東久保 12 街区 5・9 画地	(2001.6.11～12)	1,445	駐車場	遺構なし、土器片3	町内XI
12	東久保 11 街区 9・13 画地	(2001.6.25～7.2)	1,074	店 舗	遺構なし、近世以降の陶磁器片7	町内XI
13	東久保 14 街区 11 画地	(2001.10.13～26)	275	個人住宅	黒色プラン確認、遺物なし	町内XI
14	東久保 11 街区 10 画地	(2002.1.31～2.4)	237	店 舗	遺構遺物なし	町内XI
15	東久保 9 街区 3 画地	(2003.2.3～5)	225	個人住宅	溝2、土坑1、ビット1	町内XII
16	東久保 10 街区 6 画地	(2003.6.3～4)	273	個人住宅	遺構遺物なし	町内XII
17	ふじみ野 2-9-1・2・3	(2006.10.26)	919	共同住宅	遺構遺物なし	市内3
18	ふじみ野 2-11-8・5	(2007.1.16～19)	478	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
19	ふじみ野 2-11-3・4	(2008.7.2～3)	824	個人住宅建設	遺構遺物なし	市内6
20	ふじみ野 2-13-7・8	(2012.12.20)	519	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
21	ふじみ野 2-10-8	(2013.1.31)	319	コンテナ設置	近現代イモビッツ1、遺物なし	市内15
22	ふじみ野 2-11-11	(2016.12.22)	185	個人住宅	遺構なし、土器片	市内24
23	ふじみ野 2-10-5	(2017.4.20)	237	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
24	ふじみ野 2-12-2	(2018.10.2～4)	1,586	異店舗	遺構なし、土器片、土師器、瓦	未報告

現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。遺構は確認されなかったが、表土中より土器片数点が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて表土中より出土した。1 は土師器壺の底部である。底径 5.8 cm、外面はヘラケズリと指ナデ、内面はヘラナデで調整し、赤彩を施す。7 世紀代のものか。2 は陶器片で、器種は不明。内外両面に鉄銹を施す。肥前産か。近世以降のものであろう。

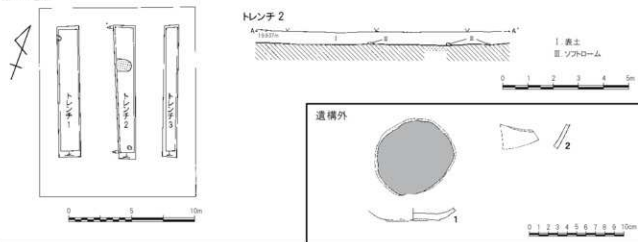
Ⅲ 東久保西遺跡第 23 地点

(1) 調査の概要

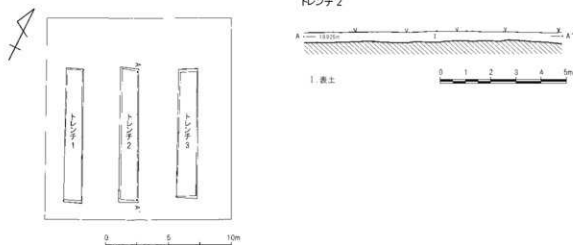
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 3 月 24 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017 年 4 月 20 日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 20～30 cm であった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 22 地点



第 23 地点



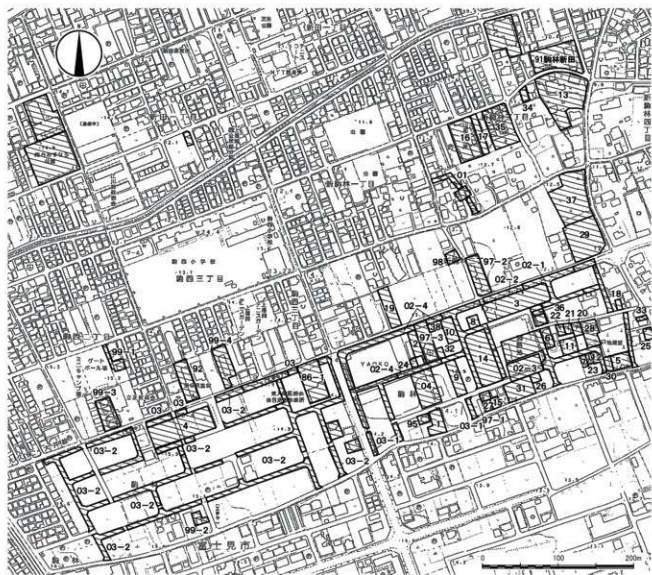
第 92 図 東久保西遺跡第 22・23 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、第 22 地点出土遺物 (1/4)

第17章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年～2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葎石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。



第93図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

第 53 表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
86-1	駒林字南原 353・354	1986.13～25	1,536	範囲確認	溝、土師器	上埋区
91 駒林新田	駒林新田 727-1-3	1991.8.3	2,186	共同住宅	遺構遺物なし	上埋 14
92	駒林字南原 341	1992.9.16～18	987.6	共同住宅	遺構遺物なし	上埋 15
95	駒林字新田前 271-2	1995.11.8～24	231	個人住宅	溝 1、遺物なし	上埋 18
96	駒林本町 153-3・4	1996.6.10～13	231	個人住宅	遺構遺物なし	上埋 19
97-1	駒林新田前 266-2	1997.5.8～12	132	個人住宅	溝 1、遺物なし	上埋 20
97-2	駒林字新田前 223	1997.5.9～15	991.55	共同住宅	溝 1、遺物なしピット 1、須恵器片	上埋 20
97-3	駒林字新田前 291-1・2	1997.10.6～17	991	診療所	溝 1、篋、すり鉢片	上埋 20
98	駒林字新田前 312	1998.8.10	234	個人住宅	遺構なし、陶磁器片	上埋 21
99-1	駒林字南原 424-2・20の一区、23	1999.4.9	330.38	個人住宅	遺構遺物なし	上埋 22
99-2	駒林字南原 394-2	1999.5.25	125.91	個人住宅	遺構なし、陶磁器片	上埋 22
99-3	駒林字南原 420-1	1999.7.1	1,322	礼拝堂	溝 1、遺物なし	上埋 22
99-4	駒林字南原 344-2	2000.1.18～20	785.79	共同住宅	溝 1、遺物なし	上埋 22
01	駒林 702・717の一部	2001.8.27～9.5	300	宅地造成	遺構なし、板碑片	上埋 25
02-1	駒林字新田前 238、240～242-1の一部	2002.6.3～21	650	区画整理予定地	溝 1、遺物なし	上埋 25
02-2	駒林字新田前 243～245	2002.8.9～30	275	区画整理予定地	溝 1、遺物なし	上埋 25
02-3	駒林字新田前 261-2、263、264の一部	2002.8.30～9.19	1,120	区画整理予定地	土坑 1、遺物なし	上埋 25
02-4	駒林字新田前 280～282-2、290、292-1～298	2002.11.11～27	1,150	区画整理予定地	溝 4、遺物なし	上埋 25
03-1	駒林字新田前 263、273、275	2003.5.16～21	558	土地区画整理	溝 1、遺物なし	上埋 26
03-2	駒林字南原 364 外 43 番	2003.4.25～12.22	7,278.5	土地区画整理	溝 3、遺物なし	上埋 26
04	駒林字新田前 281	2005.1.7～24	1,487	範囲確認	溝 1、カワラケ、動物の歯、骨	上埋 27
1	駒林土地区画整理事業地内 20 街区 4・8・9	2006.7.13～28	646	共同住宅	堀跡、茶臼跡検出	市内 3
2	駒林土地区画整理事業地内 17 街区 7・8の一部	2006.11.21～29	421	専用住宅	堀跡検出	市内 3
3	駒林土地区画整理事業地内 21 街区 3・4の一部	2006.11.30～12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内 3
4	駒林 8 地区 7 街区 3・4	2007.6.11～13	1,866	共同住宅	縄文：土坑 1	市内 4
5	大字駒林字新田前 256 (仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9～16) 2008.5.30～6.28	509	分譲住宅	縄文：集石 3、中近世：地下式土坑 1、竪穴式遺構 25、溝 4、棚列、ピット	市内 5・6
6	大字駒林字新田前 248-2 (仮換地 1 街区 27 符号 1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
7	駒林土地区画整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3) 2009.2.4・5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡 2	市内 6
8	大字駒林字新田前 245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
9	大字駒林字新田前 284	(2009.7.22～30) 2009.7.30～8.5	892	共同住宅	縄文：集石土坑 1、土坑 2、ピット 9、溝 1	市内 8
10	大字駒林字新田前 288-1の一部	(2010.2.17・18)	400	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
11	駒林区画整理事業 27 街区 2、10 画地、11 画地の一部	(2010.4.12～21)	689.45	個人住宅	遺構遺物なし	市内 10
12	駒林字新田前 258-2 (28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	市内 10

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑 2、ビット 11	市内 10
14	駒林字新田前 285～287、288-2・3 (22街区区内)	(2010.9.1～8)	2,000	公園工事	遺構遺物なし	市内 10
15	大字駒林字新田前 266-3 (24街区 12 符号)	(2011.2.16～17) 2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑 1	市内 10
16	新駒林 3-706	(2011.5.2～25) 2011.5.25～6.1	1,454	分譲住宅	堀、溝 1、井戸 2、土坑 2、ビット 4、縄文土器片、近世陶磁器	市内 14
17	新駒林 3-707	(2011.5.16～19)	495	分譲住宅		
18	駒林 234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28～5.2) 2011.8.25～31	238	個人住宅	土坑 2、近世陶磁器類破片	市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28～12.5) 2011.12.12	671	分譲住宅	中・近世の溝 1、縄文土器	市内 14
20	駒林元町 1-3-13	(2012.3.5～8)	178.8	共同住宅	土坑 1	市内 14
21	駒林元町 1-3-13の一部	(2012.3.5～8)	110	個人住宅	ビット 6、栗木炭 1	市内 14
22	駒林元町 1-3-20	(2012.3.5～8)	118	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
23	駒林元町一丁目 4 番 12	(2012.4.10～16)	127	専用住宅	ビット 2、溝 3 (うち 1 は壁状)、遺物なし	市内 15
24	駒林元町二丁目 1-7	(2012.5.16)	127	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
25	駒林元町一丁目 2 番 7	(2012.6.4)	212	個人住宅	遺構なし、土器	市内 15
26	駒林元町一丁目 5 番 16	(2012.8.29～30)	136	個人住宅	ビット 6、溝 1、遺物なし	市内 15
27	駒林元町 1-5-9・10	(2012.12.21)	133	個人住宅	時期不明土坑 1、遺物なし	市内 15
28	駒林元町 1-3-8・14～16	(2013.2.21～25) 2013.5.21～27	1,208	宅地造成	中近世以降礎跡、溝 1、磁器片、須恵器、陶器	市内 14
29	新駒林 2-231-1	(2013.6.3～17)	2,200	店舗	土坑 2、溝 6、石器、近世陶磁器	市内 18
30	駒林元町 1-3-7	(2013.6.19～20)	68.16	個人住宅	近世以降ビット 3、陶磁器	市内 18
31	駒林元町 1-5-5・6	(2013.9.17～27)	925	宅地造成	溝 4、遺物なし	市内 18
32	駒林元町 2-1-16	(2014.2.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
33	駒林元町 1-2-2	(2016.4.11)	129.6	個人住宅	遺構なし、土器片、須恵器	市内 24
34	新駒林 3-725-3	(2016.10.14)	163	共同住宅	泥面子、陶磁器	市内 24
35	新駒林 3-709-1～4、710-1・2	(2017.7.27・28、 8.21・22) 2017.8.23 ～9.4	1,815	分譲住宅	礎跡 (古代～中世) 溝 4、土坑 2 (時期不明)、石器、古銭、埴輪	市内 23
36	駒林元町 1-7-4	(2017.9.19)	160	消防団倉庫	遺構遺物なし	市内 24
37	新駒林 2-216-1、217-1	(2018.3.5～7) 2018.3.12～16	2,515	店舗	礎跡 1 (中近世)、溝 1 (近世以降)、陶磁器片、泥面子、土器片、砥石、須恵器	市内 23
38	駒林元町 2-1-3	(2018.5.8)	396.06	店舗兼共同住宅	遺構なし、土器片	未報告

II 駒林遺跡第33地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年3月30日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年4月11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。地山ローム層までの深さは約50cmである。遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。表土中よりわずかに土器片が出土した。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて表採または表土中より出土した。詳細については第54表及び第93図に掲載した。

III 駒林遺跡第34地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月22日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年10月14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40cmである。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

遺物は表土中より出土した。詳細については第54表及び第94図に掲載した。

第54表 駒林遺跡第33・34地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

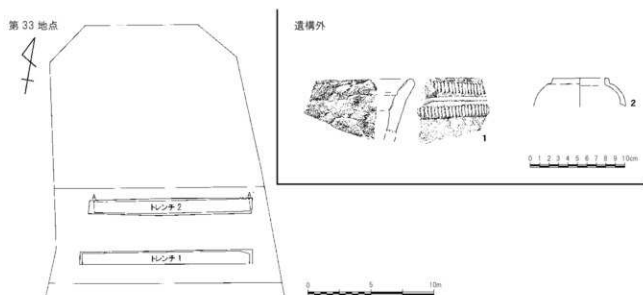
地点	図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法/文様/備考	時期/型式
第33地点	第94図-1	遺構外	縄文/浅鉢	—	—	—	内面口縁部に沈線と押引文/胎土に雲母を含む、内面にハジケ	中期/五領ヶ台
	第94図-2		土器/壺	(6.0)	—	—	輪轆成形/素焼きの小壺	近世以降か
第34地点	第94図-1		磁器/皿	(11.0)	(7.0)	(1.9)	輪轆成形/型紙染付/漢詩文、瀬戸美濃	1880年代以降
	第94図-2		土製品/泥面子	2.5	2.4	0.9	型押し成形/芥子面(ひよっこ)、裏面に指頭痕	近世以降

IV 駒林遺跡第36地点

(1) 調査の概要

調査は消防団車庫の建設に伴うもので、原因者より2017年9月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年9月19日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～70cmであった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



トレンチ2



I. 緑褐色土 粘り肌、粘性有、黄土にローム少気状・20mm以下ローム粒少し含む
 II. ソフトローム、黄褐色土 粘りやや強、粘性有

第34地点

遺構外



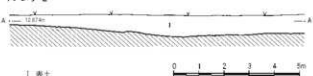
トレンチ4



I. 黄土
 1. 緑褐色土 粘性有、粘り有、20mm以下ロームブロック多量に含む
 2. 緑褐色土 粘性有、粘り有、5mm以下ローム粒少量含む
 3. 緑褐色土 粘性有、粘り強、10mm以下ロームブロック少量含む

第36地点

トレンチ2



I. 黄土

第94図 駒林遺跡第33・34・36地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、第33・34地点出土遺物 (1/4・1/1)

第18章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高7～10m前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間（1648～52年）に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西25町許、南北5町」とあり、東西約2.7km・南北約500mである。

遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北230m、東西240mであるが、広がる可能性もある。

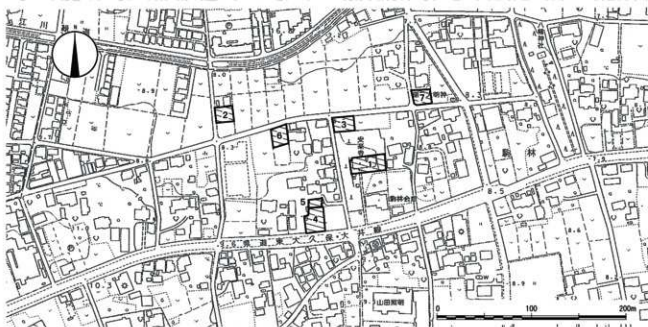
遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200m東側に鷺森遺跡、350m西側に駒林遺跡（2008年駒林新田前遺跡と統合）がある。

本遺跡周辺の調査は、1982年新田2丁目の試掘調査以来、2018年4月現在6ヶ所で実施している。2013年1月、第4地点の本調査で奈良平安時代の住居跡1軒を検出、遺物も出土している。

II 福岡新田遺跡第6地点

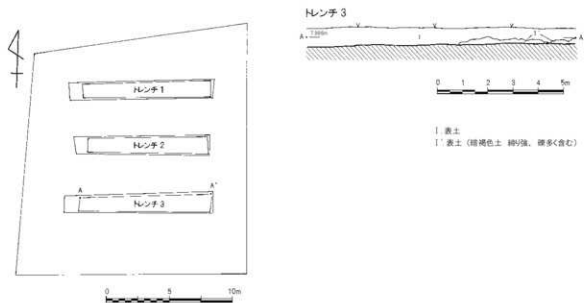
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年4月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中心部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年7月13日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～80cmであった。



第95図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第96図 福岡新田遺跡第6地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第55表 福岡新田遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1982年度 新田2丁目 遺跡試掘	新田2-481～482	(1982.8.27～9.14)	1,454	民間開発	近世陶磁器、松山道跡に変更	上埋V
1989年度 新田遺跡試掘	新田字本新田400-1	(1989.6.22～27)	495	宅地造成	遺構遺物なし、松山道跡に変更	上埋12
1991年度 福岡新田試掘	柳林817-1	(1991.4.23～26)	482	個人住宅	自然堤防でなく後世盛土	上埋14
1991年度 柳林新田試掘	柳林新田727-1-3	(1991.8.3)	2,186	共同住宅	遺構遺物なし、柳林道跡に変更	上埋14
1992年度 福岡新田試掘	中福岡362	(1992.7.17～22)	998	共同住宅	遺構遺物なし、松山道跡に変更	上埋15
1	柳林字寺脇 861-1、 866-1、862・864・ 865の一部	(2007.10.9～24)	1,754	寺院建設	中・近世以降の土坑6、溝5、縄文土器、近世陶磁器	市内4
2	柳林字寺脇 841-3	(2011.9.12～14)	231	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
3	柳林字寺脇 869-4	(2012.12.18) 2012.12.19～21	281.49	個人住宅	土坑3、溝4、ビット10、土層	市内15
4	柳林859-1	(2013.1.7) 2013.1.8～23	568	柳林会館	平安時代住居1、土坑4、溝2、近世以降のイモビツ、土師器、陶磁器	市内15
5	柳林寺脇 852-2・7	(2013.12.18・19)	153	個人住宅	遺構なし、平瓦	市内18
6	柳林寺脇 845-2	(2017.7.13)	331	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
7	柳林寺脇 883-1	(2019.3.14・26)	412	個人住宅	ビット1、土坑1、土器片、石器、須恵器、陶磁器	未報告

第19章 東久保南遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約400～500m程下った左岸に位置している。標高19～21mで現谷底との比高差は1m以下でほぼ平坦である。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧き水源をもつ伏流水で現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がり、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚がある。周辺の遺跡は、さかい川の対岸に西ノ原遺跡、下流の左岸には中沢遺跡がある。

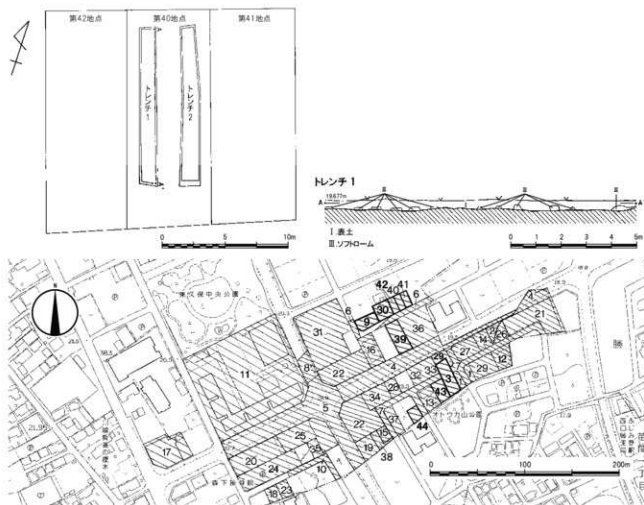
2019年4月現在44ヶ所で調査が行われ、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒（1軒は富士見市域内）、縄文時代の落とし穴・土坑・炬穴や時期不明の溝跡が確認されている。

II 東久保南遺跡第40地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年3月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年3月13日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmである。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第97図 東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第40地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第56表 東久保南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は証照調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保字東久保 547	1981.11.24～12.14	320	農地天地返し	溝1、縄文土器、石器、近世・内瓦土器 3	東部Ⅲ
2	東久保字東久保 546-2	1983.5.30～6.2	264	住宅建設	ピット1	東部Ⅴ
3	東久保字東久保 549-4	1983.6.7～7.4	326	住宅建設	溝1、縄文土器、寛永通寶1	東部Ⅴ
4	東久保 549-1 他	1993.12.1～3.18 1994.9.26～11.22	1,680 444	区画整理道路	縄文中期・住居跡1、落し穴1、炉穴3、土坑8、ピット37、平安・住居跡1、中世以降：溝6、縄文土器等コンテナ1箱、須恵器・土師器	大調14 町内Ⅳ
5	東久保 557-1、559-560 他	1994.9.26～12.19 (1996.6.17～21)	2,500 680	区画整理道路	縄文・土坑2、ピット12、旧石蔵1、縄文土器片	大調14 町内Ⅵ
6	東久保 551-4 他	1995.6.20～7.11 1995.11.22～12.6	480	区画整理道路	縄文・土坑3、ピット24、溝1、縄文土器片、陶磁器片	大調14
7	東久保 554 他	1995.7.12～12.5 1996.8.23～26	1,500 360	区画整理道路	縄文・落し穴1、土坑39、ピット60、近世：溝6、楕円1、縄文土器片、陶磁器片	大調14 大調14
8	東久保 494 他	1995.11.16～12.13 1996.2.14～22	467 75	区画整理道路	縄文・土坑7、ピット48、縄文土器片	大調14 大調14
9	東久保 518-1	(1996.7.1～3)	225.02	個人住宅	縄文早期：炉穴1、ピット2、近世以降：溝1	町内Ⅴ
10	東久保 562 他	1996.8.19～26	440	区画整理道路	ピット1	大調14
11	東久保 464、499 他	(1996.11.22～ 1997.1.31)	10,500	共同住宅	時期不明：ピット7、土坑1、溝8	町内Ⅵ
12	東久保 64 街区1 画地	(1997.5.8～16) 1997.5.19～6.7	446	個人住宅	縄文・落し穴1、平安・住居跡1、土坑1、須恵器・土師器	町内Ⅶ
13	東久保 62 街区1・2・3 画地	1997.8.25～9.1	460	個人住宅	縄文・土坑1、ピット4、溝1	町内Ⅶ
14	東久保 63 街区2 画地	(1998.6.23～7.1)	333	個人住宅	縄文・落し穴1、屋外貯蔵2、土坑1、ピット4、溝1	町内Ⅶ
15	東久保 60 街区6 画地	(1998.7.4～7.9)	143	個人住宅	縄文・落し穴1	町内Ⅶ
16	東久保 59 街区3 画地	(1998.12.12～.14)	541	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	町内Ⅶ
17	東久保 46 街区 9-10-17 画地	1999.1.27～2.3)	1,264	自動車 ショールーム	ピット9、溝1	町内Ⅶ
18	東久保 48 街区4 画地	(1999.5.14～18)	202	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅷ
19	東久保 60 街区6 画地	(1999.7.8～12)	466	駐車場	溝状のプラン3本確認	町内Ⅷ
20	東久保 49 街区1 画地	(1999.12.22～ 2000.1.15)	1,106	店舗	遺構遺物なし	町内Ⅷ
21	東久保 64-1 街区	2001.1.15～31)	1,283	共同住宅	遺構遺物なし、水成堆積した黒色土を確認	町内Ⅷ
22	東久保 60 街区1 画地	(2001.2.4～15) 2001.2.14～26	2,703	中古車展示場	縄文早期：礫石土坑1、炉穴14、落し穴1、ピット11、中・近世：溝2、縄文土器、石器	町内Ⅷ、大調14
23	東久保 48 街区6 画地	(2001.3.7～8)	208	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅷ
24	東久保 49 街区6 画地	(2001.4.2～8)	1,051	共同住宅	遺構遺物なし	町内Ⅷ
25	東久保 49 街区2-3 画地	(2001.9.26～10.12)	1,388	中古車展示場	溝4、ピット33	町内Ⅷ
26	東久保 63 街区3 画地	(2001.10.30～11.1)	208	店舗	遺構遺物なし	町内Ⅷ
27	東久保 63 街区1 画地	(2002.5.29～6.7)	610	共同住宅	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
28	東久保 549-1、5503 (60 街区3・4 画地)	(2002.9.13～21)	322	共同住宅	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
29	東久保 64-1 街区1・4 画地	(2003.3.17～20) 2003.3.24～4.7	736	駐車場造成	証照調査後本調査、縄文中期・住居跡1、炉穴12 土坑3、奈良・平安・住居跡1、溝3、縄文土器、石器、土師器	大調14
30	東久保 58 街区13 画地	(2003.8.4～5)	164	個人住宅	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
31	東久保 59 街区1・2 画地 (60 街区4 画地)	(2003.8.21～10.5) 2003.9.3～10.2	2,948	店舗	証照調査後本調査、縄文早期：炉穴32、土坑6、ピット19、溝1、縄文土器	大調14
32	ふじみ野 4-9-4 の一部 (60 街区4 画地)	(2004.1.26～29)	289	店舗	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
33	ふじみ野 4-9-4	(2004.7.8～9)	354	店舗	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
34	ふじみ野 4-9-2 (60 街区2 画地)	(2004.7.8～12)	555	共同住宅	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
35	ふじみ野 1-5-8	(2005.1.17)	194	個人住宅	証照調査、整理作業中	町内Ⅷ
36	ふじみ野 4-8-7	(2005.1.21～27) 2005.2.2～17	1,005	事務所建設	縄文・落し穴1、土坑2 (風衝木彫)、溝3、縄文土器片	町内Ⅷ、大調14
37	ふじみ野 4-10-1	2005.1.7	695	駐車場	遺構遺物なし	町内Ⅷ
38	ふじみ野 4-9-11・12	2010.10.13	177	個人住宅	遺構なし、縄文土器片、近世陶磁器片	市内10
39	ふじみ野 4-8-6	(2011.8.11～16)	695	事務所	遺構遺物なし	市内14
40	ふじみ野 4-7-17	(2012.3.13)	114	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
41	ふじみ野 4-7-18	(2017.5.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
42	ふじみ野 4-7-11	(2017.10.27)	114	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
43	ふじみ野 4-11-2・7	(2017.11.1・2) 2017.11.14～15	469	共同住宅	縄文時代住居跡1、ピット4、近世以降溝1、縄文土器、陶磁器	市内23
44	ふじみ野 4-10-2	(2018.4.23)	289	個人住宅	遺構なし、土器片、須恵器、陶磁器	未報告

III 東久保南遺跡第 41 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年5月15日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年5月30日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1.3mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmであった。

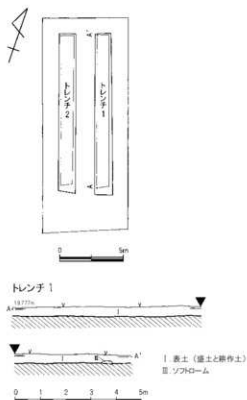
遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

IV 東久保南遺跡第 42 地点

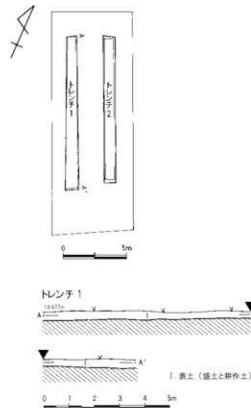
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月16日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017年10月27日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30cmであった。

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 41 地点



第 42 地点



第 98 図 東久保南遺跡第 41・42 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

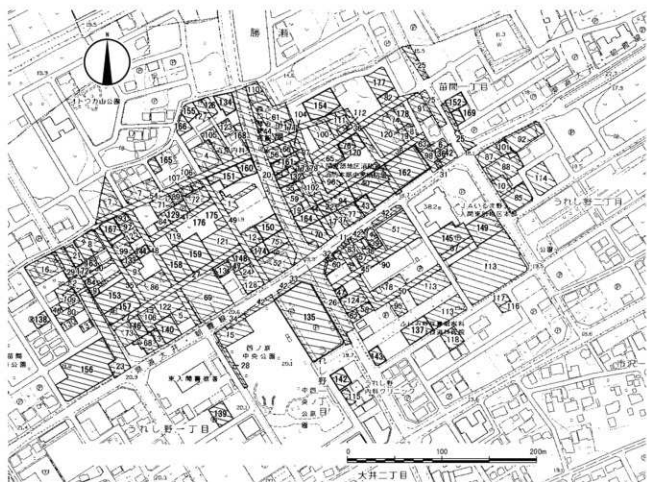
第20章 西ノ原遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水道となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2019年4月現在で178地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第99図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第57表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構・遺物	所収 報告書	地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収 報告書
1		1971			住居跡1, 土坑3, 集石土坑1	初探1	44		1990.6~8		区画道路	溝内埋没, 伊六1, 集石土坑1, 土坑1	大調6
2	西ノ原 83	1978.12.6 ~ 12.26	270	宅地造成	住居跡1, 土坑1, 集石土坑1, 溝文土器 1979 (西ノ原遺跡)	西ノ原	45		1991.2	3,224	区画道路	溝内埋没, 伊六1, 集石土坑1, 土坑1	大調6
3		1979.3		宅地造成	土坑のみ出土		46	箇所 83-2	1991.4.9 ~ 10	199	個人住宅	遺構なし, 土器のみ出土	区内I
4	西ノ原 125-1	1979.7.2 ~ 9	668	宅地造成	遺構なし, 溝文土器	東部I	47	箇所 136-2	1991.7.15 ~ 7.26	141	個人住宅	遺構なし, 石鏡, 土器のみ	区内I
5		1979.8.1 ~ 14		町改組事業	住居跡1, 土坑1, 早期土器2, 溝文土器1 (大井町史料7集)	大史7	48		1991.9 ~ 10		区画道路	溝文土器, 土坑3	大調6
6	西ノ原 170-2	1980.6.19 ~ 27	450	宅地造成	住居跡1, 土坑2, 溝文土器1, 伊六土器1	東部II	49		1991.12 ~ 1992.1	2,610	区画道路	溝文土器, 土坑6	大調6
7	西ノ原 96-1	1980.10.1 ~ 29	563	宅地造成	伊石器群跡1, 溝文土器1	東部II	50		1991.11 ~ 12		区画道路	溝文土器, 土坑3	大調6
8	西ノ原 95-2・3	1980.10.30 ~ 11.14	661	宅地造成	縄文集石土坑2, 土坑1, 溝2, 溝文土器1	東部II	51	箇所 153-2	1991.2.24 ~ 12	1,190	モデルルーム	溝文土器, 土坑2, ビット5	大調5
9	西ノ原 93-1, 98-1	1981.6.1 ~ 23	600	宅地造成	住居跡1, 溝2, 石鏡, 土器	東部II	52	箇所 122	1991.2.10 ~ 20	984	ガソリンスタンド	溝文土器, 土坑5, 溝内埋没, ビット19	大調5
10	西ノ原 180-2	1981.11.4 ~ 13	400	個人住宅	住居跡1	東部III	53	西ノ原 135-2	1992.6	261	分譲住宅	遺構なし	区内II
11	西ノ原 143-4	1983.5.23 ~ 27	198	宅地造成	縄文土坑1, 溝文土器1	東部V	54		1992.5 ~ 7		区画道路	集石土坑1, 土坑1	大調6
12	西ノ原 123-3	1983.7.6 ~ 8.1	330	宅地造成	溝文土器1, 溝文土器39	東部V	55	西ノ原 135-5	1992.5.11 ~ 6.23	241	駐車場	溝文土器, 土坑2, 伊六土坑1	大調5
13	西ノ原 114-6	1983.9.13 ~ 10.18	350	宅地造成	溝文土器1, 溝文土器56, 集石土坑1, 溝1	東部V	56	西ノ原 133-2	1992.6.23 ~ 26	261	分譲住宅	集石土坑1, 土坑5, ビット6, 溝1	区内II
14	西ノ原 143	1983.10.24 ~ 11.7	240	宅地造成	溝文土器1, 集石土坑1, 溝1	東部V	57	西ノ原 143-3・4	1992.7.6 ~ 9.1	174	個人住宅	溝文土器, 土坑2, 土器1	区内II
15				共同住宅	縄文土器1, ビット6		58	西ノ原 137-2	1992.8.9	146	個人住宅	遺構なし, 縄文土器群	区内II
16					遺構なし	東部VI	59	西ノ原 135-1	1992.10.6 ~ 11.12	494	個人住宅	溝文土器, 土坑1, 伊六土坑1, ビット12	区内II
17	西ノ原 135-3	1985.5.13 ~ 22	165	宅地造成	縄文土器1, 溝1	東部VI	60	西ノ原 136-2	1992.12.10 ~ 25	253	個人住宅	溝文土器, 土坑1, ビット14, 溝と土坑1	区内II
18	西ノ原 141-2	1985.7.26 ~ 8.5	569	宅地造成	溝文土器1, ビット8	東部VI	61	西ノ原 139-1	1993.2	2,240	区画整理	溝文土器, 土坑1, 溝1	大調6
19	西ノ原 135-1	1986.7.8 ~ 21	230	宅地造成	溝文土器1, 溝文土器2	東部VIII	62						
20	西ノ原 135-1	1986.11 ~ 1987.4	3,553	区画道路	溝文土器跡1, 溝文土器跡12, 溝内埋没, 溝内埋没2, 溝と土坑40	大調6	63	西ノ原 162-3, 169	1993.4.13 ~ 22	147	共同住宅	伊六土坑1, 土坑3	区内II
21	西ノ原 95-1	1986.12.11 ~ 1987.1.9	447	住宅	伊六土器1	東部VIII	64	西ノ原 94-1	1993.4.27 ~ 28	327	共同住宅	伊六土坑1, 土坑1, 溝1	区内II
22		1987	480	農村集積	溝文土器1, 溝文土器11, ビット2	東部VIII	65	西ノ原 145-1	1993.6.7 ~ 11	615	共同住宅	溝文土器1, 伊六土坑1, 溝文土器	区内II
23		1987.7 ~ 8	1,024	区画道路	溝文土器1	大調6	66	西ノ原 133-2	1993.6.30 ~ 7.19	474	共同住宅	近代瓦葺, 溝文土器	区内II
24		1987		区画道路	溝文土器1, 溝文土器2, 溝文土器1	大調6	67	西ノ原 159-2	1994.1.20 ~ 21	308	倉庫	溝文土器, ビット, 近代瓦葺	区内II
25		1988.1 ~ 2	781	区画道路	遺構なし	大調6	68	西ノ原 91-2・6	1994.3.22 ~ 25	285	店舗住宅	遺構物なし	区内III
26		1988.3 ~ 4	1,649	区画道路	住居跡1, 土坑9, ビット, 溝内埋没1	大調6	69	箇所 106	(1994.4.8 ~ 27), (1994.5.16 ~ 10.24)	1,821	店舗	溝文土器, 土坑6, ビット11, 溝1	大調13
27		1988.10	942	区画道路	溝文土器1, 溝文土器2, 伊六土坑1, 集石土坑1	大調6	70	箇所 136	1994.5	551	店舗	溝内埋没4, 土坑14	大調6
28		1988.11		区画道路	遺構なし	大調6	71	箇所 112	1994.6 ~ 7	309	個人住宅	溝と土坑1	区内IV
29		1988.12		区画道路	遺構なし	大調6	72	箇所 112-109	1994.11.2 ~ 28	321	個人住宅	溝文土器, 土坑3, 溝2	区内IV
30		1989.2 ~ 3		区画道路	土器1	大調6	73	箇所 92-1	1994.3.27 ~ 29	274	個人住宅	遺構物なし	区内IV
31	西ノ原 115-1	1989.11.4 ~ 11	21	下水道管理	遺構なし	大調6	74	箇所 163	(1994.4.21 ~ 5.13)	169	事務所	ビット6	区内V
32	西ノ原 122	1989.1.10 ~ 19	21	区画道路	溝文土器1, 溝文土器1, 溝外埋没1	東部IX	75	箇所 122	(1995.5.16 ~ 23), (1995.6.2 ~ 9.23)	379	事務所	溝文土器1, 土坑4, 集石土坑1, 土坑1	大調13
33	西ノ原 153-2	1989.1.10 ~ 19	21	区画道路	溝文土器1	東部IX	76	箇所 151-2	1995.4.20 ~ 27	468	倉庫	遺構物なし	区内V
34	西ノ原 171	1989.1.24 ~ 31	21	区画道路	溝文土器1	東部IX	77	箇所 143-2	(1995.6.28 ~ 25)	347	店舗	溝文土器, 土坑1, 伊六土坑1, ビット5	大調13
35		1989.2 ~ 3		区画道路	溝文土器1, 土坑1	大調6	78	箇所 22-3-2	(1995.6.28 ~ 8.8)	45	貯水庫	溝文土器, 土坑3	区内V
36		1989.3 ~ 4	4,000	区画道路	溝文土器1, 溝文土器4, 溝文土器1, 溝と土坑2, 溝跡1	大調6	79	箇所 162-2	(1995.6.29 ~ 7.24)	135	個人住宅	遺構物なし	区内V
37		1989.5 ~ 8	200	区画道路	遺構なし	大調6	80	箇所 83-2	(1995.7.19 ~ 25)	319	駐車場	遺構物なし	区内V
38	西ノ原 142-2	1989.8.29 ~ 9.12	74	個人住宅	溝文土器1, 土坑1	東部X	81	箇所 169	(1995.8.2 ~ 7)	223	店舗付住宅	溝1, 遺物なし	区内V
39	西ノ原 142-2	1989.8.29 ~ 9.12	94	個人住宅	土坑2, 溝2	東部X	82	箇所 168	(1995.8.1 ~ 5)	249	事務所	遺構物なし	区内V
40		1989.9.18 ~ 10.16 ~ 1989.10.19 ~ 11.4	980	消火訓練	溝文土器1, 土坑4, 溝文土器1, ビット2	東部X	83	箇所 136-2	1995.8.23 ~ 10.21	190	個人住宅	溝文土器, 土坑2, ビット22	区内V
41		1989.9 ~ 10	476	区画道路	溝文土器1	大調6	84	箇所 108, 109	(1995.11.30 ~ 12.9)	135	個人住宅	土坑1, ビット5	区内V
42		1991.12 ~ 1992.7		区画道路	溝外埋没2, 土坑19	大調6	85	箇所 181-3	(1996.1.9 ~ 26)	654	パチンコ店	遺構物なし	区内V
43	箇所 153-3	1990.6.26 ~ 7.9	272	個人住宅	溝文土器1, 土坑3	東部XI	86	箇所 113-2, 93-1	(1996.4.19) ~ (1996.4.22 ~ 5.15)	698	個人住宅	土坑6, ビット26, 溝1	区内VI
							87	箇所 182-1	(1996.6.14 ~ 17)	344	学習館	遺構物なし	区内VI
							88	箇所 西ノ原 182-3, 189-2, 202-1	(1996.7.16 ~ 22) ~ (1996.8.1 ~ 8)	745	共同住宅	土坑3, ビット28, 溝1, 溝と土坑1, 溝	大調13

地点	所在地	調査期間 () は仮設調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構・遺物	所収 報告書
89	葛原 西ノ原 112	1996.7.17～18	143	個人住宅	集土層のみ	市内V
90	葛原 西ノ原 142-2	1996.7.31 1996.8.7～30	177	個人住宅	縄文中期遺跡2、伊 呂土、土灰、ビッド	市内VI
91	葛原 169	1996.8.1～5	477	店舗	遺構遺物なし	市内VI
92	葛原 192-2	1996.10.23～28	684	個人住宅	遺構遺物なし	市内VI
93	葛原 315	1996.10.22	141	分譲住宅	遺構なし、土層のみ	市内VI
94	葛原 145-2	1996.11.11～12	165	個人住宅	遺構なし、土層のみ	市内VI
95	葛原 154	1996.11.14～19	283	商業ビル	伊呂土	市内VI
96	葛原 441	1996.12.17～20 1997.1.9～14	333	個人住宅	縄文中期遺跡2、伊 呂土、土灰、ビッド	市内VI
97	葛原 97-2	1996.12.19～20	141	分譲住宅	遺構遺物なし	市内VI
98	葛原 171-2	1997.1.6	206	個人住宅	集土層	市内VI
99	葛原 97-1	1997.1.20～24	396	個人住宅	土灰1、雫と穴ト ビッド12、溝1	市内VI
100	葛原 150-2	1997.4.5～12	47	共同住宅	ビッド2、ビッド3	市内VII
101	葛原 183-1・3	1997.7.22～25	187	ビッドハウス	遺構遺物なし	市内VII
102	大井苗圃 23 街区 5 画地	1997.10.9～20	179	個人住宅	ビッド2、溝2	市内VII
103						
104	葛原 22 街区 2 画地	1997.10.6～8	223	個人住宅	溝2	市内VII
105	葛原 125-1, 126-2	1998.1.13～21	565	共同住宅	縄文中期遺跡1、伊 呂土、溝9	市内VII
106	葛原 112	1998.1.28～24	135	個人住宅	ビッド1	市内VII
107	葛原 112	1998.2.9～13	135	個人住宅	ビッド4、溝1	市内VII
108	葛原 91-1, 92-1, 99-1	1998.3.31 1998.3.17～17	413	個人住宅	縄文中期遺跡1、溝1 遺構遺物なし	市内VII
109	葛原 83-4, 429	1998.3.11～18	429	店舗・共同 住宅	遺構遺物なし	市内VII
110	葛原 146-2	1998.4.20～5.28	385	郵便局	雫と穴ト1、溝石3、 溝1	市内VII
111	大井苗圃 23 街区 9 画地	1998.10.23～27	354	個人住宅	ビッド1、近世の溝1	市内VII
112	大井苗圃 23 街区 9 画地	1999.2.8	144	個人住宅	近世の溝のみ	市内VII
113	大井苗圃 57・ 58 画地	1999.4.5～12.14 2001.6～3.13	2,817	店舗	旧国産材のユニット 、中期遺跡6、伊 呂土、土灰、ビッド、 近世溝	市内VII
114	西ノ原 194-1	1999.8.4～12	676	駐車場	雫と穴ト1、ビッド2	市内VII
115	大井苗圃 52 街区 3 画地	1999.9.27～29	135	事務所	遺構遺物なし	市内VII
116	大井苗圃 59 街区 11 画地	1999.12.2～3	119	個人住宅	遺構遺物なし	市内VII
117	大井苗圃 199-2	1999.12.2～4	131	店舗併用住宅	遺構遺物なし	市内VII
118	大井苗圃 59 街区 4 画地	2000.4.3～12	548	店舗住宅	遺構なし、縄文中 土層	市内X
119	大井苗圃 18 街区 4 画地	2000.11.15～12.6	221	倉庫	縄文中期遺跡3、土 灰1、近世溝1	市内X
120	大井苗圃 24 街区 4 画地	2001.5.7～15	1,120	共同住宅	遺構なし、縄文中 土層	市内X
121	葛原 1-15	2002.2.7～3.8	803	個人住宅	縄文中期遺跡2、土 灰2、ビッド35、近 世溝4	市内X
122	大井苗圃 14 街区 9 画地	2002.3.9～19 2002.6.21～7.22	593	共同住宅	縄文中期遺跡4、溝 3	市内X
123	大井苗圃 19 街区 10 画地	2002.9.3～9	252	共同住宅	新築のみ	市内X
124	葛原 137-2	2002.10.2～6 2002.10.8～11	524	個人住宅	縄文中期遺跡1、土 灰2、溝2	市内X
125	葛原 1-8-2	2003.2.14～19	182	個人住宅	ビッド3	市内X
126	葛原 1-13-6・7	2004.2.23～25	155	個人住宅	遺構遺物なし	市内X
127	葛原 1-13-4・19	2004.5.24～25	327	個人住宅	土灰1	市内X
128	葛原 1-16-9・10	2004.6.14～7.15 2004.7.16～9.29	614	店舗	縄文中期遺跡17、溝 石5、土灰1、ビッド1	市内X
129	葛原 1-11-5	2004.9.30～10.23	235	共同住宅	縄文中期遺跡1	市内X
130	葛原 1-5-8	2004.10.14～15	116	個人住宅	遺構遺物なし	市内X
131	葛原 1-5-13	2004.10.27	97	店舗併用住宅	遺構遺物なし	市内X
132	葛原 1-15-17	2005.7.28～8.2 2005.8.3～11	272	店舗併用 共同住宅	縄文中期遺跡3、伊 呂土、土灰1	市内X
133	葛原 1-8-8	2005.10.11～12	176	個人住宅	遺構なし、土層	市内2
134	葛原 1-13-8	2005.10.6～11	348	店舗	遺跡1	市内2
135	うれし野 1-5-2	2006.3.14～4.28 2006.5.29～6.19	3,341	共同住宅 分譲住宅	縄文中期遺跡1、伊 呂土	市内3
136	葛原 1-13-22・ 23	2007.11.5～12	257	学生寮	土灰1、ビッド3	市内4

地点	所在地	調査期間 () は仮設調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構・遺物	所収 報告書
137	うれし野 2-13- 5・6・7	2006.8.3～7	861	共同住宅	遺構遺物なし	市内3
138	葛原 1-4-7-8	2006.11.21～22	247.33	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
139	うれし野 1-4- 4・5・6	2007.2.1	474	共同住宅	遺構遺物なし	市内3
140	葛原 1-16-14 の 一部	(2007.5.7～10)	487	学習塾	遺構遺物なし	市内4
141	市丸 1-8-6	(2007.5.8～9)	73.5	店舗事務所	土灰1、ビッド1	市内4
142	うれし野 1-6-2	(2008.4.4～7)	296.01	倉庫(4/4)	遺構遺物なし	市内6
143	うれし野 1-7-3	(2009.3.23)	287	倉庫(2/5)	遺構遺物なし	市内6
144	葛原 1-8-11	(2009.9.18～25)	155	店舗事務 所	遺構遺物なし	市内8
145	うれし野 2-4- 1・10	(2010.7.23～8.25)	4,938	高齢者福祉 施設	近世以降の溝5	市内10
146	葛原 1-16-3	(2010.10.8～13)	246	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
147	葛原 1-16-8 の 一部	(2010.12.8～ 2011.1.18)	135	個人住宅	縄文中期遺跡1、溝 石1、土灰1、ビッド 1、近世溝2	市内10
148	葛原 1-16-8 の 一部	2011.1.19～2.1	211	個人住宅	縄文中期遺跡1、土 灰1、ビッド26、近 世以降溝2	市内10
149	うれし野 2-4-7	(2011.2.7～10)	628	高齢者福祉 ・倉庫施設	近世以降の溝1	市内10
150	葛原 1-14-18	(2012.1.23～16 2012.2.20～3.4)	108	宅地造成	縄文中期遺跡12、 溝石1、土灰2、ビ ッド3、縄文土層、 石層	市内11
151	葛原 1-14-18	2013.1.23～2.14	111	個人住宅	縄文中期遺跡3、溝 石1、土灰1、ビッド 1、近世溝2	市内15
152	葛原 1-14-19	2013.6.26～27	107	個人住宅	縄文中期遺跡3、土 灰1、ビッド2、縄文 土層・石層	市内15
153	葛原 1-14-17	2013.7.1～26	111	個人住宅	縄文中期遺跡3、土 灰1、ビッド2、縄文 土層・石層	市内18
154	葛原 1-14-1	(2012.1.25～27)	467	分譲住宅	溝1、縄文土層	市内14
155	葛原 1-12-3	(2012.1.27～31)	324	分譲住宅	遺構遺物なし	市内14
156	葛原 1-6-2 の 一部、1-6-4、5	(2012.5.28～30)	951	共同住宅	縄文中期遺跡1、溝 石1、土灰1、ビ ッド1、縄文土層	市内15
157	葛原 1-13-3・25	(2013.10.21～22)	234	分譲住宅	約表面から17m 程度 にわたる遺構まで看 取可能	市内18
158	葛原 1-17-1・2	(2013.11.26～ 12.5)	2,345.1	店舗併用工 場	縄文中期遺跡1、溝 石1、土灰1、ビ ッド1、近世溝1、 近世以降溝1(本溝 不可)	市内18
159	葛原 1-6-3	(2013.12.9～17)	602	分譲住宅	遺構遺物なし	市内18
160	葛原 1-15-6 の 一部	(2014.1.7～14)	739	共同住宅	縄文中期遺跡12 軒 あり、本溝調査	市内18
161	葛原 1-15-8	(2014.1.30～2.10 2014.3.4～5.2)	869	共同住宅	縄文中期遺跡9 (7 軒)、伊呂土、溝 石1、土灰1、ビ ッド1	市内16・18
162	葛原 1-14-2	(2014.4.15～16)	309	駐車場	土灰1、縄文土層	市内20
163	葛原 1-15-18	(2014.6.17 2014.6.18～23)	442	個人住宅	縄文中期遺跡2、土 灰1、土層、石層	市内20
164	葛原 1-13-2～ 5・11	(2014.8.29～9.4)	154.76	葬祭場	溝1(溝跡のみ)、中 世以降の溝1	市内20
165	葛原 1-7-10	(2015.2.2～3)	238.98	個人住宅	遺跡なし、土層	市内20
166	葛原 1-15-8	(2015.5.11～18)	647	駐車場	住居跡1、扉埋跡1、 土灰6、ビッド1、縄 文土層、石層	市内22
167	葛原 1-12-1	(2015.9.30)	160	個人住宅	遺跡なし、土層	市内22
168	葛原 1-13-17・18	(2015.11.1)	212.01	分譲住宅	遺構遺物なし	市内22
169	葛原 1-8-1	(2015.11.9～10)	349	駐車場	遺跡なし、土層	市内22
170	葛原 1-13-20・21	(2015.10.21)	76.8	店舗	遺構遺物なし(西宮 ノ原遺跡群 154 地点 に分布を要)	市内18
171	葛原 1-12-5	(2016.9.14)	173	共同住宅	遺構遺物なし	市内24
172	葛原 1-14-2・3	(2016.10.18～19)	468.36	分譲住宅	ビッド4、溝1、土層、 石層、埋跡あり	市内24
173	葛原 1-4・5	(2016.11.28)	102.32	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
174	葛原 1-7-12	(2017.2.16～17)	147.45	分譲住宅	ビッド2、土層	市内24
175	葛原 1-15-3	(2017.7.14)	113.82	個人住宅	縄文中期遺跡1、縄文 土層、ビッド1	市内24
176	葛原 1-14-12・13	(2017.5.24)	229.08	共同住宅	縄文中期遺跡1、溝1、 縄文土層、石層	市内24
177	葛原 1-15-7	(2018.4.9) 2018.4.10～20	121.00	個人住宅	縄文中期遺跡2、中 世以降の溝1、土層	未報告
178	葛原 1-11-2	(2018.7.3)	238.11	分譲住宅	遺跡なし、土層	未報告
179	葛原 1-2-6	(2018.12.7)	620.00	非居住・倉 庫	遺跡なし、土層、 土層、埋跡	未報告
178	葛原 1-14-5	(2019.2.4)	418.84	共同住宅	土層遺物なし	未報告



第100図 西ノ原遺跡縄文時代遺構分布図 (1/2,000)

第 58 表 西ノ原遺跡住居跡一覧表(単位 cm)

住居番号	地点	平面形()は推定	規模	炉			煙	溝	備考	時期	文献
				地床	石	土					
1	1	楕円形	456×398	○			有	○	完成、深達上土層	EⅡ古	町史 碑 I
2	2	不整形円形	400×400	○	△			○	完成	附Ⅱ 4	大隅 6
3	5	楕円形	634×530	○	△	△		○	完成	附Ⅱ 能	大隅 9
4	4	12-150 隅丸方形	540×485	○			有	○	調査率 75%、111号と一致	EⅠ新古	東部 V
5	13-69	隅丸方形	不明	○				○	調査率 60%、111号と一致	EⅠ新	東部 V
6	14	(隅丸方形)	520×7	○			有	○	調査率 70%	EⅡ新	東部 V
7	14	(隅丸方形)	440×430	○				○	調査率 30%	EⅡ新	東部 V
8	15	不明	削平	○				○	隅丸、石造	EⅡ	
9	18	(不整形円形)	(5-40)	○				○	調査率 90%	EⅡ	東部Ⅱ
10	19	楕円形	460×415	○			建	○	調査率 95%	附Ⅱ 古	内Ⅱ
11	20	楕円形	550×497	○			建	○	完成、土製、削平	附Ⅱ 古	大隅 6
12	20	(円形)	(440)×7					○	調査率 30%、下層土層	EⅠ新古	大隅 6
13	20	円形	630×660	○			△	○	完成、伊西焼	EⅡ古	大隅 6
14	20	楕円形	(430×350)	○				○	完成	附Ⅱ 古	大隅 6
15	20	(円形)	543×7	○			有	○	調査率 80%	EⅠ古	大隅 6
16	20-59	楕円形	548×516	○			建	○	完成、瓦葺	EⅠ古	大隅 6、内Ⅱ
17	20	楕円形	665×590	○			2 回拡張	○	完成、焼土、20 個	附Ⅱ 古	大隅 6
18	20	楕円形	420×353	○			有	○	完成、22号との兼合	附Ⅱ 古	大隅 6
19	20	円形	515×488	○				○	完成	EⅡ中	大隅 6
20	20	楕円形	500×450	○			有	○	完成、有造、付完用、保土	附Ⅱ 古	大隅 6
21	20	不整形円形	615×635	○			建	○	完成	EⅡ新	大隅 6
22	20	楕円形	550×450	○				○	完成、深達上土層、入蓋	附Ⅱ 古	大隅 6
23	21	楕円形	425×370	○				○	完成	附Ⅱ 古	東部Ⅱ
24	22	(円形)	不明	○				○	調査率 85%、工事中止、遺	附Ⅱ 古	東部Ⅱ
25	22	楕円形	床部削平	○				○	調査率 85%、工事中止、遺	EⅡ新	東部Ⅱ
26	26	(円形)	7×(530)	○				○	調査率 30%、下層土層	EⅡ古	大隅 6
27	26	隅丸方形	570×460	○				○	完成、腰付付石、瓦葺	EⅡ新	大隅 6
28	26	円形	床部削平	○				○	調査率 65%、下層土層	EⅡ中	大隅 6
29	27	円形	460×420	○				○	完成	EⅠ	大隅 6
30	27-69	楕円形	405×403	○			有	○	調査率 80%、121号との兼合	附Ⅱ	大隅 6
31	27-69	円形	平置	○				○	完成、122号との兼合	附Ⅱ	大隅 6
32	27	(不整形円形)	(380)×350	○				○	調査率 50%	附Ⅱ 能	大隅 6
33	27-122	楕円形	7×(340)	○				○	完成、2 回拡張	EⅠ新	内Ⅱ
34	32	楕円形	580×490	○			建	○	完成、121号との兼合	EⅡ中	大隅 6
35	33	楕円形	605×550	○				○	完成、瓦葺、石造	EⅡ中	大隅 6
36	34	隅丸方形	560×530	○			△	○	完成、腰付付石、瓦葺	EⅡ新	大隅 6
37	35	楕円形	440×390	○			△	○	完成、柱70号土層	附Ⅱ 能	大隅 6
38	36	隅丸方形	530×524	○				○	調査率 90%、削平付石、瓦葺	EⅡ新	大隅 6
39	36	円形	(610)×7	○				○	調査率 70%	EⅠ新	大隅 6
40	26	楕円形	420×380	○				○	調査率 95%	EⅠ古	大隅 6

住居番号	地点	平面形()は推定	規模	炉			煙	溝	備考	時期	文献	
				地床	石	土						
41	38-57	(楕円形)	一部分のみ調査					○	調査率 20%	EⅡ新	内Ⅱ	
42	41	楕円形	610×510	○				○	調査率 60%、111号と一致	EⅠ新	大隅 6	
43	41-72	円形	506×470				不	有	○	完成、深達不明	大隅 6、内Ⅱ	
44	41	楕円形	(約)500×7	○				○	調査率 50%	EⅠ新	大隅 6	
45	41-129	楕円形	560×530	○			建	○	完成、瓦葺	附Ⅱ 古	大隅 6、内Ⅱ	
46	40	楕円形	600×496	○				○	完成、腰付付石、瓦葺	EⅡ	東部Ⅱ	
47	40	円形	約 460×約 450	○				○	調査率 80%、有孔、腰付付石、瓦葺	EⅡ新	東部Ⅱ	
48	40-43	円形	550×560	○				○	完成、腰付付石、瓦葺	EⅡ新	東部Ⅱ	
49	40-43	楕円形	半壁×740	○				○	調査率 75%、111号と一致	EⅡ	東部Ⅱ	
50	44-161	円形	530×約 500	○				○	完成、腰付付石、瓦葺	EⅡ新	大隅 6、内Ⅱ	
51	132	大部分未掘	540×630	○				有	○	調査率 80%	EⅡ新	大隅 18
52	132	大部分未掘	460×7	○				有	○	調査率 60%、111号と一致	EⅠ新	大隅 18
53	44-70	大部分未掘	690×560	○			建	○	調査率 90%、木造	附Ⅱ 古	大隅 6	
54	43	円形	335×355	○				○	完成、55号との兼合	EⅡ	東部Ⅱ	
55	43	不明	690×7	○				○	埋込、54号との兼合	EⅡ	東部Ⅱ	
56	42	楕円形	600×496	○				○	完成、深達上土層	EⅠ新	大隅 6	
57	42	不明	7×約 500				未	○	調査率 35%	EⅠ新	大隅 6	
58	42	円形	550×560	○			△	○	完成、柱70号土層	EⅡ新	大隅 6	
59	42	楕円形	半壁×740	○				○	調査率 40%、50号との兼合	EⅡ新	大隅 6	
60	48	楕円形	590×540	○				有	○	調査率 85%、復元 27 個、石造	附Ⅱ 古	大隅 6
61	48-158	楕円形	490×440×30	○				有	○	完成	附Ⅱ 古	大隅 6、内Ⅱ
62	48-158	楕円形	475×410×30	○				○	完成	EⅠ新	大隅 6、内Ⅱ	
63	48-69-122	楕円形	550×492	○				有	○	完成、瓦葺土層	EⅠ新	大隅 6
64	50	不整形円形	418×420	○				○	完成	EⅡ	大隅 6	
65	49	円形	550×565	○			3 回拡張	○	完成、瓦葺、腰付付石、瓦葺	EⅡ	大隅 6	
66	49	楕円形	670×570	○				○	調査率 90%、瓦葺、土葺、77号との兼合	EⅠ古	大隅 6	
67	50-124	楕円形	670×620	○				有	○	調査率 75%、土葺、腰付付石	EⅡ中	内Ⅱ、内Ⅲ
68	49-121	円形	625×610	○				有	○	調査率 70%、3 回拡張	EⅡ中	内Ⅲ
69	49	円形	618×7	○				○	調査率 80%、腰付付石	EⅡ新	大隅 6	
70	49	半半未掘	468×7				未	○	調査率 30%、深達上土層	EⅠ新	中	
71	49	円形	420×7				未	○	調査率 20%、石造	附Ⅱ 古	大隅 6	
72	49	隅丸方形	不明				未	有	○	調査率 15%	附Ⅱ 古	大隅 6
73	49	楕円形?	570×440	○				○	調査率 80%、大隅 6、石葺、腰付	EⅡ新	大隅 6	

住居番号	地点	平面形 ()は 概定	規模	炉			埋 込	周 溝	備考	時期	文献
				地 床	石 面	煙 道					
151	75	楕円形	664×(642)	○	○				調査率95%、 143-145-150号と 重複	E II 古	大隅13
152	90	円形	380×370	○					調査率95%、 152号と重複	E II 新	内内14
153	90	円形	(600)	○					調査率20%、 152号と重複	E II 新	内内14
154	105	不明	(400)	○	○		有		瓦葺、溝掘り で埋す	雑	内内18
155	108・ 122	隅丸方形	610×540	○	○		有	2回拡張	調査率75%、 2回拡張、溝掘り で埋す	雑	内内18
156	113	円形	462×365 ×14	○					瓦葺	E II 新	大隅17
157	113	楕円形	594×392 ×22	○					調査率75%	E II 新	大隅17
158	113	不定形	669×455 ×16	○					瓦葺	E II 新	大隅17
159	113	円形	434×415 ×13	○	?				瓦葺	E II 新	大隅17
160	113	円形	547×490 ×35	○	?				瓦葺	E II 新	大隅17
161	113	楕円形	512×440 ×16	○	?	○			瓦葺	E II 新	大隅17
162	119	隅丸方形	715×?	○	○		有	2回拡張	調査率75%	雑	内内18
163	119	楕円形	505×482	○	○		有		瓦葺、掘り溝 部分瓦葺	E I 新古	内内18
164	119	隅丸方形	不明	未定					調査率20%	E I 新	内内18
165	122	扇形	498×488	○	○		有		瓦葺、地味薄 く瓦葺い	雑	内内18
166	128	不明	不明	○					調査率10%、 削平層しく部 ビットの存在	E II 中	大隅15
167	128	円形	不明	○					調査率55%、 168-170号と 重複	E II 新	大隅18
168	128	隅丸方形	不明	未定			有		調査率45%、 167号に切り 入れ	E I 新	大隅18
169	128	円形	不明	○					調査率30%、 削平層未確認		大隅18
170	128	円形	不明×496	○					調査率60%、 167号に切り 入れ	E II 新	大隅18
171	128	不整形	554×595	○			有		瓦葺、173号 8切	E II 新	大隅18
172	128・ 147	円形	不明×472	○				未定	調査率52%	E I 古	大隅18
173	128	円形	485×492	○			有		瓦葺、171号 に切り入れ	E I 新	大隅18
174	128	楕円形	612×?	○					調査率90%、 175号に切り 入れ	E II 新	大隅18
175	128	楕円形	640×630	○			有		瓦葺、176号 に切り入れ	E II 新	大隅18
176	128	隅丸方形	690×535	○	○		有	2回拡張	瓦葺、175-177 号と重複	E I 古	大隅18
177	128	楕円形	624×不明	○			不明		調査率10%、 177号に切り 入れ	E II 新	大隅18
178	128	隅丸方形	不明	未定			有		調査率10%、 177号に切り 入れ	E I 新	大隅18
179	128	楕円形	不明	○					調査率95%、 174号に切り 入れ	E II 新	大隅18
180	128	円形	385×392	○					瓦葺	E II 新	大隅18
181	51	不整形 楕円形	340×298	○					瓦葺、削平層 しい	E II 新	大隅18
182	51	円形	不明×390	○					調査率45%、 削平層しい	E II 新	大隅18
183	135	隅丸方形	450×370	○	○				瓦葺	E I 新	内内13
184	150	隅丸方形	(337×225)	○					調査率25%		内内15
185	150	円形	320×(224)	○					調査率80%、 187号と重複		内内15

住居番号	地点	平面形 ()は 概定	規模	炉			埋 込	周 溝	備考	時期	文献
				地 床	石 面	煙 道					
186	欠										
187	150	楕円形	480×430	○	○				瓦葺、185号 と重複	E II 新	内内15
188	150	楕円形	(517×430)	○					調査率50%	E II 新	内内15
189	150	楕円形	452×400	○					瓦葺	E II 新	内内15
190	150	楕円形	436×302	○					瓦葺	E II 新	内内11
191	150	円形	(392×220)	○	○				調査率50%	E II 新	内内11
192	150			○	○				掘り込み確認 できず		内内15
193	156	円形	(270×173)	○					調査率90%	E II 新	内内18
194	158	隅丸 長方形	520×470 ×15	○	○				瓦葺	E I 中	内内18- 23
195	158								掘り込み確認 できず		内内18- 23
196	158	隅丸 長方形	495×460 ×25	○	○		有		瓦葺、198号 に切り合う	E I 中	内内18- 23
197	158	楕円形	460×420 ×30	○	○				瓦葺	E II 新	内内18- 23
198	158	楕円形	440×410 ×30	○	○				瓦葺、196号 に切り合う	雑	内内18- 23
199	158	楕円形	480×410 ×10	○	○				瓦葺、204号 と切り合う	E I 新	内内18- 23
200	158	隅丸 長方形	490×390 ×40	○	○				瓦葺	E I 新	内内18- 23
201	158	楕円形	(400×350 ×10)	○	○				瓦葺	E I 新	内内18- 23
202	158	不明	(310×140)						プランの不明 確認		内内18
203	158・ 159	隅丸 長方形	(450×470 ×15)	○	○		有		瓦葺	E I 古	内内18- 23
204	158・ 159	楕円形	375×165 ×20	○	○				調査率80%	E I 新	内内18- 23
205	159	円形	360×35 ×35	○	○				瓦葺、212号 と重複		内内16
206	159	隅丸 長方形	475×455 ×18	○	○				瓦葺		内内16
207	159	円形か 隅丸方形	(375× 160)×20	○	○				調査率50%、 212号と重複		内内16
208	159	隅丸台形	475×452 ×43.6	○	○				瓦葺		内内16
209	159	不明	直径360 cm以上						瓦葺		内内16
210	159	不明	(260× 168)×50	○	○				調査率25%		内内16
211	161	楕円形	425×273 ×16								内内20
212	159	楕円形か 隅丸長方形	(460×19) ×55	○	○				調査率40%、 207号と重複		内内16
213	150	隅丸 長方形	(460× 300)×32						調査率90%、 E I 19号と 重複		内内18
214	174	—	—	—	—	—	—	—	未定		内内24
215	174	—	—	—	—	—	—	—	未定		内内24
216A	158	円形	300×320	○	○				瓦葺	雑	内内23
216B	158	楕円形	(370×350)	○	○				瓦葺	E II 新	内内23
217	175										未報告
218	164	楕円形	(454)× 414×32	○	○						内内22

II 西ノ原遺跡第169地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2016年9月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年9月14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約95～150cmであった。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

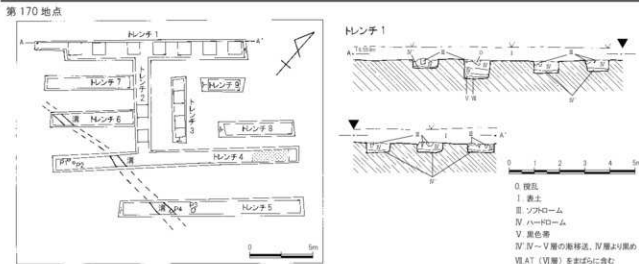
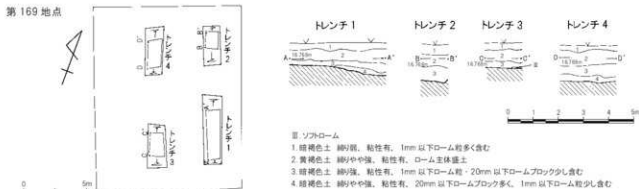
III 西ノ原遺跡第170地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2016年10月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年10月18・19日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ9本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～50cmである。その後、旧石器時代の確認調査のため1m四方のトレンチ12ヶ所を設定した。

調査の結果、中近世以降の溝1条とピット4基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第101図 西ノ原遺跡第169地点調査区域図・第170地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは全部で4基検出した。詳細については第102図及び第59表に掲載した。いずれも時期は不明である。

②溝

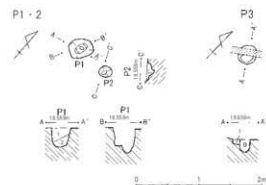
溝は調査区南側で検出した。ほぼ東西方向に走行し、上幅60～95cm、下幅20～50cm、深さ19cmを測る。出土遺物はない。土層の観察から中近世以降のものと考えられる。

③出土遺物

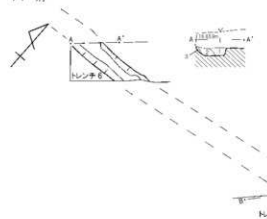
遺構外で石器1点を検出した。半分ほどが欠損している敲き石。砂岩製で残存長9.3cm、幅4.6cm、厚さ3.7cm、重量227.41gを測る。

第59表 西ノ原遺跡第170・172地点ピット一覧表
(単位 cm)

地点	No	平面形態	確認面径	底径	深さ
170	1	楕円形	39 × 30	7 × 4	39.8
	2	方形	20 × 17	10 × 4	13.0
	3	円形	31 × 26	17 × (10)	15.1
172	4	方形	23 × 15	14 × 8	15.0
	1	楕円形	41 × 29	25 × 16	12.6
地点	2	楕円形	74 × 54	11 × 4	57.9



P4・溝



P1～3

0 腐乱

1. 緑褐色土 粘性有、締り有、20mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒少量含む

1' 緑褐色土 粘性有、締り有、20mm以下ロームブロック少量含む

2. 褐色土 粘性有、締り強、30mm以下ロームブロック少量含む

溝

1. 緑褐色土 粘性弱、締り強、2mm以下ローム粒多量含む

2. 緑褐色土 粘性強、締り有、5mm以下ローム粒微量含む

3. 緑褐色土 粘性強、締り有、2mm以下ローム粒多量含む



第102図 西ノ原遺跡第170地点ピット (1/60)、溝 (1/80)、出土遺物 (1/4)

IV 西ノ原遺跡第171地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年11月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年11月28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～80cmである。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

V 西ノ原遺跡第172地点

(1) 調査の概要

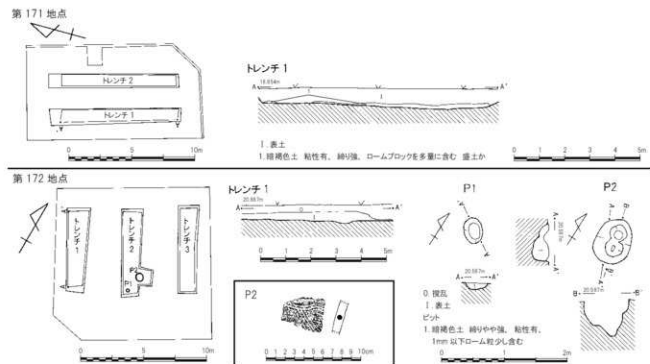
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年2月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年2月16・17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは40～70cmである。

調査の結果、ピットを検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

遺構はピット2基を検出した。詳細については第103図及び第59表に掲載した。時期はどちらも近世以降である。遺物はピット2の覆土中より縄文土器片1点が出土した。深鉢の胴部で、地文条線文に波状の沈線を施す。胎土に石英、金雲母を含む。縄文時代中期、阿玉台式土器か。



第103図 西ノ原遺跡第171地点調査区域図・第172地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、第172地点ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

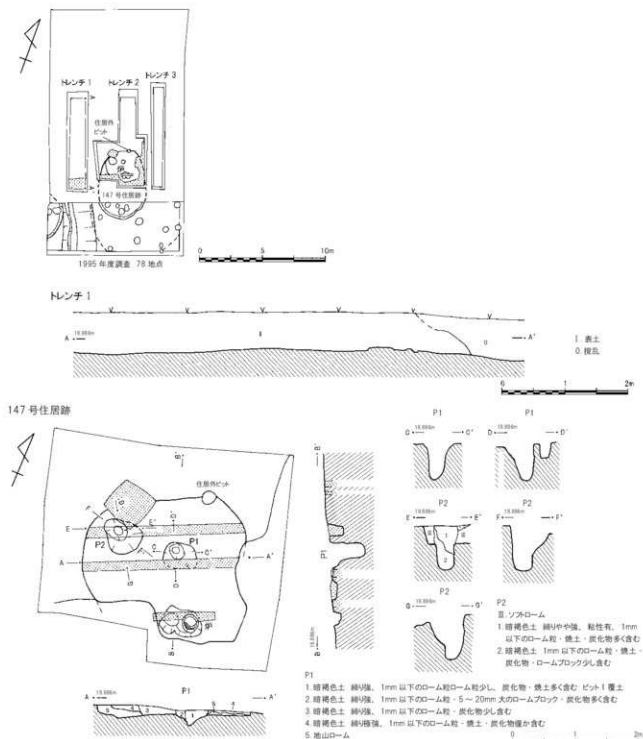
VI 西ノ原遺跡第173地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年3月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年4月14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約60～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代住居跡1軒を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、



第104図 西ノ原遺跡第173地点遺構配置図(1/300)、土層・第147号住居跡・ピット(1/60)

本調査を実施した。

本調査は2017年4月17～21日まで、調査区南側の縄文時代住居跡が確認された部分を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 147号住居跡

【位置】 調査区南側に位置する。隣接する第78地点の調査で検出した147号住居跡と同一である可能性が考えられる。

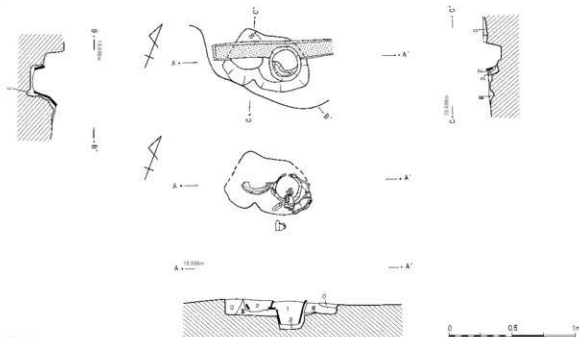
【形状・規模】 攪乱が多く入るため形状は不明だが、楕円形を呈するものと想定される。今回検出した住居の規模は南北(236)×東西(272)cmである。第78地点と合わせると5mを超える住居跡になろう。深さは10cmに満たず、非常に浅く、立ち上がりも不明瞭である。

【構造】 ビットは2基検出した。ビット1は平面形態が楕円形を呈し、確認面径54×39cm、底径11×10cm、深さ58.6cmを測る。ビット2は不整形形を呈し、確認面径63×55cm、底径16×10cm、深さ72.8cmを測る。第78地点の調査で確認されている柱穴と比較して、少なくともビット2は主柱穴であったと考えられる。周溝は確認していない。

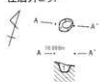
【炉】 炉は中央から北側に位置する。2基が重複しており、いずれも炉体土器を設置する埋甕炉である。土層の切り合いから東側に位置する方が古く、西側が新しい。攪乱で北側半分が破壊されている。しかしながら攪乱が浅かったため、旧炉は底部が残存していた。

新炉は径40cm程を掘り込み、深さは10cm程度である。炉体土器は正位で設置され、内面が部分的に黒色化する。

炉



住居外ビット



炉

Ⅱ ソファローム

0 破瓦

1 黒褐色土 粘り中や強、粘性有、1mm以下のローム粒少し、機土・炭化物多く含む

2 黒褐色土 粘り中や強、粘性有、1mm以下のローム粒少し、機土・炭化物多く、5mm以下のロームブロック含む

3 暗褐色土 粘り強、粘性有、機土・炭化物非常に多く、1mm以下のローム粒少し含む

住居外P1

1 暗褐色土 粘り中や強、粘性有、1mm以下のローム粒少し含む

第105図 西ノ原遺跡第173地点炉(1/30)、住居外ビット(1/60)

旧炉は約 50 ～ 60 cm の円形に掘り込み、深さは 25 cm 程度である。炉体土器は正位で設置され、内面が一部黒色化する。

【遺物出土状況】遺物は、炉体土器以外はほとんどが表土中からの出土であり、出土量も少ない。

【時期】炉体土器から勝坂Ⅲ式期新段階。

②ピット

ピット 1 基は調査区中央部に位置し、147 号住居跡と切り合う。平面形態は円形を呈し、確認面径 21 × 20 cm、底径 15 × 10 cm、深さ 25.8 cm を測る。切り合い関係から住居跡より新しい。出土遺物はない。

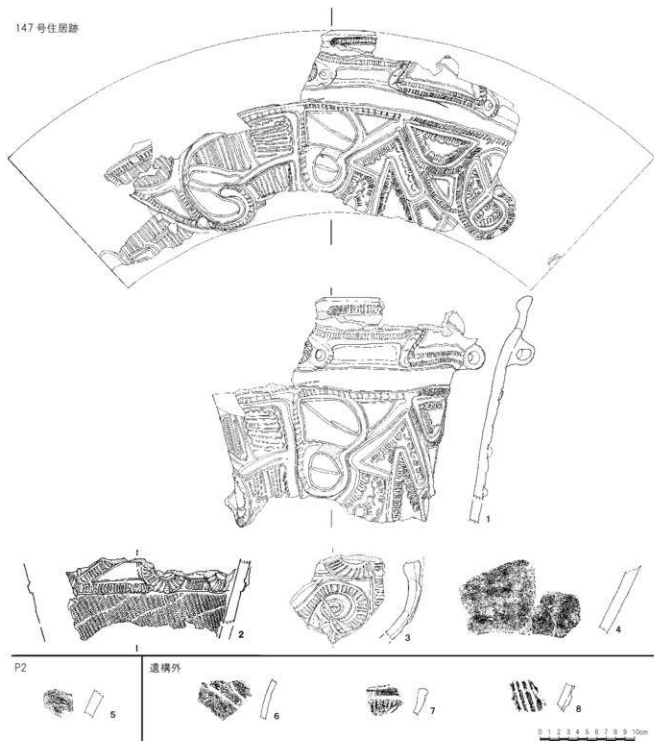
③出土遺物

出土遺物の詳細については第 106 図及び第 60 表に掲載した。

第 60 表 西ノ原遺跡第 173 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	地文・施文・備考	時期・型式
第 106 図-1	147 号住居跡	縄文・深鉢				炉体土器	中期・勝坂Ⅲ
第 106 図-2		縄文・深鉢	—	—	(14.7)	地文 RL 縄文・刻目を施す横位隆線文による文様帯区画、同様に隆線文で円形や三角形をつくり、椀内に沈線を施す・口縁部欠損、体部下半打ち欠き、被熱によるハジケ、白色粒子を含む、胴部最大径 24.0 cm、炉体土器	中期・勝坂Ⅲ新
第 106 図-3		縄文・深鉢	—	—	—	刻目隆帯を半円形に貼付、両脇に沈線、隆帯の区画内を沈線で充填する・白色粒子を含む、キャリバー型深鉢口縁部	中期・勝坂Ⅲ新
第 106 図-4		縄文・浅鉢	—	—	—	無文・白色粒子を含む	中期
第 106 図-5		ピット 2	縄文・深鉢	—	—	—	内外面に僅かに煤付着、胎土に砂礫を含む
第 106 図-6	遺構外	縄文・深鉢	—	—	—	2本の沈線間に Lr 縄文 ? を充填	後期・称名寺
第 106 図-7		縄文・深鉢	—	—	—	地文 Lr 断糸文・半截状竹管を横位に施す	中期・勝坂
第 106 図-8		縄文・深鉢	—	—	—	多截状竹管による平行沈線・白色粒子を含む	中期・勝坂

147 号住居跡



第 106 図 西ノ原遺跡第 173 地点出土遺物 (1/4)

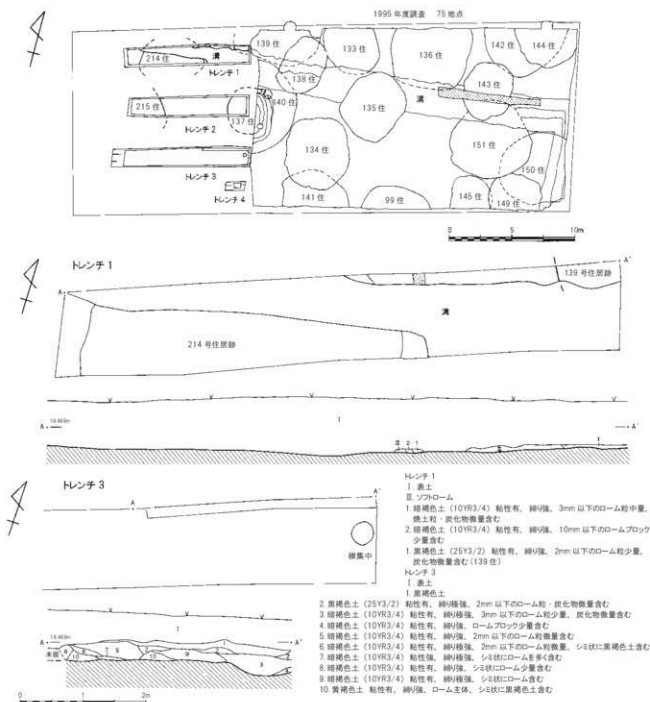
VII 西ノ原遺跡第174地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2017年5月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年5月24日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約50～80cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代住居跡5軒以上、石器集中1ヶ所、溝1条を検出したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第107図 西ノ原遺跡第174地点遺構配置図 (1/300)、トレンチ (1/60)

(2) 遺構と遺物

今回の調査では縄文時代の住居跡と礫集中、溝のプランのみを確認し、その際の出土した遺物を第108・109図及び第61表に掲載した。

①住居跡

今回確認した住居跡は少なくとも5軒以上存在するものと考えられる。本調査区東側に隣接する第75地点の調査で検出した137号住居跡、139号住居跡、140号住居跡の未検出部分を含む。さらに西側では少なくとも2軒の住居プランを確認した。

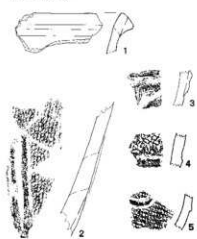
②礫集中

調査区南東部、トレンチ3で検出した。礫の集中範囲は径約35cmの範囲である。こちらも掘削は行っていないため、詳細は不明である。

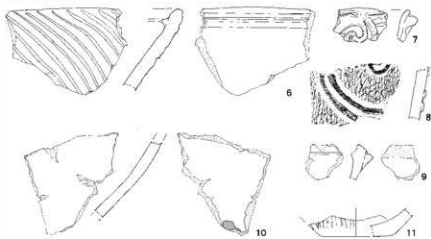
③溝

溝は調査区北側、トレンチ1で確認した。75地点から続く溝で、東西方向に走行する。

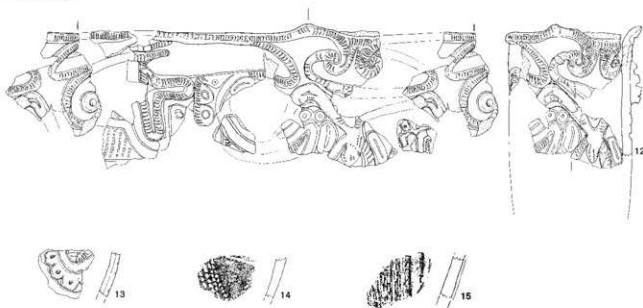
137号住居跡



214号住居跡



215号住居跡



第108図 西ノ原遺跡第174地点出土遺物① (1/4)

遺構外



第109図 西ノ原遺跡第174地点出土遺物②(1/4)

第61表 西ノ原遺跡第174地点出土遺物観察表(単位mm・g)

図録番号	出土遺構	器形/部位	地文/施文/彫文/色調	時期/型式					
第108図-1	137号住居跡	浅鉢/口縁部	口唇前後は外面に折り返し肥厚/地文は無文/白色粒子・砂を多量に含む/よく研磨されて焼成良好。内外ともに暗褐色/外面暗褐色。内面暗灰褐色。	加賀利EⅠ					
第108図-2		深鉢/胴下半部	地文にL縦位回転の脈糸。半筒竹管状工具による平行沈線が脈線を覆く/胎土に赤褐色シャモット・砂を混入/外面暗褐色。内面暗灰褐色。	加賀利EⅠ					
第108図-3		深鉢/口縁下半部	口縁部文様体下縁の区画/脈線の集合沈線を地文とする/胎土に白色粒子混入/外面暗褐色。内面暗灰褐色である。	加賀利EⅠ					
第108図-4		深鉢/口縁下半部	地文L縦文/半筒竹管状工具を構位/砂質/外面暗灰褐色。内面暗灰褐色。	加賀利EⅠ					
第108図-5		深鉢/口縁下半部	地文L縦文を斜位に印刷/半筒竹管状工具で弧状隆帯を描く/赤褐色シャモット、黒雲母を混入する。/黒炭あり、暗灰褐色。内面暗灰褐色。	加賀利EⅠ					
第108図-6		浅鉢/口縁部	口縁内径5mm程度のツマミ上げの跡をもつ/地文は半筒竹管状工具による3~4mmの条線を斜位に覆く/胎土は多量の砂を混入する。焼成の亀裂が内面に著しい。内面に黒斑が認められる。	曹利系					
第108図-7		深鉢/口縁部	2本組の縄い隆帯で湯呑器を作る/地文には非常に細かい脈糸が構位に入る/胎土にはシルト、微細白色粒が混入	曹利系					
第108図-8		深鉢/胴部	地文はLの縦位回転の脈糸文/2本の平行隆起線文を施す/胎土は砂質で外面暗褐色。内面暗褐色である。焼成は比較的良い。	加賀利EⅠ古					
第108図-9		214号住居跡	浅鉢/口唇部	胎土は砂質。小磯、赤褐色シャモット混入。/外面は茶褐色。内面黒褐色で焼成は良い。	中期				
第108図-10		浅鉢/胴部	人志な研磨を内外面に施す/胎土は多量の砂・小磯を含む/外面暗褐色。内面黒褐色を呈する/内面に赤色付着物がみられる。	加賀利EⅠ					
第108図-11	浅鉢/底部	柳葉状工具で縦位に条線を覆く/外面暗灰褐色。内面暗褐色/胎土はシルト質で緻密で焼成は良好。	中期						
第108図-12	深鉢/口縁~胴部	口唇から隆帯で復元径13.5cm。現存高15.5cm。2箇所の小波線を隆帯でつくる。口縁から胴上半部まで残存する。内面は凸む/内文、隆帯による曲線文によって十字文・凹文・縁飾文を施文し、沈線による区画内には縁向十字文、三角片文が散在する。隆帯上には斜目文を施す。胎土は白色微粒子を多量に含む。砂粒を混入する。内外ともに暗褐色。焼成は良好である。	曹利Ⅱ						
第108図-13	215号住居跡	深鉢/胴部	隆起線文で弧状を描き、浅いU形文が連続される。細い工具で平円を繰り返し、中央に刻突する。胎土は白色粒子を多量に含む/外面暗褐色。内面暗褐色。	曹利Ⅱ					
第108図-14	深鉢/胴部	先端2mm前後の工具の右角で一発すると三角片文的な沈線文を施す。区画沈線も角弁す/13と同一個体。	曹利Ⅱ						
第108図-15	深鉢/胴部	沈線文を2本懸垂する。地文は無文文。/胎土は暗褐色。内面は黒褐色。焼成は良好である。	曹利Ⅱ						
第109図-16	深鉢/把手	把手の上半部に隆帯を横に貼付、丁寧に刻みを施す。把手の内径は上下6.5cm、幅3.5cm。下半にはやや太い隆帯を貼付。端に沈線に沿わせさらに左側に斜目目を斜めに施す。胎土は極めて砂質で、多量の砂を混入する。内外ともに暗褐色で表面に黒斑が一部みられる。焼成は比較的良い。	曹利Ⅱ						
第109図-17	深鉢/口縁部	地文は角片文を縦位に施す/胎土は白色粒子を多量に含む/外面暗灰褐色。内面暗褐色で焼成良好。	曹利Ⅱ						
第109図-18	深鉢/口縁部	口唇部直下に沈線を入れ、微隆帯もU形文を施す/胎土は白色微粒子を含む/外面暗褐色。内面暗褐色/焼成はやや不良である。	曹利Ⅱ						
第109図-19	深鉢/胴部	半隆帯上に斜目目を施す。地文はLR縞文を縦に回転する/やや砂粒を含む。外面暗褐色。内面黒褐色である。	曹利Ⅱ						
第109図-20	深鉢/口縁部	小渦巻文を上へく。地文はLR縞文/胎土に砂粒を含む。内外ともに暗褐色である。焼成は良好。	加賀利EⅠ古						
第109図-21	深鉢/口縁部	キャリヤ類深鉢口縁部で地文L。内外ともに暗褐色/胎土は白色粒子ふくむ砂を混入	加賀利EⅠ						
第109図-22	深鉢/口縁部	直立し立する無文の口縁をもつ。隆帯下には地文L縦文を施す。内外面は灰褐色で焼成は良好。	加賀利EⅠ						
第109図-23	深鉢/口縁部	把柄した口唇部直下から斜位に沈線を描く。胎土は若干の白色微粒子を含む砂質。内外ともに暗褐色。焼成良好。	曹利系						
第109図-24	深鉢/口縁部	文様構成は23とはほぼ同様である。色調は外面が褐色。内面暗灰褐色。胎土は砂質である。焼成良好。	曹利系						
第109図-25	深鉢/口縁部	口縁部無文帯下は、柳葉状工具で平行沈線を垂下させる。砂粒、褐色粒子を含む。内外ともに灰褐色である。焼成は良好。	曹利系						
第109図-26	深鉢/口縁部	L沈線脈糸文が口唇部直下から始まる/区画内は縦位沈線/外面暗褐色。内面暗褐色で白色粒子含む	加賀利EⅠ新						
第109図-27	深鉢/口縁部	口唇内側に折り返し口縁である。白色粒子。多量に含む。内外ともに灰褐色。	加賀利EⅡ						
第109図-28	深鉢/口縁部	焼成良好。外面暗褐色。内面暗褐色。	加賀利EⅡ						
第109図-29	深鉢/胴部	脈線無文帯。隆帯で区画した口縁部文様区画内は脈糸し地文にもつ。胎土は砂粒・石英が目立つ/内外ともに暗褐色。	加賀利EⅠ新						
第109図-30	深鉢/胴部	脈線無文帯と二本の隆帯帯で画し、地文には脈糸Lが散在する/胎土に白色粒子多量含む。外面暗褐色。内面暗褐色である。	加賀利EⅠ新						
第109図-31	深鉢/胴部	地文はLR縞文の構位回転。平行する上に細い蛇行隆帯が散在する/胎土は砂質である。内外ともに暗灰褐色。焼成はやや不良。	曹利系か						
第109図-32	深鉢/胴部	地文LR縞文の構位回転。平行する沈線を懸垂する。胎土には砂粒を含む。外面暗褐色。内面黒灰褐色。焼成は良好。	加賀利EⅡ						
第109図-33	深鉢/胴部	32と文様構成は同じ。縦文縦線が明瞭に残る。内面はへら磨きの跡の研磨帯を残す。内外ともに暗褐色。/胎土には黒色粒子含む。	加賀利EⅡ						
第109図-34	深鉢/胴部	地文LR縞文を構位印刷。沈線は弧状を描く。/胎土はやや砂質で赤褐色シャモット、シルトを混入する。外面は暗褐色。内面暗灰褐色。焼成良好。	加賀利EⅠ						
第109図-35	深鉢/胴部	R縦位回転の脈糸文を施文し、半隆帯で区画する。胎土は白色粒子が混入する。内外ともに暗灰褐色。焼成良好。	加賀利EⅠ						
第109図-36	深鉢/胴部	L縦位回転の脈糸文を施文。胎土に赤褐色シャモット混入。外面暗褐色。内面暗灰褐色。焼成は比較的良い。	加賀利EⅠ						
第109図-37	深鉢/胴部	L縞文を全面に施す/胎土に白色粒子多量に含む。外面は灰褐色。内面暗灰褐色。焼成は良好。	加賀利EⅠ						
第109図-38	深鉢/胴部	柳葉状工具による条線を地文とし、蛇行沈線を描く/胎土は極めて砂質で表面はざらつく。外面暗灰褐色。内面暗褐色。焼成不良。	加賀利EⅠ						
第109図-39	深鉢/胴部	幅3mmのへら状工具で脈線を斜目文。胎土はシルト質で砂をわずかに混入する。外面暗褐色。内面暗褐色で焼成良好。	加賀利EⅠ						
第109図-40	深鉢/胴部	外面は斜位のへら磨きによる無文帯で、灰褐色。内面は構位のへら磨きで暗灰褐色/胎土は砂・赤褐色シャモット・チャート等の粗角粒を混入する。	加賀利EⅠ						
第109図-41	深鉢/底部	胎土は砂、白色粒子を含む。外面暗灰褐色。内面暗灰褐色。焼成は比較的良い。							
第109図-42	深鉢/底部	胎土はシルト質で、白色微粒子混入。外面暗褐色。内面暗灰褐色。焼成は比較的良い。							
第109図-43	深鉢/底部	胎土はシルト質で、焼成不良で外面の割傷が生じている暗灰褐色。内面は黒褐色。							
第109図-44	深鉢/底部	胎土は極めて砂質である。外面暗灰褐色。内面暗褐色。焼成は比較的良い。							
図録番号	出土遺構	種類・器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	時期	残存/備考
第109図-45	遺構外	打製石斧	110.68	43.92	14.01	86.76	安山岩	縄文時代	完形
第109図-46		打製石斧	105.12	46.34	8.07	56.04	砂岩	縄文時代	完形
第109図-47		打製石斧	(68.30)	49.60	20.76	(64.80)	ホルンフェルス	縄文時代	基部欠損
第109図-48		打製石斧	(86.04)	42.14	16.89	(49.19)	砂岩	縄文時代	基部欠損
第109図-49		打製石斧	(71.56)	55.82	15.64	(104.56)	ホルンフェルス	縄文時代	基部欠損
第109図-50		打製石斧	(41.12)	41.06	6.19	(15.71)	粘板岩	縄文時代	基部欠損
第109図-51		部石	(117.12)	(42.55)	(6.19)	(15.71)	白雲母石英片岩	縄文時代	部分のみ

第21章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禪寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2019年4月現在、55地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

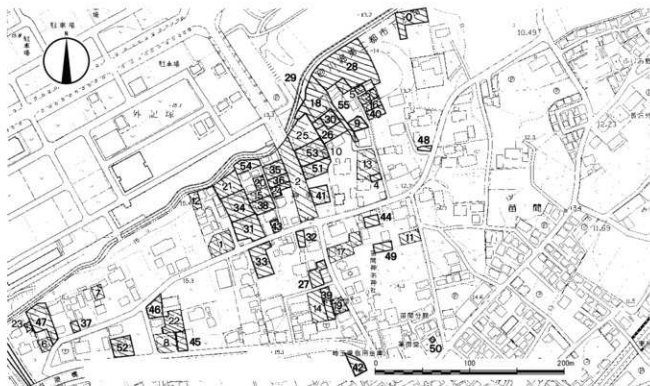
II 神明後遺跡第55地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年4月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年5月8日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約40～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代住居跡2軒を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、



第110図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

本調査を実施した。

本調査は2017年5月9～12日まで、調査区南側の縄文時代住居跡が確認された部分を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

今回の調査では縄文時代中期の住居跡2軒を検出した。J28号住居跡の埋甕については、規模等から考えて屋外埋甕の可能性も考えられる。

① J24号住居跡

【位置】調査区西側に1/4程度を検出。

【形状・規模】残りが非常に悪いため、形状・規模は不明。

【構造】詳細は不明だが、今回の調査で周溝を確認した。また、ビット4は柱穴である可能性がある。

【遺物出土状況】狭い範囲での検出だが、比較的遺物量は多い。ほとんどが覆土中よりの検出である。

【時期】出土遺物の時期幅が広く、断定はできない。

② J28号住居跡

【位置】調査区中央部に位置する。

【形状・規模】掘り込みが確認できなかったため、形状・規模は不明。

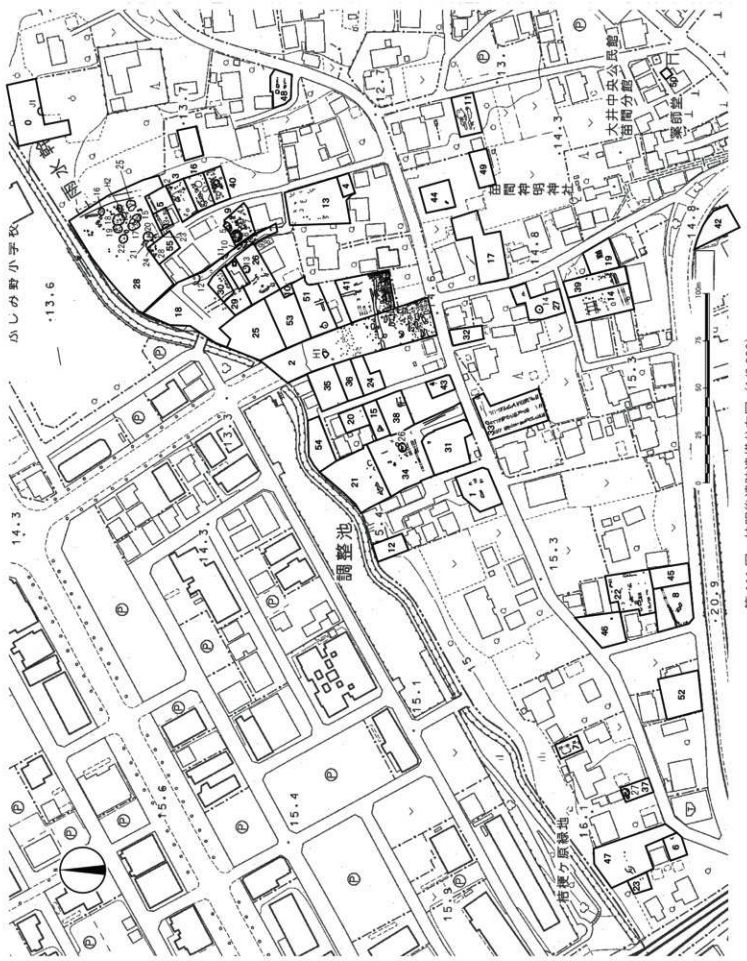
【炉】平面形態はほぼ円形を呈し、確認直径54cm、底面は中央部分が盛り上がる。深さ約20cm。原位置を保つ炉体土器の中に、別の土器片が折り重なるように出土した。

【埋甕】深鉢を逆位に設置し、下半部を打ち欠く。確認直径72×54cm、底径55×44cm、深さ20cmを測る。

第62表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
0	區間 322 の裏の山林	1986.4.9～4.28	200	大井町史編	縄文住居跡1(1号)、集石、堀跡	町史書I
1	區間 281-1	1993.5.6～11	615	共同住宅	溝、平安時代須恵器片、陶器片	町内冊
2	區間 295-2、299-3	1993.5.12～20	1,688	道路築造	溝と土坑1、平安住居跡1(H1号)、縄文土坑1、平安住居跡1(H1号)、中・近世掘立柱建物跡、地下式溝1、井戸、堀	町内冊
3	區間 309-12	(1995.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡1(2号)、伏壁2、埋甕1、土坑2、ビット34他	町内VI
4	區間 302	(1996.6.17～19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町内VI
5	區間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文住居跡1(3号)、土坑5、溝、縄文中期後半～後期初頭土器	町内VI
6	區間 255、227-2	(1997.9.29～30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町内VII
7	區間 260	(1998.6.1～2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内VII
8	區間 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	縄文土器片	町内VIII
9	區間 310-1	(1998.9.1～11) 1998.9.14～10.15	219	共同住宅	縄文住居跡4、集石土坑1、溝と土坑1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ビット33	町内VIII
10	區間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内IX
11	區間 366	(1999.10.21) 1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑17、ビット7	町内IX
12	區間 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構遺物なし	町内IX
13	區間 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑12、ビット	町内X
14	區間 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘立柱建物跡1、溝2、井戸1、櫓列、ビット38	町内X
15	區間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12～13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町内XI
16	區間 309-14	(2001.7.23～24) 2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋甕4、土坑13、溝2、地下式溝1、地下室1、壁状遺構1、ビット38	町内XI
17	區間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内XI
18	區間 304-1、303-6	(2002.5.15～25) 2002.5.27～6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡5(8～12号)、土坑、古代・中世堀跡	町内XI
19	區間 264-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町内XI
20	區間 293-11	(2003.1.14～15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ビット2	町内XI
21	區間 283-1	(2003.1.10～30)	674	土地造成	ビット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町内XI
22	區間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ビット38、江戸後期陶磁器	町内XI
23	區間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町内XI

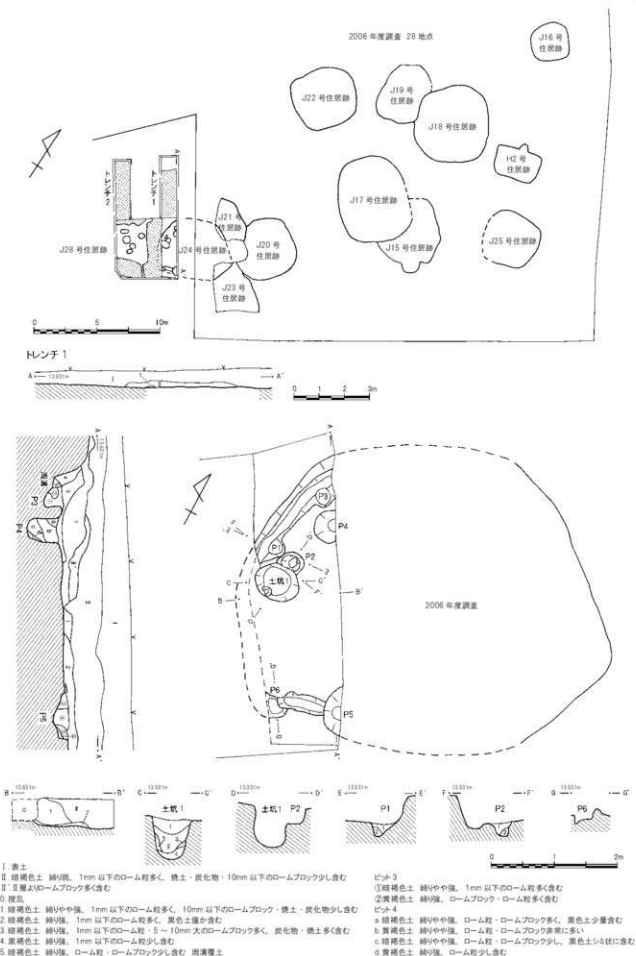
地点	所在地	調査期間 () 試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
24	苗間神明後 293-4-10	(2004.9.30～10.7)	148	個人住宅	遺構遺物なし	町内畑
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内畑
26	苗間神明後 301、303-3～5・7、304-1	(2005.6.1～8) 2005.6.15～30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡 1 (13号)、中世地下式溝、近世土坑 5、溝	大調 18
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20～25) 2005.7.27～9.1	385	共同住宅	縄文中期住居跡 1 (14号)	大調 18
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8～31) 2006.6.29～10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11 (15～25号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、伊穴 3、ビット、溝 4、平安住居跡 1 (H 2号)、古代・中世堀跡 1	市内 3・24
29	苗間神明後 303-21・24	(2006.5.8～11) 2006.5.12～19	135.9	個人住宅	ビット 1、古代・中世堀跡 1	市内 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19) 2006.12.14～19	101.13	個人住宅	ビット 12	市内 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3～7)	499	個人住宅	土坑 2	市内 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代埋立	市内 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ビット 16	市内 6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	357	分譲住宅		市内 6
34	苗間字神明後 283-1、284-1の一部	(2008.4.30～5.15) 2008.5.16～28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1 (26号)、落とし穴 1、集石 3、ビット	市内 5
35	苗間字神明後 293-6-20	(2008.8.1)	247	個人住宅	ビット 1	市内 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13) 2009.4.15～30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	市内 8
38	苗間字神明後 293-1、292-13	(2009.7.6～7) 2009.7.8～16	265	個人住宅	中近世溝 1	市内 8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12) 2009.8.24～9.1	378	共同住宅	中～近世溝 2、ビット 28、落とし穴 1	市内 7
40	苗間 309-1	(2009.11.9～16) 2009.12.18～2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式坑 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	市内 8
41	苗間字神明後 298-1、299-1の一部	(2010.5.25～6.7) 2010.6.15～7.21	486.36	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の竪立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 7、木炭窯 2、ビット 214	市内 9
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1～2)	312	宅地造成	遺構遺物なし (隣接地)	市内 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20～22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ビット 7、本調査	市内 10
44	苗間神明後 367-1、368-1の一部	(2011.7.8) 2011.7.11～13	1,535.8	個人住宅	落とし穴 1、土器・陶器片	市内 14
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9～10)	233	個人住宅	縄文土坑 1、土器片	市内 15
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24) 2012.4.25～5.10	340	個人住宅	縄文時代集石 3、ビット 4、縄文土器片	市内 15
48	苗間神明後 315-1の一部	(2012.5.7) 2012.5.8～14	171	個人住宅	井戸 2、溝 3、土坑 8、ビット、板碑、カワラケ、近世陶磁器、石臼片	市内 15
49	苗間神明後 367-1、368-6	(2013.1.30)	27.5	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
50	苗間 325	(2013.12.11)	531	養蜂室	遺構遺物なし	市内 18
51	神明後 295-1、297-1・2の一部、298-1、299-1	(2014.11.5～13) 2014.11.20～25	487.33	集合住宅	縄文時代土坑 2、中近世溝 2、縄文土器	市内 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	個人住宅	遺構なし、土器片	市内 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.1.28)	495	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	共同住宅	遺構遺物なし	市内 22
55	苗間字神明後 310-1の一部	(2017.5.8) 2017.5.9～12	180	個人住宅	縄文住居跡 2 (24・28号)、縄文土器、石器	市内 24



第111図 神明後遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第 63 表 神明後遺跡縄文時代住居跡一覧表

住居番号	地点	調査率	平面形 () は推定	規模	炉			埋壁	拡張	周溝	備考	時期	所収報告書
					地床	埋設	石囲						
1	0	10%	(円形)	不明	未掘					○	中世土層の下	加曾利 E II	町史頁 1
2	3	65%	(円形)	不明×435×16	○	○		○	有		土坑と埋合	加曾利 E IV、埋壁も E IV	町内 VI
3	5	45%	(円形)	410×不明×30			○		有		北半未掘	加曾利 E II 新	町内 VI
4	9	15%	不明	不明			○		不明	○	掘乱著しい	加曾利 E II 中	町内 VII
5	9	45%	(円形)	565×7×33	○				有		東北部未掘	加曾利 E II 新	町内 VII
6	9	95%	円形	596×542×45	○	②		②	有・ 建替	○	拡張と建替各 2	加曾利 E I 新古相	町内 VII
7	9	70%	円形	不明×498×18	○		○	○	不明		東南部床まで削平	加曾利 E I 新中相	町内 VII
8	18	70%	(円形)	580×7			○	○	不明		床面傾乱	加曾利 E I	大調 16
9	18	50%	(不整形跡)	(490×270)	未掘				有	○	10号に切られる	(加曾利 E I 新新相)	大調 16
10	18	50%	不明	(300×250)×50	未掘					○	9号を切る	曾利 III 式	大調 16
11	18	40%	(不整形跡)	(490×7)×55	未掘					○	貼床	加曾利 E II	大調 16
12	18	70%	(不整形跡)	(570)×550×80	○					○		加曾利 E III	大調 16
13	26	完掘	隅丸方形	343×370×13		○	○	○				加曾利 E I	大調 18
14	27	完掘	円形	404×403×20	○						2本柱のみ	阿玉台 II	大調 18
15	28	完掘	円形	573×499×35			②				入口に張り出し有、17住を埋める	加曾利 E III	市内 3
16	28	完掘	隅丸方形	338×337×25	②				○			加曾利 E II 新	市内 3
17	28	完掘	隅丸長方形	684×525×70	②			○	有	○	拡張 3、15 住に切られる	加曾利 E I 新	市内 3
18	28	完掘	隅丸方形	608×600×90	○		△	○		○	石囲いの可能性有、19 住に切られる	加曾利 E I 新	市内 3
19	28	完掘	隅丸長方形	476×448×60	②		△				石囲いの可能性有、18 住を切る	加曾利 E II～III	市内 3
20	28	完掘	隅丸方形	473×483×28			○				裏り口近くに配石、伏壁	加曾利 E II	市内 3
21	28	40%	(隅丸)	7×7×10	○					○	20・24 住より古	加曾利 E I 新	市内 3
22	28	完掘	隅丸五角形	491×513×113	○					○		加曾利 E I 新	市内 3
23	28	25%	不明	7×7×21	②		△				石囲いの可能性有、20 住より古、24 住より新	加曾利 E II	市内 3
24	28	10%	不明	7×7×55	未掘					○	20・23 住より古、21 住より新	加曾利 E	市内 3、24
25	28	完掘	不明	(500×400)×5	○			○				加曾利 E II 新	市内 3
26	34	完掘	隅丸長方形	585×486×31	○						土坑より新、溝と穴より旧	加曾利 E III	市内 5
27	37	ほぼ完掘	網織方	(550×390)×27.6				○	○			称名寺 I 新	市内 8
28	55			不明		○						加曾利 E II	市内 24



第 112 図 神明後遺跡第 55 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、J24 号住居跡 (1/60)

【時期】 炉体土器及び埋甕から加曾利 E II 式期。

③土坑及びビット

土坑 1 は J24 号住居跡ビット 2 と切り合う。土層の観察より住居跡より新しい。平面形態は楕円形を呈し、確認面径 73 × 57 cm、底径 46 × 41 cm、深さ 71.5 cm を測る。土坑 2 は J28 号住居跡埋甕の北側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、確認面径 62 × 34 cm、底径 22 × 13 cm、深さ 12.7 cm を測る。

ビットの詳細については第 64 表に掲載した。J24 号住居跡ビット 4 及び J28 号住居跡ビット 1 については、住居に伴う柱穴である可能性がある。

④出土遺物

出土遺物の詳細については第 65 表に掲載した。

第 64 表 神明後遺跡第 55 地点 J24・28 号住居跡ビット一覧表 (単位 cm)

住居 No.	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
J 24 号 住居跡	1	不明	47×38	24×20	22.8
	2	不明	37×(27)	30×(21)	24.5
	3	不明	(27)×-	25×22	28.9
	4	不明	50×(34)	21×(11)	59.5
	5	不明	78×(28)	23×(13)	22.2
	6	不明	39×(31)	26×(26)	6.9

住居 No.	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
J 28 号 住居跡	1	楕円形	48×40	25×16	33.1
	2	楕円形	47×36	16×11	15.3

ビット 5

③緑褐色土 緑リ強、1mm 以下のローム粒多く含む

④緑褐色土 緑リやや強、ローム粒・ロームブロック多く含む

⑤緑褐色土 緑リ強、ローム粒・ロームブロック少し含む

⑥緑褐色土 緑リ強、ローム粒多く、ロームブロック少し含む

土坑 1

1. 緑褐色土 粘性强、緑リやや強、1mm 以下のローム粒、焼土・炭化物多く含む

2. 緑褐色土 粘性强、緑リやや強、1mm 以下のローム粒多く、焼土・炭化物少し含む

3. 緑褐色土 粘性强、緑リやや強、1mm 以下のローム粒、焼土・炭化物少し含む

4. 緑褐色土 粘性强、緑リ強、1mm 以下のローム粒僅か含む

ビット 1

1. 緑褐色土 緑リやや強、1mm 以下のローム粒・炭化物・焼土多く含む

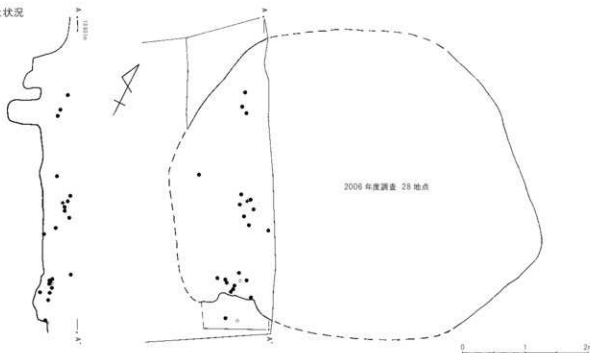
2. 黄褐色土 緑リ強、1mm 以下のローム粒多く、焼土・炭化物少し含む 周溝覆土

ビット 2

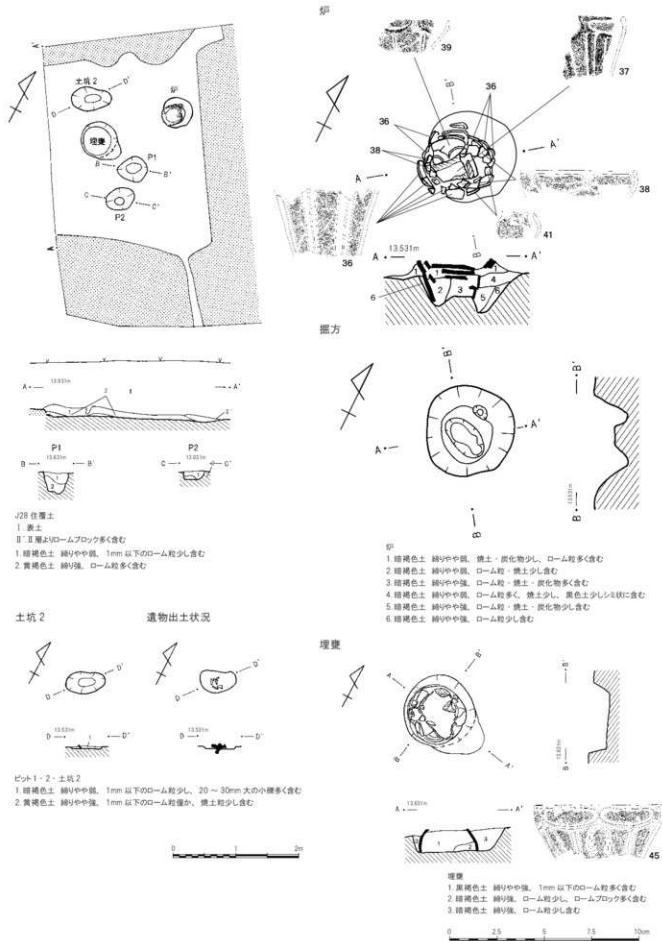
1. 緑褐色土 緑リやや強、ローム粒・ロームブロック・炭化物少し含む

2. 緑褐色土 緑リやや強、ローム粒・ロームブロック多く含む

遺物出土状況

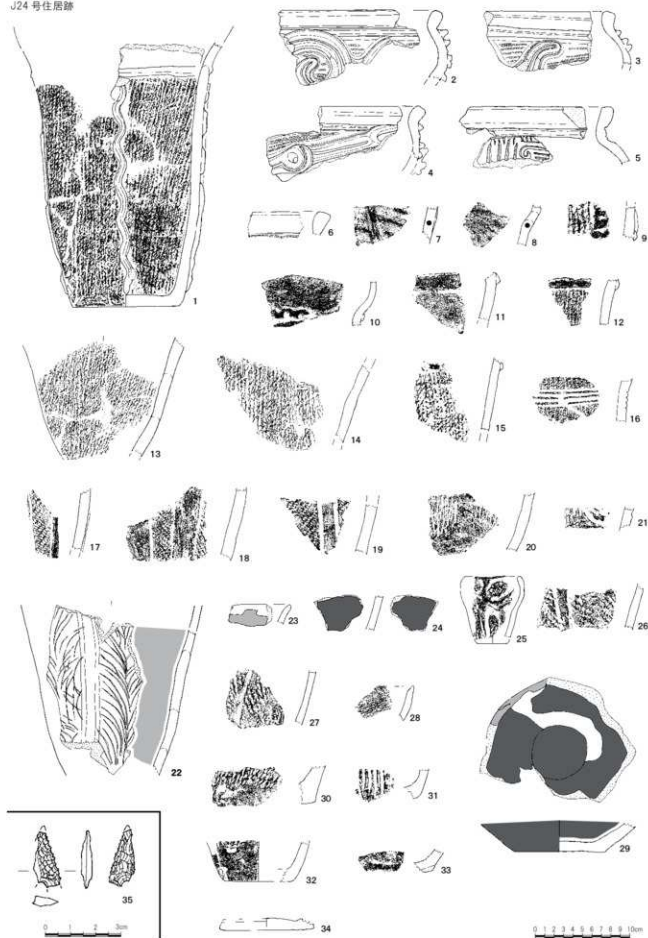


第 113 図 神明後遺跡第 55 地点 J24 号住居跡遺物出土状況 (1/60)



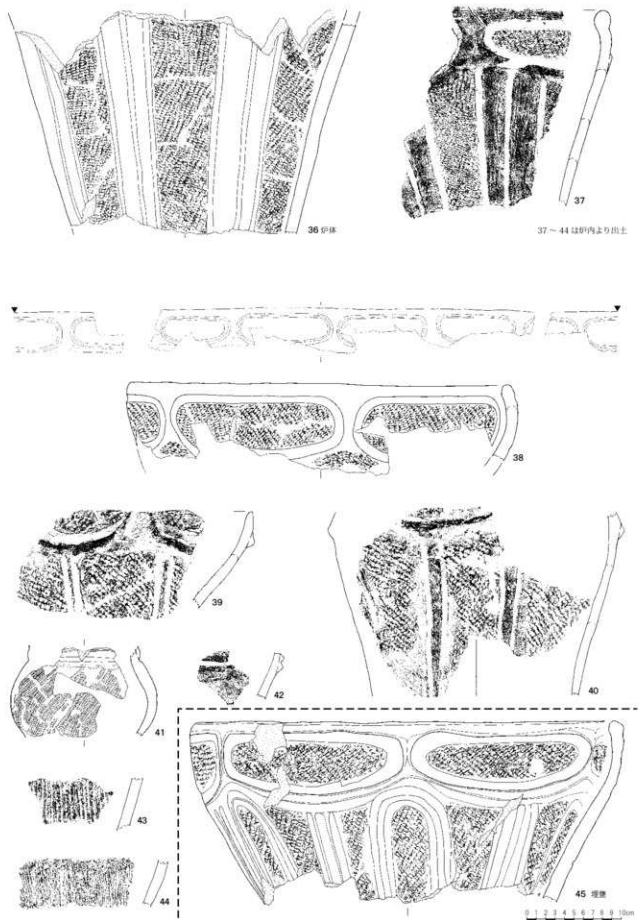
第 114 図 神明後遺跡第 55 地点 J28 号住居跡・土坑・ピット (1/60)、炉・掘方・埋篋 (1/30)

J24号住居跡



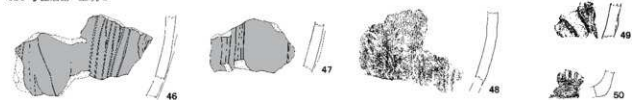
第115図 神明後遺跡第55地点出土遺物① (1/4・2/3)

J28号住居跡



第116図 神明後遺跡第55地点出土遺物② (1/4)

J28 号住居跡 土坑 2



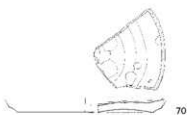
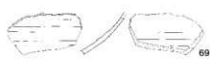
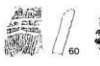
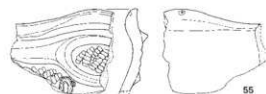
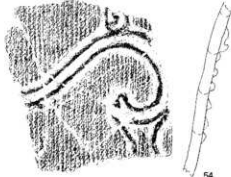
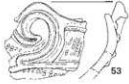
J28 号住居跡 P1



J28 号住居跡 P2



遺構外



第 117 図 神明後遺跡第 55 地点出土遺物③ (1/4)

第65表 神明後遺跡第55地点出土遺物観察表

図版番号	出土遺構	器形/部位	地文/施文/胎土/色調	時期/型式
第115図-1		深鉢/底部～ 底部	頸部から底部まで残存するキャリバー深鉢。頸部文様は施文せず、構位の磨きを施す。胴部との区画を区画する隆帯を巡らす。胴部には1本隆帯を4箇所配置し垂直させる。地文は1層位回転の然れである。僅元最大径は21.5cm、現存高27.8cmである。胎土は砂粒を多く含み、チャートの小礫を混入する。外面暗褐色、内面暗褐色である。焼成は比較的良好	加曾利 E Ⅰ新
第115図-2			2～4はキャリバー深鉢の同一個体である。水平口縁で、口唇面肥厚し、短く立ち上げる。口縁部文様等は以下で隆帯で区画し、2本隆帯で大きな帯状文様を描く。地文は1層位で横位回転で施文している。僅元推定直径は36cm、胎土は多量の砂と石英等の重角礫を混入する。外面は黄褐色、内面は褐色で焼成は良好	加曾利 E Ⅰ古
第115図-3		深鉢/口縁部	口唇部が直立する浅鉢である。器形が大きく「く」の字状に張り出す。胴部との区画を隆帯で画し、細を沈線とせする。胴部文様等は棒状工具先端による刻文を施し、同施文で縦位沈線、窓状区画文様を描く。胎土は砂粒・小礫・褐色シャモットを混入。内外面ともに灰黄褐色。焼成は良好	加曾利 E Ⅰ併行
第115図-4		深鉢/口縁部	水平口縁で、口唇面肥厚し、短く立ち上げる。構位の沈線で区画する。胎土は白色粒子を混入するシルト質。外面灰褐色、内面黒褐色。焼成良好	加曾利 E Ⅰ
第115図-5		深鉢/胴部	つまみあげた背の低い隆帯を貼り付け、地文に指環状が見られる。胎土に多量の金雲母粒子を混入する。外面暗褐色、内面灰褐色。焼成は良好	阿玉台Ⅱ
第115図-6		深鉢/胴部	連続する押印文が施文される。胎土は多量の砂粒、金雲母粒子、小礫を混入する。外面暗褐色、内面灰褐色。焼成は良好	阿玉台Ⅱ
第115図-7		深鉢/胴部	地文に熊糸しを縦位回転し施文し、隆帯を縦に張りつけ、半円状の刻みを付す。胎土は砂粒を含み、シルト質。外面灰褐色、内面黒褐色。焼成は比較的良好	横坂
第115図-10		小型深鉢/頸部	頸部に熊糸し、構位の磨きを施す。胴部との区画に「V」字状隆帯を連続的に貼付。胎土はシルト質で、砂を若干混入する。内外面とも暗褐色。焼成良好	曾利系
第115図-11		深鉢/口縁部	断面三角の隆帯を貼付け直下は構位の磨きで無文とする。胎土は砂粒・黒雲母粒子・小礫を混入する。外面灰褐色、内面褐色。焼成良好	加曾利 E
第115図-12		深鉢/胴部	頸部区画隆帯直下は地文し熊糸しを縦位回転し施文する。胎土はシルト質で外面暗褐色、内面灰褐色。焼成は比較的良好である	加曾利 E Ⅰ新
第115図-13		深鉢/胴部	地文に熊糸しを縦位回転し施文する。胎土は砂粒を多量に含み、小礫を混入する。外面灰黄褐色で二次焼成で表面の割傷がみられる。内面は炭化物の付着が顕著にみられ黒褐色。焼成は不良	加曾利 E Ⅰ新
第115図-14		深鉢/胴部	地文に熊糸しを縦位回転し施文する。胎土は小礫及び砂粒を多量に混入する。外面暗褐色、内面は暗褐色。焼成は比較的良好	加曾利 E Ⅰ新
第115図-15		深鉢/胴部	頸部と胴部を区画する隆帯下に地文熊糸しを縦位回転し施文。胎土は白色微粒子が目立つ。外面暗褐色、内面は暗褐色～黒褐色である。焼成は比較的良好だが二次焼成による黒化がみられ、器表面の割傷がはなはだし	加曾利 E Ⅰ新
第115図-16		深鉢/胴部	地文に熊糸しを縦位回転し、半円管管状工具による半隆帯で断面区画する。胎土は白色粒子を多く混入。外面暗褐色、内面灰褐色。焼成良好	加曾利 E Ⅰ新
第115図-17	124号住居跡	深鉢/胴部	半円管管状工具による半隆帯両側に沈線を巡らす。地文は単筋LR縄文が施されている。胎土はシルト質で、若干の砂を混入する。外面暗褐色、内面に黒斑がみられ、灰褐色をする。胎土良好	加曾利 E Ⅰ
第115図-18		深鉢/胴部	頸部に2本1組の磨り消し沈線を垂下させる。地文は単筋LR縄文を縦方向に施文している。胎土はシルト質で、外面暗褐色、内面灰褐色。焼成良好	加曾利 E Ⅱ
第115図-19		深鉢/胴部	2本1組の磨り消し沈線を垂下させる。地文は単筋LR縄文を縦位に施文する。胎土はシルト質で砂粒・シャモットを混入する。内外面灰褐色。焼成良好	加曾利 E Ⅱ
第115図-20		深鉢/胴部	地文に熊糸しを縦位回転で施文。胎土に黒雲母粒子、砂粒を多く混入する。外面暗灰褐色、内面灰黄褐色。焼成は比較的良好	加曾利 E Ⅰ
第115図-21		深鉢/胴部	沈線による弧状と縦い牽引工具で縦に施文する。胎土はシルト質で赤褐色シャモットの混入が目立つ。内外面とも黒褐色。焼成はとも良好	連気系文か
第115図-22		深鉢/胴部	キャリバー深鉢の器形。地文には単沈線で長機内状の弧状を描き、器上下両面に集合させる。両側に垂直な帯状文様を垂下させる。地文を磨消。平行沈線文を垂下させる。内面は構位の磨きを入念に施す。胎土はシルト質で、シャモットを若干混入する。外面暗赤褐色～灰褐色、内面灰褐色で黒斑がみられる。焼成は非常に良好	加曾利 E Ⅱ併行
第115図-23		深鉢/口縁部	無文の口縁部。胎土に赤褐色シャモット混入。外面は暗赤褐色、内面黒褐色。焼成良好	
第115図-24		深鉢/胴部	無文とも構位の磨きで入念にみがき終りに観察研磨する。胎土はシルト質で黒褐色でツヤを保っている。焼成は良好	
第115図-25		ミニチュア深鉢	外表面のミニチュア土器である。推定口径6cm、口縁には沈線で帯状文様を描き、胴部には沈線で押し文を垂下させている。地文は無施しを施文。胎土はシルト質で赤褐色シャモットを混入。内外面とも暗褐色。焼成は良好である	加曾利 E Ⅲ
第115図-26		深鉢/胴部	地文に無施しを縦位回転し施文し沈線で磨消する。胎土はシルト質で、外面暗褐色、内面赤褐色。焼成良好	加曾利 E Ⅱ
第115図-27		深鉢/胴部	地文に無施しを縦位回転し施文している。沈線でU字状に磨消懸垂する。胎土はシルト質で、シャモットの混入がある。外面灰黄褐色、内面暗褐色で黒斑がある。焼成は良好である	加曾利 E Ⅱ
第115図-28		深鉢/口縁部	口唇部内面をそぎ落とし断面三角を呈する。地文には縦いR縄文を縦位回転し施文する。胎土はシルト質で砂粒を多量に混入する。内外面ともに灰褐色。焼成は良好である	後期
第115図-29		浅鉢/底部	底径9.4cm。無文で、構位の磨きが施される。胎土は黒雲母粒子、砂粒、小礫を多量に混入する。内面全面に赤色塗彩が施され、表面にも観察されることから底部を二次利用として使用していた可能性が高い。外面黒褐色、内面は黒色付着物が観察される。焼成は比較的良好	
第115図-30		深鉢/底部	22mmの厚さで地文に熊糸しを施す。胎土は小礫を混入するシルト質。外面赤褐色、内面は灰黄褐色。焼成は良好	加曾利
第115図-31		深鉢/底部	集合沈線に接す。胎土に砂を若干混入する。外面暗褐色、内面黒褐色で炭化物の付着が認められる。焼成は比較的良好	加曾利
第115図-32		深鉢/底部	胴部向の沈線の末端が観察できる。胎土はシルト質で、白色粒子を多量に混入する。外面褐色、内面灰褐色で黒斑が付着する。焼成良好	加曾利
第115図-33		浅鉢の底部か	胎土はシルト質で、シャモット、砂粒の混入がある。外面赤褐色、内面灰褐色。焼成良好	
第115図-34		深鉢/底部	底径10.0cm。胎土はシルト質で、意面灰褐色、内面灰黄褐色。焼成良好	
第115図-35		石礫	黒影が顕著する。挟人がわずかに残る。石材は青灰色チャート。長さ2.3mm、幅0.9mm、厚さ4.15mm、重さ0.94g	
第116図-36	126号住居跡が体	深鉢/胴部	器内から出土したキャリバー系深鉢形土器の胴部である。最大径37.3cm、3本1組の磨消沈線が10層位施文されている。地文は単筋LR縄文を縦方向に施文している。現存する断面は23cmである。胎土はやや砂質でシャモットを多く含む。外面黄褐色、内面灰褐色～暗褐色。焼成は良いが、内外面とも部分的には二次焼成による黒化がみられ、器表面がはじけ黒斑が残る	加曾利 E Ⅱ

図版番号	出土遺構	器形/部位	地文/施文/胎土/色調	時期/型式
第 116 図-37	住居跡群内	深鉢/口縁部-胴部	36 の伊体土器内から出土したキヤリヤー系深鉢土器である。口縁はやや内湾し、口縁部文様は沈線で椀形凹面文を施文し、その直下から 3 本 1 組の磨消沈線文が施文されている。椀形凹面文は単筋 R 縄文を右から横様に、胴部は左から横様に単筋 LR 縄文を横方向に施文している。胎土はシルト質で赤色シヤモット、小礫を含む。外面黄褐色。内面灰褐色。焼成は良好	加賀利 E II
第 116 図-38		深鉢/口縁部	口径 41 cm。現存高 9.8 cm。口縁部は平縁で 1 本の沈線で 7 本の椀形凹面文を配置する。地文は単筋 R 縄文を椀形凹面文内は横方向に、頸部は縦方向に施文している。胎土はシルト質である。外面灰褐色～暗褐色。内面褐色で黒炭がみられる。部分的に二次焼成による黒化がみられる。焼成は比較的良い	加賀利 E II
第 116 図-39		深鉢/口縁部	口縁部はゆるやかに内湾するキヤリヤー系深鉢の器形。隆帯より口縁部から椀形凹面文を描き、2 本 1 組の磨消沈線文を施文する。単筋 R 縄文を横から斜め方向に施文し、地文とする。椀形凹面文は 2 本 1 組に施文する。胎土は砂粒を混入するシルト質。外面暗褐色。内面暗褐色。焼成は良好	加賀利 E II
第 116 図-40		深鉢/口縁部-胴部	38 と同様の施文構成。胴部の地文は単筋 LR 縄文を縦方向に施文する。胎土はシルト質で若干の砂粒を混入する。外面黒褐色。内面暗褐色。焼成良好である	加賀利 E II
第 116 図-41		壺形土器胴部	推定口径 11.5 cm。胴部最大径 15.5 cm。口縁部と胴部の区画に浅い沈線文を 2 本並らせる。地文は LR 縄文を横方向に施文する。外面全面に赤彩。黒彩が部分的にみられる。暗赤褐色。内面灰黄褐色。胎土に小礫混入。焼成良好	
第 116 図-42		深鉢/頸部	つまみあけた背の低い隆帯を貼り付け沈線に沿わせる。胎土はシルト質で黒炭母粒子を混入する。外面内とも褐色。焼成は良好	
第 116 図-43		深鉢/胴部	地文として条線を縦方向に施文する。胎土に砂粒を多量に混入し、外面はざらつく。外面褐色。内面褐色。焼成は良好	
第 116 図-44		深鉢/胴部	4 本 1 組の細い歯状工具で条線を縦に施文する。胎土はシルト質でシヤモットを混入する。外面は灰黄褐色。内面褐色。焼成良好	
第 116 図-45		住居跡群壁	口縁部を逆位に伏せた状態で出土した深鉢土器。最大径は 44 cm。現存高 20.5 cm である。口縁から胴部上半が埋没し使用され、胴部下半は欠損するものである。口縁部は平縁で、ゆるやかに内湾し、胴部の縁は浅いバツケの器形をなすものと考えられる。口縁部には沈線によって椀形凹面文を 6 単位内湾し、その直下から 2 本 1 組の沈線で足ひ字状を描き、椀形凹面文中央部直下から 3 本 1 組、2 本 1 組の磨消沈線文を並べて施文する。地文は単筋 LR 縄文を胴部は斜め方向に、口縁部凹面内には R 縄文を横方向に施文している。胎土はシルト質で、赤褐色シヤモットと小礫を混入する。内外ともに灰黄褐色で黒炭がみられる。内面はバツケが多くみられる。焼成は良好である	加賀利 E II
第 117 図-46		J28 住土坑 2	深鉢/胴部	焼痕起文を貼り付け、地文に 3 本 1 組の歯状工具を縦位に施す。外面に黒色付着物。内面には黒彩の付着が著しい/胎土はシルト質で、白色粒状・赤褐色シヤモットを混入する/外面褐色～灰褐色。内面灰黄褐色で外面に黒色付着物がみられる
第 117 図-47	深鉢/胴部		46 と同一個体。断面背の低い隆帯を 2 本貼る。へうで縦位の入念な研磨を施す	加賀利 E II 新
第 117 図-48	深鉢/胴部		幅 5 mm ほどの歯状工具で 4 本の細い条線を繰り返し縦位に施す/胎土はシルト質で白色粒子を混入する/外面褐色。内面は黒彩に覆われる。地は外面と同じ。焼成良好	加賀利 E II
第 117 図-49	深鉢/胴部		幅広の沈線で縦位の磨消文を描く/胎土はシルト質で赤褐色シヤモット混入/外面暗灰褐色。内面灰褐色。焼成は良好である	加賀利 E II
第 117 図-50	深鉢/底部		沈線による磨消文を描く。胎土はやや砂質で、外面黄褐色。内面灰褐色	加賀利 E II
第 117 図-51	J28 住ビット 1	深鉢/胴部	地文に LR 単筋縄文を縦位回転させ平行沈線で磨消文を描く/胎土はシルト質で、シヤモットを混入する/外面暗褐色。内面暗褐色	加賀利 E II
第 117 図-52	J28 住ビット 2	深鉢/胴部	地文は単筋 LR 縄文を横位回転して施し、磨り消す 2 本の沈線文を施文する。胎土はシルト質で砂を多く混入する。外面黄褐色。内面灰褐色	加賀利 E II
第 117 図-53	深鉢/口縁部	キヤリヤー系深鉢で 2 本隆帯で大柄の磨消文を描く。地文は L 系の条線を縦位回転施文する。頸部は無文帯となる。胎土は黒黄褐色。赤褐色シヤモット、小粒な砂を混入する。外面暗褐色。内面暗褐色	加賀利 E I 古	
第 117 図-54	深鉢/胴部	2 本の帯で大柄の磨消文を描き、モチーフ末端の小溝文を配する。頸部全面に L 縦位回転の磨消文を施文する/胎土は少量の砂を含み、黒炭母粒子が混じる。外面暗褐色～褐色。内面褐色である。焼成は比較的良い	管式式	
第 117 図-55	深鉢/口縁部	4 単位位の波状口縁部をもつキヤリヤー系深鉢で、磨消文原図が、口縁の波頂部下にくる。地文は単筋 LR 縄文を横位回転施文する。胎土はシルト質で小礫を含む。外面は褐色。内面暗灰黄褐色。焼成は良好	加賀利 E II 新	
第 117 図-56	深鉢/口縁部	沈線区画内に単筋 LR 縄文を縦方向に施文する。胎土はシルト質で、砂を少量混入する。内外面とも灰黄褐色である。焼成は比較的良い	加賀利 E II 新	
第 117 図-57	深鉢/口縁部	沈線区画内に単筋 LR 縄文を斜位に施文する。内面は幅 5 mm ほどのへう磨き。胎土はシルト質で白色粒状子を混入する。内外面とも灰黄褐色。焼成は良好である	加賀利 E II 新	
第 117 図-58	深鉢/口縁部	隆帯下に R 縄文を施文する。胎土はシルト質で砂粒を混入する。内外面とも灰褐色。焼成は良好	加賀利 E II 新	
第 117 図-59	深鉢/口縁部	平行沈線文の連環状文を、地文 4 本の条線の上に施す。口縁部は半截竹管を連続刺突する。胎土はシルト質で、褐色シヤモット、白色粒状子を混入する。外面は黒褐色。内面暗褐色。焼成良好	連環文系	
第 117 図-60	深鉢/口縁部	地文に単筋 R 縦位回転し、平行沈線を描す。胎土は砂粒を混入する。外面暗灰褐色。内面灰褐色。焼成は比較的良い	連環文系	
第 117 図-61	深鉢/口縁部	隆帯直下から地文に条線を施す。胎土は砂を多量に混入する。外面暗褐色～灰褐色。内面は灰褐色。焼成不良	加賀利 E II	
第 117 図-62	深鉢/口縁部	沈線文を口縁部で、無文部直下は材質が硬く削い R 縄文が縦位回転に施文されている。胎土は赤褐色シヤモットを多量に混入する。外面に黒炭が付着し、灰黄褐色。内面は黒褐色。焼成は良好である	加賀利 E II 新	
第 117 図-63	深鉢/口縁部	内外面とも横位の磨消文を施し文様はない。胎土はシヤモット混入し、シルト質。外面黒褐色。内面は灰褐色。焼成良好	加賀利 E	
第 117 図-64	深鉢/胴部	2 本の沈線を並下させている。地文は無文だが入念な縦位の磨消文を施す。胎土は砂粒多く混入する。外面は褐色でバツケが目立つ。内面は灰黄褐色。焼成良好	加賀利 E	
第 117 図-65	土師質/口縁部	横位の磨消文を施す。胎土は黒炭母片を混入する。内外面とも黒褐色		
第 117 図-66	瓦質土器/真口底部	内外面ナデ調整し、外面黒色光沢有り		
第 117 図-67	瓦質土器/養蚕火鉢底部	輪縁成形/外面叩き目 胎土は灰褐色。内外面とも黒褐色。山王塚(塚地:東松山市)	20 世紀中頃?	
第 117 図-68	磁器/浮鉢口縁	輪縁成形/灰輪/内面施釉/胎土灰色		
第 117 図-69	磁器	輪縁成形/灰輪/外面全面にスズ付着/胎土灰白色		
第 117 図-70	陶器/皿底部	底径 16.5 cm。胎土は灰黄褐色		
第 117 図-71	縄文土器片(加賀利 E II 期の土器)	縄文土器片(加賀利 E II 期の土器)を用いた隠蔽的な砥石。面のほとんどを研ぎ面とする。内面を主研ぎ面とする。B 面に縄文施文が残る。胎土は砂粒、赤色シヤモットを混入する。外面灰黄褐色。内面暗褐色。焼成は良好		

第22章 浄禪寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禪寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

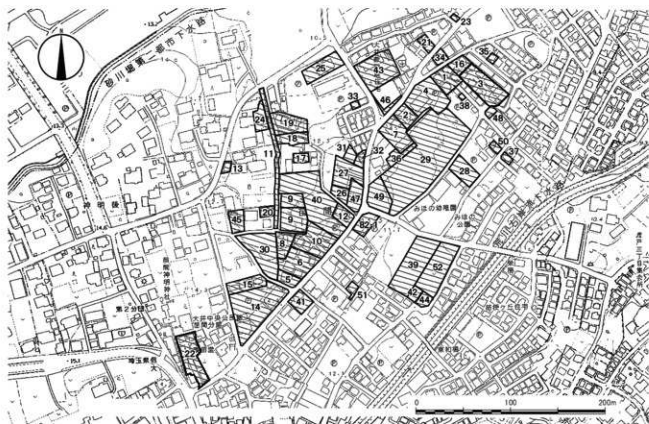
2019年4月現在52地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の竪穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の葉研状の堀や、遺跡名の由来である浄禪寺墓域から土墳墓157基、一字一石総約76,000点が出土している。浄禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禪寺跡遺跡第42地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2016年3月29日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年4月8日に試掘調査を実施した。

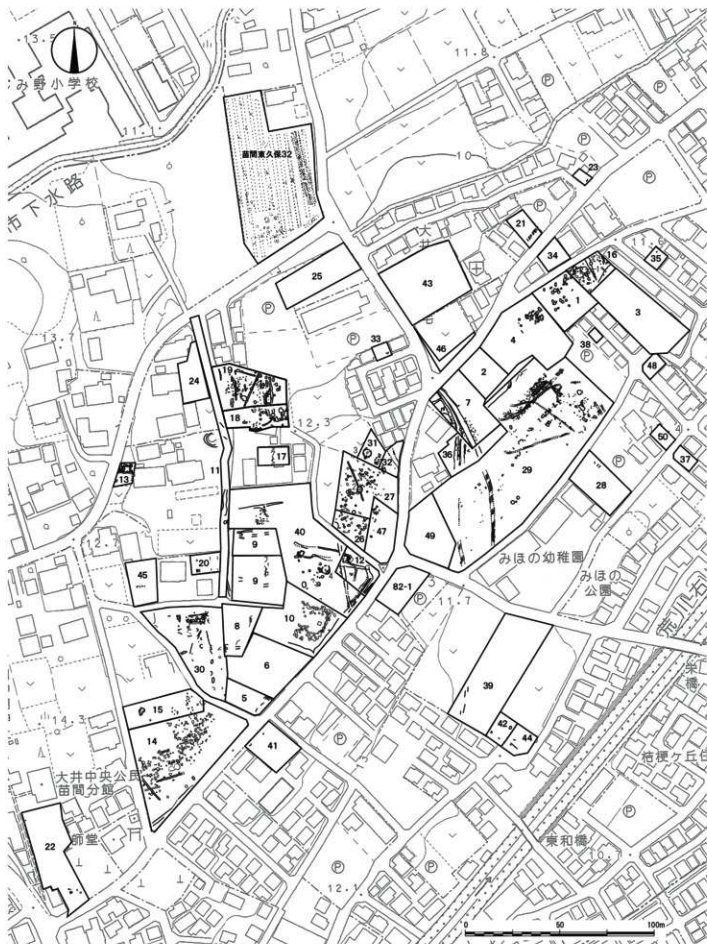
試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmである。



第118図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第66表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保 579	1979.4.3～21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み(伊10、土坑14、縄文早期後半・中期)	東部1
2	苗間東久保 573	1982.4.1～3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み(遺構なし、資料縄文土器)	東部II
82-1		1982.4.2～9			苗間東久保遺跡跡第8地点、遺構遺物なし	東部IV
3	苗間東久保 581	1984.7.20～21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後 346-1	1989.11.15～25	150	開発予定地	伊穴10、土坑7、ビット14、縄文早期後半・前・中期	東部X
5	苗間 374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内I
6	苗間 358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構遺物なし	町内1
7	苗間東久保 573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	伊穴8、井戸3、竪3、縄文草～中期	大洞5
8	苗間 357-1	(1994.9.20～27)	615	宅地分離	溝と土坑、樹切溝	大洞IV
9	苗間 353	(1994.10.18) 2007.5.22～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	大洞IV、市内4
10	苗間 356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分離	近世土器類、一石坪埴土坑、穴溝、江戸中後期	大洞12
11	苗間 352-1 他	(1995.19～2.3)	572	道路	溝水口	町内IV
12	苗間 35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	竪外坑、溝渠集中3、ビット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内V
13	苗間 314-2	(1996.1.8～29)	101	個人住宅	土坑13、ビット11、井戸1、溝2、縄文草～後期、陶磁器	町内V
14	苗間 360-1,362-2	(1996.6.3～12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	埴群3、溝と土坑11、溝4、ビット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内VI
15	苗間 362-4,5	(1996.6.3～12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	伊穴7	町内VI
16	苗間 579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、伊穴14、ビット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期	町内VII
17	苗間 345-2,10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内VIII
18	苗間 345-3,4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	個人住宅	伊穴8、竪石土坑3、土坑13、ビット27、溝2、縄文後期土器、土師器	町内IX
19	苗間神明後 345-4	1999.8.28～9.14	703	分譲住宅	伊穴11、竪石2、埴土坑4、土坑22、井戸2、溝8、竪立3、縄文草～晩期土器、石器、中近世陶磁器、磁器	大洞15
20	苗間神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内XI
21	苗間東久保 591-3、592-7	(2001.11.19～20)	182	個人住宅	遺構遺物なし	町内XI
22	苗間 373-5,8、377-5,3-4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ビット4、溝、遺物なし	町内XI
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ビット2、溝、遺物なし	町内XI
24	苗間神明後 346-1,2の 一部	(2004.8.30～31)	391	個人住宅	遺構遺物なし	町内XI
25	苗間 339-1,2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ビット2	町内XI
26	苗間神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
27	苗間神明後 354-2の 一部	(2005.3.3～8) 2006.4.17～28、6.7～15	216	分譲住宅	伊穴10、土坑8、ビット21、溝1、縄文中期片	市内3
28	苗間神明後 354-2	(2005.12.1～ 2006.1.22) 2006.1.23～2.23	696	道路・分譲住宅	住居跡1、伊穴15、埋壁2、土坑117、ビット127、溝1	市内2
29	苗間東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	商業改築	溝2	市内3
30	苗間 570-1,2、571-1,2、575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	竪立柱礎跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器・磁器他	市内4
31	苗間 359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	新居跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器・磁器他	市内4
32	苗間字神明後 342-1 一部	(2007.2.19) 2007.2.19～3.5	171	個人住宅	住居跡1、伊穴11、土坑1、ビット26、縄文土器・石器	市内4
33	苗間字神明後 340-17,342-10-15	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ビット1、縄文土器	市内4
34	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内10
35	苗間字東久保 586-7,587-2の一部	(2012.8.24)	160	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
36	苗間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	個人住宅	ビット1、縄文土器片	市内15
37	苗間字東久保 573-5	(2012.8.6～9) (2012.9.5～12)	401	宅地造成	土坑2、ビット14、溝5	市内15
38	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
39	苗間東久保 578-11	(2013.5.14)	53.42	個人住宅	遺構なし、表層土器	市内18
40	苗間 565-1	(2013.6.25～7.3)	1,709	分譲住宅	中世以降の溝、遺物なし	市内18
41	苗間字神明後 355-1,2,12	(2015.8.19～9.30) 2015.10.1～11.9	2,308.06	分譲住宅	縄文時代住居跡1、竪石土坑3、溝6、土坑13、ビット51、地下式坑1、井戸1、縄文土器	市内19
42	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	分譲住宅	土坑1、ビット1、土器片	市内22
43	苗間字神明前 564-3の一部	(2016.4.8)	132.35	分譲住宅	土坑1、遺物なし	市内24
44	苗間字 589-1	(2016.6.20～24)	1,402	公園	遺構なし、土器片	市内24
45	苗間字神明前 564-5	(2016.7.1～4)	124.05	分譲住宅	溝1、遺物なし	市内24
46	苗間字神明後 349-3、350-4	(2016.8.18～19)	310	個人住宅	ビット12、縄文土器、泥塗子	市内24
47	苗間 588-10	(2017.2.6)	108	道路拡張	遺構なし、縄文土器片	市内24
48	苗間字神明後 354-1	(2017.4.21～24) 2017.4.25～5.2	401	個人住宅	伊穴1、土坑1、ビット、縄文土器	市内24
49	苗間字東久保 717-3	(2017.5.15)	103	分譲住宅	遺構遺物なし	市内24
50	苗間字東久保 569-1	(2017.5.22～23)	798	分譲住宅	遺構遺物なし	市内24
51	苗間字東久保 717-12	(2017.7.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内24
52	苗間字神明前 510-12・13	(2018.4.26)	112.58	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
53	苗間字神明前 564-1	(2019.2.12・13)	1,186	オールド・ファッションビル	ビット2、土師器、陶磁器、磁器	未報告



第119図 浄禅寺跡遺跡遺構分布図 (1/2,000)

調査の結果、土坑1基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

土坑は調査区北東部、トレンチ1で検出した。確認面径 124×97 cm、底径 106×79 cm、深さ 90.8 cm で隅丸方形を呈する。出土遺物はない。土層の観察から縄文時代と推測される。

III 浄禅寺跡遺跡第44地点

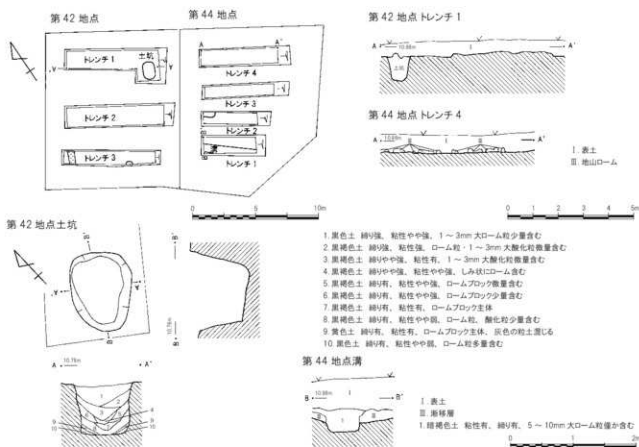
(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2016年6月10日付けで「埋藏文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年7月1～4日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅1～1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmであった。

調査の結果、溝1条を確認した。遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

溝は調査区南側、トレンチ1で検出した。東西方向に走行し、幅60cm、深さ13.7cmである。他のトレンチや隣接する第42地点では確認されていない。出土遺物はないが、土層の観察から近世以降のものと考えられる。



第120図 浄禅寺跡遺跡第42・44地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、第42地点土坑・第44地点溝(1/60)

IV 浄禅寺跡遺跡第43地点

(1) 調査の概要

調査は公園建設に伴うもので、原因者より2016年5月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北側に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年6月20～24日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約130～150cmである。また、旧石器時代の確認調査のため、1m四方のトレンチを6ヶ所設定した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて覆土中より出土した。詳細については第121図及び第68表に掲載した。

V 浄禅寺跡遺跡第45地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年8月18～19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70～80cmである。

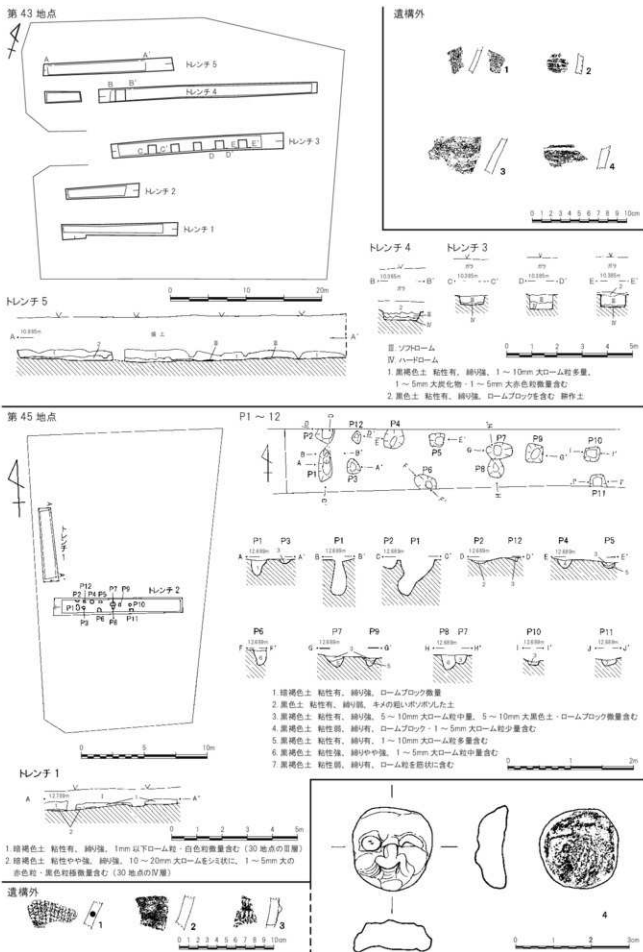
調査の結果、ピット12基を検出したが、保護層確保が可能なため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第67表 浄禅寺跡遺跡第45地点ピット一覧表 (単位 cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	No	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	楕円形	50×20	7×6	56.2	7	楕円形	40×26	15×12	22
2	不明	27×(24)	15×(15)	11.4	8	楕円形	(30)×25	15×9	23.3
3	三角形	25×19	14×10	14.6	9	方形	28×28	20×10	16.9
4	不明	30×(29)	17×8	17.1	10	方形	24×23	16×13	8
5	方形	23×21	13×12	8.1	11	不明	25×(20)	15×(14)	12.9
6	不明	37×22	13×10	28.6	12	方形	17×14	8×5	10.7

第68表 浄禅寺跡遺跡第43・45地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

地点	図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第43地点	第121図-1	遺構外	縄文	—	—	—	3本単位の先端矢羽根状柳歯状文様、内面柳歯状文様	前期末
	第121図-2		縄文・深鉢	—	—	—	地文沈線・内面炭化	—
	第121図-3		縄文・深鉢	—	—	—	無文・胎土に白色粒子、僅かに雲母含む	縄文中期
	第121図-4		縄文・深鉢	—	—	—	横位沈線・外面に黒斑	縄文中期
第45地点	第121図-1	遺構外	縄文・深鉢	—	—	—	地文RL縄文、一部磨り消しか・内面ハジケ、胎土に金雲母含む	縄文中期
	第121図-2		縄文・深鉢	—	—	—	無文・胎土に砂礫を含む	—
	第121図-3		縄文・深鉢	—	—	—	隆帯両脇に押し文、弧状に沈線・胎土に砂礫を含む	縄文中期
	第121図-4		土製品・泥面子	2.2	2.1	0.8	芥子面(ひよっこ)・裏面に指頭痕あり	近世以降



第121図 浄禅寺跡遺跡第43地点調査区域図 (1/500)、第45地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)、出土遺物 (1/4・1/1)

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットはトレンチ2で検出した。詳細については第 67 表に掲載した。ピットの帰属時期は不明である。

②遺物

遺物はすべて遺構外からの出土である。詳細については第 121 図及び第 68 表に掲載した。

VI 浄禅寺跡遺跡第 46 地点

(1) 調査の概要

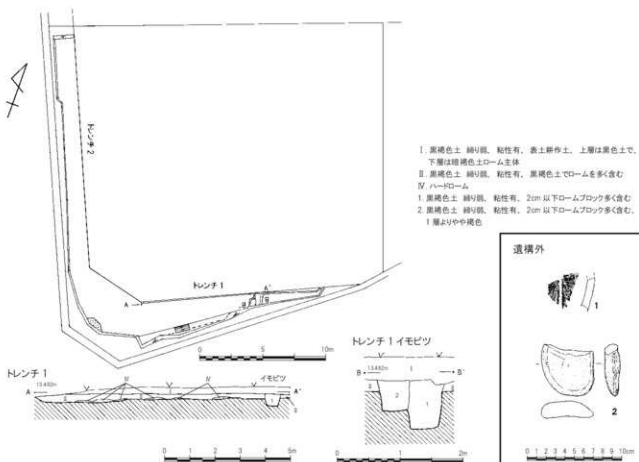
調査は道路拡幅工事に伴うもので、原因者より 2016 年 12 月 26 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北側に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2017 年 2 月 6 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は道路拡幅部分に合わせて重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ~ 40cm である。

調査の結果、近世以降と考えられるイモピットと縄文土器片、石器を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて遺構外で出土した。1 は縄文土器深鉢の胴部である。縦位沈線が施され、胎土に砂礫を多く含む。中期か。2 は敲き石の一部と考えられる。砂岩製で残存する大きさは(5.3 × 5.4)cm、厚さ 1.7 cm、重さ 70.83g である。



第 122 図 浄禅寺跡遺跡第 46 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、イモピット (1/60)、出土遺物 (1/4)

VII 浄禅寺跡遺跡第47地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年3月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年4月21～24日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約25～80cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代炉穴、土坑、ピットを検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2017年4月25～5月2日まで、調査区西側を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

本地点は西から東に向かって傾斜しており、約1mの高低差がある。遺構はすべて西側の最も高い位置に集中している。

①炉穴

【炉穴1】調査区北西部に位置する。平面形態は楕円形を呈し、確認面径76×56cm、底径36×20cm、深さ21.2cmを測る。焼土の範囲は41×41cmで、出土遺物はない。

【炉穴2】調査区北西部、炉穴1より約3m北側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、確認面径101×70cm、底径7×6cm、深さ26.6cmを測る。焼土範囲は34×25cmで、出土遺物はない。

②土坑

土坑は3基検出した。土坑1は調査区南西部、土坑2・3は調査区北西部に位置する。土坑3の覆土中から遺物が出土したが、流れ込みであろう。詳細については第69表に掲載した。

③ピット

ピットは全部で11基検出した。詳細については第70表に掲載した。

④出土遺物

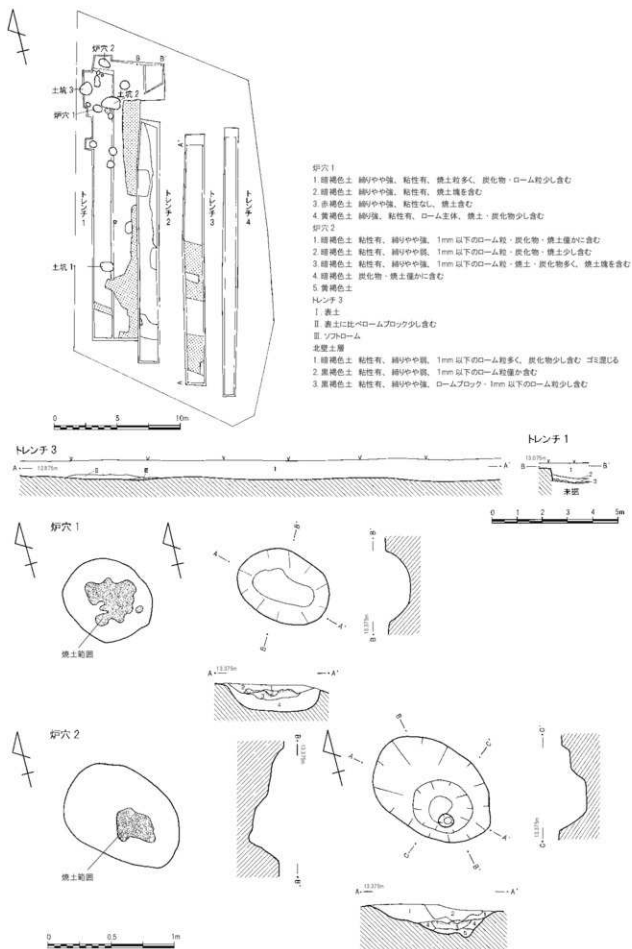
土坑3及びピット11の覆土中以外はすべて遺構外からの出土である。詳細については第124図及び第71表に掲載した。

第69表 浄禅寺跡遺跡第47地点土坑一覧表(単位cm)

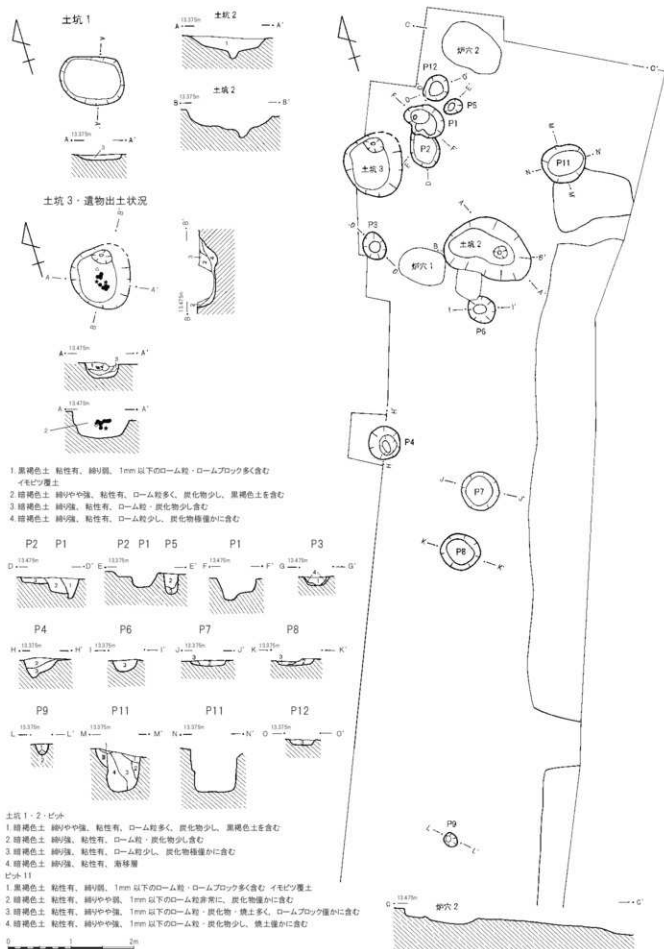
No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	隅丸方形	103×77	90×60	13.4	縄文
2	楕円形	138×90	105×47	24.9	縄文
3	台形	103×94	75×58	33.2	中近世以降

第70表 浄禅寺跡遺跡第47地点ピット一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	65×49	8×5	40.1	中近世以降
2	不明	49×(45)	(41)×36	10.8	縄文
3	楕円形	44×38	18×18	18.8	中近世以降
4	円形	53×50	19×10	26.6	縄文
5	楕円形	30×23	12×7	33.7	縄文
6	円形	43×39	21×13	19.6	縄文
7	円形	65×60	45×43	13	縄文
8	円形	62×57	43×37	13.8	縄文
9	方形	23×19	10×8	21.2	中近世以降
10					土坑3へ
11	楕円形	68×59	57×37	70	中近世以降
12	楕円形	43×40	25×18	12.7	縄文

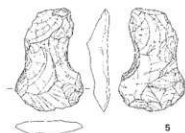


第123図 浄禅寺跡遺跡第47地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、炉穴 (1/30)

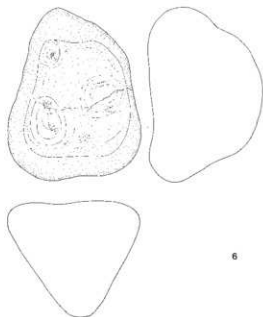
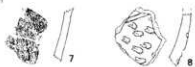


第124図 浄禅寺跡遺跡第47地点土坑・ピット (1/60)

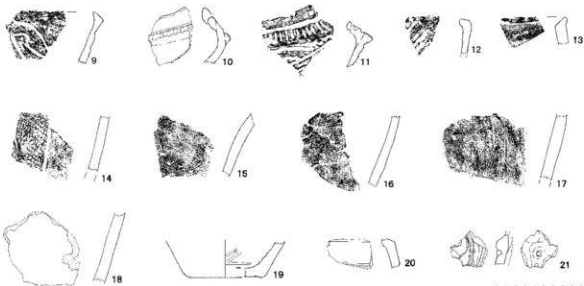
土坑 3



P11



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第 125 図 淨禪寺跡遺跡第 47 地点出土遺物 (1/4)

第71表 浄禅寺跡遺跡第47地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	地文・施文・備考	時期・型式
第125図-1	土坑3	縄文・深鉢	(28.0)	—	(6.3)	—	無文・内外面ミガキ・外面に煤付着	中期
第125図-2		縄文・深鉢	—	—	—	—	波状沈線・胎土に砂礫を多く含む	中期
第125図-3		縄文・深鉢	—	—	—	—	LR縄文か、摩滅が激しい・胎土に金雲母を含む、内面に煤付着	中期
第125図-4		縄文・深鉢	—	7.0	(7.3)	—	無文・底部、内面に煤付着	中期
第125図-5		石器・打製石斧	10.649	7.066	2.2	137.51	基部一部欠損、材質：ホルンフェルス	縄文
第125図-6		石器・敲き石	18.1	14.1	12.2	3775.0	材質：砂岩	縄文
第125図-7	P11	縄文・深鉢	—	—	—	—	被熱によるハジケ、内外面に煤付着	—
第125図-8		縄文・深鉢	—	—	—	—	矢羽状の刺突文、外面に赤彩、被熱によるハジケ	後期・称名寺2
第125図-9	遺構外	縄文・深鉢	—	—	—	—	沈線による施文・口縁部内傾、全体的に摩滅、胎土に白色粒子を含む	後期・堀之内2
第125図-10		縄文・浅鉢	—	—	—	—	波状口縁、刻み目隆帯貼付、上部に沈線・外面上部と内面ミガキ、白色粒子を含む	後期・堀之内
第125図-11		縄文・深鉢	—	—	—	—	波状口縁、突起部に刻み目、上部に沈線、胴部に沈線を施す、口唇部に円形刺突、内面～口唇部にかけてミガキ・胎土に白色粒子を含む	中期・勝坂2
第125図-12		縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁部、無文、内外面ミガキ	中期
第125図-13		縄文・浅鉢	—	—	—	—	無文	—
第125図-14		縄文・深鉢	—	—	—	—	横位RL縄文、縦位沈線	中期・加曾利EIII
第125図-15		縄文・深鉢	—	—	—	—	無文・胎土に砂礫を多く含む	—
第125図-16		縄文・深鉢	—	—	—	—	無文・全体的に摩滅	—
第125図-17		縄文・深鉢	—	—	—	—	無文、外面ミガキ・外面に僅かに煤付着	—
第125図-18		縄文・深鉢	—	—	—	—	無文、外面ミガキ・胎土に砂礫を多く含む	—
第125図-19		縄文・深鉢	—	—	—	—	無文・内面に煤付着	—
第125図-20	縄文・深鉢	—	—	—	—	無文・胎土に砂礫を多く含む	—	
第125図-21	縄文・深鉢	—	—	—	—	口縁上突起、棒状工具による沈線、背面に円形刺突	中期	

VIII 浄禅寺跡遺跡第48地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年4月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年5月15日に試掘調査を実施した。

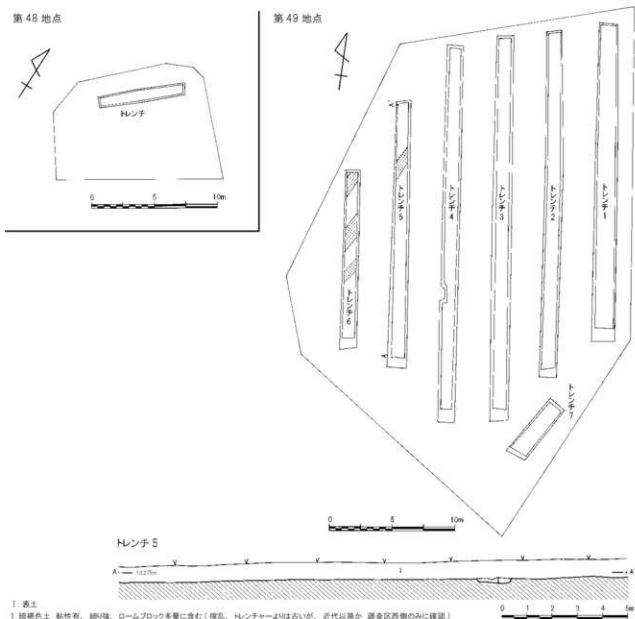
試掘調査は幅約1mのトレンチ1本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から約50cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

IX 浄禅寺跡遺跡第49地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2017年5月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふ



第126図 浄禅寺跡遺跡第48・49地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

じみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年5月22・23日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.3～1.8mのトレンチ7本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約50～80cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

X 浄禅寺跡遺跡第50地点

(1) 調査の概要

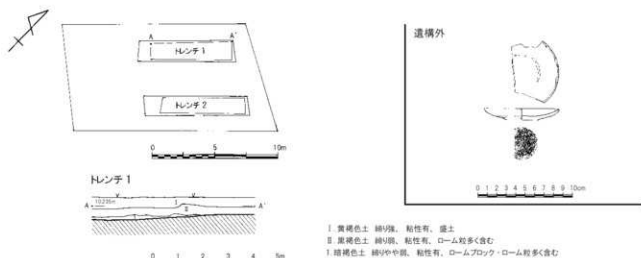
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から70～80cm下でも地山ローム層は確認できなかったため、保護層が確保できるものと判断し、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 出土遺物

出土遺物は表土中より出土した陶器製の灯明皿1点である。復元口径8cm、底径3.4cm、高さ1.2cm。肥前産。内外面に釉を施す。近世以降。



第127図 浄禅寺跡遺跡第50地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第23章 大井宿遺跡の調査

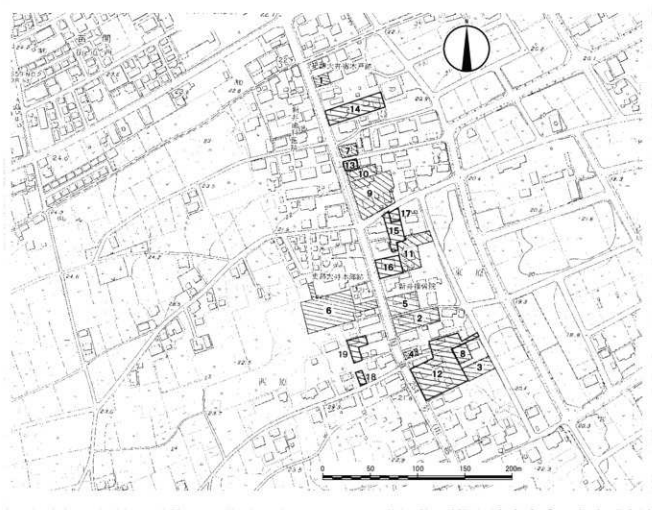
I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は、国道254号線川越街道沿いの旧大井の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高21～22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、2000年4月24日付けで大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間（1624～1643）に整備された日本橋から川越に至る11里（約44km）の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅（上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井）の1つが大井宿である。

大井宿遺跡では2019年4月現在、19地点で調査が行われ、中世～近代の遺構・遺物が検出されている。



第128図 大井宿遺跡の地形と調査区（1/4,000）

II 大井宿遺跡第 18 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 11 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2017 年 11 月 9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約 60 cm で地山ローム層を確認した。

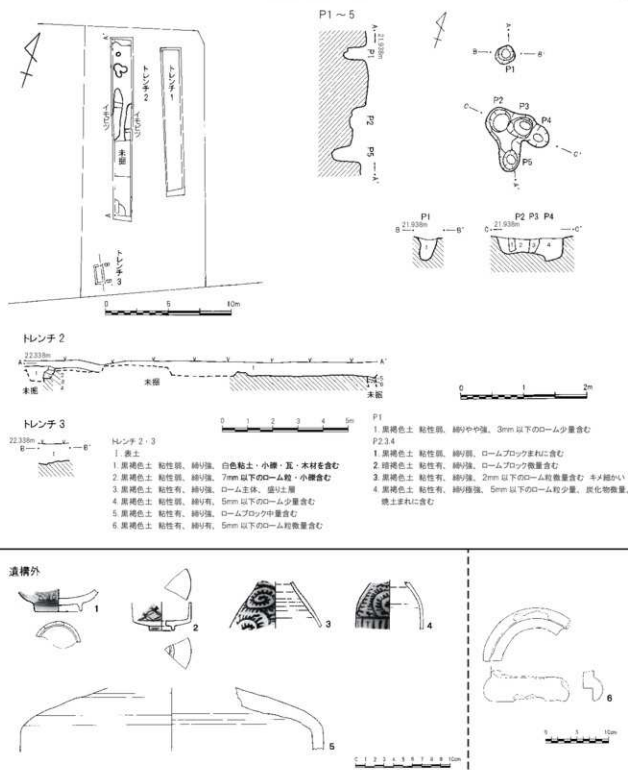
調査の結果、近世以降のビット 5 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 73 表 大井宿遺跡第 18 地点ビット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	32 × 27	15 × 15	38.7
2	円形	35 × 35	26 × 23	27.9
3	円形	29 × 27	18 × 11	40.1
4	円形	34 × 33	19 × 11	43.2
5	円形	31 × 24	17 × 14	46.9

第 72 表 大井宿遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1-2-22・23	(1999.8.9)	110	店舗	近代：焼土層	町内区
2	大井 1-6-1	(2000.3.14 ~ 3.28)	786	店舗	近世：溝 1、土坑 49、ビット	町内区
3	大井 1-6-8	(2000.7.7 ~ 7.13)	605	高齢者介護施設	中近世：溝	町内区
4	大井 1-6-25	(2000.8.28 ~ 8.30)	122	個人住宅	近世以降：溝、土坑	町内区
5	大井 1-5-9	(2000.10.24・25)	781	駐車場	近世以降：溝、土坑他	町内区
6	大井 1052-1・2、1071	(2000.11.28 ~ 12.15)	2,300	長屋住宅	近世以降：溝、土坑他	町内区
7	大井 1-2-16	(2002.4.15・16)	257	事務所	近世以降：溝、土坑他	町内区
8	大井 1-6-7	(2004.4.20)	282	個人住宅	遺構遺物なし	町内区
9	大井 1-3-14・15	(2003.2.26 ~ 4.3) 2004.7.30 ~ 9.3	1,617	宅地造成	近世・近代：穴蔵 1、土坑 20、溝 14、集石 8、礎石 1、井戸 2、塀構 1、ビット	大調 21
10	大井 1-3-16	(2004.9.21 ~ 10.6)	341	分譲住宅	近世以降：溝、土坑他	町内区
11	大井 1-5-5・11	(2004.12.10 ~ 12.20) 2005.1.6 ~ 1.29	970	共同住宅	近世・近代：穴蔵 1、井戸 1、大溝 1、溝 5、土坑 11、土蔵跡 1、ビット	大調 21
12	大井 1-6-22	(2006.6.13 ~ 6.16)	2,664	事務所兼店舗	縄文：ビット、近世以降：溝、土坑、井戸他	市内 3
13	大井 1-3-32	(2006.8.21) 2006.8.22 ~ 8.30	151	個人住宅	近世以降：土坑 8、ビット 57	市内 3
14	大井 1-2-19・20	(2007.3.27 ~ 3.29)	944	コンテナボックス	近世以降：土坑、井戸、建物跡、ビット他	市内 3
15	大井 1-5-3	(2007.8.1 ~ 8.10)	429	個人住宅	近世以降：大溝 1、土坑 4、ビット 16	市内 4
16	大井 1-5-11	(2009.3.15 ~ 3.18) 2009.3.19 ~ 4.30	500.3	共同住宅	近世以降：土坑 16、礎石 1、溝 29、ビット 413、陶磁器他	市内 8
17	大井 1-5-16	(2013.5.14)	110.01	個人住宅	土坑 1、近世陶磁器	市内 18
18	大井 1067-1	(2017.11.9)	556	個人住宅	近世以降ビット 5、溝 2、陶磁器片	市内 24
19	大井字西原 1069-3	(2019.1.23)	428	個人住宅	土坑 2、陶磁器	未報告



第129図 大井宿遺跡第18地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4・1/6)

第74表 大井宿遺跡第18地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第129図-1	遺構外	磁器・碗	—	(4.5)	—	轆轤成形・染付・瀬戸美濃	19世紀以降
第129図-2		磁器・筒形碗	—	(2.7)	—	轆轤成形・染付・底面に文様有・瀬戸美濃	19世紀以降
第129図-3		磁器・御神酒徳利	—	—	—	轆轤成形・染付・外面に銷唐草・胴部最大復元径: 10.8 cm、肥前	19世紀以降
第129図-4		磁器・御神酒徳利	—	—	—	轆轤成形・染付・外面に銷唐草・胴部最大復元径: 7.3 cm、肥前	19世紀以降
第129図-5		陶器・壺	—	—	—	轆轤成形・内外面に鉄釉・上面に把手の剥落痕、肩部復元径: 32.0 cm	近世以降
第129図-6		瓦	(4.9)	(13.5)	(3.2)	型押し成形	近代以降

第24章 大井氏館跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

本遺跡の名称は『埼玉の城館跡』（1972 埼玉県教育委員会）によるもので、平安時代末から鎌倉時代に活躍した武蔵七党の一つ、村山党の大井氏一族の館跡という想定による。遺跡は砂川堀左岸（北側）の舌状に張り出した微高地上、標高 21～22 m に立地し、西は川越街道に接している。砂川堀の対岸は段丘面を形成しており、比高差 5 m の崖になる。

遺跡の時期は AT 降灰前の立川ローム層第 IV 層段階の石器群、縄文時代前期、中世、大井宿に関連した近世・近代まで多岐にわたる。

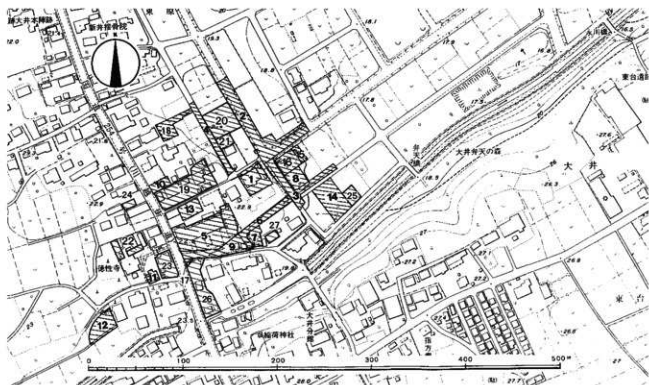
II 大井氏館跡遺跡第 27 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2016 年 2 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2016 年 9 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50～60 cm である。

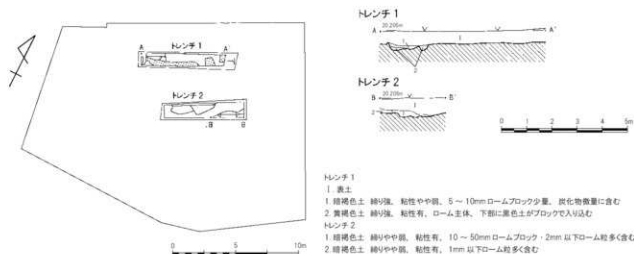
調査の結果、近世以降と考えられる畝状遺構を確認したが、攪乱が酷く詳細は不明である。出土遺物はない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 130 図 大井氏館跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 75 表 大井氏館跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1						
2 3 6 8 9	大井 212 他	1988.6.24 ~ 1993.10.26	4,800	大井・苗間 第一土地区画整 理事業	旧石器時代・石器集中 6、礎石 14・石器、縄文時代・集石土坑 1、 土坑 4・石器・土器、中近世・近世・地下式坑 12、井戸 2、土坑 28、溝 5、近世土坑 14・磁器・船形磁器、土師器、土師瓦器、瓦 質雑器類、石製品、磁器、金属製品、銭貨	大調 7
4		{1990.3.14 ~ 15}				—
5	大井	{1991.6.11 ~ 17} 1991.6.18 ~ 1993.4.6	2,220	店舗建設	縄文前期住居跡 1、竪立建物跡、溝、前期中葉集式土器、石器、 陶磁器、磁石、銅銭、金属器、土製品	大調 5、町内 I
7	大井 241-1	{1992.6.2 ~ 17}	157	個人住宅	溝 1、溝 1、道路遺構 1、縄文土器、磁石、陶器	町内 II
10	大井 208-1、209-1、 210-4	{1998.8.22} 1998.9.19 ~ 10.2	1,153.46	ガソリン スタンド	縄文時代落し穴 1、近世の近代土坑、近世近代竪立建物跡 1、 井戸 1、溝 1、ビット 24、陶磁器、土器、瓦、石製品、金属製品、 ガラス製品	町内 VI、大調 12
11	大井 182	{1998.11.9 ~ 17}		個人住宅	近世～近代の土坑 6、溝 5、陶磁器、土師器、鉄製品、ガラス製 品、土製品、銭貨	町内 VII
12	大井 952	{1999.5.28 ~ 6.4} 1999.6.2 ~ 4	690	駐車場	溝 5、陶磁器、銭貨、石器、鉄、瓦質土器、土師器	町内 IX
13	大井 1-8-1	{2000.11.21 ~ 24}	76	事務所	遺構遺物なし	町内 X
14	大井苗間 129 街区 2 畑地	{2002.5.22 ~ 6.6} 2002.6.20 ~ 8.9	984	共同住宅	中世の溝 9、井戸 1、竪立建物跡、地下式坑 1、茶臼跡 6、土 坑 24、ビット	町内 XI
15	大井苗間 126 街区 1 畑地	{2002.7.24 ~ 8.2}	135	個人住宅	溝 1、ビット 4	町内 XII
16	大井 2-242-1	{2002.8.5 ~ 22} 2002.8.23 ~ 9.5	677	個人住宅	縄文時代の集石 4、土坑 1、ビット 14	町内 XII
17	大井 1-11-9	2002.11.19 ~ 12.2	50	道路	近世～近代の土坑 14、ビット 13、磁石、銭貨	町内 XII
18	大井・苗間 80-6-9	{2003.1.17 ~ 22}	476	個人住宅	溝 2、陶磁器、ミニチュア土器、ガラス瓶	町内 XII
19	大井 1-6-13	{2005.6.7 ~ 8}	1,500	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
20	大井 1-7-7	{2006.3.2 ~ 14}	773	共同住宅	時期不明の溝 12、ビット 21、縄文土器、陶器	市内 2
21	大井 1-7-15	{2006.5.22}	174	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
22	大井字西原 954-1	{2007.11.27 ~ 12.1}	1,962	寺院庫裏建設	礎石 3、土坑 4、ビット 25、近代陶磁器、石製品	市内 4
23	大井字西原 955-1、 956-1	{2012.11.7 ~ 9} 2012.11.12 ~ 14	502.82	専用住宅	近世～近代の土坑 10、近世～近代の陶磁器、土器、ガラス製品、 石製品、銭貨、木製品等	市内 15
24	大井字西原 959、 960	{2014.6.23} 2014.6.25	68.55	宅地	土坑 (こみ穴) 1、近世陶磁器、瓦地	市内 20
25	大井 2-14-13 の一部	{2014.12.15}	414	畑	遺構遺物なし	市内 20
26	大井 1-11-1 ~ 2 他	{2015.6.1}	993.73	宅地	遺構なし、磁石 3	市内 22
27	大井 1-9-5 の一部	{2016.9.12}	301	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24



第 131 図 大井氏館跡遺跡第 27 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第25章 本村遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水道に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

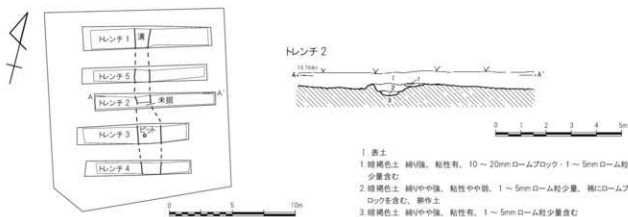
2019年4月現在136地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式構・茶毘跡などを多数検出している。

II 本村遺跡第132地点

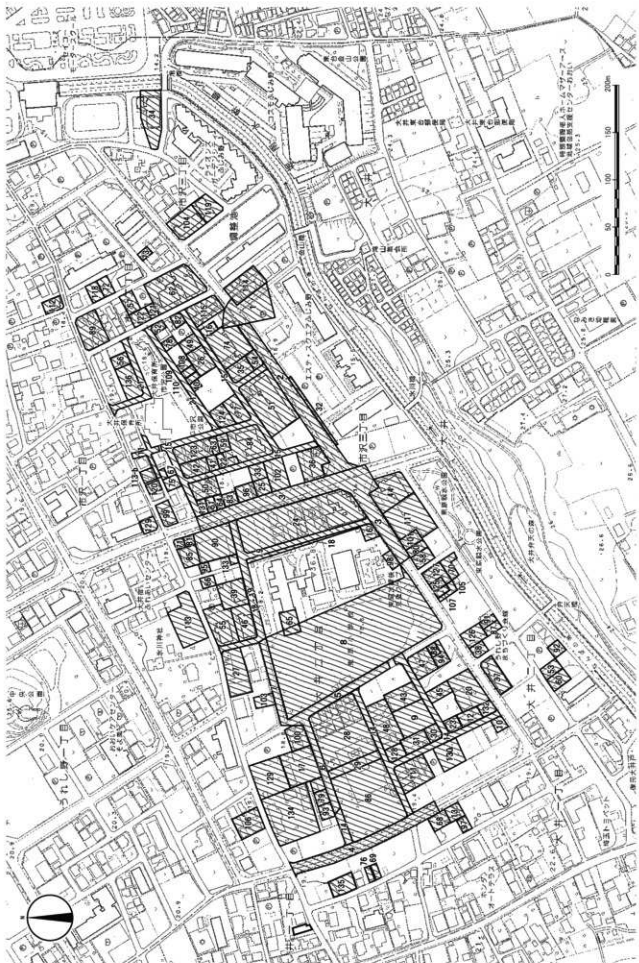
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年8月4・5日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～60cmである。

調査の結果、中近世以降の溝1条を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第132図 本村遺跡第132地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)



第133図 本村遺跡の地形と調査区 (1/4000)

第76表 本村遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	市沢 2-10, 市沢 3-1・2 (井天後 1)	1985.8.27 ~ 30	2,000	農地転用	遺構遺物なし	なし
2	大井 280-1 他 (井天後 2)	1987.9.1 ~ 12.4	2,500	土地区画整理	旧石器、縄文：象石、落とし穴、土坑	大調 7
3	大井 111, 113-1・2, 114-1, 115-1, 282 (井天後 3)	1988.9.5 ~ 1989.1.13	3,600	土地区画整理	縄文：落とし穴、土坑、中世：井戸、土坑、溝、竪立柱建物跡、地下式坑	大調 7
	大井 2-20 (東原 1)	1978.7.27 ~ 8.5	40	町史編纂事業	遺構遺物なし	大史 12
	大井 2-20 (東原 2)	1979.4.29 ~ 5.6	80	町史編纂事業	地下式坑、ビット、土坑	大史 12
	大井 2-20 (東原 3)	1980.12.25 ~ 1981.1.5	130	町史編纂事業	地下式坑、ビット、土坑	大史 12
4	大井 189, 190, 191, 192 (東原 4)	1987.12.8 ~ 1988.1.29	1,872	土地区画整理	縄文：落とし穴、中世井戸、第六天	大調 7
5	大井 143, 144-2 (東原 5)	1989.1.13 ~ 2.3	1,600	土地区画整理	中世：井戸、土坑、溝、竪立柱建物跡	大調 7
6	大井 149, 160, 164-1 (東原 6)	1989.5.15 ~ 6.15	1,565	土地区画整理	旧石器群跡、縄文：落とし穴、中世：土坑、溝	大調 7
7	大井 134 の一部 (東原 7)	1989.8.2 ~ 31	500	土地区画整理	埴輪 C 式土器、竈之内式土器	大調 7
8	大井 134	(1989.9.11 ~ 13) 1989.9.30 ~ 1991.7.11	13,161	小学校グラウンド	旧石器：群跡 11、縄文：落とし穴、中世：土坑、溝、竪立柱建物跡	大調 4, 東部 X
9	大井 138	(1989.12.4)	200	ゲートボール場	盛土保存	東部 X
10	大井 172-1	1989.2.21 ~ 28	500	範囲確認調査	縄文：落とし穴	東部 X
11	大井 42-3	(1990.2.7 ~ 22)	370	範囲確認調査	旧河道の北側落ち込み	東部 X
12	大井 240, 241-4	1990.5.8 ~ 9	340	個人住宅	土坑、常滑片	東部 XI
13	大井 180	1990.7.25 ~ 26	428	個人住宅	土坑	東部 XI
14	大井 151, 152, 154 ~ 157	1990.9.17 ~ 10.31	2,160	土地区画整理	井戸 2, 土坑 36, 溝 4	大調 7
15	大井 100, 106 ~ 109, 344	1990.10.1 ~ 11.30	2,820	土地区画整理	井戸 13, 土坑 26, 溝 6, 竪立柱建物跡 1	大調 7
16	大井 110-2	(1990.11.6 ~ 13)	230	学童保育所	井戸 1, 溝 2	東部 XI
17	大井 146, 149	1991.1.7 ~ 3.7	1,270	事務所	旧石器：群跡、ブロック 6、縄文：炉穴 4, 土坑 2, 中世：楯列、溝 2, 地下式坑 1, 段切	大調 3
18	大井 110	1991.4.1 ~ 6.11	252	フェンス工事	旧石器：群跡 2, 中世：井戸 6, 溝 4, 地下式坑 5, 土坑 15	大調 3
19	大井 110-2	1991.4.1 ~ 6.11	1,420	土地区画整理	旧石器：群跡 2, 中世：井戸 6, 溝 4, 地下式坑 5, 土坑 16	大調 7
20	大井 253-1	1991.5.21 ~ 6.14	1,150	個人住宅	井戸 2, 土坑 3, 溝 1	町内 1
21	大井 81-3, 364	1991.6.17 ~ 8.31	1,772	土地区画整理	井戸 1, 溝 6, 地下式坑 2, 土坑 6, 柱穴列	大調 7
22	大井 108, 109	1991.7.15 ~ 31	110	個人住宅	縄文土器、石器、陶器、磁器、ガラス、瓦、板碑、針金	町内 1
23	大井 169	1991.8.29 ~ 30	268	個人住宅	溝 1	町内 1
24	大井 110-2	1992.2.28 ~ 7.31	4,646	土地区画整理	旧石器：群跡、中世：井戸 24, 地下式坑 10, 竪立柱建物跡、溝 6, 土坑 40	大調 7
25	大井 107	(1992.5.21)	370	倉庫建設	ビット 1	町内 II
26	大井 348, 369, 370 の一部	(1992.10.4 ~ 7)	575.7	個人住宅	遺構遺物なし	町内 II
27	大井 145	(1992.10.27)	1,101	個人住宅	遺構遺物なし	町内 II
28	大井 21-2, 137, 143, 150, 156, 159, 373-1	1992.12.1 ~ 1993.2.28	4,358	土地区画整理	縄文：土坑、中世：段切 2, 井戸 3, 地下式坑 7, 竪立柱建物跡、土坑 3, 近世：土坑墓 6	大調 7
29	大井 159	1993.5.20 ~ 6.4	330	土地区画整理	地下式坑 3, ビット、土坑	大調 7
30	大井 155	(1993.7.28 ~ 7.30) 1993.8.6 ~ 25	411	個人住宅	溝 1, 土坑 1, ビット 25	町内 III
31	大井 154, 155	1994.8.4 ~ 5	484	共同住宅	井戸 2, 地下式坑 2, 溝 1, 土坑 14	大調 7
32	大井 351	1994.11.9 ~ 25	14,310	共同住宅	旧石器、縄文：落とし穴	町内 III
33	大井 107, 427-1	1994.11.11	337	駐車場造成	段切状遺構、土坑	町内 III
34	大井 533-5	1994.12.2 ~ 3	1,013	共同住宅	遺構遺物なし	町内 III
35	大井 357-1	(1994.4.4 ~ 12)	452	共同住宅	遺構遺物なし	町内 IV
36	大井 101-9-10	(1994.7.28 ~ 8.4) 1994.9.2 ~ 10.31	890	共同住宅	旧石器：群跡 2、縄文：落とし穴、土坑、中世：井戸 2、溝 3、土坑 16、楯列、ビット 22	大調 12
37	大井 251	(1994.8.31 ~ 9.2)	596	事務所	遺構遺物なし	町内 IV
38	大井 253	(1994.8.30 ~ 9.7)	264	個人住宅	中世 ~ 近世の溝 1	町内 IV
39	大井 124-1	(1994.11.9 ~ 16)	805	共同住宅	遺構遺物なし	町内 IV
40	大井 321-1	(1994.11.22)	131	宅地分譲	遺構遺物なし	町内 IV
41	大井 325	(1994.11.15 ~ 22) 1994.11.29 ~ 12.7	614	宅地分譲	近代のゴミ穴	大調 12
42	大井 326	(1994.11.15 ~ 22) 1994.11.29 ~ 12.7	614	宅地分譲	近代のゴミ穴	大調 12
43	大井 153-2・3	(1995.1.12 ~ 19) 1995.2.23 ~ 3.29	704	宅地開発	縄文：土坑、中世：井戸 1, 土坑 3, 溝 1, 水路跡	大調 12

地点	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
44	大井 287-1	(1995.2.17～28) 1995.4.10～5.25	1,198	共同住宅	縄文：落とし穴1、土坑3、中世：井戸1、溝1、土坑1、櫛列、ビット34	大調 12
45	大井 253 他	(1995.6.18～7.17)	324	個人住宅	縄文：落とし穴1、中世：溝5、土坑14、ビット23	町内V
46	大井 126	1995.6.1～7.28	744	共同住宅	中世：土坑15、ビット7、南側旧河床	大調 12
47	大井 253、255	(1995.7.18～28)	608	宅地分譲	土坑2	町内V
48	大井 140	(1995.9.18～19) 1995.9.30～11.20	1,122	宅地分譲	中世：井戸11、竪立柱建物跡7、溝2、地下式坑3、土坑14、櫛列4、水路	大調 12
49	大井 333	(1996.1.10～11) 1996.1.16～2.3	280	個人住宅	溝1、土坑5、ビット51、北側埋没河川	町内V
50	大井 106	(1996.2.20～24)	571	個人住宅	遺構遺物なし	町内V
51	大井 350、360 他	(1996.3.21～27) 1996.4.3～5.30	2,412	共同住宅	旧石器、縄文：落とし穴8、集石土坑2、中世：井戸2、土坑1、櫛列	大調 12、町内V
52	大井 328	(1997.4.10～25)	140	倉庫	地下式坑3、竪立柱建物跡1、土坑6、ビット24	町内VI
53	大井 243-2、244-1、289-1	(1997.4.17～6.25)	275	個人・分譲住宅	礎石1、土坑4、近世：溝4	町内VI
54	大井 3491-2	(1997.4.11～17)	207	個人住宅	溝	町内VI
55	大井 125-1、38-2	(1996.5.23～30) 1996.6.25～7.31	936	共同住宅	旧石器：石器群2、礎石5、中世：溝1、土坑26、櫛列、焼土跡、ビット21	大調 12、町内VI
56	大井 302-1	(1996.7.18～19) 1996.7.24～8.7	243	個人住宅	地下式坑1（21地点で確認の地下式坑）	大調 12、町内VI
57	大井 331	(1996.8.28～29)	300	共同住宅	遺構遺物なし	町内VI
58	大井 279、282	(1996.12.24～1997.1.9)	284	店舗併用住宅	土坑1	町内VI
59	大井 365-2	(1997.2.12)	331	共同住宅	遺構遺物なし	町内VI
60	大井 129	(1997.6.2～14)	320	分譲住宅	築集中5・ビット3	町内VII
61	大井 76	(1997.6.4～14)	134	個人住宅	井戸1	町内VII
62	大井 342	(1997.6.30～7.18) 1997.10.21～1998.1.20	391	共同住宅	旧石器：石器群1、縄文：落とし穴、中世：井戸5、溝16、土坑98、櫛列2、ビット38（櫛列中）、地下式坑2、竪立柱建物跡、柱穴状遺構	大調 12、町内VII
63	大井 380	(1998.10.31～11.1)	154	個人住宅	遺構遺物なし	町内VII
64	市沢 2-8-2	(1998.10.13～18)	134	個人住宅	ビット1	町内VII
65	大井 110-2	(1998.3.6～13) 1998.4.16～5.21	391	学校増築	旧石器：石器群5、中世：溝1、土坑2、ビット13	大調 12
66	大井 2-8-8・9	(1999.2.7～16)	179	駐車場造成	近世以降：溝2、ビット1	町内VII
67	市沢 2-1-4	(1999.3.25～26)	140	個人住宅	遺構遺物なし	町内VII
68	大井 182	(1999.4.17～21)	302	個人住宅	落とし穴1	町内VII
69	大井 1-4-5	(1999.8.24)	116	個人住宅	遺構遺物なし	町内VII
70	大井 2-12-7	(1999.9.4)	354	個人住宅	縄文：ビット1	町内VII
71	大井 2-7-3	(1999.10.12)	116	個人住宅	ビット1	町内VII
72	市沢 2-12-12	(1999.11.12)	210	アスファルト駐車場	ビット1	町内VII
73	市沢 2-14-1	(1999.11.12)	156	個人住宅	遺構遺物なし	町内VII
74	大井 108-2・3・6・7	(1999.1.11～19) 1999.2.8～17	1,495	共同住宅	中世：溝4、土坑2、ビット18、櫛列1	町内VII
75	市沢 2-1-2	(1999.1.18)	224	個人住宅	遺構遺物なし（地山は水成堆積した黒色土）	町内VII
76	大井 1-4-6	(1999.5.15～18)	118	個人住宅	遺構遺物なし	町内IX
77	市沢 2-6-18・19	(1999.7.27～8.2)	538	駐車場造成	ビット1	町内IX
78	市沢 2-6-6	(1999.9.20)	158	個人住宅	ビット1	町内IX
79	大井 2-19-9	(1999.10.22～30)	642	個人住宅	集石土坑1、ビット2	町内IX
80	大井 2-11-2	(1999.10.26～30)	204	個人住宅	縄文：土坑2、ビット1	町内IX
81	大井 2-7-3	(1999.12.8～10)	117	個人住宅	遺構遺物なし	町内IX
82	市沢 2-6-11	(1999.12.9～10)	171	個人住宅	遺構遺物なし	町内IX
83	市沢 2-8-4	1999.12.9～13	181	個人住宅	遺構遺物なし	町内IX
84	市沢 2-7-6	(1999.12.24～2000.1.31) 2000.2.2～3.6	1,310	共同住宅	縄文：落とし穴1、中世：段切、井戸2、竪立柱建物跡10、土坑26、溝2、櫛列2	大調 15
85	大井 2-7-2	(2000.1.6)	409	個人住宅	遺構遺物なし	町内IX
86	大井 2-19-1～4・14	(2000.4.19～5.11) 2000.5.15～6.29	5,745	公衆浴場	古代：木炭炭1、中世：竪立柱建物跡1、段切1、地下式坑5、井戸6、溝13、茶屋跡3、土坑墓97、櫛列2、ビット531	大調 15、町内X
87	大井 2-12-2	(2000.5.31～6.3)	165	個人住宅	旧河川流域跡・ビット3	町内X
88	大井 2-17-6	(2000.6.27～7.3)	154	個人住宅	用水路	町内X
89	市沢 2-11-1・2	(2000.7.19～8.1)	326	分譲住宅	縄文：落とし穴1、イモビツ	町内X
90	大井 2-7-4・5	(2000.8.31～9.22)	540	店舗	縄文：集石1、近世溝	町内X
91	大井 2-12-2	(2000.9.25～27)	37	個人住宅	旧河川流域跡	町内X
92	大井 2-14-11	(2000.10.10)	25	個人住宅	旧河川流域跡	町内X
93	大井 2-20-9	(2001.2.16～21)	283	社倉寮	ビット	町内X

地点	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
94	大井 2-18-6	(2001.2.17～19) 2001.2.20～3.6	87	個人住宅	中世：溝 6、土坑 1、ビット 7、近世：溝 4	町内 X
95	大井 2-7-10	(2001.3.6～9)	41	個人住宅	遺構遺物なし	町内 X
96	市沢 2-8-5	(2001.7.10～13)	99	個人住宅	遺構遺物なし	町内 X
97	大井 1-7-11	(2001.7.11～12)	41	個人住宅	遺構遺物なし	町内 X
98	大井 2-9-3	(2001.12.17～19)	17	学童保育所	溝 2	町内 X
99	市沢 2-1	(2002.6.19～21) 2002.7.1～31	300	共同住宅	旧石器：雑群 4、石器集中 1、中世：土坑 4、楕円 1	大調 15、町内 X
100	大井 2-20-7	(2002.8.20～26)	463	分譲住宅	遺構遺物なし	町内 X
101	大井 2-11-3	(2002.9.30～10.4)	217	店舗併用住宅	溝	町内 X
102	市沢 2-8	(2002.11.11～15) 2002.12.11～ 2003.2.10	1,264	共同住宅	縄文：落とし穴、古代以降：井戸 7、柱穴 6、溝 4、土坑 11、道路状遺構	大調 15
103	大井 143	(2003.2.13～18)	237	個人住宅	土坑 1、ビット 1	町内 X
104	市沢 3-4-1	(2003.5.14～30)	804	共同住宅	縄文：炉穴 4、中世：段切遺構、地下式坑 2、溝 3、土坑 4、ビット 36	町内 X
105	大井 2-12-4	(2003.6.4～6)	131	個人住宅	土坑 1	町内 X
106	大井 2-1-11	(2003.7.2～8)	135	分譲住宅	遺構遺物なし	町内 X
107	大井 2-12-4	(2003.7.3～5)	130	個人住宅	溝 1、土坑 1、ビット 1	町内 X
108	市沢 2-6-25	(2003.7.17～23)	109	個人住宅	ビット 5	町内 X
109	市沢 2-6-26	(2003.7.17～23)	114	個人住宅	遺構遺物なし	町内 X
110	市沢 2-6-27	(2003.10.16～18)	101	個人住宅	遺構遺物なし	町内 X
111	大井 2-16-2	2003.11.21～12.11	1,033	分譲住宅	縄文：炉穴 1、風衝木敷 2、中世：溝 1、地下式坑 2、土坑 1、木炭窯 1、不明遺構 1、ビット 10	大調 21
112	市沢 1-17-16	(2004.7.27)	289	共同住宅	遺構遺物なし	町内 X
113	大井 2-4-8	2002.8.22	1,051	駐車場造成	遺構遺物なし	町内 X
113-b	市沢 2-2-3	(2005.5.9～10)	27	個人住宅	楕円の一部	市内 2
114	市沢 3-2-1・12	(2005.10.21～28)	129	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 2
115	市沢 2-10-6	(2005.11.21～29) 2005.12.19～ 2006.1.31	170	分譲住宅	中世：竪柱建物跡、井戸、土坑、ビット 1、溝	市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	(2006.1.17)	9	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
117	大井 2-11-4・6	(2006.3.22～4.14)	1,487	店舗	溝、土坑、楕円	市内 2
118	市沢 2-12-13	(2006.5.24～25) 2006.5.25	80	個人住宅	縄文：落とし穴 1	市内 3
119	市沢 3-4-24	(2008.5.27～6.4) 2008.6.4～25	559	共同住宅	中世：地下式坑 2、土坑 16、ビット 58	市内 5、6
120	市沢 2-2-2	(2008.12.18)	141	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
121	市沢 2-11-9	(2009.4.22)	150	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
122	市沢 2-11-9・26・27	(2009.5.27～6.3)	301	宅地造成	中世：地下式坑	市内 8
123	市沢 2-7-2	(2010.7.5～9)	619.57	宅地造成 (4 区画)	遺構遺物なし	市内 10
124	市沢 2-6-1	(2010.7.8～12) 2010.7.12	428	宅地造成 (3 区画)	中世：土坑 1	市内 10
125	大井 2-12-17	(2010.9.6)	143	個人住宅	遺構遺物なし	市内 10
126	大井 2-12-2	(2010.10.4～6)	611	個人住宅	遺構遺物なし	市内 10
127	大井 2-12-5・16・18	(2010.11.4～8)	417	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
128	大井 2-18-1	(2014.11.17～27)	327	分譲住宅	中近世：溝 2、井戸 1、ビット 9、土器片	市内 20
129	市沢 1-1-8	(2014.8.28)	262	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
129	大井 2-20-4	(2015.11.5～13)	1,253.99	宅地造成	ビット 1、陶磁器	市内 22
130	大井 2-16-17	(2015.11.16～20)	776	分譲住宅	土坑 1、ビット 3、土器片	市内 22
131	市沢 2-8-2	(2016.3.4～8)	135.18	共同住宅	遺構遺物なし	市内 22
132	大井 2-17-9	(2016.8.4～5)	212	分譲住宅	ビット 1、溝 1、陶磁器	市内 24
133	大井 2-7-6	(2016.10.11)	107.54	個人住宅	ビット 3、遺物なし	市内 24
134	大井 2-20-2・3・9	(2017.6.5～16)	2,670.63	宅地造成 (開発道路等造成)	遺構遺物なし	市内 24
135	大井 1-4-9、-10 の一部	(2018.9.19)	698	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	未報告
136	市沢 2-4-7	(2018.10.17～19) 2019.4.11～23	651	駐車場	旧石器：雑群、地下式坑、土坑、段切遺構、石器、落とし穴、ビット、溝、中世土器片	市内 24

※ 136 地点は、本調査の報告に伴い、第 II 部にて試掘調査段階からの詳細を掲載した。なお 135 地点の試掘調査については、市内遺跡群 25 (2021 年刊) に掲載予定である。



第134図 本村遺跡溝分布図 (1/3,000)

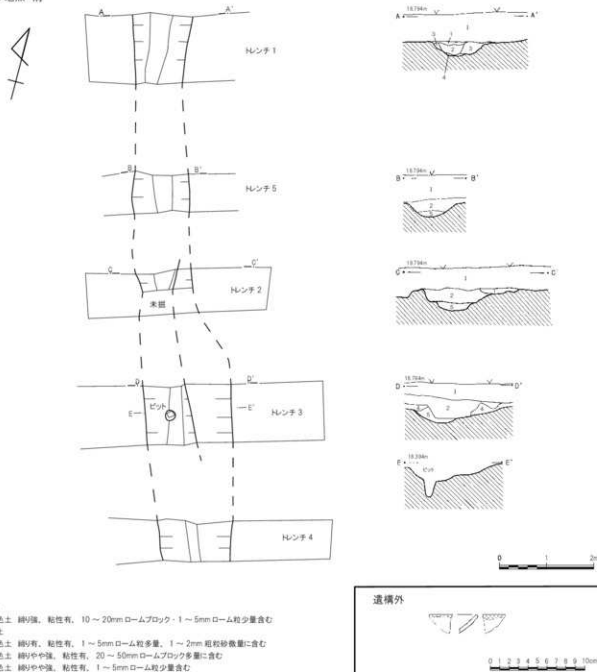
(2) 遺構と遺物

①溝 溝は調査区中央で検出した。南北方向に走行する。遺構の規模は上幅99～185cm、下幅21～50cm、深さ42.8cm、断面形態は浅いU字状を呈する。出土遺物はないが、中近世以降であると考えられる。

②ピット ピットはトレンチ3で検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径22×21cm、底径12×10cm、深さ37.2cmを測る。帰属時期は不明。

③出土遺物 出土遺物は遺構外から出土した陶器片1点である。口縁部に軸が掛かる。近世以降。

第132地点 溝



第135図 本村遺跡第132地点ピット・溝 (1/80)、出土遺物 (1/4)

III 本村遺跡第133地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2016年9月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年10月11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約70～80cmで埋没河川覆土層を確認した。

調査の結果、中近世以降と考えられるピット3基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

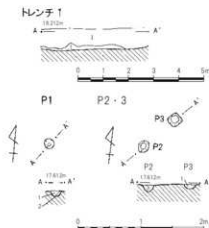
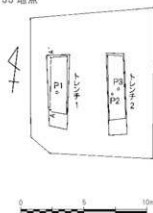
(2) 遺構と遺物

遺構はピット3基を検出した。ピットの詳細については第136図及び第77表に詳細を掲載した。出土遺物はない。土層の観察からピット3は中世以降の可能性がある。

第77表 本村遺跡第133地点ピット一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	18×15	6×5	9.2
2	円形	20×16	13×9	20.4
3	方形	20×19	13×12	10.3

第133地点



トレンチ1

I: 表土

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm以下ローム粒僅かに含む

P1-3

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm以下ローム粒僅かに含む

2. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm以下ローム粒僅かに含む

3. 黒褐色土 粘りやや強。粘性強。10mm以下ロームブロック少量に含む

第136図 本村遺跡第133地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)

IV 本村遺跡第134地点

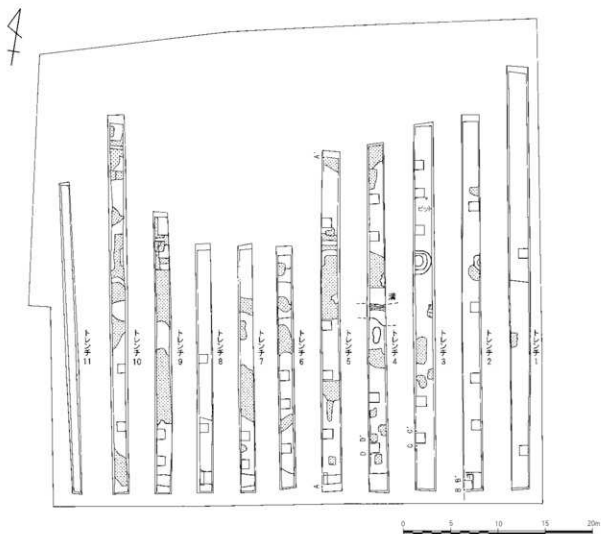
(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2017年3月13日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年6月5～16日に試掘調査を実施した。

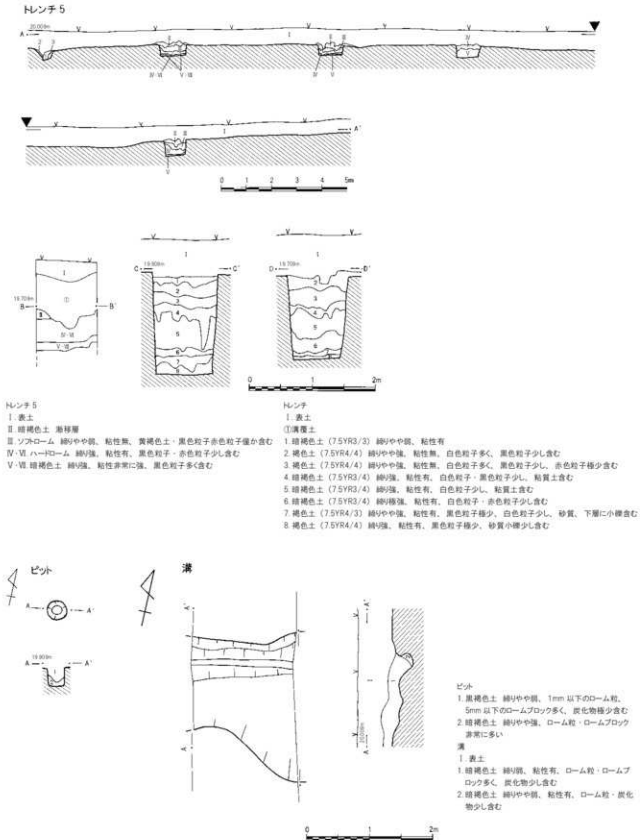
試掘調査は幅約1～2mのトレンチ11本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約50～70cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、時期不明のピット、溝を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

またトレンチ11以外で旧石器時代の調査を実施した。1m四方のトレンチを2-4m間隔を基本として設定し掘削を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



第137図 本村遺跡第134地点遺構配置図(1/400)



遺構外



第138図 本村遺跡第134地点土層 (1/150・1/60)、ピット・溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

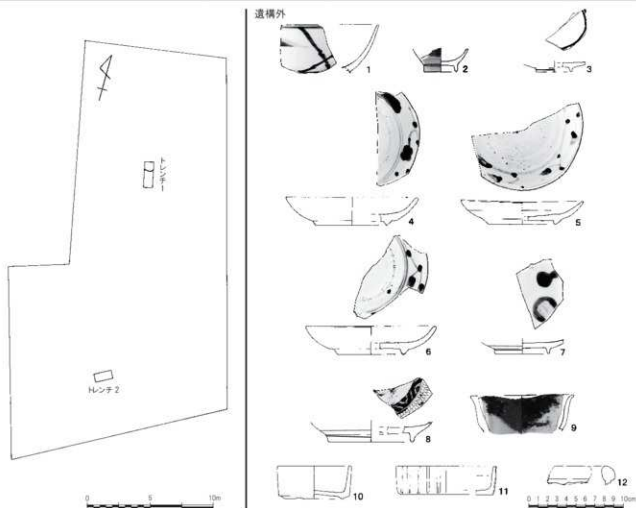
V 本村遺跡隣接地

(1) 調査の概要

本地点は埋蔵文化財包蔵地外に位置するが本村遺跡の隣接地であるため、原因者より2016年5月16日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北側に隣接する。申請者と協議の結果、遺構が存在する可能性があるため2016年6月1日の既存建物撤去時に工事立会を実施した。工事立会の結果、遺構は確認されなかったが、表土中より陶磁器片が複数点出土したため、その中で代表的なものを掲載する。詳細については第139図及び第78表に掲載した。

第78表 本村遺跡隣接地出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第139図-1	遺構外	磁器・碗	—	—	(5.1)	轆轤成形・染付、外・竹	近世以降・瀬戸美濃
第139図-2	遺構外	磁器・小杯	—	(3.5)	(2.5)	轆轤成形・染付、高台に二重圏文、松か	近世・瀬戸美濃
第139図-3	遺構外	磁器・小皿	—	(3.8)	—	轆轤成形・染付、内面に二重圏文	近世以降・肥前
第139図-4	遺構外	磁器・輪壳皿	(14.0)	(7.6)	(3.0)	轆轤成形・染付、内・唐草、見込:蛇の目輪割	近世・肥前
第139図-5	遺構外	磁器・輪壳皿	(13.0)	(7.5)	(2.4)	轆轤成形・染付、内・唐草、見込:蛇の目輪割	近世・肥前
第139図-6	遺構外	磁器・輪壳皿	(13.8)	(7.0)	(3.0)	轆轤成形・染付、内・唐草、見込:蛇の目輪割	近世・肥前
第139図-7	遺構外	磁器・皿	—	(5.8)	—	轆轤成形・染付、見込:吉祥文、高台に二重圏文	近世以降・瀬戸美濃
第139図-8	遺構外	磁器・皿	—	(9.0)	—	轆轤成形・染付、見込:、高台に二重圏文	近世以降・瀬戸美濃
第139図-9	遺構外	磁器・碗	(11.0)	—	—	轆轤成形・内外面に透明釉、部分的に鉄軸?、内面に絵の具	近世以降
第139図-10	遺構外	磁器・小鉢	(7.9)	(6.1)	(3.5)	型打ち成形・内外面に透明釉、高台3ヶ所に切れ込み有	近代・瀬戸美濃
第139図-11	遺構外	磁器・小鉢	(10.6)	(10.3)	(3.0)	型打ち成形・内外面に透明釉	近代・瀬戸美濃
第139図-12	遺構外	磁器・鉢	—	—	—	轆轤成形・内外面に透明釉	近世以降



第139図 本村遺跡隣接地調査区域図(1/300)、出土遺物(1/4)

第26章 大井戸上遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.4km、砂川堀の右岸で標高26～28mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7～8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西200m、南北100m、遺跡面積約25,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は1989年に初調査以来、2019年4月現在、9地点で試掘調査が行われた。第1、2、4地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連続した旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第2・3地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。

II 大井戸上遺跡第7地点

(1) 調査の概要

調査は道路拡幅工事に伴うもので、原因者より2017年6月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年9月27日に試掘調査を実施した。

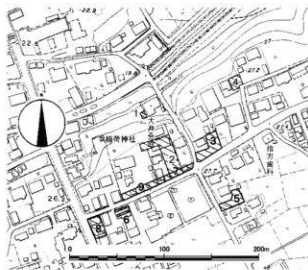
試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約40cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、近世以降のビット12基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① ビット

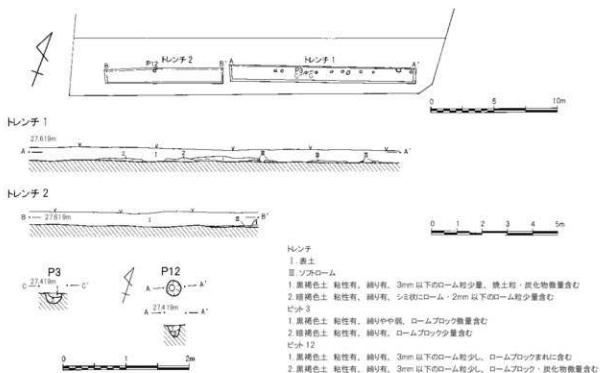
ビットはトレンチ1で11基、トレンチ2で1基の計12基確認した。土層からいずれも近世以降のものと考えられる。配列に規則性はなく、径20cm前後、深さ15～25cm程度に集中する。出土遺物はない。



第140図 大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第79表 大井戸上遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井字東台 234	(1989.2.15～21)	10	公民館 の増改築工事	遺構なし、縄文土器、石器、礎、チョッピングツール未成品	東部IX
2	大井字東台 231・ 232	(1989.6.22～7.20)	974	会社寮	柱穴跡、井戸、溝、ビット	東部X
3	大井 701-1	(1993.6.11～15)	350	個人住宅	遺構遺物なし	町内III
4	大井字東台 689-3	(2004.5.27)	128	個人住宅	礎群、土坑、痕跡	町内VI
5	大井字東台 739-14	(2006.7.10)	326	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
6	大井字東台 798-1	(2008.3.25～28)	889	個人住宅	ビット 49、遺物なし	市内4
7	大井 231-1・2・8	(2017.9.27)	123	道路拡張	ビット 12、礎	市内24
8	大井字東台 798-4、 799-3	(2018.5.11)	200.01	駐車場	ビット 1、土器片、陶磁器	未報告
9	大井 229-2、232-8・ 9・10	(2018.8.6～13)	225	道路拡張	遺構なし、古銭	未報告



第141図 大井戸上遺跡第7地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ビット(1/60)

第27章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖を成し、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

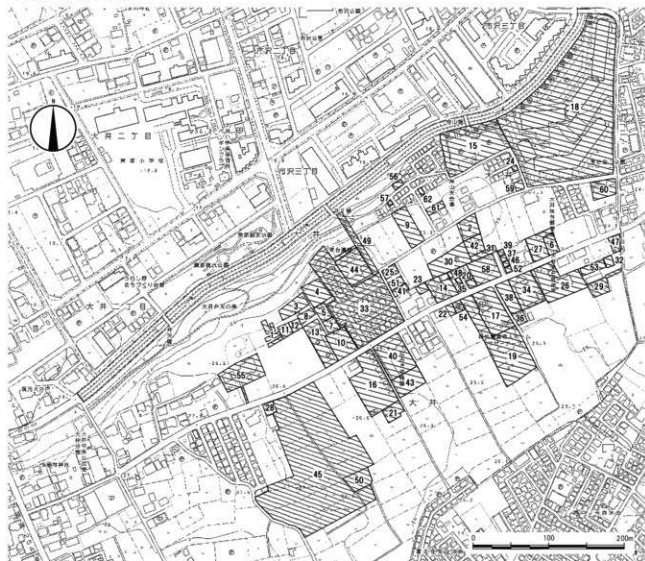
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

2019年4月現在、62地点で調査を行っている。旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層～Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では、住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で8世紀後半の製鉄炉や木炭窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡と大井氏館跡遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡、大井氏館跡遺跡との関係が注目される。



第142図 東台遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

第 80 表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981		町史編纂	遺構なし、縄文中期土器	
2	大井東台 640-4	1981.12.14 ~ 1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居跡 12、旧石器時代石器	東部Ⅲ
3	大井東台 672	1982.5.19 ~ 6.15	666	宅地造成	炉穴 7、土坑 2、柱穴群	東部Ⅳ
4	大井東台 671	1982.6.17 ~ 11.18	587	農地転用	旧石器エッジト、縄文中期住居跡 3、後期住居跡 1、集石 4、土坑 14、溝	東部Ⅳ
5	大井東台	1983.7.25 ~ 8.9	195	町史編纂	縄文中期住居跡 2、土坑 1	東台 I
6	大井東台	1984.1.9 ~ 1.12		宅地造成	縄文中期住居跡 1	
7	大井東台 670-2	1984.5.15 ~ 6.13		共同住宅	縄文中期住居跡 4、後期住居跡 1	
8	大井東台 672	1984.8.18 ~ 9.21	345	町史編纂	縄文中期住居跡 1、炉穴 2、土坑 14	東台Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25 ~ 1985.2.15	1,000	駐車場	旧石器群、縄文中期住居跡 22、後期住居跡 1、炉穴、ピット群	町史資料
10	大井東台 670-1	1985.10.1 ~ 11.25	896	住宅	縄文中期住居跡 5、土坑 5	東部Ⅵ
11	大井東台 673	1986.1.14 ~ 3.20	660	宅地造成	縄文中期住居跡 2、集石土坑 3、土坑 1、ピット	東部Ⅵ
12	大井東台 673	1987.5.6 ~ 6.26	330	転地返し	縄文早期住居跡 1、土坑 18、平安時代住居跡 2、溝 1	東部Ⅶ
13	大井東台 670-6	1988.3.14 ~ 2.27	971	倉庫	縄文中期住居跡 9、集石 1、土坑 9、ピット 20	東部Ⅶ
14	大井東台 649-16 他	1988.1.27 ~ 2.24	735	住宅	縄文中期住居跡 12、屋外埋篋 1、集石土坑 1、土坑 8、ピット 38	東部Ⅸ
15	大井市沢 577-1 他	(1989.10.17 ~ 11.10) 1989.11.17 ~ 1990.8.1	700	住宅	落とし穴 1、木炭窯 1、粘土探掘台 2、奈良・平安土器	東部Ⅹ
16	大井 713-4・5	(1990.8.1 ~ 4)	3,048	資材置場	縄文中期住居跡 1、土坑 1	東部Ⅹ
17	大井 621-1	(1990.9.5 ~ 12) 1990.10.9 ~ 12.27	1,470	診療所	縄文中期住居跡 8、土坑 30、ピット 94、櫛列	東部Ⅹ
18	大井 529-1、588	(1991.3.11 ~ 5.20) 1992.2.24 ~ 1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器群、石器集中 17、落とし穴 1、割形製鉄炉 7、木炭窯 9、探掘坑 4、土坑 9、溝、櫛列、道路跡、平安土器	東台製鉄
19	大井 621	(1992.5.31 ~ 6.7)	4,489	特養施設	縄文中期住居跡 8	町内 I
20	大井 649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内Ⅲ
21	大井 713-11・12	1992.3.7 ~ 11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内Ⅲ
22	大井 651-6	(1994.5.10 ~ 11) 1994.5.30 ~ 7.30	146	店舗	縄文中期住居跡 6、土坑 1	大井 13
23	大井 649-12・13	(1995.6.23 ~ 27)	285	個人住宅	縄文中期住居跡 2	町内Ⅳ
24	大井 634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内Ⅳ
25	大井 648-13・14	1995.10.22 ~ 12.16	296	個人住宅	縄文中期住居跡 5、後期住居跡 1、袋状土坑 1、土坑 10、ピット 6	町内Ⅳ
26	大井東台 601-1・4・5	(1996.11.6 ~ 18) 1997.1.14 ~ 3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 3、落とし穴 1、ピット 24	大井 13
27	大井 600-1	(1997.2.19) 1997.2.19 ~ 3.14	965	個人住宅	縄文中期住居跡 1、炉穴 1、土坑 1、落とし穴 1、ピット 44	町内Ⅵ
28	大井東台 710-4	(1997.3.17 ~ 19)	231	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内Ⅵ
29	大井東台 606-3	(1998.2.27 ~ 3.3) 1998.3.4 ~ 5	500	個人住宅	縄文早期炉穴 9、ピット 2	町内Ⅶ
30	大井 640-1	(1998.11.4 ~ 12)	1,330	駐車場	縄文中期住居跡 1、屋外炉、ピット	町内Ⅶ
31	大井 630-3、640-8	(1999.5.7 ~ 21)	186	道路築造	縄文中期住居跡 2	町内Ⅸ
32	大井 603-1	(2000.8.4 ~ 9)	92	製茶工場	ピット 3	町内Ⅹ
33	大井 662-1	(2000.8.4 ~ 8) 2000.8.10 ~ 2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群 4、礎群 4、縄文中期住居跡 30、後期住居跡 4、竪立柱建物跡 1、炉穴 14、集石土坑 4、他	町内Ⅹ
34	大井東台 624-2	(2002.3.12 ~ 25) 2002.3.26 ~ 5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居跡 5、土坑 11、ピット 16	町内Ⅹ
35	大井東台 649-31	(2001.9.6 ~ 8)	48	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内Ⅹ
36	大井東台 614	(2001.10.15 ~ 11.2)	272	倉庫	ピット 5、土器片	町内Ⅹ
37	大井東台 626-12	2001.10.12 ~ 11.5	100	個人住宅	縄文中期住居跡 2、ピット 1	町内Ⅹ
38	大井東台 614-3	(2002.1.28 ~ 2.15)	787	駐車場	縄文中期住居跡 1、竪穴状遺構 1、集石土坑 2、土坑 2、ピット 2	町内Ⅹ

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
39	大井 626-8	(2002.6.3 ~ 20)	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町内刈
40	大井 661	(2003.10.6 ~ 11.4)	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、楕円	町内刈
41	大井東台 648-4	(2004.5.11 ~ 14)	182	個人住宅	縄文中期住居跡3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町内刈
42	大井 640-7	(2004.9.7 ~ 17)	515	教会	縄文中期住居跡2、落とし穴1、土坑3、ピット20	町内刈
43	大井東台 661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット4	町内刈
44	大井東台 664-15	2005.12.8 ~ 28	200	個人住宅	縄文中期住居跡1、後期住居跡2、土坑5、ピット9	市内2
45	大井東台 710-1、 711-1、717-1・2	(2006.5.31 ~ 9.1) 2006.9.8 ~ 2007.3.7	7,971	東台小学校	縄文中期住居跡1、後期住居跡2、土坑5、ピット10	市内3
46	大井東台 626-11	(2006.9.4 ~ 6) 2006.9.15 ~ 28	100.02	個人住宅	縄文中期住居跡2、集石2、土坑1	市内3
47	大井東台 602-4・5	(2006.9.19 ~ 20)	320	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
48	大井東台 649-21	(2007.1.16 ~ 26)	60	個人住宅	縄文中期住居跡3	市内3
49	大井東台 646、647- 1、665	(2008.1.28・30・ 2.4 ~ 19) 2008.1.31 ~ 2.1	174	東台小学校 通学路築造	縄文時代中期～後期住居跡1棟出・5軒を確認、屋外埋土1、 粘土探掘坑1、土坑1、ピット1、溝6	市内4
50	大井東台 716-1の一 部	2008.7.14 ~ 22	646	東台小学校 プール	遺構遺物なし	市内6
51	大井東台 648-2	(2009.3.10 ~ 18) 2009.3.18 ~ 5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡6、土坑4、ピット14、縄文土器、石器	市内6
52	大井東台 626-8・14	2009.5.12 ~ 19	100	分譲住宅	縄文時代中期住居跡2確認	市内8
53	大井東台 603-1	(2011.8.8 ~ 18)	1,251	工場	井戸1、縄文土器	市内14
54	大井東台 651-6・ 13・14	(2011.9.5 ~ 12)	309.3	店舗	縄文時代住居跡1、縄文土器	市内14
55	大井東台 694-2・3	(2011.9.20 ~ 22)	1,268	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
56	大井東台宇市沢 296 4	(2012.1.11)	59.6	分譲住宅	遺構遺物なし	市内14
57	大井東台 644-9の一 部	(2013.4.5 ~ 10)	31.4	個人住宅	遺構遺物なし	市内18
58	大井東台 625-1	(2014.7.3 ~ 8.4)	1,175.47	店舗	縄文時代住居跡15、土坑3、縄文土器、石器	市内20
59	大井東台 633-6	(2014.7.15)	145.91	個人住宅	遺構なし、土器片	市内20
60	大井 597	(2015.7.7)	687.77	個人住宅	遺構なし、土器片	市内22
61	大井東台 639-25	(2017.9.21)	249.00	個人住宅	ピット2、縄文土器、石器	市内24
62	大井東台 638-17	(2017.12.25)	57.96	個人住宅	時期不明ピット1、遺物なし	市内24



第143図 東台遺跡遺構分布図 (1/2,000)

II 東台遺跡第61地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年9月12日付で「埋藏文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年9月21日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約100～120cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、縄文時代と考えられるピット2基と縄文時代の包含層を検出したが、保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

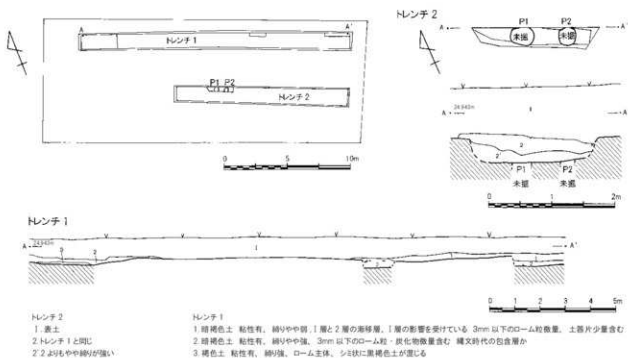
今回の調査では遺構確認面までの深さが100～120cmと深かったため、保護層の確保が可能であると判断し、遺構確認は行っていない。サブトレンチ内のピット2基に関してはプランのみの確認に留めた。

①ピット

調査区中央部、トレンチ2で確認した。掘削は行っていない。平面形態はいずれも円形を呈するものと考えられる。ピット1は確認直径36×27cm、ピット2は確認直径28×25cmを測る。

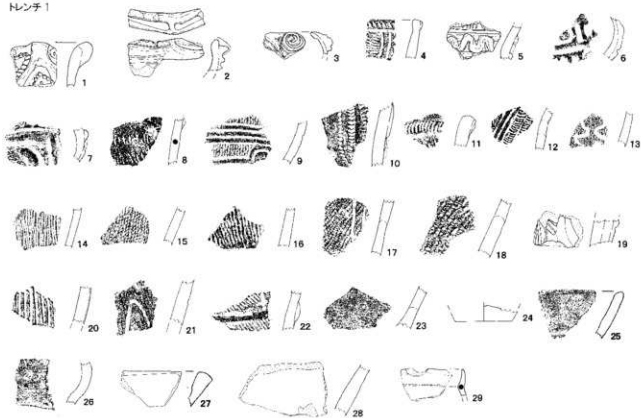
②出土遺物

遺物はすべて表土中より出土した。現地表面下約80cm程度で縄文時代の包含層を確認しており、この層が遺物を比較的多く含む。詳細については第145・146図及び第81表に掲載した。



第144図 東台遺跡第61地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150・1/60)

トレンチ1



トレンチ2

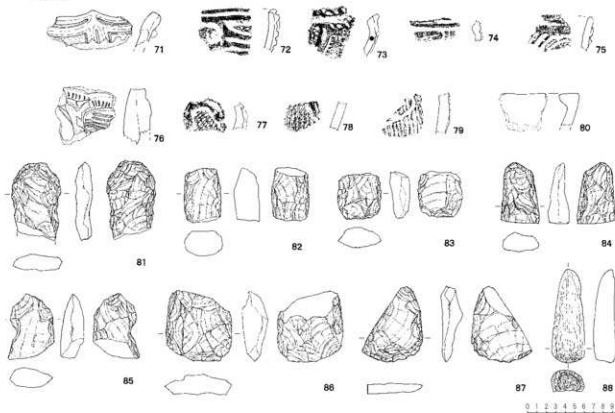


第145図 東台遺跡第61地点出土遺物① (1/4)

トレンチ2



遺構外



第146図 東台遺跡第61地点出土遺物② (1/4)

第81表 東台遺跡第61地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	地文・施文・備考	時期・型式
第145図-1	トレンチ1	深鉢・口縁部	-	-	-	-	波頭部・隆帯貼付、隆帯部に三角形の押引文、胎土に砂礫を多く含む	中期中～後葉
第145図-2		深鉢・口縁部	-	-	-	-	波状口縁・口縁部に沈線、口唇部下に2本の隆帯を横位に貼付	中期中葉・管料系
第145図-3		深鉢・口縁部	-	-	-	-	波状口縁・口唇部に隆帯による渦巻文	中期・加曾利E1
第145図-4		深鉢・口縁部	-	-	-	-	口唇部に割目、2本の縦位沈線・円筒型土器か	中期・勝飯Ⅲ
第145図-5		深鉢・口縁部	-	-	-	-	隆帯による区画、波状に粘土結貼付、胎土に砂礫を多く含む	中期・勝飯Ⅲ
第145図-6		深鉢・胴部	-	-	-	-	平行隆帯による文様、区画内に沈線	中期・勝飯Ⅲ
第145図-7		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文横位擦糸、隆帯貼付、隆帯部に沈線	中期・勝飯Ⅲ
第145図-8		深鉢・胴部	-	-	-	-	隆帯貼付による区画、区画内に爪型列点文、胎土に金雲母を含む、内面に煤付着	中期・阿玉台田
第145図-9		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文L形擦糸、多載竹管による平行沈線、胎土に砂礫を多く含む、外面に僅かに煤付着、内面ハジケ	中期・勝飯Ⅲ
第145図-10		深鉢・胴部	-	-	-	-	隆帯貼付、隆帯部に三角形押文を施文・外面に僅かに煤付着	中期・勝飯Ⅱ
第145図-11		深鉢・胴部	-	-	-	-	隆帯に連続爪型文・全体的に厚肌、外面に黒斑	中期・勝飯Ⅱ
第145図-12		深鉢・胴部	-	-	-	-	多載竹管による平行沈線、連続爪型文	中期・勝飯Ⅱ
第145図-13		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文H形擦糸、波状沈線、胎土に白色粒子を含む	中期・勝飯Ⅱ
第145図-14		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文多載管状工用による縦位平行沈線、内面黒色、胎土に白色粒子を含む	中期
第145図-15		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文縦位L形擦糸、外面に煤付着	中期
第145図-16		深鉢・胴部	-	-	-	-	地文L形擦糸力・内面黒色	中期
第145図-17		深鉢・胴部	-	-	-	-	縦位H形沈文、2本の縦位沈線・内面黒色、外面ハジケ	中期
第145図-18		深鉢・胴部	-	-	-	-	縦位L形沈文・内面ハジケ、煤付着、胎土に白色粒子を多く含む	中期

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	地文・施文・備考	時期・型式
第 145 図-19	トレンチ 1	深鉢・胴部	—	—	—	—	刮目隆帯貼付・隆帯縁に沈線を施す・外面に僅かに履付着・胎土に砂礫を多く含む	中期
第 145 図-20		深鉢・胴部	—	—	—	—	多数竹管による平行沈線・内面ハジケ	中期
第 145 図-21		深鉢・胴部	—	—	—	—	内面ハジケ・胎土に砂礫を多く含む	中期
第 145 図-22		深鉢・胴部	—	—	—	—	地文斜位 L 襷糸・隆帯貼付・内面ミガキ	—
第 145 図-23		深鉢・底部	—	—	—	—	胎土に白色粒子を多く含む	—
第 145 図-24		深鉢・底部	—	(6.2)	(2.6)	—	底部破片・胎土に白色粒子を含む	—
第 145 図-25		浅鉢・口縁部	—	—	—	—	内外面ミガキ・口唇部へ外面に僅かに履付着	中期
第 145 図-26		浅鉢・口縁部	—	—	—	—	内外面ミガキ	中期
第 145 図-27		浅鉢・口縁部	—	—	—	—	口唇部へ内面ミガキ・僅かに履付着	中期
第 145 図-28		浅鉢・胴部	—	—	—	—	外面ミガキ・外面に黒斑	中期
第 145 図-29	小空鉢・口縁部	—	—	—	—	無文・胎土に金雲母を含む・外面に僅かに履付着	中期・阿玉台	
第 145 図-30	トレンチ 2	深鉢・口縁部	—	—	—	—	波状口縁・口縁部を厚くし波頂部から隆帯を継下・隆帯縁に管状工具による刻突・平行隆帯による文様・内面に僅かに履付着	中期・磨板Ⅲ
第 145 図-31		深鉢・胴部	—	—	—	—	縦位沈線・胎土に白色粒子を含む	中期・磨板Ⅲ
第 145 図-32		深鉢・口縁部	—	—	—	—	平行隆帯刻目・口縁に平行に押し引文を二重に施す・内面に僅かに履付着	中期・磨板Ⅲ
第 145 図-33		深鉢・口縁部	—	—	—	—	地文斜位・口縁部に L 縦文・沈線・外面にハジケ	中期
第 145 図-34		深鉢・口縁部	—	—	—	—	波状口縁・口縁に平行に沈線・波頂部から粘土線を継下後・交互刻突・外面黒色・白色粒子・チャートを含む	中期・磨板Ⅲ
第 145 図-35		深鉢・口縁部	—	—	—	—	外面に黒斑・内面ハクリ・外面に僅かに履付着	中期
第 145 図-36		深鉢・口縁部	—	—	—	—	口縁部無文・縦位沈線による区画・内外面に履付着	中期
第 145 図-37		深鉢・口縁部	—	—	—	—	無文・口唇部に角押文・両面穿孔で直径 1cm の孔が開く・胎土に金雲母を含む	中期初勢力
第 145 図-38		深鉢・口縁部	—	—	—	—	無文・内外面ミガキ・黒色	—
第 145 図-39		深鉢・口縁部	—	—	—	—	内外面ミガキ・胎土に白色粒子を多く含む	—
第 145 図-40	深鉢・口縁部	—	—	—	—	無文・内外面ミガキ・外面に僅かに履付着	—	
第 145 図-41	深鉢・口縁部	(11.0)	—	(4.7)	—	円筒型土器・地文 R 襷糸・外面に履付着	中期・磨板	
第 145 図-42	深鉢・口縁部	—	—	—	—	地文横位 R 縦文・口縁部にミガキ・内外面に僅かに履付着	中期	
第 145 図-43	深鉢・口縁部	—	—	—	—	地文横位 L 襷糸・口縁に平行に隆帯貼付	中期・加群 I E 1	
第 145 図-44	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文縦位襷糸? 平行隆帯による文様	中期・磨板Ⅲ	
第 145 図-45	深鉢・胴部	—	—	—	—	隆帯貼付後両側に刻突・胎土に白色粒子を多く含む	中期	
第 145 図-46	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文襷糸? 隆帯縁に半載竹管による交互刻突・胎土に白色粒子を含む	中期・磨板	
第 145 図-47	深鉢・胴部	—	—	—	—	多数竹管による平行沈線・区画内を連続刻突と爪型文で充填・内面黒色・胎土にチャートを含む	中期・磨板Ⅱ	
第 145 図-48	深鉢・胴部	—	—	—	—	半載竹管による平行沈線・上面に刻目・内面ミガキ・胎土にチャートを含む	中期・磨板	
第 145 図-49	深鉢・胴部	—	—	—	—	刮目隆帯による区画・区画内を棒状工具による縦位沈線で充填・内面ハクリ・胎土に白色粒子を含む	中期	
第 145 図-50	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文 R 縦文・沈線による文様・隆帯上面に矢羽根状の刻突・内面の厚みが大きい・胎土に白色粒子を含む	中期・磨板Ⅲ	
第 145 図-51	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文縦位 L 襷糸・半載竹管による平行沈線・内面ミガキ・胎土に白色粒子を多く含む	中期・加群 I E 1	
第 145 図-52	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文太い縦位 L 襷糸・多数竹管による平行沈線	中期・加群 I E 1	
第 145 図-53	深鉢・胴部	—	—	—	—	隆帯に棒状工具で交互刻突・沈線による文様・円筒型土器に半載竹管による連続刻突文様・内面黒色・胎土に白色粒子を含む	中期・磨板Ⅲ	
第 145 図-54	深鉢・胴部	—	—	—	—	ペン先状工具による連続刻突	中期	
第 145 図-55	深鉢・胴部	—	—	—	—	刮目隆帯による三文文・内面に履付着・胎土にチャートを含む	中期・磨板	
第 145 図-56	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文襷糸? 隆帯貼付・沈線	中期	
第 145 図-57	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文 R 1 縦文・内面に履付着	—	
第 145 図-58	深鉢・胴部	—	—	—	—	刮目隆帯・縦位にペン先状工具による刻突	中期・磨板	
第 145 図-59	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文 R 1 縦文・内面に履付着	—	
第 145 図-60	深鉢・胴部	—	—	—	—	横位沈線・胎土に砂礫を多く含む	—	
第 145 図-61	深鉢・胴部	—	—	—	—	地文多数管状工具による縦位平行沈線・胎土に砂礫を多く含む	—	
第 145 図-62	深鉢・胴部	—	—	—	—	無文・胎土に白色粒子を多く含む	—	
第 145 図-63	深鉢・底部	—	—	—	—	地文縦位 R 襷糸・内面ミガキ・内面に履付着	中期	
第 145 図-64	深鉢・底部	—	—	—	—	地文縦位 R 襷糸・内面ミガキ	中期	
第 145 図-65	深鉢・底部	—	(7.0)	(3.9)	—	無文・外面ミガキ・内面に履付着	中期	
第 145 図-66	深鉢・底部	—	(6.0)	(3.5)	—	無文	中期	
第 146 図-67	深鉢・底部	—	—	—	—	無文・胎土に白色粒子を多く含む	中期	
第 146 図-68	浅鉢・口縁部	—	—	—	—	内外面ミガキ・履付着	中期	
第 146 図-69	浅鉢・口縁部	—	—	—	—	内外面ミガキ・履付着	中期	
第 146 図-70	浅鉢・胴部	—	—	—	—	無文・内外面ミガキ	中期	

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	地文・施文・備考	時期・型式
第146図-71	遺構外	深鉢・口縁部	—	—	—	—	地文脈系?・波状口縁。口縁に沿って平行隆帯、波瀾部から平行隆帯を垂下。白色粒子を含む	中期、加群利E
第146図-72		深鉢・口縁部	—	—	—	—	地文LR施文。半截竹管による平行沈線・内面ハシケ、摩付着	中期、加群利E
第146図-73		深鉢・口縁部	—	—	—	—	波状口縁。平行沈線後角押文施文。口縁に平行に刻目隆帯を貼付。口縁部に刻目施文が・胎土に金雲母を含む	中期初頭力
第146図-74		深鉢・口縁部	—	—	—	—	平行沈線地文上部に刻目・内面に摩付着	中期、磨版
第146図-75		深鉢・口縁部	—	—	—	—	平行沈線による施文・外面に摩付着。摩耗が激しい	中期
第146図-76		深鉢・胴部	—	—	—	—	刻目隆帯による区画。区画内を沈線で充填。胎土に砂礫を多く含む	中期、磨版
第146図-77		深鉢・胴部	—	—	—	—	半截竹管による平行沈線。区画内を丸。施文で充填	中期、磨版
第146図-78		深鉢・胴部	—	—	—	—	地文L形脈系・半截竹管による平行沈線・内面ハシケ	中期
第146図-79		深鉢・胴部	—	—	—	—	地文多截管状工具による縦位平行沈線・沈線・内面に摩付着。胎土にチャートを含む	中期
第146図-80		浅鉢・口縁部	—	—	—	—	全体的に摩滅	—
第146図-81		石器・打製石斧	7.785	5.150	1.630	84.74	石材：頁岩・刃部欠損・撥型	縄文
第146図-82		石器・打製石斧	5.604	3.853	2.642	86.50	石材：ホルンフェルス・両端部欠損・短冊型	縄文
第146図-83		石器・打製石斧	5.002	4.533	2.118	57.91	石材：砂岩・基部欠損・短冊型	縄文
第146図-84		石器・打製石斧	6.417	4.082	1.974	59.60	石材：ホルンフェルス・刃部欠損・撥型	縄文
第146図-85		石器・打製石斧	6.673	4.543	2.195	86.98	石材：ホルンフェルス・刃部欠損・撥型	縄文
第146図-86		石器・打製石斧	7.046	7.015	2.117	150.50	石材：ホルンフェルス	縄文
第146図-87	石器・打製石斧	7.726	6.031	1.002	78.50	石材：安山岩・基部欠損・撥型	縄文	
第146図-88	石器・磨き石	9.901	3.451	21.06	107.97	石材：石英片岩・縦方向に1/2欠損	縄文	

Ⅲ 東台遺跡第62地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年9月21日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年12月25日に試掘調査を実施した。

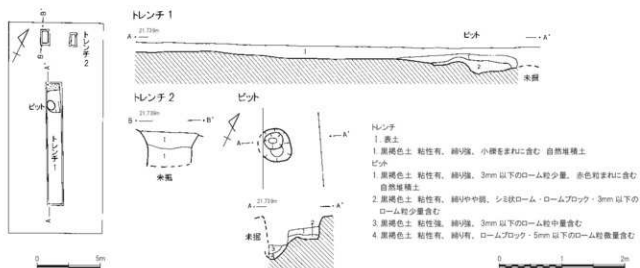
試掘調査は幅約0.5～1mのトレンチ2本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から約20cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、時期不明のピット1基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは調査区中央部に位置する。平面形態は楕円形を呈し、確認面径58×50cm、底径15×8cm、深さ39cmを測る。出土遺物はない。



第147図 東台遺跡第62地点遺構配置図 (1/200)、土層・ピット (1/60)

第II部 民間開発に伴う調査の成果

第1章 本村遺跡第136地点の調査

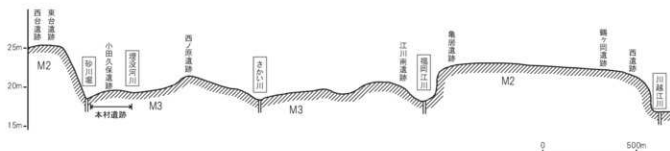
I 本村遺跡の立地と環境

本村（ほむら）遺跡という名称は、1989年9月以降の調査からの呼称である。それ以前の周知の遺跡としては、現本村遺跡の東域に存在していた弁天後遺跡と、西域の東原遺跡が登録されていた。両者を一遺跡に統合したものであるが、市街化調整区域で開発による発掘調査履歴が全くなく、表面採集遺物も皆無であったため範囲の設定が困難であった。土地区画整理事業に伴い道路予定地をトレンチに見立てた結果、中世を主体とする集落遺跡であることが判明し当地に残る古名をとって遺跡名とした。面積は約10haの範囲に広がり、旧石器時代の礫群、石器集中、縄文時代の生業遺構、中世～近世初頭の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構、井戸、地下式竈、溝、櫓列、茶毘跡など集落遺構が数多く確認できる複合遺跡である。

遺跡立地は第148図に示すように南北を武蔵野2面（M2）の大井台に挟まれた武蔵野3面（M3）上の海拔標高15～20mと一段低い立川面に相当する台地にもまたがっている。砂川の左岸に位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が認められ、以前は遺跡北西部に微高地が存在していたが区画道路取付けにより小島状に切り離されつつあり、さらに切土され地形も一層平板化されてきている。今や都市近郊の畑作地帯という風情はほとんど見ることができなくなってきた。宅地化の波は当然のごとく押し寄せ遺跡環境もさらに変貌するであろう。

遺跡内の埋没河川については、以下のような見解がある。

「地形は、砂川堀の流路変遷によって説明することができる。すなわち、より早く河川の影響を受けなくなったところは、それだけ早く風塵の堆積とローム層の形成が始まることで地表の高低差が生じて、今日見られるような調査区内の地形が形成されたと考えられる。（中略）大井台の1段低い部分が約6～5万年前に段丘化した後も遺跡中央周辺は、伏流水として残った砂川堀の流路になった。砂川堀の流路は当初現在よりも北側にあったが、次第に南側へと移動していった。流路の移動は間欠的に起こったのではなく、おそらく連続的であったために緩斜面が形成されたものと考えられる。約4万年前頃には、流路は遺跡中央部付近にあったが、ATの降灰した2～2.5万年前頃にはすでに南部付近まで移動しており、中央部付近は増水時にも冠水することはなくなっていた。UGの降灰した1.2万年前頃には増水時でもほとんど冠水することがなくなるほど流路は遺跡南へ下がり、やがて現在の流路に至った。以上のような変遷を考えると、本遺跡に生業活動の跡を残したそれぞれの時代の人々は、それぞれ異なり砂川堀の谷の景観を見ていたことになろう。」（『本村遺跡第8地点調査報告書』（1993）19頁抜粋）



第148図 本村遺跡の立地と川越街道沿いの段丘と主要遺跡群

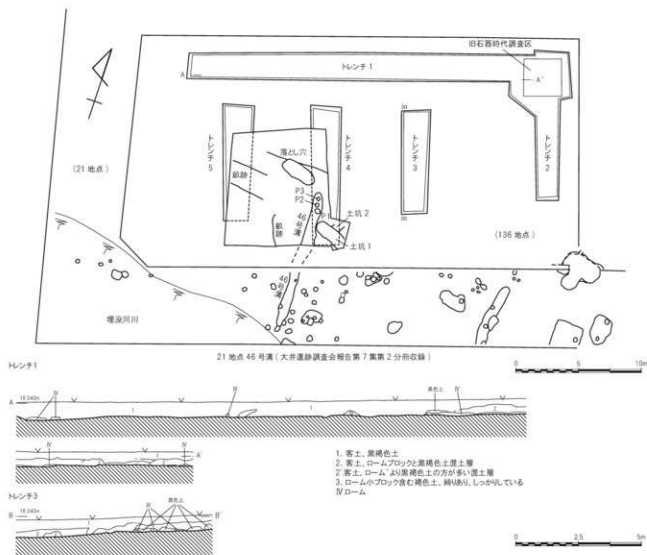
II 本調査に至る経過と概要

(1) 調査に至る経過

本地点は遺跡北東部の埋没河川沿いに位置する(第133図)。北から南に緩やかな傾斜をもつ土地で、調査前は茶畑であった。表土は客土も見られ地山まで北側で60cm前後、南側で90cm前後と厚くなる。

申請者より2018年10月10日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。駐車場造成を原因とするが傾斜地のため北側部の切土計画が予定された。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2018年10月17日～19日まで実施。第149図のようにトレンチを5本設定し、中近世遺構が確認された。トレンチ1とトレンチ2のローム面精査時、焼礫の出土があったため、その範囲を見極めるため調査区を拡張した。結果、平面分布がほぼ3×3m四方に旧石器時代の礫が及んでいることが確認できたが、北側部での旧石器時代は切土部分に該当するため現状保存が困難なため、16㎡を発掘調査対象することとなった。また中近世遺構確認部は確認面まで80cmと深く現状保存の措置とすることを申請者に報告し一旦試掘を終えた。

しかし、翌年になり申請者から分譲住宅建設に計画を変更する旨の協議書が提出され、2019年4月1日付けで発掘の届出が再提出された。全面的に掘削する計画であったため、再協議の結果、遺構の現状保存は困難なため試掘調査で確認された調査区域を拡張して発掘調査を実施することで合意した。



第149図 本村遺跡第136地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

文化財保護法第99条の規定による発掘調査の通知は2019年4月8日付けふ教社第179号で提出され、それに対する県教育委員会からの通知、2019年4月8日付け教文資第5-271号で調査を行った。申請者と発掘調査受託契約を締結し、発掘調査を2019年4月11日から同年4月23日まで実施した。本調査面積は60㎡である。結果、旧石器時代と縄文時代、中近世以降の遺構・遺物が確認された。整理報告書作成作業は2019年6月から出土遺物の水洗、注記を行い、順次接合、復元作業に着手し遺構図版の版下作成・原稿執筆を2020年1月まで実施し報告書を刊行した。

(2) ふじみ野市の旧石器時代遺跡の立地概要

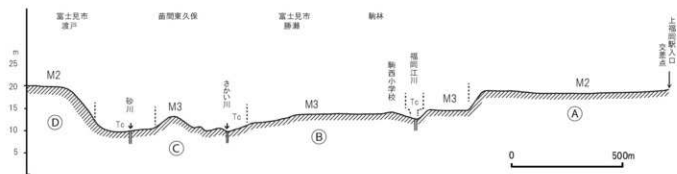
武蔵野台地の狭山丘陵北部、北武蔵野の河川の特徴には、①狭山丘陵北縁辺部に水源をもつ不老川・砂川。②標高25m～30mに湧水地をもつ扇端湧水や地下断層に起因した伏流水である川越江川・福岡江川・さかい川などがある。

このうち②の江川は、大河川に注ぐ小川を意味し、江は陸地に深く入り込んだ部分という意味をもつ。小河川ながら新河岸川に合流する江川群の存在は遺跡の立地に不可分といって良い。隣接する三芳町ではかつての江川である埋没河川沿いに旧石器時代の遺跡の追求調査が積極的に行われ、武蔵野台地の扇央部に近い地点からも石器集物が確認されてきている。

当市の旧石器時代遺跡立地を概観すると、荒川低地に近い新河岸川に面した崖線上には現状として該期遺跡の調査件数は少ない。4本の江川群の中流域～上流域といった台地奥に入った地点で調査機会に恵まれ旧石器時代遺跡の存在が認められる。第150図は東武東上線東側300mにほぼ沿った南北地形断面図である。(第151図の遺跡分布図参照)

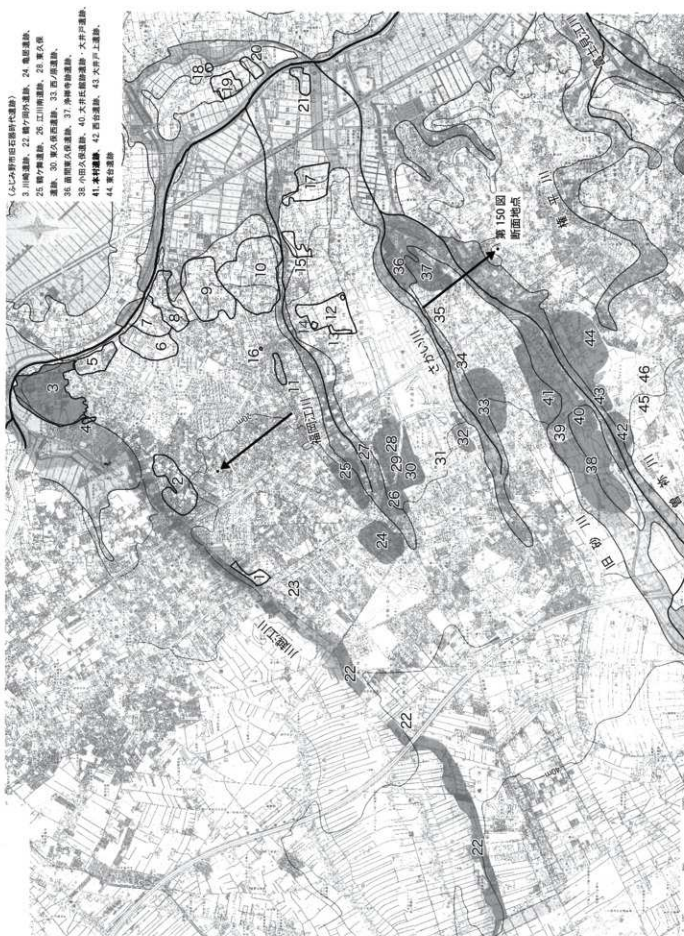
- ① 北から川越江川と1km南の福岡江川を望む武蔵野2面崖線へり。(4遺跡：3川崎・22鶴ヶ岡外・24亀居・25鶴ヶ舞遺跡)
- ② 福岡江川から南900mのさかい川までの武蔵野3面上。(3遺跡：26江川南・28東久保・30東久保西遺跡)
- ③ さかい川を越え、800m南の砂川に画された武蔵野3面上。(7遺跡：33西ノ原・36苗間東久保・37浄禪寺跡・38小田久保・40大井氏館跡・大井戸・41本村遺跡)
- ④ 砂川以南の武蔵野2面の崖線へりに立地する。(3遺跡：42西台・43大井戸上・44東台遺跡)

最近の調査では平坦な地形を形成する標高40m前後の台地奥部からも旧石器時代遺跡の報告が相次いでいる。現在河道は消え失せたものの旧石器時代遺構、遺物から往事の河道を推定しうる事ができる。本村遺跡北側で連綿と発見される旧石器時代の遺構と遺物は好例である。第153図に示す。



M2：武蔵野2面（武蔵野面） M3：武蔵野3面（中台面） Tc：立川面

第150図 ふじみ野市の地形断面及び段丘区分図



第151図 本村遺跡旧石器時代遺跡分布図 (1/30,000)

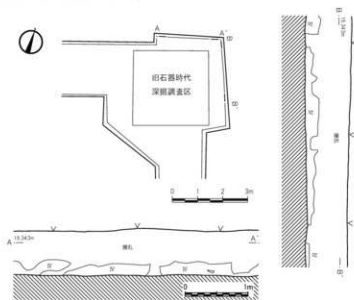
(3) 本村遺跡の旧石器時代の概要

第82表 本村遺跡旧石器時代調査一覧表

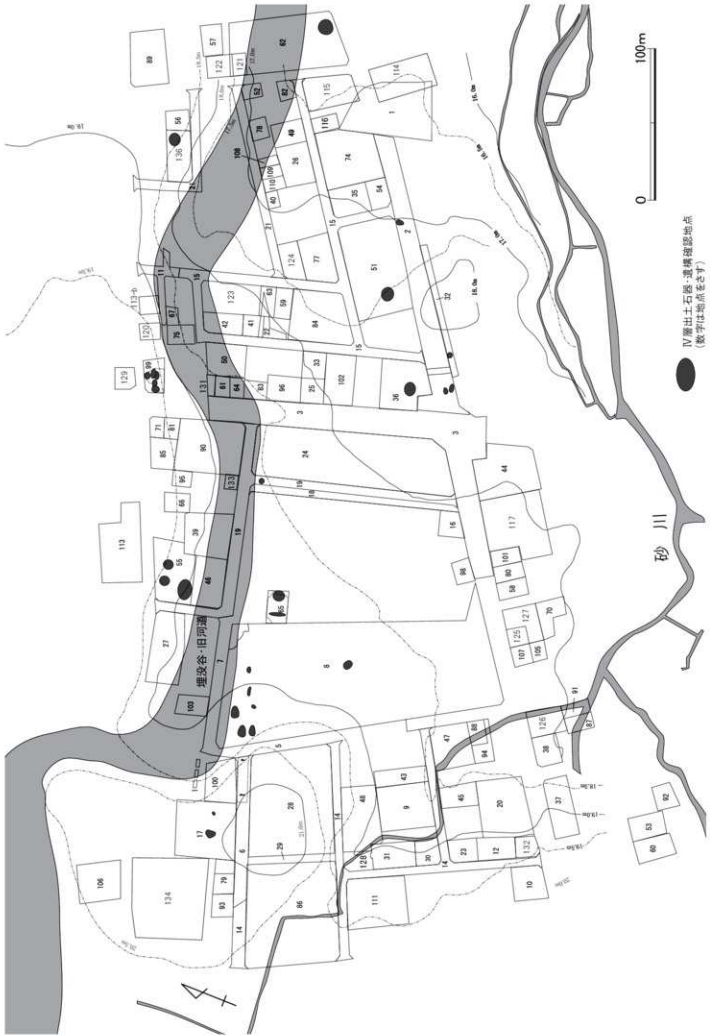
No.	地点	調査期間	遺構		遺物	層位	石器数 (点)	水系	報告書(詳細は264頁)
			遺構数	構成礎数					
1	2	1987.9.1～12.4	3	124	石器群3	IV上	23	砂川水系	大調7
2	6	1989.5.15～6.15	2	146	石器群2	III～VI	34	埋没谷水系	大調7
3	8	1989.9.30～ 1991.7.11	11	2,869	石器群7	IV下	314	埋没谷水系	大調4
4	17	1991.1.17～3.7	2	321	石器群6	IV～IX	218	埋没谷水系	大調3
5	18	1991.4.1～6.11	1	146	—	—	0	埋没谷水系	大調7
6	19								
7	24	1992.2.28～7.31	1	111	—	—	0	埋没谷水系	大調7
8	32	1993.11.9～11.25	—	—	—	IV上	4	砂川水系	町内III
9	36	1994.9.2～10.31	2	697	石器群1	IV	116	砂川水系	大調12
10	51	1996.4.3～5.30	1	51	石器群2	III下・IV上	155	砂川水系	大調12、町内V
11	55	1996.6.25～7.31	5	343	石器群2	IV下	148	埋没谷水系	大調12、町内VI
12	62	1997.10.21～ 1998.1.21	1	78	—	IV上	0	埋没谷水系	大調12、町内VI
13	65	1998.4.16～5.21	5	646	石器群3	IV	45	埋没谷水系	大調12、町内VI
14	99	2002.7.31～7.31	4	261	石器集中	III～IX	95	埋没谷水系	大調15、町内VII
15	136	2019.4.11～4.23	1	480	石器群1	IV上	106	埋没谷水系	市内24

前述のごとく本遺跡の立地を語る際に、決定的に重要な要素に埋没河川(旧河道)がある。旧石器時代の石器集中及び礫群は埋没河川の両岸と、砂川に近接した区域に分布しているが、前者が圧倒している。埋没河川は砂川の旧河道で現在は完全に埋没しているが、地形図、コンター、発掘調査からも伺い知ることができ、その幅は30～40m、河床までは2.3m前後を有すると思われる。流路は蛇行しながらも南東方向に向き、現砂川の流れと合流する。詳細については、第2章で報告する。

砂川は今でこそ人工的な河川となり、一般に「砂川堀」と呼ばれる。その水源は狭山丘陵北麓から端を発し、現在も中流域から下流には河岸段丘の地形が確認できる。源頭から6kmほど扇央部で伏流する河川で、川水は枯渇し姿を消し河道すら確認できないが、大井地域に入る標高27m付近で湧水が再表出する。遺跡もここから扇端部にかけては集中する。砂川に面した調査箇所は広がりも限定され、遺跡南東部の微高地を囲むように確認されている程度である。層的には礫群を伴うIV層出土の石器群が多い。中でもIV層下部に対比される石器群が多い傾向にある。



第152図 本村遺跡第136地点旧石器時代調査区・層位 (1/150)



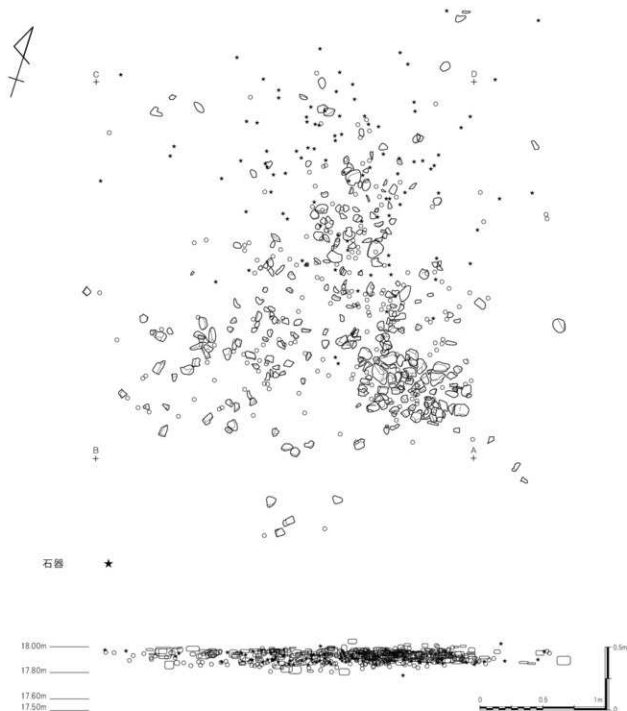
第153図 本村遺跡旧石器時代遺構確認地点 (1/2,500)

III 遺構と遺物

(1) 旧石器時代の遺構と遺物

①概要(第154図)

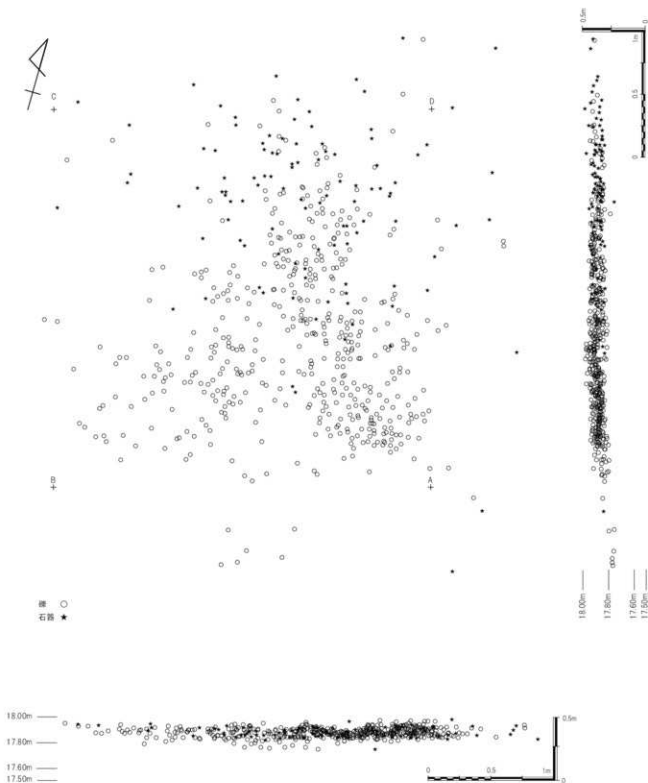
調査区北東隅より礫群を伴う石器集中ブロックを一ヶ所確認できた。石器の分布は 3.5×3.3 mの範囲で不正形を呈し、礫群分布よりやや北側にずれて分布する。出土した石器はナイフ形石器1点・搔器1点・鋸歯縁石器1点・石核3点・調整剥片4点・剥片・碎片で総点数は106点。石器は剥片・碎片が94%を占める。石材は黒曜石、チャートが圧倒的に多く黒曜石の場合は気泡が多く、チャートは節理面が多い。礫点数は480点を数える。



第154図 本村遺跡第136地点石器・礫分布微細図(1/30)

②層位 (第152図)

土層観察断面は調査区の東西方向及び南北方向の2面で設定したが攪乱も入り、決して良好な状態ではなかった。表土は客土されローム層堆積状況は、第III層(ソフトローム層)はほとんど確認できなかった。第VI層より下部の調査は実施しなかった。



第155図 本村遺跡第136地点石器・礫分布図 (1/30)

器種別分布図



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 石核
- 剥片
- 砕片
- △ 燧石
- ☆ 凝灰岩



石材別分布図



- ▲ 黒曜石
- △ チャート
- ☆ 凝灰岩
- 安山岩



第156図 本村遺跡第136地点石器器種・石材別分布図(1/40)

③出土石器 (第 157 ~ 162 図、第 83・84 表)

第 83 表 本村遺跡第 136 地点石器組成表

石材/器種	石核 (Co)	剥片 (F)	砕片 (C)	二次加工剥片 (RF)	ナイフ形石器 (Kn)	搔器 (Sc)	鋸歯縁石器	合計
黒曜石 (Ob)	1	7	63	2	1	1		75
チャート (Ch)	3	15	9	2				29
緑色凝灰岩 (Tu)							1	1
安山岩 (An)		1						1
合計	4	23	72	4	1	1	1	106

ナイフ形石器 (第 157 図 1)

横長剥片を素材とする。両側縁ともに主要剥離面からの調整加工が施される。左側縁は上半部に細かな調整を加え、右側縁は下伴部に調整加工を施して全体の形を整えている。黒曜石製。

搔器 (第 157 図 2)

横広剥片を用い、正面は凹面である。下端部に刃部加工が直線的に施され右側縁から上端には自然面を有する。左上端部に微細な剥離が施されている。

鋸歯縁石器 (第 157 図 3)

緑色凝灰岩製。大型縦長剥片を素材とし、細部調整で鋸歯状の刃部が作り出されている。裏面は自然面を全面に残す。正面には上端部、両側縁に粗い加工を、特に左側縁に主要剥離面側からの急角度剥離で鋸歯状の加工が施される。下半部を欠く。石核の可能性もある。

剥片 (第 157 図 4 ~ 第 159 図 21)

4 ~ 7 は二次加工を施した剥片。4 は黒曜石製。縦長剥片を素材とし両側縁を欠損するが、表右側縁に微細な調整痕を施し、左側縁下部も剥離が認められる。ナイフ形石器の可能性もある。5 は黒色チャート。打点は明瞭で打瘤はバルバー・スカーを伴って発達する。左下半に主要剥離面側からの調整加工が施される。6 は表面の左右側縁に急角度剥離を加え、右側縁に押圧的な調整を加え側縁全体に微細な使用痕が観察される。背面中央部は打瘤で凹みがみられる。7 は剥片剥離を行っている。小さいが石核の可能性もある。左下側縁に微細な調整が観察される。8 は縦長剥片を素材として縦位に用いている。素材打面を上部に設定し、表面右側に原礫面が残る。一側縁加工であり、上端部から左側縁にかけて微細な使用痕が観察される。9 は厚手の縦長剥片を素材とし、打面を上部に設定し、原礫面が残る。断面は三角形を呈する。打瘤が複数観察されるところから石核の可能性もある。接合資料 1 と同一母岩。10 は縦長剥片を素材とし、裏面の剥離面は抉れ、右側縁にかけて粗い調整が加えられる。11 は右側縁部を欠損。横長剥片を素材とし、裏面は凹面をなす。左側縁から下端及び右上半部に微細な剥離加工が施されている。12 は表面左側縁 1/3 ほどに微細な剥離痕が見られる。13 は正面に原礫面を残す。剥離痕は認められない。14 の表面は原礫面を残す。左側縁切断面に微細な剥離加工痕が認められる。15 は打面を欠損する横長剥片。表面抉り部に微細な加工を施している。上部及び右側器体を欠損。剥片は湾曲している。16 は右側縁裏面に微細な剥離痕のある黒曜石製剥片。17 は安山岩製剥片。左側縁に微細な剥離痕が観察される。18 は微細な使用痕を右側縁 2/3 ほどに観察できる。19 は凹形の打瘤が残る。上端稜縁に微細な二次的の加工が施している。20 は裏面に原礫面を残す。21 は両側縁に極長の長い剥離痕が認められ、先端部に微細な加工痕が観察される。スクレイパー (搔器) の可能性もある。

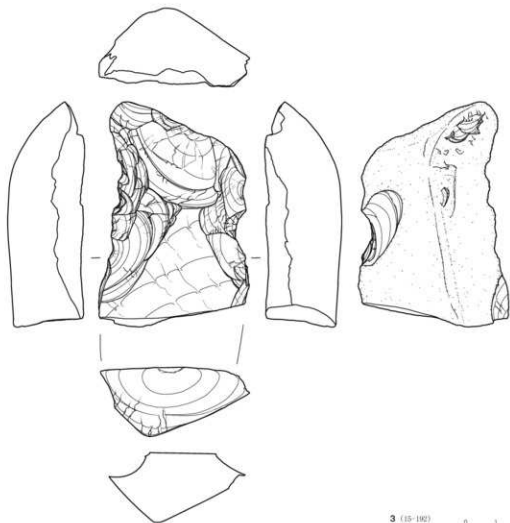
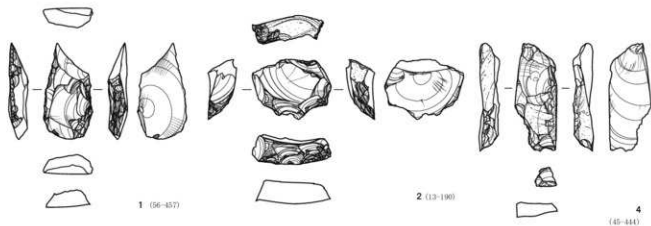
石核 (第 159 図 22・第 160 図 23)

22 は黒曜石の石核で裏面に自然面を残している。正面左上方を打点とし作業面が求心状になり小形の横広剥片が剥離されている。23 は礫器状の大形の石核。正面以外は全体に広く原礫面を残す。打面は中央上部で、横長剥片を剥離したと思われる。狭小な調査区ながら出土状況が確認されていない石材で、剥片剥離が本地点では行われなかった可能性が高い。色調は黒褐色のチャート製。

接合資料 (第161図24～第162図29)

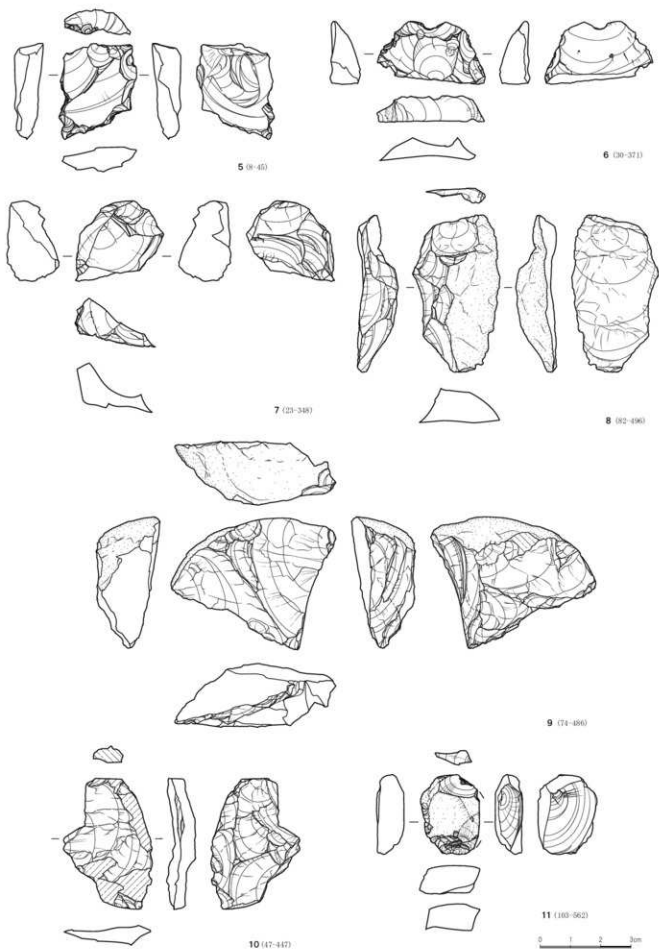
縦長剥片2点が接合した。チャート製で、上端部に原礫面を残す。打点は礫面上にあり剥片(24)を剥離する。剥片(25)は棒状の剥離がされ左側縁の稜線には使用痕が認められる(接合資料1)。

石核(28)と剥片(27)の接合資料である。挙大より一回り小さめのチャート原石に復元。左側縁上部を打面として剥離面が認められる(接合資料2)。

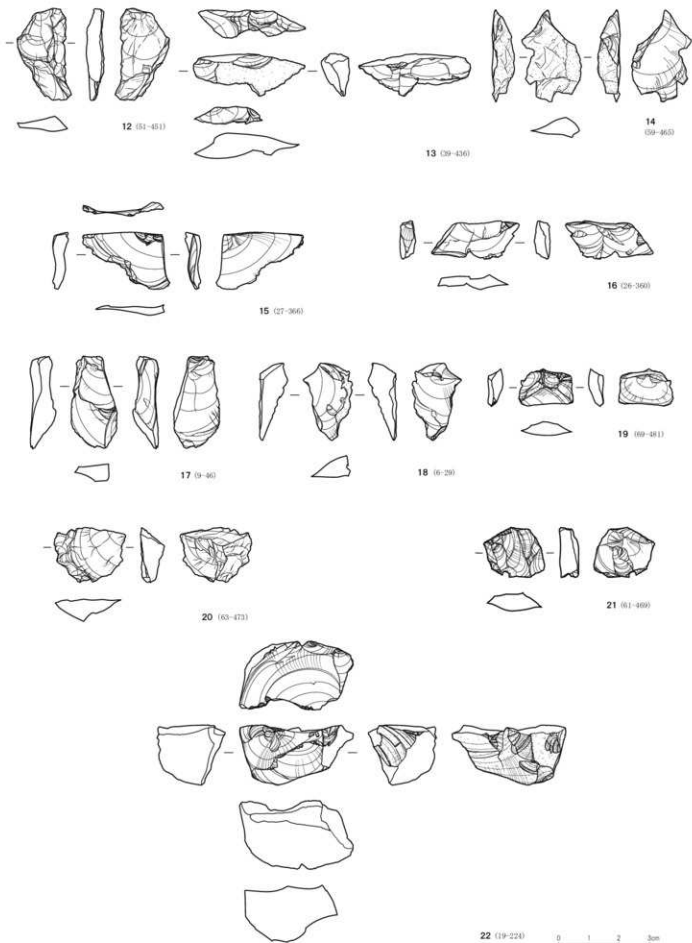


第157図 本村遺跡第136地点出土石器①(4/5)

() は第84表 (P235・236) 石器観察表のNo. 及び取上遺物No. である



第 158 図 本村遺跡第 136 地点出土石器② (4/5)



第159図 本村遺跡第136地点出土石器③ (4/5)



第 160 図 本村遺跡第 136 地点出土石器④ (2/3)